2021年（令和3）年度

# 履修の手引き

## 保健科学部
## リハビリテーション学科

# 目次

Ⅰ．保健科学部について
１．保健科学部の教育目的・教育目標
1)保健科学部の教育目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
2)教育目標（教育課程編成・実施の方針：カリキュラムポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
3)到達目標（卒業認定・学位授与方針：ディプロマポリシー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
4)卒業時に取得できる資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
２．教育目標（体系図）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
Ⅱ．履修について
１．授業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
1)学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
2)学期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
3)単位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
4)授業時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
5)授業科目の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
6)休講･補講･集中講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
２．欠席・公欠・忌引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
３．履修登録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
1)履修登録とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
2)履修登録の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
3)履修基準について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
4)履修の注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
４．他大学等の既修得単位の認定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
1)申請書類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
2)申請時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
3)書類の請求および提出先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
4)認定の通知・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
5)その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
５．卒業条件について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
６．試験について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
1)試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
2)再試験・追試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
７．臨床実習の単位について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
８．成績評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
1)評価区分・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
2)成績通知・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
3)再履修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
4)GPA(グレード･ポイント･アベレージ)制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
９．他専攻の授業科目の履修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
10．高等教育コンソーシアム信州における他大学単位の扱いについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
11．学生による授業評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
Ⅲ．履修課程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
理学療法学専攻　履修課程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
作業療法学専攻　履修課程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
Ⅳ．授業概要（保健科学部リハビリテーション学科シラバス）

# 保健科学部について

## １．保健科学部の教育目的・教育目標

### １）保健科学部の教育目的

本学は、「仁心妙術」と「徳風四海に洽(あまね)く」を教育理念に掲げ、人を慈しむ豊かな人間性と保健・医療・福祉に関する高い知識と技能を備え、学生が会得する知識や技能をすべからく人類愛に基づき世界（四海）に広める気概を持って社会に貢献することとしている。

本学保健科学部では、本学の目的を踏まえ、豊かな人間性と広い見識・教養・技術を有する医療人及び教育研究者の育成を目的とし、リハビリテーション分野において、総合的・学際的な高い能力を養うことを念頭に置いた教育・研究を行うとともに、豊かな人間としての基本を兼ね備えたリハビリテーションの専門家を育成することを目的とする。

### ２）教育目標

保健科学部では、上記の教育目的を達成するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）を以下に示す。

(1) 建学の精神・社会人としてのマナーとスキル・スタディースキル・幅広い教養・基礎医学の習得

(2) 医療人としての心構え(知識)・臨床医学・リハビリテーション実践の基礎的知識と技術の習得

(3) 医療人としての心構え(実践)・リハビリテーション実践の知識と技術・疑問に対する探究心・ロジカルシンキングとディベート力の習得

(4) 医療チームの一員としての役割の自覚と責任・知識の統合と科学的思考・高い倫理観を伴うリハビリテーション実践の知識と技術・職業アイデンティティとキャリアデザインの習得

### ３）到達目標（卒業認定・学位授与方針：ディプロマポリシー）

(1)「四徳」の体得と「仁心」の醸成

a. 医療従事者を志すものとして、高い倫理観を持っている。

b. 他者に共感し、悩める人の立場を理解できる、豊かな人間性を備えている。

(2) 妙術の基盤となる専門知識および技能の習得

c. 妙術(優れた知識・技能)の基盤となる専門知識と技能を習得している。

d. 幅広く深い教養及び総合的な判断力を備えている。

e. 他職種の学理を理解し、連携チームの中核となることができる実行力、協調性およびコミュニケーション能力を身につけている。

(3) 成長し続ける意志と力

f. 生涯にわたり専門性を高め、ニーズ・課題に向かう探究心を持っている。

g. 将来への目的意識を持ち主体的に学習、研究する能力を持っている。

h. 地域の課題に積極的に関わり地域に貢献する職業人としての意識を持っている。

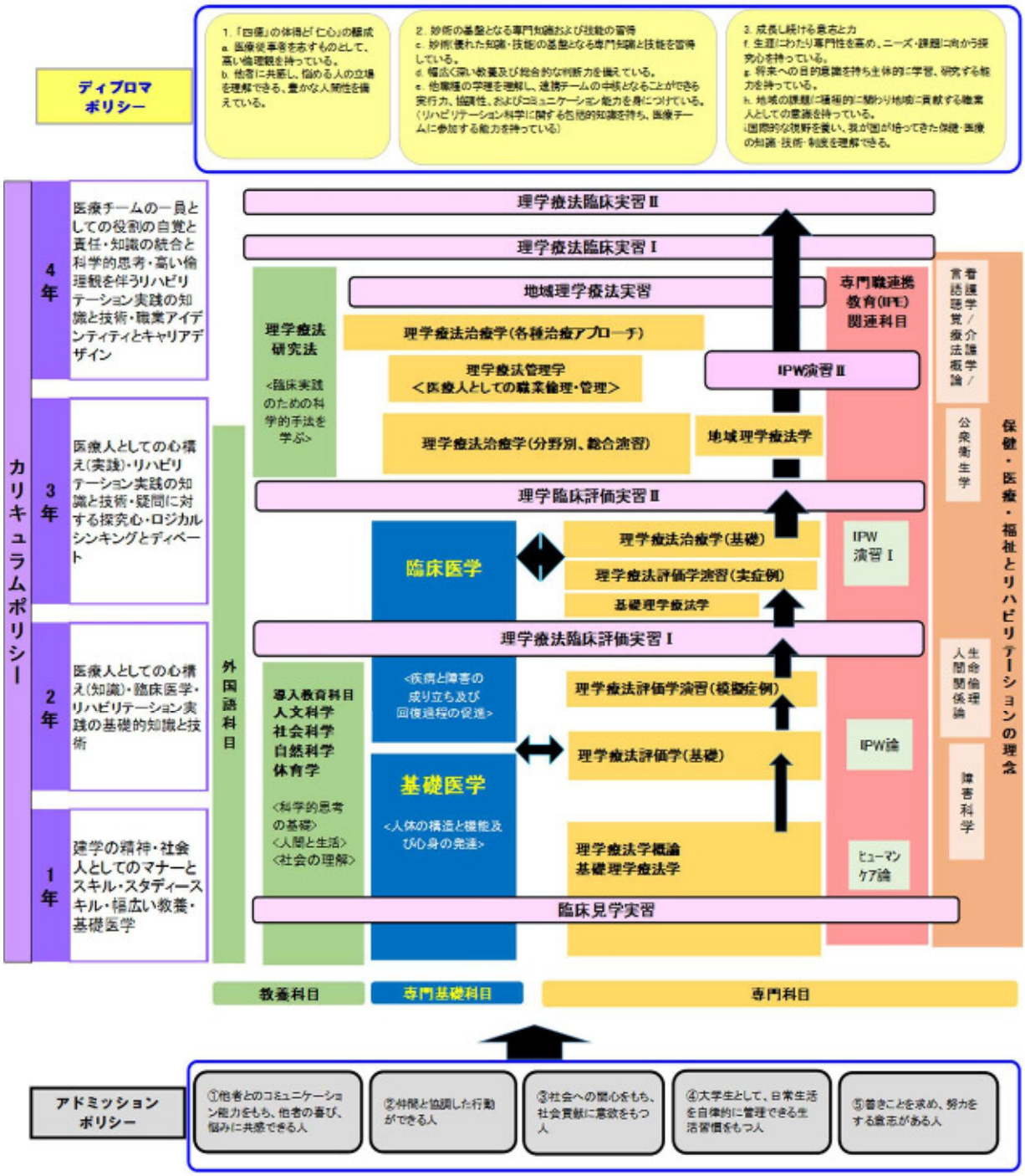
i. 国際的な視野を養い、我が国が培ってきた保健･医療の知識･技術･制度を理解できる。

### ４）卒業時に取得できる資格

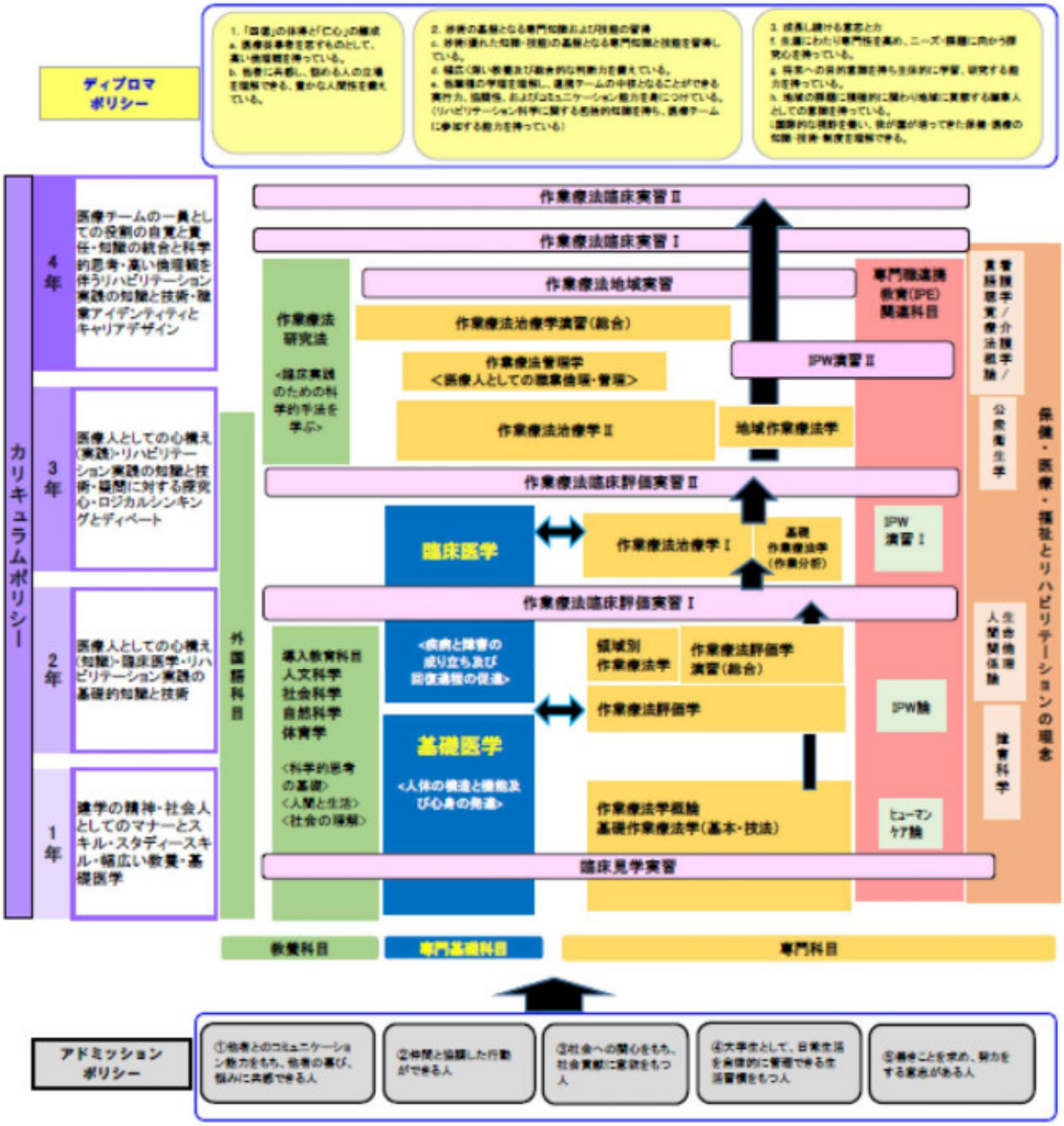
本学保健科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻においては、必要な単位を修得し卒業した学生に、「理学療法士国家試験受験資格」と「社会福祉主事任用資格」を与える。作業療法学専攻においては、必要な単位を修得し卒業した学生に、「理学療法士国家試験受験資格」と「社会福祉主事任用資格」を与える。

## ２．教育目標（体系図）

### （1）理学療法学専攻



（2）作業療法学専攻


ディプロマ
ポリシー
カリキュラムポリシー
4年
3年
2年
1年
医療チームの一員としての役割の自覚と責任・知識の統合と科学的思考・高い倫理観を伴うリハビリテーション実践の知識と技術・職業アイデンティティとキャリアデザイン
医療人としての心構え（実践）・リハビリテーション実践の知識と技術・疑問に対する探究心・ロジカルシンキングとディベート
医療人としての心構え（知識）・臨床医学・リハビリテーション実践の基礎的知識と技術
建学の精神・社会人としてのマナーとスキル・スタディースキル・幅広い教養・基礎医学
作業療法臨床実習Ⅱ
作業療法臨床実習Ⅰ
作業療法地域実習
作業療法治療学演習（総合）
作業療法管理学
＜医療人としての職業倫理・管理＞
作業療法治療学Ⅱ
作業療法研究法
＜臨床実践のための科学的手法を学ぶ＞
IPW演習Ⅱ
地域作業療法学
専門職連携教育（IPE）関連科目
作業療法臨床評価実習Ⅱ
臨床医学
作業療法治療学Ⅰ
基礎作業療法学（作業分析）
IPW演習Ⅰ
作業療法臨床評価実習Ⅰ
外国語科目
導入教育科目
人文科学
社会科学
自然科学
体育学
＜科学的思考の基礎＞
＜人間と生活＞
＜社会の理解＞
＜疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＞
基礎医学
＜人体の構造と機能及び心身の発達＞
領域別作業療法学
作業療法評価学演習（総合）
作業療法評価学
IPW論
作業療法学概論
基礎作業療法学（基本・技法）
ヒューマンケア論
臨床見学実習
管理栄養学／食品学／介護学／療法概論
公衆衛生学
生命倫理／人間関係論
障害科学
保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念
教養科目
専門基礎科目
専門科目
アドミッション
ポリシー
①他者とのコミュニケーション能力をもち、他者の喜び、悩みに共感できる人
②仲間と協調した行動ができる人
③社会への関心をもち、社会貢献に意欲をもつ人
④大学生として、日常生活を自律的に管理できる生活習慣をもつ人
⑤考えることを求め、努力をする意志がある人

# 履修について

## 1. 授業について

### 1)学年

学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日までです。

### 2)学期

学年を半期毎、前期と後期に区分します。

前期：4 月 1 日から 9 月第 3 週まで

後期：9 月第 4 週から翌年 3 月 31 日まで

### 3)単位

授業科目の単位数は1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ授業の教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。

(1)講義および演習　15 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位。

(2)実験、実習および実技については 30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位。

### 4)授業時間

授業時間は原則として次の通りです。授業科目によって別に指定することがあります。

| 時限 | 授業時間帯 | 時間 |
|---|---|---|
| 第 1 時限 | ９：００　～　１０：３０ | ９０分 |
| 第 2 時限 | １０：４０　～　１２：１０ | ９０分 |
| 昼休み | １２：１０　～　１３：００ | ５０分 |
| 第 3 時限 | １３：００　～　１４：３０ | ９０分 |
| 第 4 時限 | １４：４０　～　１６：１０ | ９０分 |
| 第 5 時限 | １６：２０　～　１７：５０ | ９０分 |

※　土曜日、日曜日、祝日に授業を行う場合があります。

### 5)授業科目の種類

(1)科目区分

本学の授業科目は、教養科目、専門基礎科目、専門科目に分けられます。

(2)必修・選択科目など

各授業科目は、必修科目、選択科目から構成されます。

必修科目：卒業のために必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目：定められた条件内で選択できる科目

### 6)休講･補講･集中講義

(1)休講：荒天時や災害発生時，本学最寄り駅（今井駅）に発着する公共交通機関の不通，および担当教員が都合により授業ができなくなった場合は、休講になります。連絡は一階（本館・南館）掲示板および学生用情報システム（Active Academy）で行います。

(2)補講：休講となった授業または時間数が不足している授業等を補うために補講を行います。連絡は

一階（本館・南館）掲示板および学生用情報システム（Active Academy）で行います。
(3)集中講義：授業科目により、ある一定期間に集中して講義を行うことがあります。

## ２．欠席・公欠・忌引

1)欠席する場合は、本館事務室窓口に欠席届を提出してください。

2)各科目において欠課、遅刻、早退した場合は、本館事務室窓口に所定の届を提出してください。

3)遅刻及び早退は 2 回をもってその科目の 1 授業時間の欠課として扱われます。

4)30 分以上の遅刻、早退は 1 授業時間の欠課として扱います。

5)実習については、遅刻及び早退 2 回をもって 1 日の欠席として扱います。

6)公欠は次の場合とします。公欠願は本館事務室窓口に提出してください。
(1)公的な事由による疾病の場合
(2)就職試験受験の場合
(3)公文書による対外行事に参加する場合
(4)その他学長が必要と認めた場合

7) 忌引の場合は、忌引届を本館事務室窓口に提出してください。
なお 忌引の日数(土･日曜日、休日を含む)は、次のとおりです。
父母：7 日　子：7 日　祖父母：3 日　兄弟姉妹：3 日　叔父伯母：1 日

## ３．履修登録

### 1)履修登録とは

卒業するためには、学則に定められた所定の科目を履修し、単位を修得しなければなりません。さらに、授業を受けるためには履修登録しなければなりません。指定された期日までに履修登録を行わなかった場合は、たとえ授業に出席していても、その科目の単位は修得できませんので十分注意してください。

### 2)履修登録の流れ

(1)オリエンテーション

履修の手引きとシラバス、時間割等を配布説明します。

(2)プランニング時間割表の作成

配布された資料をもとに、時間割表を作成してください。

(3)履修登録

学生用情報システム(Active Academy)から履修登録を行います。選択科目の履修登録を必ず行ってください。

(4)履修登録内容の修正･確認

学生用情報システム(Active Academy)から時間割表が正しく登録されているか確認してください。

(5)最終登録 4 月 13 日（月）17:00 までです。

(6) 履修修正期間

前期：4 月 14 日（火）～4 月 17 日（金）17：00 まで

後期：9 月 28 日（月）～10 月 2 日（金）17：00 まで

### 3)履修基準について

(1) ２年次に配置される科目の履修にあたっては１年次の必修科目のすべてと、１年次の各専攻の選択科目のうち、卒業要件を満たすために必要となる単位を原則として修得していること。

(2) ３年次に配置される科目の履修にあたっては２年次の必修科目のすべてと、２年次までの各専攻の選択科目のうち、卒業要件を満たすために必要となる単位を原則として修得していること。

(3) ４年次に配置される科目の履修にあたっては３年次の必修科目のすべてと、３年次までの各専攻の選択科目のうち、卒業要件を満たすために必要となる単位を原則として修得していること。

### 4)履修の注意事項

履修登録にあたっては履修課程表を参考に履修基準に沿って登録してください。

(1)１年間の必修科目・選択科目を登録してください。後期の開講科目については後期履修内容確認期間に修正することができます。

(2)履修年次が指定されている科目は、その年次において履修してください。下位年次に在籍中に上位年次の科目を履修することはできません。

(3)原則としてⅠ･Ⅱ･Ⅲ等のついた科目は、数字の順番に履修してください。

(4)同一時間帯に開講される２つ以上の科目を同時に履修することはできません。

(5)履修登録した科目は確実に履修し、試験を受けなければなりません。登録しただけで終わると総合評価が下がります。履修を取り消す場合は別途定めた期間に申請してください。

(6)通年の授業科目については、後期の履修内容確認期間中でも、変更できません。

(7)科目名が同じであっても、在籍している専攻ではない専攻の科目は、履修登録できません。

(8)すでに履修した科目は、再度履修することはできません。ただし、担当教員の許可を得れば聴講することができます。
(9)単位取得できなかった科目は、必ず履修登録（再履修登録）を行ってください。

## ４．他大学等の既修得単位の認定

本学入学前に大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位を本学の単位として認定する場合があります。既修得単位の認定を希望する場合には、以下の要領で申請を行ってください。

### 1)申請書類

(1)既修得単位認定申請書（履修ガイダンスで配布します。）
(2)既修得科目明細書
(3)成績証明書
(4)当該科目の内容がわかるもの（シラバス･講義概要）

### 2)申請時期

4 月 6 日（月）17 時まで

### 3)書類の請求および提出先

学務部（本館事務室）

### 4)認定の通知

4 月中に本人に認定通知書を交付します。

### 5)その他

・既修得単位の認定は学則により 60 単位までと決められています。
・申請した単位が認定されるとは限らないため、不認定になった場合を考慮して履修登録を必ず行ってください。
・認定の申請は入学時のみです。また期日を過ぎての申請は認められません。

## ５．卒業条件について

1）保健科学部　リハビリテーション学科

各専攻の卒業に必要な授業科目の単位数は、次の表のとおりです。

〈2015(平成 27)～2018(平成 30)年度入学生〉

| 区　　分 | | 教養科目 | 専門基礎科目 | 専門科目 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学専攻 | 必修科目 | 18 単位 | 34 単位 | －単位 | 52 単位 |
| | 選択科目 | 8 単位以上*1 | 6 単位*2 | 64 単位*3 | 78 単位以上 |
| | 合　計 | 26 単位以上 | 40 単位 | 64 単位 | 130 単位以上 |

*1：理学療法基礎セミナー2 単位、ハングル･中国語のうちいずれか 2 単位を含む 8 単位
*2：運動学Ⅰ（理学療法基礎運動学）を含む 6 単位
*3：専門科目（理学療法関連）から 64 単位

| 区　　分 | | 教養科目 | 専門基礎科目 | 専門科目 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 作業療法学専攻 | 必修科目 | 18 単位 | 34 単位 | －単位 | 52 単位 |
| | 選択科目 | 8 単位以上*1 | 4 単位以上*2 | 75 単位*3 | 87 単位以上 |
| | 合　計 | 26 単位以上 | 38 単位以上 | 75 単位 | 139 単位以上 |

*1：作業療法基礎セミナー2 単位、ハングル･中国語のうちいずれか 2 単位を含む 8 単位
*2：運動学Ⅰ（作業療法基礎運動学）、精神医学Ⅱを含む 4 単位
*3：専門科目（作業療法関連）から 75 単位

〈2019(平成 31)年度以降の入学生〉

| 区　　分 | | 教養科目 | 専門基礎科目 | 専門科目 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 理学療法学専攻 | 必修科目 | 21 単位 | 34 単位 | 72 単位 | 127 単位 |
| | 選択科目 | 5 単位以上 | 2 単位以上 | －単位以上 | 7 単位以上 |
| | 合　計 | 26 単位以上 | 36 単位以上 | 72 単位以上 | 134 単位以上 |

| 区　　分 | | 教養科目 | 専門基礎科目 | 専門科目 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 作業療法学専攻 | 必修科目 | 21 単位 | 35 単位 | 75 単位 | 131 単位 |
| | 選択科目 | 5 単位以上 | 2 単位以上 | －単位 | 7 単位以上 |
| | 合　計 | 26 単位以上 | 37 単位以上 | 75 単位 | 138 単位以上 |

## ６．試験について

### 1)試験

学期ごとに期末の定期試験を行います。担当教員が必要と認めるときは、別に試験を行うことがあります。

授業の出席時間数が、授業の総時間数の 3 分の 2 未満の場合は定期試験の受験資格を失います。

(1)試験場は時間割表で確認し、指定された試験場で受験してください。座席は、試験場の扉に掲示してある座席表を確認し着席してください。

(2)学生証を机上に提示してください。学生証を忘れた場合は、本館または南館の事務室で、仮学生証（発行日の記載受験科目のみ有効）の申請をすること。

(3)机上に置けるのは、筆記用具（筆箱を除く）と学生証のみです。許可を得たもの以外は机上に置かないこと。

(4)バッグはロッカーに入れてください。

(5)試験場へのスマートフォン・スマートウォッチ等、通信機能のある物の持ち込みは禁止します。携帯が確認された時点で不正行為と見なされます。

(6)試験開始より 30 分以上遅刻した場合はその科目は受験できません。

(7)試験開始後 30 分を経過するまでは試験場より退出することはできません。

(8)不正行為が行われた場合には、当該科目を不合格とします。また、所定の措置をとり、本大学学則第 48 条に定める懲戒処分の対象とすることがあります。

(9)試験に関しては、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為と見なされます。

### 2)再試験・追試験

(1)試験により、成績が 60 点未満であった者に対しては、教科担当者が必要と認める場合、再試験を行うことがあります。なお、学生がやむを得ない理由により定期試験を受験できなかった場合は、追試験を行います。

(2)再試験及び追試験の受験は、所定の期日までに受験料（再試験 1 科目 2,000 円、追試験 1 科目 1,000 円）を添え、本館事務室に申し込んでください。

なお、追試験については、許可願を事前に本館事務室へ提出してください。

(3)正当な理由がなく定期試験を欠席した者は、その年度の当該科目の追試験を受けることができません。

(4)追試験を認める正当な理由とは、次のとおりです。これらのものは教授会を経て学長が許可します。

①病気及び負傷（診断書の提出）

②忌引（届の提出）

③公欠（事前に許可されている場合）

④その他やむを得ないと認められる場合（理由を証明する書類の提出）

なお、 ①～③に該当する場合は受験料を納入する必要がありません。

(5)再試験・追試験受験のために授業を欠席する場合は、公欠扱いとします。

(6)再試験・追試験の実施方法は、上記 1)(試験) に準じて行います。机上に領収証を提示してください。

## ７．臨床実習の単位について

臨床実習においては、出席が 5 分の 4 に満たない場合は、評価の資格を失います。

## ８．成績評価について

### 1)評価区分

〈2015(平成 27)～2018(平成 30)年度入学生〉

成績の評価を A+、A、B、C、D、とし A+、A、B、C を合格、D を不合格とします。

合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

| 点数区分 | 評価区分 | 単位認定 | 内容 | GP |
|---|---|---|---|---|
| 100～90 点 | A+ | 合格 | 特に優れた成績 | 4.0 |
| 89～80 点 | A | 合格 | 優れた成績 | 3.0 |
| 79～70 点 | B | 合格 | 良好な成績 | 2.0 |
| 69～60 点 | C | 合格 | 合格と認められる成績 | 1.0 |
| 59～0 点 | D | 不合格 | 不合格 | 0.0 |
| | N | 単位認定 | 他大学等で履修した科目を本学の単位として認定したことを表す。 | |

〈2019(平成 31)年度入学生〉

成績の評価を S、A、B、C、D、とし S、A、B、C を合格、D を不合格とします。

合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

| 点数区分 | 評価区分 | 単位認定 | 内容 | GP |
|---|---|---|---|---|
| 100～90 点 | S | 合格 | 特に優れた成績 | 4.0 |
| 89～80 点 | A | 合格 | 優れた成績 | 3.0 |
| 79～70 点 | B | 合格 | 良好な成績 | 2.0 |
| 69～60 点 | C | 合格 | 合格と認められる成績 | 1.0 |
| 59～0 点 | D | 不合格 | 不合格 | 0.0 |
| | N | 単位認定 | 他大学等で履修した科目を本学の単位として認定したことを表す。 | |

### 2)成績通知

成績は学生用情報システム（Active Academy）にて通知します。なお、前期、後期とも保護者宛てに送付します。

### 3)再履修

単位の修得が認められなかった授業科目は、次年度以降にその授業科目を再履修します。

### 4)GPA(グレード･ポイント･アベレージ)制度について

学業成績を年次毎に総合評価のポイントで表します。各科目の成績は次のようにポイント化します。

総合評価ポイントは次のように計算されます。

GPA=（各科目のポイント（GP）×各科目の単位数）／(履修登録の単位数)

GPA 制度は、

①学習状況を自己評価する目安とすること

②学修の成果をより明確に現すこと

③履修登録に責任をもつこと　を目的とします。

また、GPA をもとに履修登録の上限を設定する場合があります。

※単位認定科目は GPA の対象となりません。

## ９．他専攻の授業科目の履修について

他専攻の授業科目の履修または聴講については、別に定められた科目について、許可を得て履修登録することができます。

ただし、演習科目、実習科目、履修人数の制限等、何らかの不都合が生じる科目については履修または聴講することができません。事前に学務部に申請し許可を得ることが必要です。

## １０．高等教育コンソーシアム信州における他大学単位の扱いについて

長野県内大学単位互換協定に基づき、必要な手続きを行い、単位を取得することができます。

他大学での履修可能科目数は、個別に学長が認めた範囲とし、原則として本学の科目に読み替えません。

## １１．学生による授業評価について

本学では、より良い授業が行われるようになることを目的に、授業科目の内容および方法に関して、学生による授業評価を実施しています。

これは授業の質を高めるために行うもので、個々の教員の人気投票ではありません。皆さんの真剣な評価を期待します。皆さんの成績に影響を与えることはありません。

学生の皆さんからのフィードバックによって良い授業を作るという趣旨を理解いただき、協力をお願いします。

# 履修課程表

# 理学療法学専攻　履修課程表〈2019(平成31)年度以降入学生用〉

注）●は「必修科目」を、○は「選択科目」を表す。

| 科目区分 | | 科目名 | ページ | 配当年次 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 理学療法学専攻 1年次 | 理学療法学専攻 2年次 | 理学療法学専攻 3年次 | 理学療法学専攻 4年次 | 履修方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教養科目 | 導入科目 | 大学基礎セミナー | 理1 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修7単位 |
| | | 理学療法基礎セミナー | 理2 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | アカデミックリテラシー | 全1 | 1前 | 1 | | ● | | | | |
| | | 自然科学の基礎 | 全2 | 1前 | 2 | | ● | | | | |
| | | 情報リテラシー | 保1 | 1前 | 2 | | ● | | | | |
| | 人文科学 | 心理学 | 全3 | 1前 | 2 | | ● | | | | 必修8単位<br>＋<br>選択9科目から3単位以上 |
| | | 倫理学 | 保2 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 文化人類学 | 全4 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 異文化理解 | 保3 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 信州学 | 全5 | 1後 | | 1 | ○ | | | | |
| | 社会科学 | 社会福祉学 | 保4 | 1前 | 2 | | ● | | | | |
| | | 教育学 | 全6 | 1後 | 2 | | ● | | | | |
| | | 社会学 | 全7 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 日本国憲法・法学 | 全8 | 2前 | | 2 | | ○ | | | |
| | 自然科学 | 物理学 | 保5 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 統計学 | 保6 | 1後 | 2 | | ● | | | | |
| | | 生物学 | 保7 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 生化学 | 保8 | 2前 | | 2 | | ○ | | | |
| | 体育学 | 体育実技 | 保9 | 1後 | 1 | | ● | | | | 必修2単位 |
| | | 体育学 | 保10 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | 外国語 | 英語Ⅰ | 保11 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修4単位以上 |
| | | 英語Ⅱ | 保12 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 英語Ⅲ | 保13 | 3前 | | 1 | | | ○ | | |
| | | 医学英語Ⅰ | 保14 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 医学英語Ⅱ | 保15 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 医学英語Ⅲ | 保16 | 3後 | | 1 | | | ○ | | |
| | | ハングル | 全9 | 1後 | | 2 | ○ | | | | 選択3科目から2単位以上 |
| | | 中国語 | 保17 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| | | スペイン語 | 全10 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| 専門基礎科目 | 基礎医学 | 解剖学Ⅰ（総合） | 保18 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修15単位 |
| | | 解剖学Ⅱ（総合） | 保19 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 解剖学実習（人体解剖観察） | 保20 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 解剖学演習Ⅰ（骨格系） | 理3 | 1前 | 2 | | ● | | | | |
| | | 解剖学演習Ⅱ（筋・神経系） | 理4 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 生理学Ⅰ | 保21 | 1前 | 1 | | ● | | | | |
| | | 生理学Ⅱ | 保22 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 生理学実習 | 保23 | 2前 | 2 | | | ● | | | |
| | | 理学療法基礎運動学Ⅰ | 理5 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 理学療法基礎運動学Ⅱ | 理6 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 運動学実習 | 理7 | 2後 | 2 | | | ● | | | |
| | | 人間発達学 | 保24 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | 臨床医学 | 病理学 | 保25 | 2前 | 1 | | | ● | | | 必修16単位以上 |
| | | 医用画像解析学 | 保26 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 臨床薬理学 | 保27 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 栄養管理学 | 保28 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 救急救命医学 | 保29 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | リハビリテーション医学 | 保30 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 外科学 | 保31 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 整形外科学Ⅰ | 保32 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 整形外科学Ⅱ | 保33 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 内科学・老年学Ⅰ | 保34 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 内科学・老年学Ⅱ | 保35 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 神経内科学 | 保36 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 脳神経外科学 | 保37 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 小児科学・小児神経科学 | 保38 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 精神医学Ⅰ | 保39 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 精神医学Ⅱ | 保40 | 2後 | | 1 | | ○ | | | |
| | | 臨床心理学 | 保41 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 | 障害科学Ⅰ | 保42 | 1後 | 1 | | ● | | | | 必修3単位 |
| | | 障害科学Ⅱ | 保43 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 公衆衛生学 | 保44 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 生命倫理 | 全11 | 2後 | | 1 | | ○ | | | 選択2科目から1単位以上 |
| | | 人間関係論 | 保45 | 2後 | | 1 | | ○ | | | |
| | | 言語聴覚療法概論 | 保46 | 4前 | | 1 | | | | ○ | 選択3科目から1単位以上 |
| | | 看護学概論 | 保47 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 介護学概論 | 保48 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |

| 科目区分 | | 科目名 | ページ | 配当年次 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 理学療法学専攻 1年次 | 理学療法学専攻 2年次 | 理学療法学専攻 3年次 | 理学療法学専攻 4年次 | 履修方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 基礎理学療法学 | 理学療法概論Ⅰ（導入論） | 理8 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修8単位以上 |
| | | 理学療法概論Ⅱ（理学療法トピックス） | 理9 | 4前 | 1 | | | | | ● | |
| | | 病態運動学Ⅰ | 理10 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 病態運動学Ⅱ | 理11 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法総合演習Ⅰ | 理12 | 2後 | | 1 | | ○ | | | |
| | | 理学療法総合演習Ⅱ | 理13 | 3前 | | 1 | | | ○ | | |
| | | 理学療法総合演習Ⅲ | 理14 | 4後 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 理学療法研究法Ⅰ | 理15 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法研究法Ⅱ | 理16 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法研究法演習（卒業研究） | 理17 | 4通 | 2 | | | | | ● | |
| | 理学療法倫理・管理 | 理学療法倫理・管理学 | 理18 | 3後 | 2 | | | | ● | | 必修2単位 |
| | 理学療法評価学 | 理学療法評価学総論 | 理19 | 1後 | 1 | | ● | | | | 必修9単位 |
| | | 理学療法評価学Ⅰ（関節機能系検査） | 理20 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 理学療法評価学Ⅱ（筋機能系検査） | 理21 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 理学療法評価学Ⅲ（各種検査と測定） | 理22 | 2前 | 2 | | | ● | | | |
| | | 理学療法評価学Ⅳ（模擬症例） | 理23 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 理学療法評価学Ⅴ（実症例） | 理24 | 3前 | 2 | | | | ● | | |
| | | 理学療法評価学Ⅵ（高次脳機能検査） | 理25 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | 理学療法治療学 | 運動療法学Ⅰ（関節機能系） | 理26 | 2前 | 1 | | | ● | | | 必修20単位以上 |
| | | 運動療法学Ⅱ（筋・神経機能系） | 理27 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 運動療法学演習 | 理28 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 物理療法学Ⅰ | 理29 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 物理療法学演習 | 理30 | 2後 | 2 | | | ● | | | |
| | | 物理療法学Ⅱ（マッサージ） | 理31 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法系義肢装具学Ⅰ | 理32 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法系義肢装具学Ⅱ | 理33 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 日常生活活動学Ⅰ（概論） | 理34 | 2後 | 2 | | | ● | | | |
| | | 日常生活活動学Ⅱ（各論） | 理35 | 3前 | 2 | | | | ● | | |
| | | 理学療法治療学Ⅰ（脳血管障害） | 理36 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法治療学Ⅱ（運動器障害） | 理37 | 3前 | 2 | | | | ● | | |
| | | 理学療法治療学Ⅲ（神経系障害） | 理38 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法治療学Ⅳ（内部障害） | 理39 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法治療学Ⅴ（発達障害） | 理40 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 理学療法治療学Ⅵ（スポーツ障害） | 理41 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 関節モビライゼーション | 理42 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 認知理論に基づく運動療法 | 理43 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 固有受容性神経筋促通手技 | 理44 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | スポーツマッサージ | 理45 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 呼吸理学療法 | 理46 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 発達学的視点に基づく運動療法 | 理47 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 感覚統合療法 | 理48 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 予防理学療法 | 理49 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | 地域理学療法学 | 地域理学療法学Ⅰ（概論） | 理50 | 2後 | 1 | | | ● | | | 必修4単位 |
| | | 地域理学療法学Ⅱ（各論） | 理51 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 地域理学療法学Ⅲ（演習） | 理52 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 生活環境学 | 理53 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | 理学療法臨床実習 | 臨床見学実習 | 理54 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修25単位 |
| | | 理学療法臨床評価実習Ⅰ | 理55 | 2後 | 3 | | | ● | | | |
| | | 理学療法臨床評価実習Ⅱ | 理56 | 3前 | 4 | | | | ● | | |
| | | 地域理学療法実習 | 理57 | 4前 | 1 | | | | | ● | |
| | | 理学療法臨床実習Ⅰ | 理58 | 4前 | 8 | | | | | ● | |
| | | 理学療法臨床実習Ⅱ | 理59 | 4後 | 8 | | | | | ● | |
| | ＩＰＥ関連科目 | ヒューマンケア論 | 全12 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修4単位 |
| | | IPW論 | 全13 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | IPW演習Ⅰ | 全14 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | IPW演習Ⅱ | 全15 | 4前 | 1 | | | | | ● | |
| | | | | 履修基準単位 | | | 37 | 40 | 35 | 22 | |

注）●は「必修科目」を、○は「選択科目」を表す。

# 作業療法学専攻　履修課程表〈2019(平成31)年度以降入学生用〉

注）●は「必修科目」を、○は「選択科目」を表す。

| 科目区分 | | 科目名 | ページ | 配当年次 | 単位数 必修 | 単位数 選択 | 作業療法学専攻 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 履修方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教養科目 | 導入科目 | 大学基礎セミナー | 作1 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修7単位 |
| | | 作業療法基礎セミナー | 作2 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | アカデミックリテラシー | 全1 | 1前 | 1 | | ● | | | | |
| | | 自然科学の基礎 | 全2 | 1前 | 2 | | ● | | | | |
| | | 情報リテラシー | 保1 | 1前 | 2 | | ● | | | | |
| | 人文科学 | 心理学 | 全3 | 1前 | 2 | | ● | | | | 必修8単位<br>＋<br>選択9科目から3単位以上 |
| | | 倫理学 | 保2 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 文化人類学 | 全4 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 異文化理解 | 保3 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 信州学 | 全5 | 1後 | | 1 | ○ | | | | |
| | 社会科学 | 社会福祉学 | 保4 | 1前 | 2 | | ● | | | | |
| | | 教育学 | 全6 | 1後 | 2 | | ● | | | | |
| | | 社会学 | 全7 | 1前 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 日本国憲法・法学 | 全8 | 2前 | | 2 | | ○ | | | |
| | 自然科学 | 物理学 | 保5 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 統計学 | 保6 | 1後 | 2 | | ● | | | | |
| | | 生物学 | 保7 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| | | 生化学 | 保8 | 2前 | | 2 | | ○ | | | |
| | 体育学 | 体育実技 | 保9 | 1後 | 1 | | ● | | | | 必修2単位 |
| | | 体育学 | 保10 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | 外国語 | 英語Ⅰ | 保11 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修4単位以上 |
| | | 英語Ⅱ | 保12 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 英語Ⅲ | 保13 | 3前 | | 1 | | | ○ | | |
| | | 医学英語Ⅰ | 保14 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 医学英語Ⅱ | 保15 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 医学英語Ⅲ | 保16 | 3後 | | 1 | | | ○ | | |
| | | ハングル | 全9 | 1後 | | 2 | ○ | | | | 選択3科目から2単位以上 |
| | | 中国語 | 保17 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| | | スペイン語 | 全10 | 1後 | | 2 | ○ | | | | |
| 専門基礎科目 | 基礎医学 | 解剖学Ⅰ（総合） | 保18 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修15単位以上 |
| | | 解剖学Ⅱ（総合） | 保19 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 解剖学実習（人体解剖観察） | 保20 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 運動器系解剖学Ⅰ | 作3 | 1前 | 1 | | ● | | | | |
| | | 運動器系解剖学Ⅱ | 作4 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 体表解剖学演習 | 作5 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（運動器） | 作6 | 3前 | | 1 | | | ○ | | |
| | | ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（神経系） | 作7 | 3前 | | 1 | | | ○ | | |
| | | 生理学Ⅰ | 保21 | 1前 | 1 | | ● | | | | |
| | | 生理学Ⅱ | 保22 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 生理学実習 | 保23 | 2前 | 2 | | | ● | | | |
| | | 作業療法基礎運動学Ⅰ | 作8 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | | 作業療法基礎運動学Ⅱ | 作9 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 運動学実習 | 作10 | 2後 | 2 | | | ● | | | |
| | | 人間発達学 | 保24 | 1後 | 1 | | ● | | | | |
| | 臨床医学 | 病理学 | 保25 | 2前 | 1 | | | ● | | | 必修17単位 |
| | | 医用画像解析学 | 保26 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 臨床薬理学 | 保27 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 栄養管理学 | 保28 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 救急救命医学 | 保29 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | リハビリテーション医学 | 保30 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 外科学 | 保31 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 整形外科学Ⅰ | 保32 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 整形外科学Ⅱ | 保33 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 内科学・老年学Ⅰ | 保34 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 内科学・老年学Ⅱ | 保35 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 神経内科学 | 保36 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 脳神経外科学 | 保37 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 小児科学・小児神経科学 | 保38 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 精神医学Ⅰ | 保39 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 精神医学Ⅱ | 保40 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 臨床心理学 | 保41 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 | 障害科学Ⅰ | 保42 | 1後 | 1 | | ● | | | | 必修3単位 |
| | | 障害科学Ⅱ | 保43 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 公衆衛生学 | 保44 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 生命倫理 | 全11 | 2後 | | 1 | | ○ | | | 選択2科目から1単位以上 |
| | | 人間関係論 | 保45 | 2後 | | 1 | | ○ | | | |
| | | 言語聴覚療法概論 | 保46 | 4前 | | 1 | | | | ○ | 選択3科目から1単位以上 |
| | | 看護学概論 | 保47 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |
| | | 介護学概論 | 保48 | 4前 | | 1 | | | | ○ | |

| 科目区分 | | 科目名 | ページ | 配当年次 | 単位数 | | 作業療法学専攻 | | | | 履修方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 必修 | 選択 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | |
| 専門科目 | 基礎作業療法学 | 作業療法概論 | 作11 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修8単位 |
| | | 基礎作業療法学 | 作12 | 1前 | 1 | | ● | | | | |
| | | 基礎作業学Ⅰ（基本・技法） | 作13 | 1前 | 1 | | ● | | | | |
| | | 基礎作業学Ⅱ（作業分析） | 作14 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 作業療法研究法Ⅰ | 作15 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 作業療法研究法Ⅱ | 作16 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 作業療法研究法演習（卒業研究） | 作17 | 4通 | 2 | | | | | ● | |
| | 作業療法倫理・管理 | 作業療法管理学 | 作18 | 4前 | 2 | | | | | ● | 必修2単位 |
| | 作業療法評価学 | 作業療法評価学総論 | 作19 | 1後 | 1 | | ● | | | | 必修6単位 |
| | | 身体系作業療法評価学 | 作20 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 精神系作業療法評価学 | 作21 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 発達系作業療法評価学 | 作22 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | 作業療法評価学演習（総合） | 作23 | 2後 | 2 | | | ● | | | |
| | 作業療法治療学 | 身体系作業療法学 | 作24 | 2後 | 1 | | | ● | | | 必修26単位 |
| | | 身体系作業療法治療学Ⅰ | 作25 | 3前 | 2 | | | | ● | | |
| | | 身体系作業療法治療学Ⅱ | 作26 | 3後 | 2 | | | | ● | | |
| | | 精神系作業療法学 | 作27 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 精神系作業療法治療学Ⅰ | 作28 | 3前 | 2 | | | | ● | | |
| | | 精神系作業療法治療学Ⅱ | 作29 | 3後 | 2 | | | | ● | | |
| | | 発達系作業療法学 | 作30 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 発達系作業療法治療学Ⅰ | 作31 | 3前 | 2 | | | | ● | | |
| | | 発達系作業療法治療学Ⅱ | 作32 | 3後 | 2 | | | | ● | | |
| | | 高次脳機能系作業療法学Ⅰ | 作33 | 3前 | 2 | | | | ● | | |
| | | 高次脳機能系作業療法学Ⅱ | 作34 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 高齢期作業療法学Ⅰ | 作35 | 2後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 高齢期作業療法学Ⅱ | 作36 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 日常生活活動学Ⅰ | 作37 | 2後 | 1 | | | ● | | | |
| | | 日常生活活動学Ⅱ | 作38 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 作業療法系義肢装具学Ⅰ | 作39 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | 作業療法系義肢装具学Ⅱ | 作40 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 職業前評価・治療学 | 作41 | 3後 | 1 | | | | ● | | |
| | | 作業療法治療学演習(総合) | 作42 | 4前 | 1 | | | | | ● | |
| | 地域作業療法学 | 地域作業療法学Ⅰ | 作43 | 3前 | 2 | | | | ● | | 必修4単位 |
| | | 地域作業療法学Ⅱ | 作44 | 3後 | 2 | | | | ● | | |
| | 作業療法臨床実習 | 臨床見学実習 | 作45 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修25単位 |
| | | 作業療法臨床評価実習Ⅰ | 作46 | 2後 | 2 | | | ● | | | |
| | | 作業療法臨床評価実習Ⅱ | 作47 | 3前 | 3 | | | | ● | | |
| | | 地域作業療法実習 | 作48 | 4前 | 1 | | | | | ● | |
| | | 作業療法臨床実習Ⅰ | 作49 | 4前 | 9 | | | | | ● | |
| | | 作業療法臨床実習Ⅱ | 作50 | 4後 | 9 | | | | | ● | |
| | ＩＰＥ関連科目 | ヒューマンケア論 | 全12 | 1前 | 1 | | ● | | | | 必修4単位 |
| | | IPW論 | 全13 | 2前 | 1 | | | ● | | | |
| | | IPW演習Ⅰ | 全14 | 3前 | 1 | | | | ● | | |
| | | IPW演習Ⅱ | 全15 | 4前 | 1 | | | | | ● | |
| | | | | 履修基準単位 | | | 37 | 38 | 37 | 26 | |

注）●は「必修科目」を、○は「選択科目」を表す。

# 授業概要

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | アカデミックリテラシー | | | | | | | |
| 担当教員 | 杉山　俊一郎 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 大学で作成するよい文章とはどのような文章か。そもそも言葉は必要なのか。そのような根本的なことを常に意識しながら、日本語にまつわる話をし、よき日本語が使えるようになることを目指す。古今の代表的な文章を読み、どのような文体、どのような表現が効果的なのか、を考え、実際に文章を書いてみる。また、日本語の文字、文法など具体的な知見を得る。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．目的に応じて適切な表現を用いた文章が書けるようになる。<br>２．様々な種類の文章を読解できるようになる。<br>３．学術的なレポートや小論文が書けるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/13 | イントロダクション―自己紹介文を書く― | 杉山　俊一郎 |
| 2 | 4/20 | 作文の基礎(１)―話し言葉と書き言葉の相違― | 〃 |
| 3 | 4/27 | 作文の基礎(２)―分かりやすいレポート・論文とはどのような文章か― | 〃 |
| 4 | 5/11 | 構想を練る―テーマ・課題・文章展開を考える― | 〃 |
| 5 | 5/18 | 書く(１)―内容・方法の説明― | 〃 |
| 6 | 5/25 | 書く(２)―課題文を読んで自分の考えを述べる― | 〃 |
| 7 | 6/1 | 書く(３)―２つの課題文を読み比べて自分の考えを述べる― | 〃 |
| 8 | 6/8 | 小論文の作成に向けて―引用と参考文献の書き方について― | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない。プリントを配布する。 |
| 参考図書 | １．戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHK出版，２０１２年<br>２．石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社，２０１２年 |
| 予習・復習内容 | 配布プリントや返却した答案・課題は，必ず内容を確認すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：提出物・発言等５０%，期末試験(小論文) ５０% |
| 履修上の注意 | 執筆された課題文章を授業内で公表し，教材として用いる場合がある。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail shun_sugiyama@shinshu.u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 自然科学の基礎 | | | | | | | |
| 担当教員 | 松山　敏彦　　松岡　樂 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 医療現場や介護現場で必要となる数学、生物、物理、化学の基礎について、高大連携科目として学ぶ。<br>（オムニバス方式／全１５回）<br><br>【松岡樂　数学／４回】<br>「分数」、「小数」、「割合」、「速さ」、「濃度」、「複数の値の関係」、「色々な単位」、図やグラフの「数量関係」について看護の現場で必要となる内容を学ぶ。<br><br>【松山敏彦　理科（生物・物理・化学）／１１回】<br>生物では、「細胞の成り立ち」、「有性生殖」、「遺伝の規則性」について看護の現場で必要となる基本的なことを確認する。物理では、「力の働き」、「圧力」、「力の法則性」、「熱の働き」について看護の現場で必要となる基本的なことを学ぶ。化学では、「身の回りの物質」、「物質の成り立ち」、「水溶液」、「酸とアルカリ、中和」について看護の現場で必要となる基本的なことを学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．生物：高校までの生物の基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。<br>２．化学：高校までの化学の基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。<br>３．物理：高校までの物理の基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。<br>４．数について理解を深める。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 生物の特徴：細胞の成り立ちと機能、細胞分裂、生命活動とエネルギー | 松山　敏彦 |
| 2 | 4/14 | 遺伝子とその働き：生物と遺伝子、DNAと遺伝情報、たんぱく質の合成 | 〃 |
| 3 | 4/21 | 体内環境の維持①：ホメオスタシス、自律神経 | 〃 |
| 4 | 4/28 | 体内環境の維持②：ホルモン、免疫 | 〃 |
| 5 | 5/12 | 物質の構成：身の回りの物質の成分、原子の構造、元素の周期表、化学結合 | 〃 |
| 6 | 5/19 | 物質の変化：分子量と物質量、水溶液の濃度、化学反応式 | 〃 |
| 7 | 5/26 | 酸と塩基：水素イオン濃度とｐH、中和反応、酸化と還元 | 〃 |
| 8 | 6/9 | 物体の運動とエネルギー：速度、加速度、落下運動 | 〃 |
| 9 | 6/16 | 運動の法則：力とは、運動の法則、力学的エネルギー | 〃 |
| １０ | 6/23 | 熱と波：絶対温度、熱量の保存、身の回りの波の現象 | 〃 |
| １１ | 6/30 | 電気と磁気：電流と抵抗、電流がつくる磁場 | 〃 |
| １２ | 7/7 | 「分数」、「小数」について学習する。 | 松岡　樂 |
| １３ | 7/14 | 「割合」、「速さ」、「濃度」について学習する。 | 〃 |
| １４ | 7/21 | 「複数の値の関係」、「いろいろな単位」について学習する。 | 〃 |
| １５ | 7/28 | 図やグラフの「数量関係」について学習する。 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない。<br>理科：「テキスト」と「ワークシート」を配布する。<br>数学：毎回プリントを配布する。 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない。 |
| 予習・復習内容 | 理科：「テキスト」と講義に基づき、毎回「ワークシート」を完成させる。<br>数学：プリント内に記載されている演習問題を解く。 |
| 成績評価方法・基準 | 定期試験１００％<br>理科：ワークシートの中から出題する<br>数学：演習問題の中から出題する。 |
| 履修上の注意 | 理科：完成した「ワークシート」を各自ファイリングして定期試験に備える。<br>数学：毎回配られるプリントをよく読んで理解すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 南館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 心理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 髙瀬　弘樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 心理学の”心の研究・学問”としての歴史は浅く、古くは実験と観察を通じて始まり、近年では、生活の場における人間の理解を深めて、臨床の場でそれを生かしていこうといった試みも増えている。<br>本講義では、①心理学の入門編として様々な心理学の知見を概観、②心理学の視点や考え方を理解することを目的とする。臨床の話も織り交ぜながら、学生と共に考えていく講義とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．心理学の歴史やその成果に関して幅広く理解できる。<br>２．科学としての心理学における諸理論、研究法を説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/10 | 心理学とは何か | 髙瀬　弘樹 |
| 2 | 4/17 | 現代心理学の成立 | 〃 |
| 3 | 4/24 | 心の進化 | 〃 |
| 4 | 5/8 | 心の発達 | 〃 |
| 5 | 5/15 | 動機づけ・情動 | 〃 |
| 6 | 5/22 | 身体化認知 | 〃 |
| 7 | 5/29 | 性格 | 〃 |
| 8 | 6/5 | 知能 | 〃 |
| 9 | 6/12 | メンタルヘルス | 〃 |
| １０ | 6/19 | 心理療法 | 〃 |
| １１ | 6/26 | 感覚・知覚 | 〃 |
| １２ | 7/3 | 学習・記憶 | 〃 |
| １３ | 7/10 | 思考・言語 | 〃 |
| １４ | 7/17 | 心と社会 | 〃 |
| １５ | 7/31 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない。プリントを配布。 |
| 参考図書 | 無藤 隆・森 敏昭・遠藤 由美・玉瀬 耕治：心理学 新版（New Liberal Arts Selection）　有斐閣 |
| 予習・復習内容 | 授業時に配布したプリントの内容について理解する。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験６０％、不定期に行われる小テスト４０％ |
| 履修上の注意 | 授業中は、私語を慎むこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:takaseh(at)shinshu-u.ac.jp　(at)は@ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 文化人類学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 阿久津　昌三 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 文化人類学は、自己と他者、自文化と他文化との差異を探求しながら、エスノセントリズムの発想を脱して、自文化と他文化を理解しようとする学問である。本講義では、人間と文化、人と人のつながり（生殖、家族、親族、結婚）、人生と時間（儀礼）信仰と世界観、身体・病気・医療、人間と死について学ぶ。授業は講義、視聴覚教材の活用、アクティブ・ラーニング、リフレクションテストの実施により進めていく。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．フィールドワークの方法を学び、人々の話を聞き、行動を観察しながら記録し、医療にかかわる行為のバックグラウンドとなる文化とは何かを知る。<br>２．ローカルな／グローバルな医療活動に携わるときに必要な文化人類学の知の技法を学ぶ。<br>３．医療を多様な角度からとらえなおす医療人類学の最前線を学ぶ。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/13 | 文化人類学と看護学 | 阿久津　昌三 |
| 2 | 4/20 | 家族①―家族概念と家族関係語彙 | 〃 |
| 3 | 4/27 | 家族②―生殖と親子 | 〃 |
| 4 | 5/11 | 家族③―結婚と親族 | 〃 |
| 5 | 5/18 | ジェンダーとセクシュアリティ | 〃 |
| 6 | 5/25 | 生業経済の諸類型（採集・狩猟、農耕、牧畜） | 〃 |
| 7 | 6/1 | コミュニティとアソシエーション | 〃 |
| 8 | 6/8 | 民族と国家 | 〃 |
| 9 | 6/15 | 民族と紛争 | 〃 |
| １０ | 6/22 | 人生と通過儀礼①―通過儀礼と境界理論 | 〃 |
| １１ | 6/29 | 人生と通過儀礼②―儀礼の構造と理論 | 〃 |
| １２ | 7/6 | 宗教とコスモロジー①―呪術、宗教、科学 | 〃 |
| １３ | 7/13 | 宗教とコスモロジー②―憑依とトランス状態 | 〃 |
| １４ | 7/20 | 医療人類学①―病いと治療 | 〃 |
| １５ | 7/27 | 医療人類学②―生と死と再生 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 波平恵美子編:文化人類学［カレッジ版］第３版　医学書院 |
| 参考図書 | 澤野美智子編:医療人類学を学ぶための６０冊　２０１８年　明石書店 |
| 予習・復習内容 | 事後課題として基礎知識＋リフレクションシートを配布します。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：課題　４５％　レポート　２５％　期末試験　３０％ |
| 履修上の注意 | 基本的には講義形式であるが、授業のなかに口頭発表の場を設ける。主体的に参加する。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:sakutsu@shinshu-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 信州学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 和田　恭良 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 健康県、長寿県である信州を、様々な面から考察し、またそこで営まれてきた人々の文化や生活（特に健康資源の開発と健康増進活動）のあり方を検討し、これからの地域看護活動、地域振興活動の展望を得る。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．信州の自然、地理・歴史を踏まえて人々の暮らしや知恵、そこに生まれた文化などを学ぶ。<br>２．信州の生活を支える産業について学ぶ。<br>３．健康長寿を支えてきた保健活動を学ぶ。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | 信州の自然：県歌「信濃の国」をひも解き、名所、偉人を知るとともに、山岳県、海なし県といった信州の自然の特徴を考察する。信州の気候と風土、人と自然の共生の歴史について概説する。 | 和田　恭良 |
| 2 | 10/14 | 地理的特性：３０００m級の山岳、火山、大きな河川、急峻な地形、盆地など信州の地理的な特性やそこに暮らす人々を襲った数々の災害について理解するとともに、食をはじめとする豊かな自然の恩恵について考える。 | 〃 |
| 3 | 10/28 | 信州の生活：雪深い北部県境地方、八ヶ岳周辺の高原地域、諏訪湖、盆地など地域ごとの人々の生活を農業と食文化を中心に考察する。 | 〃 |
| 4 | 11/11 | 信州の歴史：茅野市尖石遺跡の縄文のビーナス、和田峠の黒曜石、古事記に登場する諏訪大社、長野県・筑摩県の確執と南北対立など、古代から現在に至るまで、信州の歴史をたどり、人々の暮らしを考察する。 | 〃 |
| 5 | 11/25 | 信州の伝統文化：御柱祭り、ご開帳など、信州に古代から伝わる多くの祭りや信仰、方言など、それぞれの地域で暮らす人々について考察する。 | 〃 |
| 6 | 12/9 | 信州の交通・産業：信州の生活を支える産業・経済活動の現状等について概説する。 | 〃 |
| 7 | 12/23 | 健康長寿信州：世界でも有数の長寿国である日本の中で、トップクラスの平均寿命を誇る信州の健康長寿について、保健活動の歴史などを踏まえて概説する。 | 〃 |
| 8 | 1/13 | 信州の保健活動：健康長寿県となった要因とも考えられる減塩運動、食生活改善運動、保健補導員活動など、信州における保健活動について学ぶ。 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 長野県立歴史館　信州を学ぶ（全3冊）　信濃毎日新聞社 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | なし |
| 成績評価方法・基準 | 期末レポート１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 長野県職員としての知見が講義内容の一部に入る。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 教育学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 髙柳　充利 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 本科目では、教育社会学的な視点を取り入れ、以下の三点を軸に「生涯教育」と「教育的コミュニケーション」について実際的なプランと技法を習得することを目的とする。１．技術の進歩の著しい現代社会にあって、専門職として活躍する上で必要となる、生涯に渡る自己教育の意義と見通し。２．成熟社会における一般市民にとっての学びの意義と可能性。３．医療の現場に携わる専門職に必要な「伝える」「共感する」「習慣を再構築する」ためのアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションを適宜取り入れながら講義形式で学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．生涯にわたる自己教育の重要性について自分なりにイメージをもつことができる。<br>２．他者への共感につながる人間洞察について自分なりの見通しをもつことができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | 導入：授業の概要、評価の方針等についての説明 | 髙柳　充利 |
| 2 | 10/8 | 生成と発達：人間が変化するとはどのようなことかについの説明 | 〃 |
| 3 | 10/15 | 変容と成長：人間の変化の二つの容態を具体的な事例から検討 | 〃 |
| 4 | 10/22 | 教育と関係性：教える-学ぶという関係性について考える | 〃 |
| 5 | 10/29 | 教育と人生の前半のこころ：人生の前半のこころの課題から教育を考える | 〃 |
| 6 | 11/5 | 教育と人生の後半のこころ：人生の後半のこころの課題から教育を考える | 〃 |
| 7 | 11/12 | 教育と声：教育と声との関わりを考える | 〃 |
| 8 | 11/19 | 青年期と教育：青年期特有の教育的課題について文化作品を通して考える | 〃 |
| 9 | 11/26 | 中年期と教育：中年期特有の教育的課題について文化作品を通して考える | 〃 |
| １０ | 12/3 | 老年期と教育：老年期特有の教育的課題について文化作品を通して考える | 〃 |
| １１ | 12/10 | 思春期と教育：思春期特有の教育的課題について文化作品を通して考える | 〃 |
| １２ | 12/17 | 教育と倫理：よい教育とは何かを歴史的に考察する | 〃 |
| １３ | 1/7 | ケーススステディ：現代的事例から教育を学ぶ | 〃 |
| １４ | 1/14 | ケーススタディ：古典的名著から教育を学ぶ | 〃 |
| １５ | 1/21 | まとめ：授業の総括等 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない。必要に応じてプリント等を配布する。 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない。必要に応じてスライド等で紹介する。 |
| 予習・復習内容 | 事前学習：授業内容で示された事項について、日常的に好奇心をもって観察・思索すること。<br>事後学習：授業で扱われた事項について、生活のなかで読書や省察の機会をみつけ、思考を深めること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　８０％、課題提出　１０％、口頭発表　１０％の総合評価 |
| 履修上の注意 | 筆記用具等を持参のこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | takayana@shinshu-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 社会学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 茅野　恒秀 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 社会学は、人と人とが関わりあうことで形作られ変化していく社会現象を、読み解こうとする学問である。本講義では、特に健康、病気、老い、死、医療、ケア、家族、コミュニティ、制度、格差等をキーワードに、社会学の成果や問いについて学ぶ。授業は講義、視聴覚教材の活用、グループワークや小テストの実施により進めていく。受講生には、社会学的なものの見方を身につけ、自分の日常生活や臨床実践を捉えなおす力を養う。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．社会学的な認識の枠組みを理解することができる。<br>２．自らもその構成員である現代社会の成立基盤を理解することができる。<br>３．医療従事者として身につけておくべき社会認識の方法を獲得することができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 社会を学ぶための学びとは | 茅野　恒秀 |
| 2 | 4/15 | 自己、インタラクション | 〃 |
| 3 | 4/22 | 家族、親密圏 | 〃 |
| 4 | 4/29 | 教育、学校 | 〃 |
| 5 | 5/13 | 医療、福祉 | 〃 |
| 6 | 5/20 | ジェンダー、セクシュアリティ | 〃 |
| 7 | 5/27 | メディア、情報 | 〃 |
| 8 | 6/10 | 世代、ライフコース | 〃 |
| 9 | 6/17 | 労働、消費 | 〃 |
| １０ | 6/24 | 階層、格差 | 〃 |
| １１ | 7/1 | 社会問題、社会運動 | 〃 |
| １２ | 7/8 | 科学技術、環境 | 〃 |
| １３ | 7/15 | 文化、表象 | 〃 |
| １４ | 7/22 | 都市、コミュニティ | 〃 |
| １５ | 7/29 | グローバリゼーション、エスニシティ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 難波功士　著：広告で社会学　２０１８版　弘文堂 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | （予習）毎回の授業にあたっては、教科書の該当章を読み込んでくること。<br>（復習）授業内容を確認し、社会学的な認識の枠組みが修得されているかを問う小レポートを定期的に課す。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業期間中の小レポート５０％、期末レポート５０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 電子メール（chino@shinshu-u.ac.jp） |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本国憲法・法学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 関　良徳 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 日本国憲法の全体像は、基本的人権と統治機構の2つに大別される。本科目では、日本国憲法の基礎的知識、とりわけ基本的人権の内容と意義、統治機構の基本原理と司法権・違憲審査制の理解を目的とする。基本概念・判例などの基礎的知識の獲得を大前提に、それらの知識を活用して、社会における多様な問題を憲法や法律との関わりから捉え、自らの言葉で発言できるカを身に付ける。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．憲法で保障されている基本的人権について理解する。<br>２．基本的人権が社会の中でどのように保障されているのかを具体的に理解する。<br>３．人権や権利に関わる紛争を防ぐための立法や行政の役割について理解する。<br>４．人権や権利に関わる紛争を解決する司法の役割について理解する。<br>５．人権侵害を防ぐための違憲立法審査権について理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/10 | 個人の尊厳と自己決定権について説明する。 | 関　良徳 |
| 2 | 4/17 | 消費生活における契約の自由と立法・行政・司法の役割について概説する。 | 〃 |
| 3 | 4/24 | 消費者保護のための立法・行政・司法の役割について解説を行う。 | 〃 |
| 4 | 5/1 | 医療場面での個人の尊厳にかかわる事例の検討（模擬裁判）を行う。 | 〃 |
| 5 | 5/8 | 家族法と法の下の平等について概説する。 | 〃 |
| 6 | 5/15 | 児童虐待と子どもの人権及び行政の役割について説明する。 | 〃 |
| 7 | 5/22 | 子どもの人権と少年法の役割について解説を行う。 | 〃 |
| 8 | 5/29 | 子どもの人権にかかわる事例の検討（模擬裁判）を行う。 | 〃 |
| 9 | 6/5 | 犯罪と刑罰にかかわる人権保障について説明を行う。 | 〃 |
| １０ | 6/12 | 裁判員制度と司法の役割について解説する。 | 〃 |
| １１ | 6/19 | 医療にかかわる法の役割と安楽死・尊厳死について概説する。 | 〃 |
| １２ | 6/26 | 医療場面における犯罪事例の検討（模擬裁判）を行う。 | 〃 |
| １３ | 7/3 | 子の出生に関わる法の役割について説明する。 | 〃 |
| １４ | 7/10 | 労働にかかわる人権保障と立法・行政・司法の役割について解説する。 | 〃 |
| １５ | 7/17 | 憲法による人権保障について総括的な説明を行う。 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 指定しない。 |
| 参考図書 | １．安念潤司　他著：論点　日本国憲法　第２版　東京法令出版<br>２．宇賀克也　他編：ポケット六法　有斐閣 |
| 予習・復習内容 | 予習と復習のための課題を授業時に配布し、次回授業時に提出すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 毎時間出席するとともに，日頃から復習を怠らないように注意して下さい。 |
| 担当教員への連絡方法 | e-mail yosseki@shinshu-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | ハングル | | | | | | | |
| 担当教員 | 高橋　比紗子 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | ハングルは朝鮮半島を中心に話されている言葉で，文法や単語など日本語と共通する部分の多い言語である。そのため日本人にとって最も簡単で学びやすい外国語と言われている。ハングルの文字や仕組みや発音，基礎的な文法を習得した上で，最終的には日常的な会話が可能になるレベルを目指す。多くの学生に発言する機会を与え，対話形式で進めていくことで，積極的に授業に参加できる環境づくりを目指す。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．積極的に学習する姿勢<br>２．異文化言語に興味を持つ | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 韓国語について・ハングル文字の仕組み・基本母音 | 高橋　比紗子 |
| 2 | 10/5 | 基本子音・複合母音 | 〃 |
| 3 | 10/12 | パッチム・復習・簡単な挨拶 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 発音の変化・基礎編終了 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 実践編・自己紹介 | 〃 |
| 6 | 11/2 | 代名詞・位置名詞 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 助詞 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 指定詞・存在詞 | 〃 |
| 9 | 11/30 | 用言（動詞・形容詞） | 〃 |
| １０ | 12/7 | 数詞・曜日 | 〃 |
| １１ | 12/14 | 時間 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 用言の否定形 | 〃 |
| １３ | 1/4 | 連用形・会話体（～아요, ～어요, ～해요） | 〃 |
| １４ | 1/18 | 過去形 | 〃 |
| １５ | 1/25 | 復習 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | プリントを配布する。 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない。 |
| 予習・復習内容 | 授業で配布されるプリントに目を通すこと。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業に取り組む姿勢・態度３０％　授業内レポート３０％　期末試験４０％ |
| 履修上の注意 | 学習意欲を持って臨むこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | スペイン語 | | | | | | | |
| 担当教員 | 橋本　エリサ　　ルイス アントニオ ペラルタ ミランダ | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | スペイン語は現在、世界の20ケ国の公用語として使用されている。スペイン及びメキシコやコスタリカ等の中央アメリカと南米、赤道ギネアとアメリカ合衆国でも話されている地域がある。スペイン語には母音が日本語と同じようにa,e,i,o,uと五つあり、発音は日本語に近く読み方もアルファベット通りであるため、日本人にとっては学びやすい言語である。この科目では基本的な文法と簡単なコミュニケーション能力の習得をめざす。ビデオ映像も利用しつつ基本的スペイン語能力を獲得し、異文化理解に基づき国際感覚を育成することをめざす。言葉の歴史的背景やそれぞれの国々の文化を学び、人生を豊かにする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．スペイン語圏の文化や考え方を理解し、国際感覚を持つことをできるようにする。<br>２．スペイン語での日常コミュニケーションができるようになる。<br>３．自己紹介から始め、大学や家での日々の生活について、正しいスペイン語を使って口頭でも筆記でも表現できるようになる。<br>４．この授業は基本的文法の習得が目的です。受信だけではなく発信にも使えるような文法力を習得するのが具体的なねらいです。日常会話も取り入れて練習します。<br>５．スペイン語圏の国々の文化的背景に触れながら進めていきます。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | ガイダンス,スペイン語はどんな言語 | 橋本　エリサ |
| 2 | 10/7 | アルファベットの発音,あいさつ | 〃 |
| 3 | 10/14 | 名詞,男性名詞,女性名詞,冠詞,定冠詞,不定冠詞 | 〃 |
| 4 | 10/21 | 職業,国籍の形容詞 | 〃 |
| 5 | 10/28 | 主語人称代名詞,スペイン語のBE動詞：SER（自己紹介） | ルイス ミランダ |
| 6 | 11/4 | BE動詞SER,出身地について | 〃 |
| 7 | 11/11 | 時間の表現 | 〃 |
| 8 | 11/18 | 動詞TENER　　家族について | 〃 |
| 9 | 11/25 | 動詞HABER | 〃 |
| １０ | 12/2 | 動詞ESTAR | 〃 |
| １１ | 12/9 | 規則動詞　Ａｒ，Er.Ir（直接法現在形） | 〃 |
| １２ | 12/16 | 規則動詞　Ａｒ，Er.Ir（直接法現在形） | 〃 |
| １３ | 12/23 | 不規則動詞　　Ｉｒ　、Ｑｕｅｒｅｒ | 橋本　エリサ |
| １４ | 1/6 | 動詞Ｇｕｓｔａｒｙ　Ｄｏｌｅｒ | 〃 |
| １５ | 1/13 | 総復習。自己紹介の発表 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | Imaginatelo!イラストで楽しもうスペイン語.　筆者Masako Ura , Francisco Partida |
| 参考図書 | プログレッシブスペイン語辞典第2番、カレッジエデイション.筆者Tsuzumi Naoya .小学館２０１６年 |
| 予習・復習内容 | 各授業には予習と復習をして臨んでください。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験５０％　　小テスト・単語テスト・提出物　５０％ |
| 履修上の注意 | 教科書と辞典は必ず毎週授業に持参してください。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail　mioeslawe123@Yahoo.co.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生命倫理 | | | | | | | |
| 担当教員 | 三谷　尚澄 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 「生命倫理」という学問分野が成立した背景や歴史について学び、事例を通して、いのちにかかわる人間の行為の倫理的側面を探求する。またその基本にあるべき人権意識を醸成し、創造的思考能力を高める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．倫理学・生命倫理学上の主要な考え方や概念に習熟し、自分の言葉で説明できるようになる。<br>２．主要な倫理的理論や原則を具体的な問題に適用しつつ、道理的に思考できるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 「倫理学的に考える」とはどのようなことか | 三谷　尚澄 |
| 2 | 10/5 | 「批判的思考」を実践する | 〃 |
| 3 | 10/12 | なぜ「理論」を学ぶ必要があるのか | 〃 |
| 4 | 10/19 | 功利主義 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 義務論 | 〃 |
| 6 | 11/2 | 徳倫理 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 答えのない問題を考える | 〃 |
| 8 | 11/16 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 授業中に指示する。 |
| 参考図書 | 授業中に指示する。 |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業の終了時に指示する。 |
| 成績評価方法・基準 | 期末試験：１００％ |
| 履修上の注意 | アクティブ・ラーニングを取り入れた形態で授業を進めるので、毎回のアクティビティへの参加が必須である。 |
| 担当教員への連絡方法 | Email: nmitani@shinshu-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | ヒューマンケア論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 岩谷　力　　井部　俊子　　金物　壽久　　川崎　千恵　　松房　利憲　　大町　かおり | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 保健・医療・福祉に関する専門的な働きかけを必要とする人が、健康問題を主体的に解決し、より良く生きることを目的とした援助を行う上で地域が持っている問題解決能力を活かしていくことをソーシャル・キャピタルの醸成と活用の考え方として理解する。その目的に向かって行われる働きかけに共通するヒューマンケアの考え方を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．公衆衛生学・公衆衛生看護学の理念・迎年について説明できる。<br>２．対象集団別の現状と課題について説明できる。<br>３．公衆衛生学・公衆衛生看護学的なアプローチによる市域や集団を対象とした支援について説明できる。<br>４．ヒューマンケアの概念が登場した社会的背景と制度的背景の基礎的な知識を得る。<br>５．学是である「四徳」について、多様な意味に用いられることを理解し、説明できる。<br>６．「コミュニケーション」の持つ意義や「ケアすることによって共に成長する自分」をみつめ、保健・医療・福祉サービスの連携の意義と重要性を説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/13 | ヒューマンケアを学ぶこと | 岩谷 |
| 2 | 4/20 | ケア・ケアリングとはなにか | 井部 |
| 3 | 4/27 | 地域で暮らす人々を理解する、社会文化 | 川崎 |
| 4 | 5/11 | 「答えのない問い」　①　正義とはなにか | 大町 |
| 5 | 5/18 | 「答えのない問い」　①　正義とはなにか　グループ討議・発表 | 〃 |
| 6 | 5/25 | 「答えのない問い」　②　勇気とはなにか | 川崎 |
| 7 | 6/1 | 「答えのない問い」　②　勇気とはなにか　グループ討議　発表 | 〃 |
| 8 | 6/8 | 「答えのない問い」　③　知恵とはなにか | 松房 |
| 9 | 6/15 | 「答えのない問い」　③　知恵とはなにか　グループ討議　発表 | 〃 |
| １０ | 6/22 | 「答えのない問い」　④　節制・中庸とはなにか | 金物 |
| １１ | 6/29 | 「答えのない問い」　④　節制・中庸とはなにか | 大町 |
| １２ | 7/6 | 老いるということ | 岩谷 |
| １３ | 7/13 | 目が不自由な生活 | 松房 |
| １４ | 7/20 | わざと言葉 | 〃 |
| １５ | 7/27 | まとめ：考えや思いを共有することについて | 井部 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | １．西研　特別授業　ソクラテスの弁明　NHK出版，　*若松英輔　西田幾多郎　善の研究　NHKテキスト<br>２．神島裕子　正義とは何か　中公新書　ほか　適宜提示 |
| 予習・復習内容 | 参考図書を予習、復習 |
| 成績評価方法・基準 | 成績配分：各回毎に提出するレポート１００％（「問い」のもつ多面性の理解、「問い」への多様な回答とその適応限界についての考察について評価） |
| 履修上の注意 | 本学の教育の基盤をなす「ヒューマンケア」は「援助」の基本的概念です。援助は多種多様な求めに、最善と考えられる支援策で応じることである。それは「正解のない問い」への「答え」を考える作業を伴う。「答えのない問い」である「四徳」について、①実例を出す　②意味を確かめ共通要素を考える　③価値あるとされる理由を考えるといった対話を通して考えを深める。 |
| 担当教員への連絡方法 | 担当教員が多数であるので、連絡方法は南館事務室に問い合わせてください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床場面での当事者の訴える「答えのない問い」を多面的に理解し、当事者間での合意形成を図ってきた経験を基盤として対話する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | IPW論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮越　幸代　　松房　利憲 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 医療技術の複雑化に対応するために、また超高齢化に伴う全人的医療ケアを実現するために、二種類以上の専門職者が共に学びあう多職種（専門職）連携教育（Interproffessional Education:IPE)が広がりを見せている。本科目は、全学部の学生が混在する少人数グループを単位とし、クリティカルシンキング･ロジカルライティングを習得し、図書館演習及び医療をテーマとしたワークショップ活動を行うことで、IPEに必要なアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．多職種が連携したチーム医療の機能と意義を具体的な事例をあげて説明する。<br>２．チーム医療における意思疎通と医療倫理について具体的な事例について意見交換し、その留意点とその根拠を説明する。<br>３．チーム医療における各専門職の役割や機能、理念について、それぞれの職種の特徴と関連付けて述べる。<br>４．効果的なチーム医療の方法と実践について意見交換し、自職種の役割と他職種との連携方法を例に、具体的に説明する。<br>５．効果的なチーム医療の方法と実践について考えうる自職種とチームの課題を整理し、説明する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 5/22 | 多職種連携医療概論（１）専門職の連携が求められる背景、多職種連携医療の機能と意義（講義） | 宮越・松房 |
| 2 | 5/29 | 多職種連携医療概論（２）多職種による協働に不可欠な信頼、チームの質向上、対立の解決（講義） | 〃 |
| 3 | 6/12 | グループワーク（１）多職種連携における意思疎通（演習） | 〃 |
| 4 | 6/19 | グループワーク（２）多職種連携における医療倫理（演習） | 〃 |
| 5 | 6/26 | グループワーク（３）多職種連携による対象の分析（アセスメント）（演習） | 〃 |
| 6 | 7/3 | グループワーク（４）多職種連携による支援計画（演習） | 〃 |
| 7 | 7/10 | グループワークの発表　事例に対する支援計画とグループワークの振り返り（発表・意見交換） | 〃 |
| 8 | 7/17 | まとめ　よりよい連携医療を提供するための課題と展望（意見交換） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 水本清久ほか．実践チーム医療論-実践と教育プログラム-.医歯薬出版株式会社.<br>ほかにプリントを配布。 |
| 参考図書 | １．大嶋伸雄．はじめてのIP　連携を学びはじめる人のためのIP入門．協同医書出版社.<br>２．細田満和子．「チーム医療」とは何か．日本看護協会出版会.<br>３．京極真．信念対立解明アプローチ入門―チーム医療・多職種連携の可能性をひらく．誠信書房.<br>４．福澤一吉．看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル．医学書院.<br>５．河野哲也．レポート・論文の書き方入門　第4版．慶應義塾大学出版会. |
| 予習・復習内容 | １．多職種について想定する専門職像を整理し、質問できるようにしてくる。<br>２．自職種について項目に沿って整理し、説明できるようにしてくる。授業後の修正を行い、他職種と共有するうえでの自己の課題を明確にしておく。<br>３．多職種連携医療における意思疎通の事例に対する自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。<br>４．多職種連携医療における医療倫理の事例に対する自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。 |
| 成績評価方法・基準 | グループワークに対する事前準備、参加度、貢献度に関する評価５０％<br>グループ発表の内容および態度、完成度５０％<br>グループワークでは提供された事例の課題を多面的な視点から論理的に分析し、連携・協働のプロセスを深く省察する。発表は一般論の並列でなく、根拠とともに原理原則を踏まえた具体的な内容であること。 |
| 履修上の注意 | 予習・復習、グループワークでは、論理的な文章表現（大学におけるレポート執筆方法の基本）、専門文献の正しい活用･引用方法の手引きとなる資料を手元に準備し、必要時常に参照できるようにしてください。自職種と他職種の違いや葛藤に向き合い、表面的な調和でなく、共に学び、お互いから学び、お互いについて学ぶ積極的な姿勢を期待します。 |
| 担当教員への連絡方法 | Email: matsufusa.toshinori@shitoku.ac.jp, miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 松房は総合病院勤務での多職種連携医療の経験があり、宮越は災害派遣および国際協力の現場での多職種連携による協働経験があり、これまでに多職種連携科目の演習および参考書の分担執筆を担当した経験を持ち、現場と教育を関連付けて学生に理解を促すことができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | IPW演習Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 坂口　けさみ　林　かおり　樋貝　繁香　川崎　千恵<br>田中　髙政　水嵜　知子　宮越　幸代　鈴木　真理子　田渕　祥恵　桑原　良子<br>宮澤　美津子　横関　祐子　奥原　香織　塚田　ゆみ子　堀内　和子<br>風間　邦子　松房　利憲　大町　かおり　宮脇　利幸　山本　良彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | 3年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 地域における保健医療福祉の場を想定し、リハビリテーション学科の学生と共にグループを編成し、多職種連携について事前学習、課題の設定、チームワークを意識しながらチームの目標に向かっていくプロセスを相互に学びあう。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．多職種が連携した医療による支援計画を事例を通して立案し、自職種の役割と連携方法について具体的に説明する。<br>２．チーム医療における意思疎通と医療倫理の重要性について、事例をもとに意見交換し、それぞれを踏まえた具体的な協働方法を説明する。<br>３．多職種で連携・協調するためのリーダーシップ、メンバーシップを発揮しながら意見交換し、合意形成した具体的な支援計画を説明する。<br>４．より効果的な多職種連携医療を実践するためのチームおよび自己の課題を整理して述べる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 学習目標および演習方法（オリエンテーション） | 坂口　けさみ<br>林　かおり<br>樋貝　繁香<br>川崎　千恵<br>田中　髙政<br>水嵜　知子<br>宮越　幸代<br>鈴木　真理子<br>田渕　祥恵<br>桑原　良子<br>宮澤　美津子<br>横関　祐子<br>奥原　香織<br>塚田　ゆみ子<br>堀内　和子<br>風間　邦子<br>松房　利憲<br>大町　かおり<br>宮脇　利幸<br>山本　良彦 |
| 2 | | チームビルディングおよび対象の理解（２０事例・２０グループ）（グループワーク①） | |
| 3 | | 対象事例の分析（グループワーク②） | |
| 4 | | 対象事例がめざす目標（グループワーク③） | |
| 5 | | 対象事例への支援計画（グループワーク④） | |
| 6 | | グループ発表準備（グループワーク⑤） | |
| 7 | | グループ発表会①（事例に対する支援計画と質疑応答） | |
| 8 | | グループ発表会②（同上）および学習のまとめ | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 水本清久ほか．実践チーム医療論-実践と教育プログラム-.医歯薬出版株式会社.<br>ほかにプリントを配布。 |
| 参考図書 | 藤井博之,IPの基本と原則,協同医書出版社.<br>藤井博之,臨床現場でIPを実践し学ぶ,協同医書出版社.<br>藤井博之,地域医療と多職種連携,勁草書房.<br>福原麻希,チーム医療を成功させる10か条　現場に学ぶチームメンバーの心得,中山書店.<br>岡田晋吾,地域医療連携・他職種連携,中山書店. |
| 予習・復習内容 | １．２年次「IPW論」で課題となった自職種についての説明を他職種に行う上での課題を修正して、より具体的かつ正確にわかりやすく説明できるようにしてくる。<br>２．多職種連携医療における各事例に対する自分の分析・解釈を整理し、根拠とともに説明できるようにしてくる。<br>３．多職種連携医療における各事例の支援目標についての自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。<br>４．各グループごとに分担した役割や共同部分に対する各自の責任と協働をはたせるようにしてくる。 |
| 成績評価方法・基準 | ・支援計画における目標および根拠の具体性、論理性、実現可能性など（30%）。<br>・グループ発表の内容、態度など（40%）。<br>・グループワークにおける参加度、貢献度、メンバーシップ、リーダーシップについてのメンバー間での「ピア評価」（30%）。<br>グループ発表は、提供された事例の課題を多面的な視点から論理的に分析し、連携・協働の原則と方法について具体的に理解、共有できる内容であること。 |
| 履修上の注意 | ２年次の「IPW論」を事前に履修することが望ましい。IPW論で学んだ原則や基本を具体的な事例に適用し、対象の分析と支援計画の立案に具体的に反映できることを期待します。 |
| 担当教員への連絡方法 | Email:matsufusa.toshinori@shitoku.ac.jp, miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当教員は、保健医療施設等での勤務での多職種連携医療の経験がある。このことから多職種連携医療の多様な場や対象を例に、学生に実践的かつ具体的な理解を促す教育を提供できる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | IPW演習Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 坂口　けさみ　林　かおり　樋貝　繁香　川崎　千恵<br>田中　髙政　水嵜　知子　宮越　幸代　鈴木　真理子　田渕　祥恵　桑原　良子<br>宮澤　美津子　横関　祐子　奥原　香織　塚田　ゆみ子　堀内　和子<br>風間　邦子　松房　利憲　大町　かおり　宮脇　利幸　山本　良彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | ヒューマンケア論、IPW論、IPW演習Ⅰで学んだことを、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、ケアハウス、保育所等で実際に体験し、援助を必要とする人々・保健医療福祉に携わる人々・グループメンバーなどと直接に関わることにより援助者間の「連携と統合」における実践上の基盤をつくる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．演習先の組織と機能における各専門職の役割を整理し、IPW論で学んだ原則をもとに根拠とともに説明する。<br>２．演習先で提供された事例の支援計画を多職種連携のチームで意見交換、合意形成しながら具体的に立案する。<br>３．事例の課題解決における他職種の役割と機能について、具体的に説明する。<br>４．チーム医療における連携と協調の重要性を事例の具体的な場面を例示して説明する。<br>５．自分の専門職の専門性と独自性を踏まえ、より効果的な多職種連携医療の課題を具体的に整理して述べる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 学習目標および演習方法（オリエンテーション①） | 坂口　けさみ<br>林　かおり<br>樋貝　繁香<br>川崎　千恵<br>田中　髙政<br>水嵜　知子<br>宮越　幸代<br>鈴木　真理子<br>田渕　祥恵<br>桑原　良子<br>宮澤　美津子<br>横関　祐子<br>奥原　香織<br>塚田　ゆみ子<br>堀内　和子<br>風間　邦子<br>松房　利憲<br>大町　かおり<br>宮脇　利幸<br>山本　良彦 |
| 2 | | 対象事例の概要・演習計画の確認（オリエンテーション②） | |
| 3 | | 対象の理解、目標の共有（施設内演習①） | |
| 4 | | 課題解決の検討（施設内演習②） | |
| 5 | | 課題解決の検討（施設内演習③） | |
| 6 | | 支援計画の検討（施設内演習④） | |
| 7 | | 支援計画の検討（施設内演習⑤） | |
| 8 | | 支援計画の検討（施設内演習⑥） | |
| 9 | | 支援計画の評価（施設内演習⑦） | |
| １０ | | 支援計画の施設内発表会（施設内演習⑧） | |
| １１ | | 支援計画の修正・発表準備（学内演習①） | |
| １２ | | 支援計画の修正・発表準備（学内演習②） | |
| １３ | | 支援計画の学内発表準備（学内演習③） | |
| １４ | | 支援計画の発表会 | |
| １５ | | 学習のまとめ・より効果的な多職種連携医療における課題（講義・意見交換） | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 水本清久ほか．実践チーム医療論-実践と教育プログラム-.医歯薬出版株式会社.<br>ほかにプリントを配布。 |
| 参考図書 | 吉浦　輪,地域における連携・協働・事例集　対人援助の臨床から学ぶIP,協同医書出版社.<br>小井戸雄一ら,多職種で支える災害医療,医学書院.<br>篠田道子,多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル,医学書院.<br>鈴木有香．交渉とミディエーション,三修社.<br>篠原道子,チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方　第2版,日本看護協会出版会.<br>ピーター・ホーキンス,チーム・コーチング　集団の知恵を引き出す技術,英治出版. |
| 予習・復習内容 | １．３年次「IP演習Ⅰ」で課題となった自己および多職種連携チームの課題を整理し、改善点について具体的に整理してくる。<br>２．多職種連携医療における各事例に対する自分の分析・解釈を整理し、根拠とともに説明できるようにしてくる。<br>３．多職種連携医療における各事例の支援目標についての自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。<br>４．多職種連携医療における各事例の支援計画についての自分の考えを整理し、説明できるようにしてくる。<br>５・チームごとの各事例に対してチームで合意形成した支援計画を、誰もが実施できる表現と方法で発表できるようにしてくる。 |
| 成績評価方法・基準 | ・各事例に対する支援計画の内容および根拠についての具体性、論理性、実現可能性など（３０％）。<br>・施設内および学内での各グループ発表の内容、態度など（４０％）。<br>・グループワークにおける参加度、貢献度、メンバーシップ、リーダーシップについてのメンバー間での「ピア評価」（３０％）。<br>グループ発表は提供された事例の課題を多面的な視点から論理的に分析し、実際の事例に対する連携・協働について具体的に実践、評価でき、望ましい効果が期待できる内容であること。 |
| 履修上の注意 | ・２年次の「IPW論」３年次の「IPW演習Ⅰ」を事前に履修することが望ましい。「IPW演習Ⅰ」で課題となった自己およびチームの課題を踏まえ、実際の事例に対してより実践的な連携・協働の力を臨地で発揮できることを期待します。<br>・全体オリエンテーションのほかに各グループごとに指定された演習先の担当教員との打ち合わせがあります。社会的な常識やマナーはもちろん、適切なタイミングで必要な報告・連絡・相談と対処が行われるよう、チームで協力し合ってください。 |
| 担当教員への連絡方法 | Email: matsufusa.toshinori@shitoku.ac.jp, miyakoshi.sachiyo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当教員は、保健医療施設等での勤務での多職種連携医療の経験がある。このことから多職種連携医療の多様な場や対象を例に、学生に実践的かつ具体的な理解を促す教育を提供できる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシー | | | | | | | |
| 担当教員 | 熊本　圭吾 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | コンピュータを操作し必要な情報を得て目指す作業を行う知識と能力，いわゆる「情報リテラシー」は，リハビリテーションの分野においても臨床や研究を進める上で(報告書の作成，臨床データの集計，症例や研究の発表等)今や必須である。<br>この科目では，コンピュータの利用が，主体的かつ安全にできるようになることを目的とする。まずインターネットを介し収集・発信する情報を，適切かつ安全に利用し運用するために必要となる基礎的な知識について学習し，大学での学修と今後の活動に活用できることを目標とする。次に，コンピュータで行う頻度が極めて高い文書作成・表計算・プレゼンテーションの基礎について，事実上の業界標準となっているソフトウェアMicrosoft社のWord，Excel，Power Pointの基本的な使い方を中心に，実習形式で学習する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．コンピュータやインターネットを利用する上での基本的な注意事項が理解できる。<br>２．インターネットなどを利用して情報を集めることができる。<br>３．コンピュータなどを利用して基礎的な数値データの処理や保健指標について理解できる。<br>４．コンピュータなどを利用して文書やプレゼンテーション資料などが作成できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/9 | コンピュータの基礎，Windowsの基本操作 | 熊本　圭吾 |
| 2 | 4/16 | インターネット，Web，電子メールの基礎 | 〃 |
| 3 | 4/23 | 情報安全管理の基礎 | 〃 |
| 4 | 4/30 | 個人情報保護，SNS，ネットコミュニケーションの基礎 | 〃 |
| 5 | 5/7 | 情報運用のモラルの基礎 | 〃 |
| 6 | 5/14 | 情報検索と文献検索データベース利用の基礎 | 〃 |
| 7 | 5/21 | 文書作成（１）Wordの基本操作 | 〃 |
| 8 | 5/28 | 文書作成（２）文書の作成 | 〃 |
| 9 | 6/11 | 文書作成（３）文書の体裁 | 〃 |
| １０ | 6/18 | 表計算（１）Excelの基本操作 | 〃 |
| １１ | 6/25 | 表計算（２）データ分析の基礎 | 〃 |
| １２ | 7/2 | 表計算（３）数式，関数の基礎 | 〃 |
| １３ | 7/9 | 表計算（４）グラフ作成の基礎 | 〃 |
| １４ | 7/16 | プレゼンテーション(1)プレゼンテーションの基礎 | 〃 |
| １５ | 7/30 | プレゼンテーション(2)資料作成の基礎 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | Office基礎と情報モラル.noa出版 |
| 参考図書 | 世界思想社編集部編.大学生学びのハンドブック3訂版,世界思想社 |
| 予習・復習内容 | 電子媒体による事前事後の演習課題を課す。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験５０％、演習課題５０％ |
| 履修上の注意 | 授業では、コンピュータやアプリケーションソフトウェア、ネットを利用する上での基本的な事項と社会常識の理解が中心となる。PCやソフトウェア操作解説の際はPCを持参して受講することが望ましいが、操作の習熟は、授業時間外の演習課題で各自で行う。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:kumamoto.keigo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 学業上、業務上、情報機器と情報通信を利用し続けてきた。これまでの勤務で部署内のサーバ管理、ネットワーク管理の担当経験を有する。以上から学生の学業上の必要性に即し実際的な内容を教授することができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 倫理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 能勢　桂介 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 倫理学とは、良き生き方、他者――身近な家族、恋人から外国にいる遠くの人たちまで――とのあるべき関係について考える学問である。<br>他方、自分が納得して生き、他者たちと共生するための条件を明示化したものに「人権」がある。だが、なぜ、どのように人権が大事なのか？考え始めると疑問がわいてくる。<br>そこで、この講義では人権に関する思想を紹介し、身近な生活の問題を素材として人権を倫理学的に聴講者と考えていく。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．「倫理学」の基本的な思考法を身につける。<br>２．「よき市民」として人権を日常生活に生せるようになる。<br>３．自分なりの考えを他者と表明し合い、ともに討議する姿勢を身につける。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/9 | はじめに――よき市民であるための人権論／倫理学 | 能勢　桂介 |
| 2 | 4/16 | 哲学的思考の原型――皮肉な対話者・ソクラテス | 〃 |
| 3 | 4/23 | 自由・平等の感覚――福沢諭吉 | 〃 |
| 4 | 4/30 | 人権文章を読む①――世界人権宣言、日本国憲法 | 〃 |
| 5 | 5/7 | 人権文章を読む②――人権を疑ってみる | 〃 |
| 6 | 5/14 | 生命と財産の保障（ホッブスとロック） | 〃 |
| 7 | 5/21 | 民主主義（ルソー）／人間の尊厳（カント） | 〃 |
| 8 | 5/28 | 自由と市場経済（アダム・スミス） | 〃 |
| 9 | 6/11 | 男女平等①――歴史と現状 | 〃 |
| １０ | 6/18 | 男女平等②（J.S.ミル） | 〃 |
| １１ | 6/25 | 社会権①――貧しいこと | 〃 |
| １２ | 7/2 | 社会権②――歴史と現状 | 〃 |
| １３ | 7/9 | 社会権③――社会権の哲学（ホブハウス、ロールズ） | 〃 |
| １４ | 7/16 | マイノリティ（少数派）　と人権 | 〃 |
| １５ | 7/30 | おわりに――振り返って、議論し、講義の理解を深める | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | とくに指定しない |
| 参考図書 | １．浜林正夫『人権の思想史』吉川弘文館、１９９９年<br>２．金泰明『人権は二つの顔をもつ』トランスビュー、２０１４年 |
| 予習・復習内容 | 事前に配布するレジュメ、文章を予め読んで、意見・質問を考えておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業時のコメント５０％、期末試験(小論文)５０％ |
| 履修上の注意 | 対話的に講義を進めるので、疑問をどんどんぶつけてほしい。 |
| 担当教員への連絡方法 | 講義時に直接教員に連絡するか、事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 異文化理解 | | | | | | | |
| 担当教員 | 伊原　巧 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | ややもすれば、「異文化＝外国人・外国文化」、「異文化理解＝外国理解」と反射的に捉えられがちな異文化理解は、自分の所属する文化の価値観を絶対視するのではなく、自分の文化は多くの文化の中の１つにすぎないと相対化して認識することから始まる。差異に対する開かれた心を持ち、個別言語や個別文化の多様性や相対性を理解するとともに、多様な言語や文化を持つ人々と差別や偏見なしに共生するにはどうすればよいのかについて考察する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．事象を相対化して認識できるようになる。<br>２．文化とコミュニケーションについて理解できるようになる。<br>３．認知・情意・行動の点において他者との関係が深まる。<br>４．外国語と国際語の違いを理解できるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 本授業の目標と概要、授業の進め方、参考書、課題、成績・評価等に関する解説を行う。 | 伊原 巧 |
| 2 | 4/14 | 文化とは何か：異文化理解に関わる呼び方と、高等文化、一般文化 | 〃 |
| 3 | 4/21 | 文化とは何か：その構成要素とその特徴 | 〃 |
| 4 | 4/28 | 文化とは何か：上位(支配)文化と下位文化 | 〃 |
| 5 | 5/12 | 文化とは何か：自文化中心主義と文化相対主義 | 〃 |
| 6 | 5/19 | 文化とは何か：農耕文化と遊牧文化 | 〃 |
| 7 | 5/26 | 文化とは何か：文化一般と個別文化 | 〃 |
| 8 | 6/9 | 文化とは何か：個別文化の事例発表 | 〃 |
| 9 | 6/16 | 文化とコミュニケーション：コミュニケーションの構成要素、文化とコミュニケーションの表裏一体性 | 〃 |
| １０ | 6/23 | 文化とコミュニケーション：母語、母国語、異言語、外国語、第二言語、国際語 | 〃 |
| １１ | 6/30 | 文化とコミュニケーション：EFL、ESL、EIL | 〃 |
| １２ | 7/7 | 文化とコミュニケーション：EIL文献の原書講読 | 〃 |
| １３ | 7/14 | 異文化理解教育とは何か：その内容と留意点 | 〃 |
| １４ | 7/21 | 異文化理解教育とは何か：異文化トレーニング | 〃 |
| １５ | 7/28 | 異文化理解教育とは何か：異文化トレーニングの事例発表 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | 1.伊原巧　著：国際コミュニケーションのための英語教育研究　現代図書<br>2.八代京子、他：異文化トレーニング　三修社 |
| 予習・復習内容 | 授業中に指示をする。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：定期試験９０％、２回の事例発表点１０％ |
| 履修上の注意 | 事例発表はグループで協力して行なうこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | 授業の前後か、伊原研究室（南館）へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 社会福祉学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 熊本　圭吾 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーションは，高齢者，障害児・者，病者，児童などの社会的弱者を対象とし，社会への適応・再適応や社会参加を促すことを目指すものである。そのためリハビリテーションに従事する者は，社会福祉について理解し，福祉専門職と連携して支援を行うことが望まれる。本講義では，生活者として自らの住む社会における福祉の概略を理解し，リハビリテーションを実践する上で理解が望まれる福祉について知ること，を目標とする。なお，日本国の法・制度において，「社会福祉」は社会保障の限られた分野の呼称とされている。本講義では，より広義の社会福祉の観点から，日本の社会保障（国が全ての国民に「健やかで安心した生活」を保障する）の政策，制度・サービスの概観に重きを置いて，社会福祉の概略を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 1.日本における社会福祉、社会保障について、概略を述べることができる<br>2.社会福祉に関わる重要な概念・理念、社会状況について、概略を述べることができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/6 | 社会福祉・社会保障の概念 | 熊本　圭吾 |
| 2 | 4/13 | 医療保険(1)　医療保障と社会保険制度 | 〃 |
| 3 | 4/20 | 医療保険(2)　医療提供の仕組み | 〃 |
| 4 | 4/27 | 年金制度(1)　制度の概要 | 〃 |
| 5 | 5/11 | 年金制度(2)　障害年金・社会保障費について | 〃 |
| 6 | 5/18 | 雇用保険・労働者災害補償保険 | 〃 |
| 7 | 5/25 | 日本の社会福祉制度・現代社会の課題 | 〃 |
| 8 | 6/1 | 高齢者福祉(1)　介護保険制度 | 〃 |
| 9 | 6/8 | 高齢者福祉(2)　高齢者福祉制度 | 〃 |
| １０ | 6/15 | 児童・家庭福祉(1)　児童福祉制度 | 〃 |
| １１ | 6/22 | 児童・家庭福祉(2)　児童虐待・家庭福祉制度 | 〃 |
| １２ | 6/29 | 障害者福祉(1)　概念・障害者権利条約 | 〃 |
| １３ | 7/6 | 障害者福祉(2)　障害者福祉制度 | 〃 |
| １４ | 7/13 | 生活保護 | 〃 |
| １５ | 7/20 | 権利擁護 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 授業開始までに指示する |
| 参考図書 | 佐藤久雄,小澤温.障害者福祉の世界[第5版]，有斐閣 |
| 予習・復習内容 | 事前にテキストや資料の読了等を指示する。不定期に事後課題を実施する。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験80%、課題20% |
| 履修上の注意 | 授業で配布する講師作成資料は後の授業でも参照することがあるので保管し持参すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:kumamoto.keigo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 社会福祉士資格を有し職能団体の研修講師も務める。障害者支援施設、介護保険施設での職務経験を有する。以上から本科目について実践経験に基づく知見を教授することができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 物理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 神原　浩 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 医療現場や介護現場でも必要となる物理学の基礎を学ぶ。特に力学を中心に，物体に働く力や物体の運動，エネルギーの概念を通して，物理現象の見方や考え方を理解することを目標にする。<br>基本的な問題を解くことで，物理法則の適用法を身につけてもらいたい。また，熱力学や電磁気学の基礎についても触れる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 1. 力学の基本概念（運動，運動と力の関係，力学的エネルギー，運動量など）を習得する。<br>2. 熱や波の基本的な性質を理解する。<br>3. 電磁気学の基本概念（電場，電位，電流，磁場など）を習得する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 物体の運動①：運動の表し方，等速直線運動，等加速度直線運動 | 神原　浩 |
| 2 | 10/5 | 物体の運動②：自由落下，水平投射，斜方投射の運動 | 〃 |
| 3 | 10/12 | 運動と力の関係：物体に働く力の表し方，力のつり合い，運動の３法則，運動方程式 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 圧力と浮力：圧力（大気圧，水圧）と浮力の考え方 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 剛体のつり合い：重心と力のモーメント | 〃 |
| 6 | 11/2 | 仕事とエネルギー：仕事，力学的エネルギー保存の法則 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 運動量と力積：力積と運動量の変化，運動量保存の法則 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 力学のまとめ：これまでの力学のまとめと確認テスト | 〃 |
| 9 | 11/30 | 熱：熱エネルギー，熱容量と比熱 | 〃 |
| １０ | 12/7 | 波動：波の基本的な性質，音と光 | 〃 |
| １１ | 12/14 | 静電気：静電気力と電場，電位 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 電流と電力：電気回路と電流（オームの法則），電力 | 〃 |
| １３ | 1/4 | 電流と磁場：電流のつくる磁場，磁場中で電流が受ける力，モーター | 〃 |
| １４ | 1/18 | 電磁誘導と発電：電磁誘導と発電の仕組み，交流 | 〃 |
| １５ | 1/25 | まとめ：これまでのまとめと復習 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 特に使用しない（テキストは印刷して配布する） |
| 参考図書 | 「物理の基礎」　長岡洋介 著　（東京教学社）<br>高校物理の教科書・参考書 |
| 予習・復習内容 | 高校での「物理基礎」・「物理」の内容と授業で行った演習問題の復習 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　７０％，授業への取り組み（演習等）　３０％ |
| 履修上の注意 | 高校で物理未履修であった者は，高校の教科書・参考書・問題集等を用いて各自で足りない部分を勉強すること |
| 担当教員への連絡方法 | e-mail ： kambara@shinshu-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 統計学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 熊本　圭吾 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 近年リハビリテーションの分野においても，実証的なデータに基づいたエビデンス(根拠)を示すことが求められるようになっている。実証的なデータを取り扱う上で，統計学的な手法は必須と言える。<br>本講義では，データにより現象を示し，データに基づき仮説を検証する方法である統計的手法について，その基礎を身に付けることを目標とする。実際に簡単なデータを扱い，基礎統計量，統計的検定，相関・回帰分析等の基本を理解する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 1. 統計の基本的な用語が理解できる<br>2. 統計学的な考え方の基本が理解できる<br>3. データから一般的な記述統計量を算出することができる<br>4. 基礎的な統計解析・検定ができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | 統計学の導入，尺度水準 | 熊本　圭吾 |
| 2 | 10/6 | 記述統計，散らばり | 〃 |
| 3 | 10/13 | 2変数の記述統計（相関） | 〃 |
| 4 | 10/20 | 確率と確率分布 | 〃 |
| 5 | 10/27 | 標本分布と推定 | 〃 |
| 6 | 11/10 | 信頼区間の推定 | 〃 |
| 7 | 11/17 | 統計的仮説検定 | 〃 |
| 8 | 11/24 | 平均値の差の検定 | 〃 |
| 9 | 12/1 | 平均値の差の検定の実際 | 〃 |
| １０ | 12/8 | 分散分析 | 〃 |
| １１ | 12/15 | 分散分析と多重比較 | 〃 |
| １２ | 12/22 | 回帰分析 | 〃 |
| １３ | 1/5 | 医療（生物）統計の紹介 | 〃 |
| １４ | 1/12 | 多変量解析の紹介 | 〃 |
| １５ | 1/19 | 統計処理を行う上での留意事項 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 授業開始までに指示する。 |
| 参考図書 | 松田文子,三宅幹子,橋本優花里.わかって楽しい心理統計法入門Ver.2，北大路書房 |
| 予習・復習内容 | 表計算ソフトによる具体的な統計解析の練習は事後の課題で行う。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験８０％、課題２０％ |
| 履修上の注意 | 授業は、統計学的な事項の解説が中心となるが、表計算ソフトによる統計解析方法の解説も行うので、WindowsやExcelの最低限の操作ができること、必要に応じてPCを持参して受講することが望ましい。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:kumamoto.keigo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | リハビリテーション科勤務において、臨床データの解析および、所属の理学療法士・作業療法士の統計解析の指導・支援を行った経験から、本学学生の将来の必要性に即した指導を行うことができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生物学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 坂口　雅彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 高校理科選択制による生物学の知識・理解力の差を補償するとともに，専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解させることを目標とする。<br>講義内容は，１）生体を構成する物質，２）細胞の構造と機能，３）人体を構成する組織・器官，４）発生と遺伝，５）生命の進化，６）多様な生命の存在とその意義等を順次解説する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．高校での生物基礎、生物を未履修・理解不足な状態からでも、基礎的な生物学の内容を理解できるレベルに到達する。<br>２．生化学の授業を理解する上で必要な基礎を理解できる。<br>３．専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/2 | 生物学を学ぶ意義：総論 | 坂口　雅彦 |
| 2 | 10/9 | 生体を構成する物質：原子、分子、イオン結合、共有結合の基礎的理解 | 〃 |
| 3 | 10/16 | 生体を構成する物質：炭水化物、脂質、タンパク質、核酸等の概説 | 〃 |
| 4 | 10/23 | 細胞の構造と機能：細胞内小器官の概説、浸透圧・物質の局在と移動の解説 | 〃 |
| 5 | 10/30 | 人体を構成する組織・器官：各内臓の役割の解説 | 〃 |
| 6 | 11/6 | 人体を構成する組織・器官：骨格系、筋系 | 〃 |
| 7 | 11/13 | 人体を構成する組織・器官：神経系　ニューロンの基本的解説 | 〃 |
| 8 | 11/20 | 人体を構成する組織・器官：神経系　感覚器の基本的解説と感覚情報処理（視覚系） | 〃 |
| 9 | 11/27 | 人体を構成する組織・器官：神経系　感覚器の基本的解説と感覚情報処理（聴覚系） | 〃 |
| １０ | 12/4 | 人体を構成する組織・器官：神経系　高次脳機能の解説（多重人格、記憶学習） | 〃 |
| １１ | 12/11 | 発生と遺伝：胚発生、　脳・神経系の発生分化 | 〃 |
| １２ | 12/18 | 発生と遺伝：体細胞分裂・減数分裂と染色体の分配の解説 | 〃 |
| １３ | 1/8 | 発生と遺伝：メンデルの遺伝の法則、連鎖と組換え、遺伝病解説 | 〃 |
| １４ | 1/15 | 生命の進化：藍藻による好気的環境の出現、ミトコンドリア共生説解説他 | 〃 |
| １５ | 1/22 | 多様な生命の存在とその意義：多種多様な生物と地球環境 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない。プリントを配布 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 授業時にプリントを配布する。プリント内容中の小テストへの解答を次回までに作成してくる。提示された次回テーマについて調べてくる。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：定期試験７０％，小テスト２０％，課題１０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail　biology@shinshu-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生化学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 帯刀　益夫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 生化学は，化学的手段によって生命現象を生体内の種々の分子の働きとして解明する学問である。本講義では，私達の身体がどのような物質から成り立ち，それらの物質がどのように生体機能を維持しているかを説明する。<br>また，特に遺伝子の働きから，細胞，組織などの生体システムがどのような機構で生命の維持に働いているか，さらには，医学全般の基礎を分子レベルで究明する学問となっていることを説明する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．私達の身体を作っている化学物質がどのように生体機能を維持しているかを理解できる。<br>２．個別の代謝経路などの意味を理解できる。<br>３．遺伝子の働きの原理を理解できる。<br>４．体の生理的な活動と生化学的な反応や遺伝子の働きを結び付けて理解できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 生体の成り立ちと生体分子 | 帯刀　益夫 |
| 2 | 4/14 | タンパク質の性質 | 〃 |
| 3 | 4/21 | 酵素の性質と働き | 〃 |
| 4 | 4/28 | 糖質の代謝 | 〃 |
| 5 | 5/12 | 脂質の代謝 | 〃 |
| 6 | 5/19 | アミノ酸及びタンパク質の代謝 | 〃 |
| 7 | 5/26 | 核酸の役割 | 〃 |
| 8 | 6/2 | ホルモン | 〃 |
| 9 | 6/9 | ビタミン | 〃 |
| １０ | 6/16 | 内部環境の恒常性　ホメオスタシス | 〃 |
| １１ | 6/23 | 消化吸収と栄養価 | 〃 |
| １２ | 6/30 | 体液 | 〃 |
| １３ | 7/7 | 血液 | 〃 |
| １４ | 7/14 | 尿 | 〃 |
| １５ | 7/21 | 免疫系・運動系・消化器系 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 石黒伊三雄・篠原力雄　監修　斎藤邦明　編集、分かりやすい生化学　疾病と代謝・栄養の理解のために、ヌーベルヒロカワ |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | なし |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験７０％　レポート３０％ |
| 履修上の注意 | 細部の知識と全体像を合わせて理解すること。<br>判らないことがあったらいつでも質問すること。<br>疑問を感じたことを具体的な質問の形にまとめてみる習慣を身につけること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 体育実技 | | | | | | | |
| 担当教員 | 藤田　育郎 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実験・実習 |
| 授業目標 | 全人的な人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識と，筋・心肺機能についての特性を理解し，それぞれの機能の維持や向上を図るための基本的な知識を身につけ，実技を行う。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．健康や体力の意義について理解し，それらを維持・向上させるための実践力を身につけることができる。<br>２．各種の運動を通して，チーム医療に通じるコミュニケーションやチームワークの能力を養うことができる。<br>３．運動を「指導する」立場を想定し，安全かつ楽しく運動を指導するための視点を理解することができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/2 | オリエンテーション：授業の進め方等について | 藤田　育郎 |
| 2 | 10/9 | 体ほぐしの運動①コミュニケーションゲーム | 〃 |
| 3 | 10/16 | 体ほぐしの運動②用具を用いた手軽な運動 | 〃 |
| 4 | 10/23 | 体ほぐしの運動③軽快な音楽を使用した運動 | 〃 |
| 5 | 10/30 | ネット型球技①プレルボール | 〃 |
| 6 | 11/6 | ネット型球技②シッティングバレーボール | 〃 |
| 7 | 11/13 | ネット型球技③ソフトバレーボール | 〃 |
| 8 | 11/20 | ゴール型球技①アルティメット | 〃 |
| 9 | 11/27 | ゴール型球技②タグラグビー | 〃 |
| １０ | 12/4 | ゴール型球技③ブラインドサッカー | 〃 |
| １１ | 12/11 | ゴール型球技④フロアホッケー | 〃 |
| １２ | 12/18 | ターゲット型スポーツ①ドッジビー | 〃 |
| １３ | 1/8 | ターゲット型スポーツ②ディスクゴルフ | 〃 |
| １４ | 1/15 | ターゲット型スポーツ③ボッチャ | 〃 |
| １５ | 1/22 | 授業のまとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし（適宜資料を配布する） |
| 参考図書 | なし（適宜資料を配布する） |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業終了時に予習・復習内容を提示する。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験：１００％ |
| 履修上の注意 | 運動に適した服装を準備すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | ifujita@shinshu-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 体育学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 田邉　愛子 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | ヒトの身体がどのような過程を経て大人へと成長していくかを理解することは重要なことである。そこでは単に遺伝的な素質が変容する過程としての変化ではなく、どのように才能を開花させるか、といった視点による発育発達理解が重要となる。そこで本講義では、基本的な運動生理学を学習したうえで、成人以降の老化と体力や運動能力などの関連を理解するとともに、体力と遺伝的要因や運動の実践の有無など後天的要因との関連についても学習する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．健康と運動についての基礎的知識を学ぶ。<br>２．ヒトの発育発達および加齢における身体変化に応じて、幅広い視点から健康に関わる分野を理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | 日本の健康づくりのための運動基準と指針 | 田邉　愛子 |
| 2 | 10/6 | 発育発達における各段階での運動処方 | 〃 |
| 3 | 10/13 | 生活習慣病予防と運動処方 | 〃 |
| 4 | 10/20 | ウォーミングアップとストレッチングの基礎理論 | 〃 |
| 5 | 10/27 | 運動と呼吸・循環・骨格筋 | 〃 |
| 6 | 11/10 | ロコモティブシンドロームと運動処方（実践含む） | 〃 |
| 7 | 11/17 | 効果的なトレーニングとは　有酸素運動と無酸素運動（実践含む） | 〃 |
| 8 | 11/25 | レジスタンストレーニングの基礎理論（実践含む） | 〃 |
| 9 | 12/1 | ウォーキングの理論と実践（実践含む） | 〃 |
| １０ | 12/8 | エネルギー消費と基礎代謝 | 〃 |
| １１ | 12/15 | 運動処方における性差 | 〃 |
| １２ | 12/22 | 体力と遺伝的要因 | 〃 |
| １３ | 1/5 | 運動時の水分補給と体温調節 | 〃 |
| １４ | 1/12 | 障害予防のためのコンディショニング概論 | 〃 |
| １５ | 1/19 | 講義全体のまとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 授業内で必要に応じてプリント等を配布する。 |
| 参考図書 | 彼末一之,能勢博編集.やさしい生理学.南江堂 |
| 予習・復習内容 | 事前課題として授業に適応したプリント等を配布する。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業内レポート５０%、期末レポート５０％ |
| 履修上の注意 | 実技も含めた授業展開となります。その際は運動のできる服装で挑んでください。 |
| 担当教員への連絡方法 | 事務室を通す |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 健康運動指導士・ヘルスケアトレーナとして病院ほかNPO法人等での運動指導経験を有する。幅広い年代への運動について理論と実践と交えて伝えることで、学生にはより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 伊原　巧　　高橋　渉　　石川　恭子 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 諸外国の保健・医療の専門職と交流、協力できる人材を育成する上で不可欠な能力である、英語の受信・発信力と異文化対応力を育成するために、英文を読む力と書く力を培うと共に、比較文化的視点から自文化と異文化への気づきを高めることによって、国際的マインドを培う。この目標を達成するために、日本人と欧米人が発想、言語、アイデンティティ、笑い、精神性等をどのように理解しているか、各分野における違いについて書かれた英文を読ませ、英文読解力を高める。次に、各分野で理解した日本と欧米の違いに対する対応法を自分の立場から英語で書かせ、英作文力と異文化対応力を高める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 国際交流するに必要な、英文読解力と英作文力並びに異文化対応力が高まる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 PT | 開講日 OT | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 4/10 | 4/7 | 本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価に関する解説を行なう。 | 伊原<br>高橋　石川 |
| 2 | 4/17 | 4/14 | Chapter 1を読み、挨拶に見る日欧の発想の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| 3 | 4/24 | 4/21 | Chapter 2を読み、日英語の難易度の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| 4 | 5/1 | 4/28 | Chapter 3を読み、日本人と西欧人のアイデンティティの違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| 5 | 5/8 | 5/12 | Chapter 4を読み、アルファベットと漢字の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| 6 | 5/15 | 5/19 | Chapter 5を読み、日本人と西洋人の笑いの違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| 7 | 5/22 | 5/26 | Chapter 6を読み、アメリカ人と日本人の精神性の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| 8 | 5/29 | 6/9 | Chapter 7を読み、仏教と神道と儒教の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| 9 | 6/12 | 6/16 | Chapter 8を読み、日本人とアメリカ人の縮みの文化に対する違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| １０ | 6/19 | 6/23 | Chapter 9を読み、キリスト教と仏教の死後の世界観の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| １１ | 6/26 | 6/30 | Chapter 10を読み、現代と将来の少子高齢化社会との違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| １２ | 7/3 | 7/7 | Chapter 11を読み、日本と西洋の右と左の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| １３ | 7/10 | 7/14 | Chapter 12を読み、西洋の足の文化と日本の手の文化の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| １４ | 7/17 | 7/21 | Chapter 13を読み、西洋と日本の労働観の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |
| １５ | 7/31 | 7/28 | Chapter 14を読み、日本の西洋化と日本文化の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「日英おもしろ文化比較」石井他編著(朝日出版) |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 英語のレポートを毎回確実に提出して下さい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験 30%, レポート提出70% |
| 履修上の注意 | 辞書持参のこと |
| 担当教員への連絡方法 | 授業の前後、または伊原研究室（南館）へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 伊原　巧　　土屋　信子 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 保健・医療系の大学でコメディカルを目指す学生が、専門的な医療英語への橋渡しとなる基礎的な医療英語を、実際の保健・医療現場や諸外国の専門職との国際交流や協力の場で使えるように、生きた医療英語の総合的なコミュニケーション能力を培う。<br>この目標を達成するために、リハビリテーションに焦点をあて、”Physical Therapy”や”Occupational Therapy”などの医療系特有のトピックを扱った英文を読ませると共に、それらの英文を用いて口頭でのコミュニケーションができるようにリスニング力とスピーキング力を高める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | リハビリテーションを扱った英文が読めるようになると共に、患者さんとの簡単なコミュニケーションを英語でできるようになる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | 本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行なう。 | 伊原、土屋 |
| 2 | 10/6 | Chapter 1 Higher Brain Dysfunction: Warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| 3 | 10/13 | 宿題の解答を行ない、Chapter 2 Parkinson’s Disease: Warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| 4 | 10/20 | 宿題の解答を行ない、Chapter 3 Osteoporosis: Warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| 5 | 10/27 | 主題の解答を行ない、Chapter 4 Cerebral Apoplexy(stroke): Warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| 6 | 11/10 | 宿題の解答を行い、Chapter 5 Cardiovascular Disease: warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| 7 | 11/17 | 宿題の解答を行ない、Chapter 6 Diabetes Mellitus(DM): warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| 8 | 11/24 | Chapter 1～6のまとめ | 〃 |
| 9 | 12/1 | 宿題の解答を行い、Chapter 7 Respiratory Disease: warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| １０ | 12/8 | 主題の解答を行い、Chapter 8 Chronic Rheumatoid Arthritis: warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| １１ | 12/15 | 宿題の解答を行い、Chapter 9 Femoral Neck Fracture: warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| １２ | 12/22 | 宿題の解答を行い、Chapter 10 Spinal Cord Injury: warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| １３ | 1/5 | 宿題の解答を行ない、Chapter 11 Cerebral Palsy: warm-up, Reading, Dialogueを行なう。宿題を出す。 | 〃 |
| １４ | 1/12 | 宿題の解答を行ない、Chapter 12 Case Study:  Case Study Reportを読み、患者プロフィールに要点を記入し、Conferenceを行なう。 | 〃 |
| １５ | 1/19 | Chapter 7～12のまとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 『The Art of Healing』 荒金房子他著　南雲堂 |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 宿題を毎回提出すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験 36%、課題点24%、まとめの作業点40% |
| 履修上の注意 | しっかりと宿題を行なってくること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 授業の前後、または伊原研究室（南館）へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ | | | | | | | |
| 担当教員 | 伊原　巧 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 人間社会にあるいくつかの問題点について、賛成の立場と反対の立場から書かれた意見を英文で読み、自分の立場から考えた意見を、200語以内の英語にしてレポートで次時に提出する。合計14回提出する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 社会問題を英語で読めるようになるとともに、深く考え、その内容を英語で書けるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション（授業の目標、進め方などについて説明する） | 伊原　巧 |
| 2 | | Chapter 1 Animals in Zoosを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| 3 | | Chapter 2 Security Camerasを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| 4 | | Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far? を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| 5 | | Chapter 4 Digital Manuals, Catalogs, and Textbooksを読み、ディスカッションの後に宿題を出す | 〃 |
| 6 | | Chapter 5 Wemenomicsを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| 7 | | Chapter 6 Extreme Sportsを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| 8 | | Chapter 7 Casinos and Gamblingを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| 9 | | Chapter 8 Spouse Huntingを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| １０ | | Chapter 9 Space Explorationを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| １１ | | Chapter 10 Becoming a World Heritage Siteを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| １２ | | Chapter 11 Driverless Carsを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| １３ | | Chapter 12 The Lay-Judge System in Japanを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |
| １４ | | Chapter 13 Artificial Intelligenceを読み、ディスカッションの後に宿題を出す | 〃 |
| １５ | | Life-Prolongingを読み、ディスカッションの後に宿題を出す。 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「Taking Sides: Opinions For and Against」 |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 該当する課の予習と復習をかかさないこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート提出点(14回×６％)84%、期末試験 16% |
| 履修上の注意 | 毎回、確実にレポートを提出して下さい。期末試験は単語のテストです。 |
| 担当教員への連絡方法 | 授業の前後か、伊原研究室（南館）へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 医学英語Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 伊原　巧　　高橋　渉 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 初めて医学英語に接する医学・医療技術系の大学生が、専門的な医学英語への橋渡しとなる基礎的な医学英語を理解する力を培う。<br>この目標を達成するために、医学・医療の基本である人体の主要な組織や器官や機能について解説した専門図書を読むことによって、その内容、及びそれぞれの医学用語を理解すると共に、日常英語とは異なる医学英語の特徴、特にほとんどがギリシャ語、ラテン語からの借入である医学用語特有の構成パターンを学び、医学英語に慣れることを目指す。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 医学用語が理解できると共に、基礎的な医学英語が読めるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/10 | 本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、まとめ、成績・評価等に関する解説を行なう。 | 伊原　高橋 |
| 2 | 4/17 | CHAPTER 1　The Human Body | 〃 |
| 3 | 4/24 | CHAPTER 2　The Skeletal Systemと人体に関する単語テスト | 〃 |
| 4 | 5/1 | CHAPTER 2　The Skeletal Systemと人体に関する単語テスト | 〃 |
| 5 | 5/8 | CHAPTER 3　The Muscular Systemと骨格系に関する単語テスト | 〃 |
| 6 | 5/15 | CHAPTER 3　The Muscular System | 〃 |
| 7 | 5/22 | CHAPTER 4　The Circular Systemと筋肉系に関する単語テスト | 〃 |
| 8 | 5/29 | CHAPTER 4　The Circular System | 〃 |
| 9 | 6/5 | CHAPTER 6　The Respiratory System | 〃 |
| １０ | 6/12 | CHAPTER 9　The Nervous System | 〃 |
| １１ | 6/19 | CHAPTER 9　The Nervous System | 〃 |
| １２ | 6/26 | CHAPTER 10　The Sense Organs | 〃 |
| １３ | 7/3 | CHAPTER 10　The Sense Organs | 〃 |
| １４ | 7/10 | CHAPTER 13　Aging and the endo of lifeとCHAPTER 4,6,9,10に関する単語テスト | 〃 |
| １５ | 7/17 | CHAPTER 13　Aging and the end of life | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 「医療従事者のための医学英語入門」　清水雅子著　講談社 |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 英文と日本語訳を比較・対照してくること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験 60%、単語テスト 40% |
| 履修上の注意 | 予習を必ず行なってくるとともに、「医学英語の常識」も読んでくること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 授業の前後、または伊原研究室（南館）へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 医学英語Ⅱ | | | | | | | | |
| 担当教員 | 伊原　巧 | | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 障害に関する国際情勢、海外協力の在り方を理解させる上で不可欠な、リハビリテーションに関わるWHO発行の英語文献を、英語での議論を交えて精読させ、その内容を理解させると共に、医学英語の読解力と英語運用力の向上を目指す。<br>この目標を達成するために、WHOが2010年に発表した「CBR(地域に根ざしたリハビリテーション）ガイドライン」の英語版を、英語での議論を時折交えながら深く読んでいくことで、障害に関する国際情勢、海外協力の在り方に対する理解を深める。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 英語で書かれた専門的な文献が深く読めるようになると共に、簡単な英語で専門的な議論ができるようになる。また、障害とリハビリテーションに関する国際情勢と、海外協力の在り方に対する理解が深まる。 | | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 PT | 開講日 OT | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | 10/2 | オリエンテーションを行ない、文献のIntroductionを読む。 | 伊原　巧 |
| 2 | 10/7 | 10/9 | BOX23 KenyaのForging public-private partnershipを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| 3 | 10/14 | 10/16 | BOX 23 KenyaのKey concepts: Rehabilitation, Rehabilitation interventionsを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| 4 | 10/21 | 10/23 | BOX 23 KenyaのKey concepts: Rehabilitation, Rehabilitation interventionsを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| 5 | 10/28 | 10/30 | BOX 24 China: Li’s journey to independenceを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| 6 | 11/4 | 11/6 | BOX 24 China: Suggested activitiesを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| 7 | 11/11 | 11/13 | BOX 24 China: Suggested activitiesを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| 8 | 11/18 | 11/20 | これまで理解したことを英語で発表し、議論する。 | 〃 |
| 9 | 11/25 | 11/27 | BOX 25 Iranを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| １０ | 12/2 | 12/4 | BOX 26 Egyptを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| １１ | 12/9 | 12/11 | BOX 27 Guyanaを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| １２ | 12/16 | 12/18 | BOX 28 Viet Namを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| １３ | 12/23 | 1/8 | BOX 29 Indiaを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| １４ | 1/6 | 1/15 | BOX 30 Viet Namを英語を交えながら読む。 | 〃 |
| １５ | 1/13 | 1/22 | これまで理解したことを英語で発表し、議論する。 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | プリント配付 |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | グループで日本語訳を作成してくること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験 60%、発表 40% |
| 履修上の注意 | かなり専門的な内容なのでしっかりグループ予習をしてくること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 授業の前後か、伊原研究室（南館）へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 医学英語Ⅲ | | | | | | | |
| 担当教員 | 伊原　巧 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーションに関する専門的な英語を読んで内容を理解する。医学英語をパーツと語源で理解し覚える。受講者は、将来、専門書を英語で読んだり、大学院進学を希望したりする人が望ましい。 | | | | | | | |
| 学習目標 | リハビリテーションに関する専門的な英語を読んで内容を理解できるようになる。医学英語の語彙が増える。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | Unit 1 Femoral Neck Fracture | 伊原　巧 |
| 2 | | Unit 2 Osteoarthritis of the Knee | 〃 |
| 3 | | Unit 3 Rheumatoid Arthritis | 〃 |
| 4 | | Unit 4 Colles’Fracture | 〃 |
| 5 | | Unit 5 Locomotive Syndrome | 〃 |
| 6 | | Unit 6 Chronic Lower Back Pain | 〃 |
| 7 | | Unit 7 Spinal Cord Injury | 〃 |
| 8 | | 医学英語の基礎知識の復習 | 〃 |
| 9 | | Unit 8 Adjustment Disorder and Symptomatic Depression | 〃 |
| １０ | | Unit 9 Parkinson’s Disease | 〃 |
| １１ | | Unit 10 Cerebrovascular Disease | 〃 |
| １２ | | Unit 10 Cerebrovascular Disease | 〃 |
| １３ | | Unit 12 Diabetes Mellitus | 〃 |
| １４ | | Unit 13 COPD | 〃 |
| １５ | | Unit 14 Cerebral Palsy | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | リハビリテーション英語テキスト　細田多穂 監修　南江堂 |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 次回のUnitの内容を読んでくること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験 70%、医学英単語試験 30% |
| 履修上の注意 | しっかり予習をしてきて、読解力と医学英単語力をつけてほしい。 |
| 担当教員への連絡方法 | 授業の前後か、伊原研究室（南館）へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語 | | | | | | | |
| 担当教員 | 張　淑華 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | グローバル化が進む中、多文化や異文化に対する理解を深める必要があるし、今後も益々増えていくニーズに応え医療現場に対応できる中国語の基礎を学ぶ必要もある。中国語は日本語と共通の漢字が沢山あるため、筆談も通じるし、日本語の音読みが中国語と同じか類似するのも殆どである。世界で五人に一人が中国語を母国語として使用している。<br>講義内容では，基礎発音、基本文法、自己紹介や患者さんとの会話等を分かり易く説明したり、ビデオ映像を利用したりして文化や風俗習慣の違い等についても、紹介・比較する。<br>中国語の基礎（ピンインや文法等）を理解し身につけ、中国語による簡単且つ実用的な会話ができるようになることを目指す。そして、医療現場にて中国語でコミュニケーションがとれ積極的に役立ち活躍する能力を培うことも目指す。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．伝統文化の紹介等を通して、異文化への理解を深め、コミュニケーションがとれる。<br>２．中国語の基礎を学び、ある程度の知識を身につけることができる。<br>３．自己紹介、挨拶表現、医療現場に活用できる会話等を学び、活用できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 中国と中国語について | 張　淑華 |
| 2 | 10/5 | 基礎発音と声調や名前等 | 〃 |
| 3 | 10/12 | 基礎発音と声調や挨拶表現等① | 〃 |
| 4 | 10/19 | 人体各部の名称や歌等① | 〃 |
| 5 | 10/26 | 数字の数え方や特徴、中国の貨幣（P82）等② | 〃 |
| 6 | 11/2 | 初対面の挨拶表現や自己紹介の言い方等②③ | 〃 |
| 7 | 11/9 | 家族親戚関係の言い方等③ | 〃 |
| 8 | 11/16 | 病院内や道案内、保健関連の会話等④ | 〃 |
| 9 | 11/30 | 医者にかかる時の会話④ | 〃 |
| １０ | 12/7 | 賛美の表現等⑤ | 〃 |
| １１ | 12/14 | 基礎文法、辞書の引き方等⑤ | 〃 |
| １２ | 12/21 | 伝統文化の紹介（目のツボのマッサージ等） | 〃 |
| １３ | 1/4 | 漢詩の朗読や料理についての表現等⑥ | 〃 |
| １４ | 1/18 | 時間の言い方や買い物の値段交渉等⑥⑦ | 〃 |
| １５ | 1/25 | 今期で学んだ内容についての復習、まとめや質疑回答 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 張淑華著　日常会話で学ぶ初級中国語　ほおずき書籍 |
| 参考図書 | 日中辞典、中日辞典等 |
| 予習・復習内容 | 毎回復習すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 教科書やプリントを持参し出席すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | メール：haru2haru999@yahoo.co.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 解剖学Ⅰ（総合） | | | | | | | |
| 担当教員 | 川口　研二 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 神経系に重点を置きつつ、解剖学全般を学ぶ（骨・関節・骨格筋の各論は除く）。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 基礎的な人体の正常構造を説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 骨 | 川口　研二 |
| 2 | 4/15 | 関節靭帯 | 〃 |
| 3 | 4/22 | 筋 | 〃 |
| 4 | 4/29 | 〃 | 〃 |
| 5 | 5/13 | 末梢神経系　脊髄神経 | 〃 |
| 6 | 5/20 | 〃 | 〃 |
| 7 | 5/27 | 末梢神経系　脳神経 | 〃 |
| 8 | 6/10 | 〃 | 〃 |
| 9 | 6/17 | 末梢神経系　自律神経 | 〃 |
| １０ | 6/24 | 感覚器系 | 〃 |
| １１ | 7/1 | 循環器系　心臓 | 〃 |
| １２ | 7/8 | 循環器系　動静脈 | 〃 |
| １３ | 7/15 | 〃 | 〃 |
| １４ | 7/22 | 循環器系　リンパ管 | 〃 |
| １５ | 7/29 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．野村　嶬編集　「標準理学療法・作業療法学　解剖学」　医学書院<br>２．坂井 建雄監訳　「プロメテウス解剖学コアアトラス」　医学書院 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 授業の際に配る確認テストをしっかり復習すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務に連絡のこと |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病理医として病院に勤務し、病理解剖に携わっている。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 解剖学Ⅱ（総合） | | | | | | | |
| 担当教員 | 牧野　睦月 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 神経系に重点を置きつつ、解剖学全般を学ぶ（骨・関節・骨格筋の各論は除く）。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 基礎的な人体の正常構造を説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | 呼吸器系 | 牧野　睦月 |
| 2 | 10/8 | 〃 | 〃 |
| 3 | 10/15 | 消化器系 | 〃 |
| 4 | 10/22 | 〃 | 〃 |
| 5 | 10/29 | 泌尿器・生殖器系 | 〃 |
| 6 | 11/5 | 内分泌系 | 〃 |
| 7 | 11/12 | 神経系総論 | 〃 |
| 8 | 11/19 | 脊髄 | 〃 |
| 9 | 11/26 | 中枢神経　脳幹・小脳 | 〃 |
| １０ | 12/3 | 〃 | 〃 |
| １１ | 12/10 | 中枢神経　大脳 | 〃 |
| １２ | 12/17 | 〃 | 〃 |
| １３ | 1/7 | 中枢神経　神経路 | 〃 |
| １４ | 1/14 | 〃 | 〃 |
| １５ | 1/21 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．野村　嶬編集　「標準理学療法・作業療法学　解剖学」　医学書院<br>２．坂井 建雄監訳　「プロメテウス解剖学コアアトラス」　医学書院 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 授業で配布するまとめプリント・チェックテストをよく復習すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務に連絡のこと |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院で病理医として勤務。業務として病理解剖に携わっている。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 解剖学実習（人体解剖観察） | | | | | | | |
| 担当教員 | 森泉　哲次　　福島　菜奈恵　　掛川　晃 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | １年を通じて学習してきた解剖学のまとめとして，運動器・神経系（脳を含む）を中心に人体解剖実習（観察）を行う。人体の正常構造を理解するとともに，ご遺体を通して生命の尊厳・医の倫理を学ぶ。実習室に設けられたご遺体ごとに解剖の進行度が異なっている。テーブルを順にまわって観察する。<br>内臓（全身）　　内臓摘出標本　　中枢神経（概観）　　中枢神経（内部構造・断面）　　末梢神経　　脈管<br>腹側（浅層筋　深層筋）　　背側（浅層筋　深層筋）　　関節<br>　事前オリエンテーション<br>　１日目　オリエンテーション・観察実習１<br>　２日目　観察実習２　・　観察実習３<br>　３日目　実習試験 | | | | | | | |
| 学習目標 | １.基礎的な人体の正常構造を説明できる。<br>２.実習を通して、生命の尊厳・医の倫理について学ぶ。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 2/17 | オリエンテーション・観察実習１ | 森泉　福島　掛川 |
| 2 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 3 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 5 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 6 | 2/18 | 観察実習２・観察実習３ | 〃 |
| 7 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 8 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 9 | 〃 | 〃 | 〃 |
| １０ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １１ | 2/19 | 実習試験 | 〃 |
| １２ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １３ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １４ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １５ | 〃 | 〃 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 事前配布資料を参考に、しっかりと予習してくること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：実習試験（１００問）１００％ |
| 履修上の注意 | 献体の意義を理解し、真摯な態度で実習に参加すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生理学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 三井　由香 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 生理学は解剖学とともに，医学の基礎となる科目である。生理学では人体の正常な機能がどのような仕組みで行われているかを学び，生理学的な思考方法を身につける。生理学Ⅰでは生命の最小単位である細胞の機能から，血液・循環・呼吸・消化吸収・代謝・排泄機能について学ぶ。生きているとはどういうことか，生理学的に考えられるようになってほしい。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 人体の生理機能，特に細胞，内臓の生理機能とその調節について学び，生きている仕組みの基本を説明できる。<br>１．細胞の生理機能，細胞膜による物質制御の仕組みを説明できる。<br>２．血液の生理機能について説明できる。<br>３．循環器系の生理機能について説明できる。<br>４．呼吸器系の生理機能について説明できる 。<br>５．代謝・体温調節について説明できる。<br>６．消化・吸収の生理機能について説明できる。<br>７．排泄の生理学的機能について説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 細胞生理学 | 三井　由香 |
| 2 | 4/15 | 細胞膜の生理学 | 〃 |
| 3 | 4/22 | 血液Ⅰ　組成，血漿 | 〃 |
| 4 | 4/29 | 血液Ⅱ　血球の種類と働き | 〃 |
| 5 | 5/13 | 血液Ⅲ　免疫，止血と凝固，血液型 | 〃 |
| 6 | 5/20 | 心臓・循環Ⅰ　心臓の構造，働き | 〃 |
| 7 | 5/27 | 心臓・循環Ⅱ　循環と血圧の調節 | 〃 |
| 8 | 6/10 | 呼吸Ⅰ　呼吸器系の構造，換気の仕組み | 〃 |
| 9 | 6/17 | 呼吸Ⅱ　肺気量，血液による呼吸ガスの運搬，呼吸運動の調節 | 〃 |
| １０ | 6/24 | 消化・吸収Ⅰ　消化器系の構造，消化管の運動 | 〃 |
| １１ | 7/1 | 消化・吸収Ⅱ　消化液分泌，神経支配，消化管ホルモン | 〃 |
| １２ | 7/8 | 消化・吸収Ⅲ　栄養素の酵素による消化，吸収機構 | 〃 |
| １３ | 7/15 | 代謝・体温 | 〃 |
| １４ | 7/22 | 体液・排泄Ⅰ　腎臓の構造，ろ過と再吸収の仕組み | 〃 |
| １５ | 7/29 | 体液・排泄Ⅱ　尿細管における再吸収と分泌，クリアランス，ホルモンによる調節機構 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 大地陸男「生理学テキスト」　文光堂 |
| 参考図書 | １．桑名俊一・荒田晶子「生理学」　理工図書<br>２．貴邑富久子，根来英雄「シンプル生理学」　南江堂<br>３．田中越郎「好きになる生理学」　講談社<br>４．生理学TN編集委員会，竹内修二「生理学トレーニングノート」　医学教育出版社<br>５．本間研一他「標準生理学」　医学書院 |
| 予習・復習内容 | 講義単元ごとに配る問題プリントを解き，提出すること。講義のノート，教科書を確認しながら解くことで復習となる。その際生じた疑問点は次回質問し，解決してください。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験９０％，課題１０％ |
| 履修上の注意 | 生理学の内容は積み上げ型であり，前に講義した内容に新しい内容が積み上がっていきます。疑問点を放置することなく，調べる，聞きに来るなどして解決し，次に進んでください。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 生理学，生化学分野での研究をしていました。皆さんが疑問に思うことの多くは，私もかつて疑問に思った覚えのあることです。研究者として得てきた知識や生体現象の見方，疑問解決のための着眼点はきっと学生諸君の役に立つことを願います。体の仕組みは，知れば知るほど驚くことの連続です。その驚きと，疑問が解決できた感動を，共有しましょう。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生理学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 三井　由香 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 生理学は解剖学とともに，医学の基礎となる科目である。生理学では人体の正常な機能がどのような仕組みで行われているかを学び，生理学的な思考方法を身につける。生命の恒常性の維持は，内分泌系と神経系により行われる。生理学Ⅱでは内分泌系と，神経系・運動系・感覚系・脳の統合作用について学び，運動機能や感覚機能が神経を介して脳により統括されることを理解する。生きているとはどういうことかを生理学的に考えられるようになってほしい。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 人体の生理機能，特に恒常性の維持にかかわる内分泌系と神経系，運動系，感覚系，脳の統合作用について学び，生きている仕組みの基本を説明できる。<br>１．内分泌系による恒常性の維持の仕組みを説明できる。<br>２．神経の活動電位発生と伝導の仕組みを説明できる。<br>３．筋の生理機能と神経筋伝達について説明できる。<br>４．神経系の生理機能について説明できる。<br>５．運動系の生理機能について説明できる 。<br>６．感覚系の生理機能について説明できる。<br>７．脳の統合作用について説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | 内分泌Ⅰ　化学的分類，作用機序，分泌調節 | 三井　由香 |
| 2 | 10/7 | 内分泌Ⅱ　ホルモン各論 | 〃 |
| 3 | 10/14 | 神経系Ⅰ　構造，活動電位，イオンチャネル | 〃 |
| 4 | 10/21 | 神経系Ⅱ　興奮の発生と伝導 | 〃 |
| 5 | 10/28 | 骨格筋の収縮Ⅰ　筋の種類，構造，筋収縮 | 〃 |
| 6 | 11/4 | 骨格筋の収縮Ⅱ　興奮収縮連関，筋収縮力学 | 〃 |
| 7 | 11/11 | シナプス伝達Ⅰ　シナプスの構造，神経筋伝達，中枢神経系のシナプス伝達 | 〃 |
| 8 | 11/18 | シナプス伝達Ⅱ　神経伝達物質と受容体，シナプス伝達の可塑性 | 〃 |
| 9 | 11/25 | 自律神経系 | 〃 |
| １０ | 12/2 | 運動系Ⅰ　反射 | 〃 |
| １１ | 12/9 | 運動系Ⅱ　脊髄と脳幹 | 〃 |
| １２ | 12/16 | 運動系Ⅲ　大脳基底核，小脳，大脳皮質運動野 | 〃 |
| １３ | 12/23 | 感覚系Ⅰ　体性感覚 | 〃 |
| １４ | 1/6 | 感覚系Ⅱ　特殊感覚 | 〃 |
| １５ | 1/13 | 脳の統合作用 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 大地陸男「生理学テキスト」　文光堂 |
| 参考図書 | １．桑名俊一・荒田晶子「生理学」　理工図書<br>２．貴邑富久子，根来英雄「シンプル生理学」　南江堂<br>３．田中越郎「好きになる生理学」　講談社<br>４．生理学TN編集委員会，竹内修二「生理学トレーニングノート」　医学教育出版社<br>５．本間研一他「標準生理学」　医学書院 |
| 予習・復習内容 | 講義単元ごとに配る問題プリントを解き，提出すること。その際，講義のノート，教科書を確認しながら解くことで復習となる。その際生じた疑問点は次回に質問し，解決してください。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験９０％，課題１０％ |
| 履修上の注意 | 生理学の内容は積み上げ型であり，前に講義した内容に新しい内容が積み上がっていきます。疑問点を放置することなく，調べる，聞きに来るなどして解決し，次に進んでください。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 生理学，生化学分野での研究をしていました。皆さんが疑問に思うことの多くは，私もかつて疑問に思った覚えのあることです。研究者として得てきた知識や生体現象の見方，疑問解決のための着眼点が学生諸君の役に立つことを願います。生体は，知れば知るほど驚くことの連続です。その驚きと，皆さんの疑問が解決できた感動を，共有しましょう。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生理学実習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 三井　由香　　赤羽　勝司　　大町　かおり　　下坂　充　　下田　浩一　　福谷　保　　古川　智巳 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 生理学で確立されている機序や理論はいずれも実験や観察に基づいて得られたものである。生理学実習では学生自らがいくつかの実験に携わり，生物の法則がどのようにして得られるか，また生き物や実験装置の取り扱いにはいかに留意すべきかなどの多くを体験する。血圧，感覚，呼吸，末梢神経，骨格筋の各実験で得られた現象を自らの眼で確認し，生理学の講義で習得した知識についてさらに理解を深め，実験の考察を通して生理学的な思考方法を学ぶ。また講義では，生理学の発展的内容である恒常性の破綻としての疾病のいくつかを重点的に取り上げ，恒常性維持の重要性に対する理解を深める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．カエルの坐骨神経を用いて，活動電位の伝導機序と特徴を理解する。<br>２．カエルの腓腹筋を用いて，筋収縮機序と特徴を理解する。<br>３．呼吸機能測定を通じ，肺気量の区分と，換気障害について理解する。<br>４．血圧測定を習得し，体位変換や運動時における血圧の変化，調節について理解する。<br>５．2点弁別の実習を通じ，感覚受容の機序を理解する。<br>６．脂質異常症，糖尿病，骨疾患，浮腫，黄疸，酸塩基平衡異常など，恒常性の破綻による疾患について理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/9 | 入門1　　実習オリエンテーション | 三井　由香 |
| 2 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 3 | 4/16 | 入門2　　実習デモンストレーション | 三井　赤羽　大町<br>下坂　下田<br>福谷　古川 |
| 4 | 〃 | 〃 | |
| 5 | 4/23 | 実習1回目　神経束の活動電位Ⅰ | |
| 6 | 〃 | 〃 | |
| 7 | 4/30 | 講義　　生理的に重要な脂質 | 三井　由香 |
| 8 | 〃 | 〃　　脂質代謝と内分泌，脂質異常症 | 〃 |
| 9 | 5/7 | 実習2回目　神経束の活動電位Ⅱ | 三井　赤羽　大町<br>下坂　下田<br>福谷　古川 |
| １０ | 〃 | 〃 | |
| １１ | 5/14 | 講義　　臓器間のつながり−摂食時，絶食時，糖尿病 | 三井　由香 |
| １２ | 〃 | 〃　　骨の生理学，骨成長とリモデリング，骨疾患 | 〃 |
| １３ | 5/21 | 実習3回目　骨格筋の収縮 | 三井　赤羽　大町<br>下坂　下田<br>福谷　古川 |
| １４ | 〃 | 〃 | |
| １５ | 5/28 | 講義　　微小循環，膠質浸透圧とその異常 | 三井　由香 |
| １６ | 〃 | 〃　　浮腫 | 〃 |
| １７ | 6/11 | 実習4回目　呼吸運動 | 三井　赤羽　大町<br>下坂　下田<br>福谷　古川 |
| １８ | 〃 | 〃 | |
| １９ | 6/18 | 講義　　貧血と赤血球破壊 | 三井　由香 |
| ２０ | 〃 | 〃　　ビリルビン代謝，黄疸 | 〃 |
| ２１ | 6/25 | 実習5回目　感覚（2点弁別） | 三井　赤羽　大町<br>下坂　下田<br>福谷　古川 |
| ２２ | 〃 | 〃 | |
| ２３ | 7/2 | 講義　　生体と水，無機質，体液の酸塩基平 | 三井　由香 |
| ２４ | 〃 | 〃　　酸塩基平衡異常 | 〃 |
| ２５ | 7/9 | 実習6回目　血圧の測定 | 三井　赤羽　大町<br>下坂　下田<br>福谷　古川 |
| ２６ | 〃 | 〃 | |
| ２７ | 7/16 | 講義　　実習の統括Ⅰ | 三井　由香 |
| ２８ | 〃 | 〃　　実習の統括Ⅱ | 〃 |
| ２９ | 日程は<br>後日連絡 | 実習発表会　各実習項目の発表 | 三井　赤羽　大町<br>下坂　下田<br>福谷　古川 |
| ３０ | | 〃 | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．「生理学実習マニュアル」（長野保健医療大学版）<br>２．大地陸男：生理学テキスト　文光堂 |
| 参考図書 | １．真島英信：生理学，文光堂<br>２．貴邑富久子，根来英雄：シンプル生理学，南江堂<br>３．本間研一他編集：標準生理学，医学書院 |
| 予習・復習内容 | 本実習では生理学で学んだことがベースとなるので，生理学の該当箇所の復習をしておく。また予め実習書を読んで，自分なりの疑問点を持って実習に臨むと，実り多い実習となる。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート７０％，試験３０％ |
| 履修上の注意 | 感覚の受容，血圧の調節機構，呼吸機能測定について，自分自身を対象として学べる大変良い機会である。また，生体の筋や神経を使って学べる貴重な機会となる。この機会を最大限活用するために，予習をして自分なりの疑問点を持って実習に臨んでほしい。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 生理学，生化学分野での研究，論文執筆をしていました。実習で行う手技や，疑問の解決の仕方，レポートのまとめ方は，将来皆さんの卒業論文作成や，専門分野で研究・論文執筆をするうえで，基礎となることと思います。生体サンプルを使う実習・研究は，思うようにいかないことが多いものです。その時その現象をどう理解し，どう解決するのか，考え方や見方をサポートすることで，学生の理解を深めたいと思います。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 人間発達学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 外里　冨佐江　　福田　恵美子 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 人間を統合的存在として捉え､発達という観点から､地域で生活する人の視点で、小児期、成人期、老年期の全生涯を理解する。さらに、ライフサイクルの絡み合いとしての同世代・異世代間の相互的な人間形成や､その背景をなす社会や時代の特性を理解する。（オムニバス方式／全１５回）<br>胎児から学童期までの発達を理解し、人間形成やその背景をなす社会や時代の特性を学ぶ。（福田恵美子／６回）<br>成人期から老年期までの発達を理解し、人間形成やその背景をなす社会や時代の特性を学ぶ。（外里冨佐江／９回） | | | | | | | |
| 学習目標 | １．人間発達とその意義を説明できる.<br>２．発達理論とその歴史を説明できる.<br>３．人間のライフステージにおける発達過程を説明できる.<br>４．人間のライフステージにおける取り組んでいる課題を説明できる.<br>５．ライフサイクルの人間形成と社会的背景の特性を説明できる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | 人間発達の概念の歴史的変遷（SBO 1，2　） | 外里　冨佐江 |
| 2 | 10/8 | 先人たちの発達理論概要（SBO 1，2　） | 福田　恵美子 |
| 3 | 10/15 | 胎芽・胎児期の発達（SBO 3） | 〃 |
| 4 | 10/22 | 新生児期の発達（SBO 3） | 〃 |
| 5 | 10/29 | 乳児期の発達（SBO 3） | 〃 |
| 6 | 11/5 | 幼児期の発達（SBO 3） | 〃 |
| 7 | 11/12 | 乳幼児期の神経成熟（SBO 3,4） | 〃 |
| 8 | 11/19 | まとめ　１（SBO 1-4） | 外里　冨佐江 |
| 9 | 11/26 | 学童期の発達　取り組んでいる課題（SBO 3,4,5） | 〃 |
| １０ | 12/3 | 青年期の発達　取り組んでいる課題（SBO 3,4,5） | 〃 |
| １１ | 12/10 | 成人期の発達　取り組んでいる課題（SBO 3,4,5） | 〃 |
| １２ | 12/17 | 高齢期の発達　取り組んでいる課題（SBO 3,4,5） | 〃 |
| １３ | 1/7 | 視覚・眼球運動・ハンドスキル能力（SBO 3,4,5） | 〃 |
| １４ | 1/14 | 聴覚言語，心理・社会的能力（SBO 3,4,5） | 〃 |
| １５ | 1/21 | まとめ　１（SBO 1-4） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 福田恵美子編集「人間発達学」　中外医学社 |
| 参考図書 | １．十束支朗著「発達と老化の理解」　医学出版社<br>２．奈良勲，鎌倉矩子監修「標準作業療法学・作業療法学　人間発達学」医学書院<br>３．竹下研三著「人間発達学」中央法規 |
| 予習・復習内容 | 教科書をよく読み、ニュースや新聞記事に目を通して時流にたいして知見を得ること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験６０％，小テスト４０％ |
| 履修上の注意 | 積極的な参加を期待します。 |
| 担当教員への連絡方法 | メールにて連絡すること（大学のHPに記載） |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | PTとOTにとって今後の専門科目への基礎となる授業である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 病理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 加藤　正裕 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 授業では、「疾病（病気）」の原因、病型の分類、発生メカニズム、実像（形態・構造変化）、経過と転帰などについて病理総論を中心とした基礎を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．退行性病変・進行性病変、炎症、循環障害、腫瘍など、臓器の違いをこえて共通にみられる病変について、原因、成り立ち、進展の過程、患者に対する影響などについて理解する。<br>２．患者への援助を行う際の根拠となる病理学の知識を病変の枠組みの中でとらえ理解する。<br>３．基本的なテクニカルタームとその定義を習得し、特有な表現に慣れる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/6 | オリエンテーション・病因論 | 加藤　正裕 |
| 2 | 4/13 | 退行性病変・進行性病変（１） | 〃 |
| 3 | 4/20 | 退行性病変・進行性病変（２） | 〃 |
| 4 | 4/27 | 代謝障害 | 〃 |
| 5 | 5/11 | 循環障害（１） | 〃 |
| 6 | 5/18 | 循環障害（２） | 〃 |
| 7 | 5/25 | 循環障害（３） | 〃 |
| 8 | 6/1 | 炎症（１） | 〃 |
| 9 | 6/8 | 炎症（２） | 〃 |
| １０ | 6/15 | 免疫異常（１） | 〃 |
| １１ | 6/22 | 免疫異常（２） | 〃 |
| １２ | 6/29 | 腫瘍（１） | 〃 |
| １３ | 7/6 | 腫瘍（２） | 〃 |
| １４ | 7/13 | 先天異常（１） | 〃 |
| １５ | 7/20 | 先天異常（２） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 横井豊治、村雲芳樹（編）<br>標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学、医学書院 |
| 参考図書 | 坂本穆彦、北川昌伸、仁木利朗（編）標準病理学　医学書院 |
| 予習・復習内容 | 配布された資料に注意点・ポイント等についてメモを書き入れることで復習を容易にする。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 医用画像解析学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 金物　壽久　　外間　政信 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーション医療での以下に示す主たる対象疾患のX-P，CT，MRI，SPECTなどの画像について，読影の基本を学び，対象患者の病変の部位と性質と症状との関連性を理解できる能力を養う。また，四肢軟部の超音波検査について原理と読影法を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | リハビリテーションを実施してゆくうえで必要な、全身の代表的な疾患の臨床画像診断法を学ぶ。これにより、より実践的に患者の状態を理解できるようになる。なお、授業での画像読影はあくまでも基礎であり、実習の場において積極的に画像を見、質問をして理解をし、経験を積むことが大切である。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | レントゲン読影の基礎、CT、MRIの見方、各種造影法の理解 | 金物　壽久 |
| 2 | | 体幹（脊椎、胸部、腹部、骨盤）の各種画像の読影 | 〃 |
| 3 | | 上肢、下肢の外傷と疾患の画像診断、単純レントゲンの読影 | 〃 |
| 4 | | 上肢、下肢の外傷と疾患の画像診断、MRI、CT、シンチ、PETの読影 | 〃 |
| 5 | | 頭部画像読影の基本 | 外間　政信 |
| 6 | | 虚血性脳神経疾患の画像診断 | 〃 |
| 7 | | 出血性脳神経疾患の画像診断 | 〃 |
| 8 | | 脳腫瘍・神経外傷・中枢感染症・神経中毒の画像診断 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．医療情報科学研究所．病気がみえる 脳・神経．MEDIC MEDIA<br>２．山田　恵．救急での頭部画像の読み方．羊土社 |
| 参考図書 | １．堀尾　重治．骨・関節Ｘ線写真の撮り方と見かた．医学書院<br>２．小川　敏英．メディカルノート画像診断．西村書店 |
| 予習・復習内容 | 授業に集中し、出された画像をしっかり見て、目に焼き付けること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：試験１００％、場合によりレポート提出を求める。 |
| 履修上の注意 | 機会があるたびにたくさんの画像（正常画像）を見ること。あれ？おかしい、正常ではない、と気付くことが大切。 |
| 担当教員への連絡方法 | 金物：本館事務へ<br>外間：hoka2605 @gmail.com |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 整形外科、脳神経外科の臨床専門医であり、よく遭遇する画像を中心に読影を勉強する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 臨床薬理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 帯刀　益夫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 理学必修　作業選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 薬理学は，生体と外界の化合物（薬）との相互作用の結果生じる現象を研究する学問である。本講義では，まず，薬理作用を理解するための生物学的な基礎知識の習得に重点を置き，分子レベル，細胞レベル，個体レベルで，薬の作用のメカニズムを説明する。<br>また，薬の体の中で動態，有害反応を学ぶことにより，臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．人の身体の生理学や代謝の原理的理解を基盤として、医薬等が、どのような薬理作用を示すか、その作用機構について理解できる<br>２．個々の医薬品について具体例をもってその作用を理解できる。<br>３．医薬品による医療事故、サプリメント、食品の安全などについて、原理的に、人の身体に外から投入された物質と身体の相互作用に基づいていることを理解できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 薬の基礎知識１　疾患と薬物療法 | 帯刀　益夫 |
| 2 | | 薬の基礎知識２　薬物の投与と体内動態 | 〃 |
| 3 | | 薬の基礎知識３　薬物の代謝と相互作用 | 〃 |
| 4 | | 薬の基礎知識４　薬物の受容体 | 〃 |
| 5 | | 消化器系の薬 | 〃 |
| 6 | | 循環器・血液系の薬 | 〃 |
| 7 | | 代謝・内分泌系の薬 | 〃 |
| 8 | | 呼吸器系・アレルギーの薬 | 〃 |
| 9 | | 脳神経系・精神神経系の薬 | 〃 |
| １０ | | 末梢神経系の薬 | 〃 |
| １１ | | がんの薬 | 〃 |
| １２ | | 感染症の薬 | 〃 |
| １３ | | その他の薬 | 〃 |
| １４ | | 医薬品の開発―新薬の創造、前臨床試験、市販後調査など | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 丸山 敬：これならわかる!薬理学（史上最強図解），ナツメ社 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | なし |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　７０％　レポート３０％ |
| 履修上の注意 | 細部の知識と全体像を合わせて理解すること。<br>判らないことがあったらいつでも質問すること。<br>疑問を感じたことを具体的な質問の形にまとめてみる習慣を身につけること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 栄養管理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 東方　千恵美 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーションの効果は個々人の栄養状態によって左右される。故にリハビリテーションと栄養管理を同時に行うことで機能やADL.QOLをより改善することを学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．リハビリテーション栄養の必要性を学び理解できる<br>２．リハビリテーション効果を高める栄養管理・栄養療法について学び、理解できる<br>３．リハビリテーション栄養の実践を学び理解できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | リハビリテーション栄養の必要性 | 東方　千恵美 |
| 2 | | 低栄養の評価と原因 | 〃 |
| 3 | | 適切な栄養管理 | 〃 |
| 4 | | 栄養状態に応じたリハビリテーションの目標設定 | 〃 |
| 5 | | 〃 | 〃 |
| 6 | | リハビリテーション効果を高める栄養療法 | 〃 |
| 7 | | リハビリテーション栄養の実践 | 〃 |
| 8 | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 若林秀隆編著．日本リハビリテーション栄養学会監修．<br>リハビリテーション栄養ポケットマニュアル．医歯薬出版 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業終了時に復習内容を提示します。各授業ごとに復習しましょう。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：定期試験１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | c-toubou@ab.auone-net.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院サポートチームの一員として、管理栄養士業務の経験を有する。このことから、リハビリテーションと栄養管理の深い関係を理論と実践を交えて伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 救急救命医学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 柳谷　信之 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法士・作業療法士にとっての、救急医療、災害医療の基本的な概念を理解し、必要な手技をおこなえるようにする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １.救急医療の初期医療についての概念を理解する。<br>２.バイタルサインの意味を理解し、その観察と評価について理解する。<br>３.一次救命処置が行えるようにする。<br>４.外傷初期診療の概念を理解する。<br>５.災害医療の基本的な概念を理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 救急初期診療 | 柳谷　信之 |
| 2 | | 一次救命処置　（BLS） | 〃 |
| 3 | | 呼吸の異常 | 〃 |
| 4 | | 循環の異常、ショック | 〃 |
| 5 | | 意識の異常 | 〃 |
| 6 | | トリアージ | 〃 |
| 7 | | 外傷初期診療 | 〃 |
| 8 | | 災害時の初期対応 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 特別な予習は必要なし。復習が次の授業の予習になるが、復習のポイントは授業で説明。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験１００％ |
| 履修上の注意 | 講義内容をしっかり聴取してもらえれば可 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 長野赤十字病院救命救急センターで現職。日本DMATインストラクター、現長野県DMAT分科会会長を拝命している。このことから、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となると考える。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | リハビリテーション医学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 岩谷　力　　田丸　冬彦　　緒方　徹　　佐久間　肇　　大井　直往<br>原田　由紀子　　中島　八十一　　小島　洋文　　金物　壽久 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーション医学の全体像，医学･医療における位置づけを理解し，包括的に地域生活を支援する多職種連携チームの一員として治療に参加する基礎を培うために以下の講義をおこなう。<br>リハビリテーション医学の関心領域，治療の目的，診断，機能評価，治療手法，治療過程，効果判定，予後予測の基礎について学び，主な対象疾患（脳卒中，骨関節疾患，小児疾患，スポーツ外傷･障害，高齢者，循環器疾患，呼吸器疾患，内臓疾患）ならびに主な障害に対する障害予防、重症化防止、リハビリテーション治療，生活支援について概説する。<br>＜オムニバス方式／全１５回＞ | | | | | | | |
| 学習目標 | リハビリテーション医学における診断、機能測定・評価、治療手法、アウトカム評価の治療過程を理解できる。主な対象疾患、障害について病気、機能低下、活動制限、参加制約の障害化過程を理解し、治療の目的（自立支援、就労支援、地域生活参加支援）ならびに治療適応について説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1　2限 | 概論（理念、自立支援、就労支援、地域包括システム、チームアプローチ） | 岩谷　力 |
| 2 | 10/8　2限 | 測定と評価 | 〃 |
| 3 | 10/15　2限 | 治療手法 | 〃 |
| 4 | 10/16　4限 | 各論　脳卒中 | 田丸　冬彦 |
| 5 | 10/21　4限 | 各論　脊髄損傷 | 緒方　徹 |
| 6 | 10/21　5限 | 障害とスポーツ | 〃 |
| 7 | 10/29　2限 | 各論　内部障害　　心臓、肝臓、腎臓 | 佐久間　肇 |
| 8 | 10/29　3限 | 各論　内部障害　　呼吸器　生活習慣病 | 〃 |
| 9 | 10/29　5限 | 地域リハビリテーション | 大井　直往 |
| １０ | 11/5　2限 | リハビリテーションの帰結と予後予測 | 佐久間　肇 |
| １１ | 11/19　4限 | 各論　重症心身障害　医療的ケア | 原田　由紀子 |
| １２ | 11/26　2限 | 各論　認知障害　高次脳機能障害、発達障害 | 中島　八十一 |
| １３ | 12/3　4限 | 各論　こどもの障害　脳性まひ | 小島　洋文 |
| １４ | 12/10　4限 | 各論　関節疾患、神経筋疾患 | 〃 |
| １５ | 12/17　2限 | 各論　運動器の外傷 | 金物　壽久 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中村隆一監修　入門リハビリテーション医学　医歯薬出版 |
| 参考図書 | 指定なし |
| 予習・復習内容 | 主な対象疾患について，対応する臨床医学科目の知識を深めておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　８０％　ミニテスト　２０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | いずれの教員も各専門領域の医師として実務経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 外科学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 西村　博行 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 講義形式で行う。外科学の基本を講義する。特に内部障害のリハビリテーションに関係する呼吸器，循環器，消化器，泌尿器等について，解剖生理を中心に講義する。この講義により，単に外科学の概要ばかりでなく，今後ますます増加すると見込まれる内科的疾患を合併した患者のリハビリテーションの基本的な知識を得ることができる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．外科学の発展の歴史の概略を理解できる。<br>２．その発展の中で特に大事な麻酔、感染症、ショック、免疫等の問題を理解できる。<br>３．最近重要になってきている内部障害のリハビリテーションと外科学の関係を理解できるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | 外科の歴史 | 西村　博行 |
| 2 | 10/8 | 外傷① | 〃 |
| 3 | 10/15 | 外傷② | 〃 |
| 4 | 10/22 | 感染症 | 〃 |
| 5 | 10/29 | ショック | 〃 |
| 6 | 11/5 | 外科と免疫 | 〃 |
| 7 | 11/12 | 無菌法と麻酔 | 〃 |
| 8 | 11/19 | 鏡下手術と腫瘍 | 〃 |
| 9 | 11/26 | 乳腺の外科 | 〃 |
| １０ | 12/3 | 呼吸器の外科（肺癌他） | 〃 |
| １１ | 12/10 | 呼吸器リハビリテーション | 〃 |
| １２ | 12/17 | 虚血性心疾患 | 〃 |
| １３ | 1/7 | 不整脈 | 〃 |
| １４ | 1/14 | 心臓リハビリテーション | 〃 |
| １５ | 1/21 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 畠山勝義編集．標準外科学．医学書院 |
| 参考図書 | １．ウィリアム・ジョン・ビショップ著．外科の歴史　近代外科の生い立ち．時空出版<br>２．病気がみえる②③．メディックメディア |
| 予習・復習内容 | 講義で配布した資料を精読する。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験７０％、レポート３０％ |
| 履修上の注意 | 過去の配布資料を持参すること。<br>外科の基本は解剖学です。筋肉や骨以外の人体解剖も理解するように努めてください。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 長年の外科医としての臨床経験をもとに、外科学と理学療法・作業療法との関係を見極めつつ講義内容を検討し、学生が興味深く外科学を学ぶことができる科目である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 整形外科学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 金物　壽久 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 日本は世界一の長寿国となったが、寝たきり老人の多いことも事実である。寝たきりにならず、人間らしく生活ができる健康寿命を延ばすためには、運動器疾患、運動器リハビリの理解が欠かせない。また生涯を通じてスポーツを実践し、健康な生活を送るためにも運動器、整形外科の知識はたいへん需要である。老人や成人だけでなく、幼児期から青年期に至るまでの発達を支援する知識を得ることも本講座の重要な目標である。本授業において幅広く運動器に関する知識を学んでほしい。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．健常者の動作、運動を筋・骨格系の解剖生理から理解し説明が出来る。<br>２．運動器の発達と老化現象を理解し、各年齢層に対する適切な対応を学ぶ。<br>３．変性疾患、炎症性疾患、感染症、腫瘍などの基本概念を理解する。<br>４．上肢、下肢、脊椎の主要な疾患を理解し、またそれぞれの部位の外傷を理解すること。<br>５．スポーツボランティアを通じての地域社会とのかかわりを大切にすること。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/9 | 整形外科概論、運動器の構造と機能、骨・関節の構造と機能 | 金物　壽久 |
| 2 | 4/16 | 運動器の構造と機能、神経・筋の構造と機能 | 〃 |
| 3 | 4/23 | 脊椎障害Ⅰ　頚椎、胸椎、腰椎の障害、各種疾患の理解 | 〃 |
| 4 | 4/30 | 脊椎障害Ⅱ | 〃 |
| 5 | 5/7 | 上肢障害Ⅰ　肩甲帯～上腕の障害 | 〃 |
| 6 | 5/14 | 上肢障害Ⅱ　肘関節～前腕～手指の障害 | 〃 |
| 7 | 5/21 | 上肢障害Ⅲ　各種神経麻痺 | 〃 |
| 8 | 5/28 | 下肢障害Ⅰ　股関節・大腿の障害 | 〃 |
| 9 | 6/4 | 下肢障害Ⅱ　膝関節の障害 | 〃 |
| １０ | 6/11 | 下肢障害Ⅲ　足関節・足部の障害 | 〃 |
| １１ | 6/18 | 整形外科的感染症　骨髄炎・脊椎炎・筋炎・カリエス | 〃 |
| １２ | 6/25 | リウマチ性疾患　関節リウマチ・痛風・関節の手術 | 〃 |
| １３ | 7/2 | 四肢循環障害・骨腫瘍と軟部腫瘍 | 〃 |
| １４ | 7/9 | 外傷総論　救命、救急処置 | 〃 |
| １５ | 7/16 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ　新版　筋骨格障害学　和田野安良監修　理工図書 |
| 参考図書 | １．整形外科ガール（南江堂）（臨床現場でよく遭遇する疾患をわかりやすく解説。通読を勧める）<br>２．標準整形外科学（医学書院）（辞書のつもりで、索引から調べに入るに適している）<br>３．整形外科クルズス（南江堂）（整形外科専門医にも読まれている、疾患を深く洞察している良書） |
| 予習・復習内容 | 教科書に沿って進める。症例をスライド・プリントで提示説明して理解を深める。章末問題をしっかりやること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 教科書やプリントなどにどんどん書き込んで、知識の整理をすること |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務へ |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 整形外科医として４０年の病院勤務医の経験から、具体例を示し、教科書内容を深めて理解してもらう |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 整形外科学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 金物　壽久 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 日本は世界一の長寿国となったが、寝たきり老人の多いことも事実である。寝たきりにならず、人間らしく生活ができる健康寿命を延ばすためには、運動器疾患、運動器リハビリの理解が欠かせない。また生涯を通じてスポーツを実践し、健康な生活を送るためにも運動器、整形外科の知識はたいへん需要である。老人や成人だけでなく、幼児期から青年期に至るまでの発達を支援する知識を得ることも本講座の重要な目標である。本授業において幅広く運動器に関する知識を学んでほしい。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．健常者の動作、運動を筋・骨格系の解剖生理から理解し説明が出来る。<br>２．運動器の発達と老化現象を理解し、各年齢層に対する適切な対応を学ぶ。<br>３．変性疾患、炎症性疾患、感染症、腫瘍などの基本概念を理解する。<br>４．上肢、下肢、脊椎の外傷を理解し、救急対応を知ること。<br>５．脊髄損傷を理解し、リハビリテーションと対応を知る。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/2 | 外傷総論Ⅰ　骨折・脱臼・捻挫 | 金物　壽久 |
| 2 | 10/9 | 外傷総論Ⅱ　小児の骨折、外傷 | 〃 |
| 3 | 10/16 | 外傷総論Ⅲ　軟部損傷、合併症 | 〃 |
| 4 | 10/23 | 上肢外傷Ⅰ　肩甲帯の外傷、肩関節脱臼、腱板断裂、 | 〃 |
| 5 | 10/30 | 上肢外傷Ⅱ　上腕・肘関節の外傷 | 〃 |
| 6 | 11/6 | 上肢外傷Ⅲ　前腕・手の外傷 | 〃 |
| 7 | 11/13 | 下肢外傷Ⅰ　骨盤・股関節の外傷、大腿骨近位部骨折、大腿骨骨折 | 〃 |
| 8 | 11/20 | 下肢外傷Ⅱ　膝関節の外傷 | 〃 |
| 9 | 11/27 | 下肢外傷Ⅲ　下腿・足関節・足部の外傷 | 〃 |
| １０ | 12/4 | 脊髄損傷Ⅰ　脊髄損傷の分類、治療、リハビリテーション | 〃 |
| １１ | 12/11 | 脊髄損傷Ⅱ　脊髄の奇形・形態異常 | 〃 |
| １２ | 12/18 | 神経筋疾患　筋ジストロフィー　脳性麻痺 | 〃 |
| １３ | 1/8 | 医療安全　　医療安全とは？　求められるもの | 〃 |
| １４ | 1/15 | まとめⅠ | 〃 |
| １５ | 1/22 | まとめⅡ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ　新版　筋骨格障害学　和田野安良監修　理工図書 |
| 参考図書 | １．整形外科ガール（南江堂）（臨床現場でよく遭遇する疾患をわかりやすく解説。通読を勧める）<br>２．標準整形外科学（医学書院）（辞書のつもりで、索引から調べに入るに適している）<br>３．整形外科クルズス（南江堂）（整形外科専門医にも読まれている、疾患を深く洞察している良書） |
| 予習・復習内容 | 教科書に沿って進める。症例をスライド・プリントで提示説明して理解を深める。章末問題をしっかりやること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 教科書やプリントなどにどんどん書き込んで、知識の整理をすること |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務員を介する |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 整形外科医として４０年の病院勤務医の経験から、具体例を示し、教科書内容を深めて理解してもらう |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 内科学・老年学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 高松　道生 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーション対象患者の多くを占める高齢者によく見られる疾病とその特徴，治療方針の概要について，内科学の立場から理解を深める。<br>縦割りの臓器別系統講義とともに，病状，微候をキーとした疾病横断的考え方についても取り上げる。同時に，リハビリテーションの現場で問題となる観察や判断について循環器系・呼吸器系を中心に取り上げ，リハビリテーション療法士に求められる臨床的能力について考えていく予定である。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 症候から本体に迫る臨床推論の考え方を取り入れ、リハビリテーションの現場での観察や判断について学ぶ事で内科的臨床能力を身につける事を目的とする。自覚症状から病態をとらえ、他覚所見で病態を推論し、必要な検査を考えることで診断に迫る。チームスタッフである医師・看護師・介護福祉士・ヘルパー・ソーシャルワーカーなどとどのように意思疎通と情報共有を図ってゆけばよいのかも考える。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/10 | 内科学総論：生体の仕組みと内科学　Ⅰ | 高松　道生 |
| 2 | 〃 | 内科学総論：生体の仕組みと内科学　Ⅱ | 〃 |
| 3 | 4/24 | 循環器疾患　Ⅰ　循環器系の病態生理、心不全 | 〃 |
| 4 | 〃 | 循環器疾患　Ⅱ　循環器疾患の概要とその治療 | 〃 |
| 5 | 5/8 | 呼吸器疾患　Ⅰ　呼吸器系の病態生理、呼吸不全 | 〃 |
| 6 | 〃 | 呼吸器疾患　Ⅱ　呼吸器疾患の概要とその治療 | 〃 |
| 7 | 5/22 | 蘇生法の概要　Ⅰ　蘇生法とは何か | 〃 |
| 8 | 〃 | 蘇生法の概要　Ⅱ　蘇生法の実際 | 〃 |
| 9 | 6/5 | 消化器疾患　Ⅰ　消化器系の病態生理、検査法 | 〃 |
| １０ | 〃 | 消化器疾患　Ⅱ　消化器疾患の概要とその治療 | 〃 |
| １１ | 6/19 | 神経疾患　Ⅰ　神経系の病態生理、神経兆候 | 〃 |
| １２ | 〃 | 神経疾患　Ⅱ　神経疾患の概要とその治療 | 〃 |
| １３ | 7/3 | 症状・症候から迫る内科学　①　Ⅰ | 〃 |
| １４ | 7/17 | 症状・症候から迫る内科学　①　Ⅱ | 〃 |
| １５ | 〃 | 前期講義総括 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 講義毎にプリントを用いる。 |
| 参考図書 | 浅野嘉延編　なるほどなっとく！内科学。　南山堂 |
| 予習・復習内容 | 配布プリントを予習すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：定期試験１００％ |
| 履修上の注意 | 私語は他者への迷惑行為であるので、退室を求める。繰り返す場合は試験点数を減じる。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:takamatsu.michio@sakuhp.or.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 内科診療の実務に４１年間携わってきた。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 内科学・老年学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 高松　道生 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーション対象患者の多くを占める高齢者によく見られる疾病とその特徴，治療方針の概要について，内科学の立場から理解を深める。<br>縦割りの臓器別系統講義とともに，病状，微候をキーとした疾病横断的考え方についても取り上げる。同時に，リハビリテーションの現場で問題となる観察や判断について循環器系・呼吸器系を中心に取り上げ，リハビリテーション療法士に求められる臨床的能力について考えていく予定である。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 症候から本体に迫る臨床推論の考え方を取り入れ、リハビリテーションの現場での観察や判断について学ぶ事で内科的臨床能力を身につける事を目的とする。自覚症状から病態をとらえ、他覚所見で病態を推論し、必要な検査を考えることで診断に迫る。チームスタッフである医師・看護師・介護福祉士・ヘルパー・ソーシャルワーカーなどとどのように意思疎通と情報共有を図ってゆけばよいのかも考える。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/2 | 代謝・内分泌疾患　Ⅰ　代謝系の病態生理と疾患 | 高松　道生 |
| 2 | 〃 | 代謝・内分泌疾患　Ⅱ　内分泌疾患の概要 | 〃 |
| 3 | 10/9 | 腎・泌尿器疾患　Ⅰ　腎・泌尿器系の解剖と病態生理、水と電解質 | 〃 |
| 4 | 〃 | 腎・泌尿器疾患　Ⅱ　腎・泌尿器疾患の概要と治療 | 〃 |
| 5 | 10/30 | アレルギー・免疫・膠原病　Ⅰ　アレルギー・免疫とは何か | 〃 |
| 6 | 〃 | アレルギー・免疫・膠原病　Ⅱ　膠原病の概要と自己免疫 | 〃 |
| 7 | 11/13 | 感染症　Ⅰ　感染症の基礎と感染管理 | 〃 |
| 8 | 11/27 | 感染症　Ⅱ　感染症の治療と敗血症、Standard Precaution | 〃 |
| 9 | 〃 | 造血器疾患　Ⅰ　骨髄の機能と貧血 | 〃 |
| １０ | 12/4 | 造血器疾患　Ⅱ　出血傾向と腫瘍性疾患 | 〃 |
| １１ | 〃 | 老年学　Ⅰ　加齢に伴う病態生理 | 〃 |
| １２ | 12/11 | 老年学　Ⅱ　高齢者に多い内科疾患とその対応 | 〃 |
| １３ | 〃 | 症状・症候から迫る内科学　②　Ⅰ | 〃 |
| １４ | 1/15 | 症状・症候から迫る内科学　②　Ⅱ | 〃 |
| １５ | 〃 | 後期講義総括 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 講義毎にプリントを用いる。 |
| 参考図書 | 浅野嘉延編　なるほどなっとく！内科学。　南山堂 |
| 予習・復習内容 | 配布プリントを予習すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：定期試験１００％ |
| 履修上の注意 | 私語は他者への迷惑行為であるので、退室を求める。繰り返す場合は試験点数を減じる。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:takamatsu.michio@sakuhp.or.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 内科診療の実務に４１年間携わってきた。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 神経内科学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 中島　八十一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーションの実践に必要な神経内科学を理解できるようにする。基本的な神経徴候・症状を理解し、個々の神経疾患の病態と薬物治療などの理解を深め疾患特有のリハビリテーションの概念をつかむようにする。特に神経難病でのリハビリテーションの重要性を理解する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．主要神経徴候の理解ができる<br>２．神経学的臨床検査を理解する<br>３．主要神経疾患の成因と病態、症候、検査と治療を理解できる<br>４．神経難病対策の社会的意義を理解する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | 神経症候学（１） | 中島　八十一 |
| 2 | 10/7 | 神経症候学（２）、脳の画像診断の基礎 | 〃 |
| 3 | 10/14 | 脳血管障害（１） | 〃 |
| 4 | 10/21 | 脳血管障害（２） | 〃 |
| 5 | 10/28 | 神経変性疾患（１） | 〃 |
| 6 | 11/4 | 神経変性疾患（２） | 〃 |
| 7 | 11/11 | 脊髄疾患 | 〃 |
| 8 | 11/18 | 末梢神経疾患 | 〃 |
| 9 | 11/25 | 筋疾患 | 〃 |
| １０ | 12/2 | 免疫疾患、自律神経疾患 | 〃 |
| １１ | 12/9 | 機能性疾患 | 〃 |
| １２ | 12/16 | 脳腫瘍、神経外傷、高次脳機能障害 | 〃 |
| １３ | 12/23 | 感染症、先天異常・代謝性疾患・中毒性疾患 | 〃 |
| １４ | 1/6 | 認知症 | 〃 |
| １５ | 1/13 | 神経疾患とリハビリテーション | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 江藤文夫、飯島節　「神経内科学テキスト」　南江堂 |
| 参考図書 | 田崎義昭、斎藤佳雄　「ベッドサイドの神経の診かた」　南山堂 |
| 予習・復習内容 | 後期開講前に教科書を予習しておくこと。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | それぞれの疾病について、どのようなリハビリテーションや援助が可能か考えながら聴講すること |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 講師は脳神経内科診療の実務に４３年間携わってきた |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 脳神経外科学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 外間　政信 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 脳及び脳神経に関わる解剖・生理を臨床の立場から学び，脳血管障害，頭部外傷，脳挫傷等の疾患についての病態，症状，診断，脳神経外科的治療を学ぶ。内容は脳および脳神経に関する解剖・生理，検査と症状，脳血管障害，頭部外傷，脳腫瘍その他である。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 脳および脳神経に関する解剖生理を理解し、脳血管障害などの疾患を学ぶこと。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/6 | 脳神経外科学について | 外間　政信 |
| 2 | 4/13 | 頭部の形態と機能・１ | 〃 |
| 3 | 4/20 | 頭部の形態と機能・２ | 〃 |
| 4 | 4/27 | 検査（画像検査・脳波・筋電図） | 〃 |
| 5 | 5/11 | 神経所見 | 〃 |
| 6 | 5/18 | 自律神経・脳循環代謝 | 〃 |
| 7 | 5/25 | 神経症候学（１） | 〃 |
| 8 | 6/1 | 神経症候学（２） | 〃 |
| 9 | 6/8 | 脳血管障害(総論と脳梗塞) | 〃 |
| １０ | 6/15 | 脳血管障害（脳出血） | 〃 |
| １１ | 6/22 | 脳血管障害（くも膜下出血など） | 〃 |
| １２ | 6/29 | 脳腫瘍・てんかん | 〃 |
| １３ | 7/6 | 頭部外傷･感染症・水頭症・小児 | 〃 |
| １４ | 7/13 | まとめ | 〃 |
| １５ | 7/20 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 病気が見える（脳・神経）　MEDIC MEDIA |
| 参考図書 | １．塩尻俊明　手軽にとれる神経所見　文光堂<br>２．宜保浩彦・外間政信　臨床のための脳局所解剖学　中外医学社 |
| 予習・復習内容 | なし |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験（筆記）１００％ |
| 履修上の注意 | 講義はプリントが主体 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:hoka2605@gmail.com |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 小児科学・小児神経科学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 森　哲夫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 出生前後から成長期における成長・発達と，その間にみられる主な疾患（新生児・未熟児疾患，先天異常，代謝異常，免疫・アレルギー疾患，呼吸器疾患，循環器疾患，消化器疾患，感染症など）について，特に，脳神経系の発達とその異常との関連について学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．小児の成長・発達について説明できる。小児期の各時期に見合ったリハビリテーションを立案できる。<br>２．小児の各疾患について病態、治療を説明できる。各疾患罹患時のリハビリテーションの可否を判断できる。<br>３．小児の脳神経系の発達について説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 小児科学概論 | 森　哲夫 |
| 2 | 4/15 | 小児科学概論、診断と治療の概要 | 〃 |
| 3 | 4/22 | 新生児・未熟児疾患 | 〃 |
| 4 | 4/29 | 新生児・未熟児疾患 | 〃 |
| 5 | 5/13 | 先天異常と遺伝病 | 〃 |
| 6 | 5/20 | 神経・筋・骨系疾患 | 〃 |
| 7 | 5/27 | 神経・筋・骨系疾患 | 〃 |
| 8 | 6/3 | 神経・筋・骨系疾患 | 〃 |
| 9 | 6/10 | 循環器疾患、呼吸器疾患 | 〃 |
| １０ | 6/17 | 呼吸器疾患、感染症 | 〃 |
| １１ | 6/24 | 感染症、消化器疾患 | 〃 |
| １２ | 7/1 | 内分泌・代謝疾患、血液疾患 | 〃 |
| １３ | 7/8 | 免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系、生殖器疾患 | 〃 |
| １４ | 7/15 | 腫瘍性疾患、習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待 | 〃 |
| １５ | 7/22 | 重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 冨田　豊：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学、医学書院 |
| 参考図書 | １．五十嵐　隆編集：小児科学、文光堂<br>２．前川　喜平：写真で見る乳児健診の神経学的チェック法、南山堂<br>３．仁志田　博司：新生児学入門、医学書院 |
| 予習・復習内容 | 教科書の予習をする。前もって課題を出す。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験７０％、授業態度３０％ |
| 履修上の注意 | シラバスにある参考図書を利用すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 松本市医師会看護専門学校、信州大学医学部、信州上田医療センター付属看護専門学校、上田市医師会看護専門学校、長野保健衛生専門学校、長野保健医療大学で「小児科学」の講義を担当。小児の腎、内分泌、糖尿病の診療に信州大学を中心に信州上田医療センターなどで携わってきた。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 精神医学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 立花　健二郎 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 精神医療及び精神障害者福祉の全体像を理解し，個々の疾患（統合失調症，感情障害，パニック障害，思春期にみられる障害，小児期からみられる障害，強迫性障害，認知症，てんかん，薬物依存、薬物中毒など）について特徴的な症状，治療方法，経過について学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １.精神医療及び精神障害者福祉の全体像を学ぶ。<br>２.個々の疾患について、その概念や症状、診断、治療法の基本的な知識を身に付け、説明できる。<br>３.向精神薬の種類とそれらの作用について理解し、説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 精神医学総論　精神医学の歴史ほか | 立花　健二郎 |
| 2 | 4/14 | 統合失調症Ⅰ　統合失調症総論 | 〃 |
| 3 | 4/21 | 統合失調症Ⅱ | 〃 |
| 4 | 4/28 | 統合失調症Ⅲ | 〃 |
| 5 | 5/12 | 感情障害Ⅰ　双極性感情障害 | 〃 |
| 6 | 5/19 | 感情障害Ⅱ　うつ病 | 〃 |
| 7 | 5/26 | 神経症性障害Ⅰ　うつ病関連疾患 | 〃 |
| 8 | 6/2 | 神経症性障害Ⅱ　思春期からみられる疾患 | 〃 |
| 9 | 6/9 | 発達障害　自閉症、注意欠陥多動性障害など | 〃 |
| １０ | 6/16 | 強迫性障害など　強迫性障害　睡眠の異常 | 〃 |
| １１ | 6/23 | 認知症　代表的な認知症性疾患について | 〃 |
| １２ | 6/30 | てんかん | 〃 |
| １３ | 7/7 | 精神作用物質　依存性薬物 | 〃 |
| １４ | 7/14 | 心理療法 | 〃 |
| １５ | 7/21 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 〈標準理学療法・作業療法学〉専門基礎分野，上野武治（編）：精神医学　第４版．医学書院 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 講義中に配布するプリントの演習問題を用いて復習することが望ましい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末テスト１００％ |
| 履修上の注意 | 教科書を持参する。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回講義時にアナウンスします。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 精神科病院での経験をもとに、実臨床を視野に入れた講義を行う。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 精神医学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 田玉　逸男 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 理学選択　作業必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 精神障害を理解するために役立つ各種理論を学習する。精神医学総論，精神医学の歴史を振り返るところから始め，模擬患者が演じる診療風景をビデオで供覧し精神障害をより深く，より具体的に学習して，さらなる理解を深めることを目的とする。具体的には脳器質性・症状性精神症，物質依存，てんかん，統合失調症，気分障害などである。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．基本的精神疾患の特徴、経過、治療を説明できる。<br>２．精神科薬物療法、司法精神医学、リエゾン・コンサルテーション精神医学について概要を説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 精神医学の歴史：精神医学の歴史を俯瞰する。 | 田玉　逸男 |
| 2 | 10/5 | 統合失調症Ⅰ：統合失調症の認知の障害を中心に症状とともに学ぶ。 | 〃 |
| 3 | 10/12 | 統合失調症Ⅱ：統合失調症の薬物療法とリハビリテーション治療に焦点を当て学ぶ。 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 感情障害Ⅰ：感情障害の認知の障害と症状を学ぶ。 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 感情障害Ⅱ：自殺学（長野いのちの電話外部講師とのコラボ企画） | 〃 |
| 6 | 11/2 | 脳器質性精神病：解説と症例とともに学習する。 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 物質依存：薬物依存症、アルコール依存のビデオをみて理解する。 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 癲癇：癲癇発作ビデオをみて、実際の発作を理解し、その対応を学ぶ。 | 〃 |
| 9 | 11/30 | 不安障害、心身症：ビデオや症例とともに学ぶ。 | 〃 |
| １０ | 12/7 | 人格障害：特に境界性人格障害の症例を精神分析的手法から学ぶ。 | 〃 |
| １１ | 12/14 | 認知障害：認知障害とＢＰＳＤ　画像診断から見た認知症 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 児童・思春期精神障害：概説 | 〃 |
| １３ | 1/4 | 精神薬理学：脳病理と薬理　　リエゾン精神医学 | 〃 |
| １４ | 1/18 | 法と精神医学：法から見た精神保健福祉、司法鑑定、民事鑑定 | 〃 |
| １５ | 1/25 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 資料を配布 |
| 参考図書 | 大熊 輝雄、現代臨床精神医学、金原出版 |
| 予習・復習内容 | 配布資料を予習・復習すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート：３０％、期末筆記試験：７０％ |
| 履修上の注意 | 参加型授業を中心とする。思考し発言すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 精神科病院に勤務しており、精神医学について理論と実践を伝えることで学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 臨床心理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 平林　一　　延藤　麻子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 臨床心理学は、「心理学の研究成果を基礎として、心理的に不調和にあり、周囲との係わりにも混乱が生じている方を正しく理解し、環境調整を含めて積極的に援助し、問題解決を図る方法を考案し、より好ましい状況を作り出す目的で実践していくこと（小林）」と定義される。単に机上の学問に留めるのでなく、実際のクライアントの援助に役立たせることで、はじめて臨床心理学を学んだ意義がある。本講義では一般的な臨床心理学に加えて、リハビリテーション医療に必要となる、より実践的な臨床心理学の知識と技術の習得を目指す。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．臨床心理学の基本概念となる基礎技術を説明できる<br>２．初歩的な心理検査を実施できる<br>３．リハビリテーション医療にとって必要な基本的知識と技術を説明できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 臨床心理学の実践とは | 延藤　麻子 |
| 2 | | 臨床心理学の歴史・理論 | 〃 |
| 3 | | 臨床心理学のアセスメント①（理念） | 〃 |
| 4 | | 臨床心理学のアセスメント②（技法） | 〃 |
| 5 | | 統合失調症の理解と支援 | 〃 |
| 6 | | 感情障害の理解と支援 | 〃 |
| 7 | | 不安障害の理解と支援 | 〃 |
| 8 | | 自己理解を深める演習 | 〃 |
| 9 | | 臨床心理学とその学派 | 平林　一 |
| １０ | | 心理アセスメント実習 | 〃 |
| １１ | | リハビリテーション医療における心理学　医療現場への心理学の適用 | 〃 |
| １２ | | 障害受容と家族のかかわり | 〃 |
| １３ | | 脳卒中リハビリテーションにおける精神心理的問題と対応 | 〃 |
| １４ | | ストレスとその関連障害 | 〃 |
| １５ | | 高次脳機能障害・認知症のアセスメントと対応 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 特に指定しない |
| 参考図書 | 渡辺俊之ほか「リハビリテーション患者の心理とケア」医学書院 |
| 予習・復習内容 | 授業内で適宜言及する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 「復習」は、授業で配布した資料と参考書を使う。「予習」については授業内で適宜言及する |
| 担当教員への連絡方法 | h-hajime@msh.biglobe.ne.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院での実務経験を有し、そこでの実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 障害科学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 岩谷　力　　中島　八十一　　高嶋　孝倫　　宇野　裕　　竹島　正 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 障害（disability）を理解するために、人間を生物学的、歴史的、社会的にとらえ、医学・心理・社会モデルにより、捉える考え方を学ぶ。さらに、医学の発展過程を学び、心身の不調の医学的理解、身体障害、認知障害、精神障害へのリハビリテーション（自立・就労・生活・社会参加支援）の基礎的知識を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．地球の歴史の中で、生命、生物、自然環境とヒトとを関連づけて理解する。<br>２．西洋医学の歴史を学び、現代医学の基盤をなす生物学医学の基礎構造を学ぶ。<br>３．障害を生物・心理・社会的に捉える。<br>４．障害の特性と不自由を障害種別に理解する。<br>５．障害のリハビリテーションの基礎的知識を学ぶ。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | 人間、健康、保健、医学、医療、福祉、介護を学ぶこと | 岩谷　力 |
| 2 | 10/8 | 地球の歴史 | 高嶋　孝倫 |
| 3 | 10/15 | 医学の歴史　１　医学の芽生えと地中海医学 | 岩谷　力 |
| 4 | 10/22 | ２　ヨーロッパ中世の医学、アラビア医学 | 〃 |
| 5 | 10/29 | ３　ルネッサンスと科学革命 | 〃 |
| 6 | 11/5 | ４　近世の医学、啓蒙思想、市民革命、産業革命 | 〃 |
| 7 | 11/12 | ５　近代生物学医学の成立 | 〃 |
| 8 | 11/19 | ６　現代医学 | 中島　八十一 |
| 9 | 11/26 | 障害のとらえ方の歴史的変遷 | 岩谷　力 |
| １０ | 12/3 | 障害と生きる：障害を持つ人と家族 | 宇野　裕 |
| １１ | 12/10 | 病気・病者・患者、障害・障害者、　障害と偏見差別 | 岩谷　力 |
| １２ | 12/17 | 認知障害のリハビリテーションアプローチ | 中島　八十一 |
| １３ | 1/7 | 精神障害のリハビリテーションアプローチ | 竹島　正 |
| １４ | 1/14 | 身体障害のリハビリテーションアプローチ | 岩谷　力 |
| １５ | 1/21 | 障害支援工学 | 高嶋　孝倫 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中村隆一編　入門リハビリテーション概論　医歯薬出版 |
| 参考図書 | 川喜多愛郎　近代医学の史的基盤　上・下　岩波書店 |
| 予習・復習内容 | 参考図書を読む |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：ミニテスト５０％　レポート５０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業にて通知 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床経験（国立障害者リハビリテーションセンター）に基づいて、医学の発展の過程や、現代医学・医療における科学的思考法を講義する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 障害科学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 岩谷　力　　北村　弥生　　樋口　幸治　　高橋　競　　緒方　徹　　飛松　好子　　小﨑　慶介 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 障害を医学的、社会的に捉え、心身の健康状態の変調をもって生活する人々の不自由さの経験、それらの人々への自立、就労、公的支援の仕組みを理解する。さらに、国際的な課題となっている障害を持つ人々も障害を持たない人も参画・参加する共生社会の構築に向けて、国際機関の活動、日本が行っている開発途上国の障害者支援活動、障害に立ち向かう国際的な潮流、日本国内の動向を理解する。＜オムニバス方式／全15回＞ | | | | | | | |
| 学習目標 | １．障害児・者とその家族の生活、健康上の課題をあげ、社会的支援について説明できる。<br>２．国際機関の障害に関する取り組み、障害者の権利に関する条約はじめとする障害とリハに関する諸条約を説明できる。<br>３．我が国の国際的な障害者支援活動について説明できる。<br>４．障害に関する研究について知識をえる。<br>５．我が国の障害者支援施設について理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7　5限 | 障害者福祉の歴史的発展・障害認定制度 | 岩谷　力 |
| 2 | 4/14　5限 | 障害を持つ人々の生活、健康 | 〃 |
| 3 | 5/1　4限 | 障害と家族 | 北村　弥生 |
| 4 | 5/1　5限 | 障害と情報 | 〃 |
| 5 | 5/15　4限 | 障害と防災 | 〃 |
| 6 | 5/15　5限 | 障害への国際的取り組み：国連、WHO | 〃 |
| 7 | 5/29　4限 | adapted physical activity　１　障害を持つ人の健康問題 | 樋口　幸治 |
| 8 | 5/29　5限 | adapted physical activity　２　障害を持つ人々のスポーツ | 〃 |
| 9 | 6/12　4限 | 国際協力　Ⅰ | 高橋　競 |
| １０ | 6/12　5限 | 国際協力　Ⅱ | 〃 |
| １１ | 6/26　4限 | 地域活動　高齢者の健康増進、虚弱予防活動 | 〃 |
| １２ | 6/17　4限 | 障害に関する研究 | 緒方　徹 |
| １３ | 6/30　5限 | 障害を持つ人々の就労 | 飛松　好子 |
| １４ | 7/7　5限 | 我が国におけるリハビリテーションセンターの役割とこれから | 〃 |
| １５ | 7/10　4限 | 我が国における児童福祉施設の役割とこれから | 小﨑　慶介 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は指定しない |
| 参考図書 | 中村隆一編　入門リハビリテーション概論　医歯薬出版<br>全国社会福祉協議会　社会福祉学習双書第4巻障害者福祉論　全国社会福祉協議会 |
| 予習・復習内容 | 参考図書の該当部分を読んで知識を深める |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：ミニテスト５０％　レポート５０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業で通知 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | それぞれの担当教員の臨床経験に基づいて、障害を持つ人々が生活を営む上で経験する不自由とそれに対する社会の仕組みや、臨床場面で経験する医学的治療では対応できない問題への対応について講義する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 公衆衛生学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 川崎　千恵　　野見山　哲生　　塚田　ゆみ子　　春原　るみ | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 人のライフステージに特有な健康問題や健康に影響を与える要因を明らかにする方法である疫学について学び，更にそれらの要因が及ぼす社会への影響について学ぶ。そして，それらに対応した公衆衛生学上の制度や取り組みについて学び，社会の中における理学・作業療法学の位置づけについて理解することを目的とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．公衆衛生学の基本的な考え方について説明できる<br>２．公衆衛生に関連する保健・福祉計画、関係法規を理解し、行政、医療機関等の役割を説明できる<br>３．衆衛生における理学・作業療法専門職の役割を説明できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 衛生学・公衆衛生学とは | 野見山　哲生 |
| 2 | | 保健統計 | 〃 |
| 3 | | 疫学 | 〃 |
| 4 | | 産業保健 | 〃 |
| 5 | | 環境保健 | 〃 |
| 6 | | 疾病予防と健康増進 | 川崎　千恵 |
| 7 | | 保健医療の制度と法規 | 塚田　ゆみ子 |
| 8 | | 地域保健と保健行政 | 川崎　千恵 |
| 9 | | 親子保健 | 塚田　ゆみ子 |
| １０ | | 学校保健 | 〃 |
| １１ | | 感染症と予防 | 〃 |
| １２ | | 高齢者保健 | 川崎　千恵 |
| １３ | | 精神保健 | 〃 |
| １４ | | 国際保健 | 春原　るみ |
| １５ | | まとめ | 川崎　千恵 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）、国民衛生の動向（厚生労働統計協会）(8月刊行、最新版) |
| 参考図書 | 講義の中で随時紹介する |
| 予習・復習内容 | 事前に授業内容に該当する教科書・参考図書を読んで参加すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験１００％ |
| 履修上の注意 | 保健医療福祉についての時事問題に関心を持ち、授業に参加してください。<br>授業内容の順番は変更する場合があります。 |
| 担当教員への連絡方法 | Mail: kawasaki.chie@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 地方自治体の公衆衛生行政（保健師）・国行政における実務経験があり、経験を踏まえ事例を交えながら科目を展開することができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 人間関係論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 春原　るみ　　栗林　美智子 | | | | | | | |
| 配当年次 | 2年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | コミュニケーションとは何か、より良いコミュニケーション技術を学び体得する。ＰＴ・ＯＴに必要とされるコミュニケーション力を体験を通して学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．コミュニケーションについて理解する<br>２．より良いコミュニケーション技術を体得する.<br>３．自己理解 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 11/30 | ＰＴ／ＯＴを目指すための準備―コミュニケーションとは | 春原・栗林 |
| 2 | 12/7 | 自己理解 | 〃 |
| 3 | 12/14 | 対人コミュニケーション　　バーバルとノンバーバル（言葉と言葉でない） | 〃 |
| 4 | 12/21 | 社会人としてのコミュニケーション力 | 〃 |
| 5 | 1/4 | 臨床で役立つコミュニケーションスキルー聴く・話し手の話しを聴く | 〃 |
| 6 | 1/18 | 臨床で役立つコミュニケーションスキルー話す・伝える | 〃 |
| 7 | 1/20(水) | 臨床で役立つコミュニケーションスキルー対話のことば | 〃 |
| 8 | 1/25 | 臨床で役立つコミュニケーションスキルー面接技術 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 山口美和：PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド.医学書院 |
| 参考図書 | 星野欣生:人間関係づくりトレーニング．金子書房 |
| 予習・復習内容 | 生活のなかでの他者とのコミュニケーションを体験すること. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート　５０％，授業参加状況　５０％ |
| 履修上の注意 | 演習中心に進めるため、積極的な他者とのかかわりを持つことを重視します. |
| 担当教員への連絡方法 | 授業初回時にアナウンスします. |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として臨床で精神科作業療法を実践したり、地域の住民に対してのコミュニケーション講座を行っている. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 言語聴覚療法概論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 西條　一彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 人間におけるコミュニケーションの重要な手段である言語の機能を学び，言語聴覚士の業務内容と言語聴覚療法の基本的な考え方を理解することを目的とする。<br>具体的には，言語聴覚療法のイメージを視聴覚教材や関連資料を通じてつかむとともに，言語聴覚障害の原因，特徴，評価・訓練，支援方法等を紹介することにより，言語聴覚障害者との関わり方を身につける。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．言語聴覚士の業務内容と言語聴覚療法の基本的な考え方を理解する。<br>２．主な言語聴覚障害と摂食・嚥下障害の病態・評価・治療法の概要を理解する。<br>３．言語聴覚士とのチームアプローチの基本的な枠組みを理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 言語の起源とその特徴 | 西條　一彦 |
| 2 | | 言語とコミュニケーション | 〃 |
| 3 | | 大人の言語障害―失語症①（定義、評価とタイプ分類） | 〃 |
| 4 | | 大人の言語障害―失語症②（症状と予後、支援のポイント） | 〃 |
| 5 | | 子どもの言語障害―正常なことばの発達 | 〃 |
| 6 | | 子どもの言語障害―幼児の言語相談 | 〃 |
| 7 | | 子どもの言語障害―脳性麻痺、指定療養介護事業所 | 〃 |
| 8 | | 子どもの言語障害―吃音　まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 小嶋知幸編著　図解やさしくわかる言語聴覚障害　ナツメ社 |
| 参考図書 | 酒井邦嘉著　「言語の脳科学」　中公新書１６４７ |
| 予習・復習内容 | （予習）教科書に眼を通して授業に臨んで下さい。<br>（復習）授業で使用したスライドは配布しますので役立てて下さい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：中間レポート３０％、最終レポート７０％ |
| 履修上の注意 | 言語聴覚療法全般を概観しますので、PT/OTとの関連が少ない障害も含まれています。 |
| 担当教員への連絡方法 | メール　knishijo@janis.or.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | リハビリ病院勤務中に市の「ことばの教室」相談員も兼務し、幼児から成人まで様々な症例の経験があります。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 看護学概論 | | | | | | | | |
| 担当教員 | 井部　俊子 | | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 看護・看護学の歴史的発展過程を踏まえ、看護・看護学の現状（看護職、看護教育、保健医療福祉システム、看護倫理、看護研究など）その方向性を理解する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | １．看護の本質と倫理を理解する。<br>２．看護の対象である人間・生活を理解する。<br>３．人びとの健康生活とライフサイクルを理解する。<br>４．職業としての看護と看護の提供のしくみを理解する。 | | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 看護の責務、看護とは何か、看護の対象とその理解 | 井部　俊子 |
| 2 | | 健康と病気におけるウェルネス（安寧）の促進、ライフサイクルと看護 | 〃 |
| 3 | | 看護実践のための理論的根拠、看護における倫理と価値 | 〃 |
| 4 | | 看護ケア（看護援助）の基本的役割　看護過程 | 〃 |
| 5 | | 看護における法的側面　保健・医療・福祉システム | 〃 |
| 6 | | 看護の展開と継続性　看護ケアのマネジメント | 〃 |
| 7 | | 災害看護の基礎　国際看護 | 〃 |
| 8 | | これからの看護の課題と展望　まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 授業で使用する資料テキストは印刷して配布する。 |
| 参考図書 | 基礎看護学①　看護学概論　（メディカ出版） |
| 予習・復習内容 | 各回の授業内容に関連したテーマを参考図書を用いて予習する。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 積極的に質問や意見を述べること |
| 担当教員への連絡方法 | 南館事務室へ伝言してください。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 看護大学における教育経験と病院における看護実践を有する。<br>各概念について具体例をあげて解説することで学生の理解を深めることができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 介護学概論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 丸山　順子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 介護が必要な状態になっても可能な限り利用者の自立を促し自分らしい生活を送れることは重要である。それに向けて、利用者が希望する生活を支援できるように自立支援と介護福祉サービスについて学ぶ。さらに具体的な生活支援技術の内容について事例を通して理解する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．具体的な生活支援技術を説明できる。<br>２．生活支援において実践できるリハビリテーションを説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 介護の対象者の理解 | 丸山　順子 |
| 2 | | 介護を必要とする対象者とのコミュニケーション | 〃 |
| 3 | | 自立支援と介護福祉サービス | 〃 |
| 4 | | 認知症のある人の理解と介護 | 〃 |
| 5 | | 生活支援技術①（感覚機能障害） | 〃 |
| 6 | | 生活支援技術②（運動機能障害） | 〃 |
| 7 | | 生活支援技術③（発達・知的機能障害） | 〃 |
| 8 | | 介護とリハビリテーション | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業終了時に内容を提示する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験５０％、レポート５０％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:mjc-z.maruyama@matsutan.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 看護師としての実務経験より、具体的な生活支援技術等の理論と実践を伝えることで学生はより深い理解が可能する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 大学基礎セミナー | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲　　外里　冨佐江　　宮脇　利幸　　春原　るみ　　清水　万紀子<br>栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 大学教育へのスムーズな導入を目的とし、建学の精神とリハビリテーション専門職連携の基礎、スタディスキル（図書館の利用法、情報収集の仕方、レポートの書き方等）、ソーシャルスキル（社会人として、未来の医療従事者としての心構え）を学ぶ。また、ポートフォリオの作成を通して、それぞれの目標を明確にし、大学で何をどのように学ぶかを考えることで、大学での学習に主体的に取り組めるようになるための知識、技能、思考力、表現力を身につけることを目標とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 1. リハビリテーションチームにおける作業療法士の役割と他職種の役割を理解し説明できる.<br>2. 本学で学ぶためのスタディスキルを理解し、より幅広く深い知識や技術を身に付けるための態度や心構えで行動できる.<br>3. 作業療法士になり、働くことを可能にするための知識、技術、態度、心構えとは何かを理解し達成するために行動化することが出来る.<br>4. ポートフォリオをとおして目標指向的な考え方や自己や他者が作業的存在であることを理解し説明できる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 共に学ぶ仲間を知る、学生自己紹介 | 古川　智巳 |
| 2 | 4/15 | 建学の精神、大学で学ぶ心構え、大学生活の過ごし方とリスク管理、図書館の利用方法 | 〃 |
| 3 | 4/22 | スタディスキル：授業の受け方，ノートの取り方，レポートの書き方 | 〃 |
| 4 | 4/29 | スタディスキル：文献検索の方法、<br>ポートフォリオとは何か：目標管理と作業的な振り返りとは | 〃 |
| 5 | 5/13 | グループワーク　ポートフォリオ作成　準備 | 松房　外里<br>宮脇　春原<br>清水　栗林<br>松下　古川<br>北澤 |
| 6 | 5/20 | グループワーク　ポートフォリオ作成　材料収集 | |
| 7 | 5/27 | グループワーク　ポートフォリオ作成　目標設定と作成 | |
| 8 | 6/10 | パーソナルポートフォリオ　発表　① | |
| 9 | 6/17 | パーソナルポートフォリオ　発表　② | |
| １０ | 6/24 | パーソナルポートフォリオ　発表　③ | |
| １１ | 7/1 | 目標指向的学習とリハビリテーションチームにおける作業療法士と他職種の役割 | 古川　智巳 |
| １２ | 7/8 | グループワーク　作業療法士とは何か（目標設定） | 松房　外里<br>宮脇　春原<br>清水　栗林<br>松下　古川<br>北澤 |
| １３ | 7/15 | グループワーク　作業療法士になるための方法（プランニング） | |
| １４ | 7/22 | グループワーク　作業療法士になるための方法（プランニング） | |
| １５ | 7/29 | グループ発表 | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 学生便覧、学生生活の手引き、他にプリントを配布する。 |
| 参考図書 | １．佐藤望編著：アカデミックスキルズ―大学生のための知的技法入門第２版―．慶応義塾大学出版会<br>２．鈴木敏恵：目標管理はポートフォリオで完成する．メヂカルフレンド社<br>３．鈴木敏恵：ポートフォリオで未来の教育 次世代の教育者・指導者のテキスト．日本看護協会出版会<br>４．鈴木敏恵：キャリアストーリーをポートフォリオで実現する．　日本看護協会出版会 |
| 予習・復習内容 | グループワークに必要な材料の準備、テーマ学習や発表に関する予習 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：参加態度：６０％、パーソナルポートフォリオ：２０％、テーマポートフォリオ：２０％ |
| 履修上の注意 | 第２、４回は「学生便覧」と「学生生活の手引き」を持参すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスする。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当するOT専任教員は、それぞれに教員としての教育経験と臨床での学生指導経験を有する。その経験を踏まえ、大学生として主体的に行動することの重要性を伝えたい。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法基礎セミナー | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲　　外里　冨佐江　　宮脇　利幸　　春原　るみ　　清水　万紀子<br>栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 小グループを作り、医療やリハビリテーションならびに人々の生活や作業において興味のある事柄についてグループで探求する。日々の素朴な疑問や講義で知り得た知識をリサーチクエスチョンに高め、グループメンバー間で協力しながら情報収集、問題解決の方法の探索と実践、発表準備などを進めていく過程を通し，大学生として必要なスタディスキル・ソーシャルスキルを養う。議論には積極的に参加し，能動的に関わるように努力することを期待する。各グループには担当教員がファシリテーターとして配置されるので，必要に応じてアドバイスを受けること。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．課題を自ら発見し、ディスカッションできる。<br>２．本学で学ぶためのスタディスキルを理解し、より幅広く深い知識や技術を身に付けるための態度や心構えで行動できる。<br>３．他者と協力するコミュニケーション力、課題に対して自ら取り組む主体性を身につける。<br>４．活動内容を総括し、プレゼンテーションできる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | オリエンテーション | 古川　智巳 |
| 2 | 10/7 | グループワーク　テーマ（課題）の発見 | 松房　外里<br>宮脇　春原<br>清水　栗林<br>松下　古川<br>北澤 |
| 3 | 10/14 | グループワーク　テーマ（課題）の発見　ディスカッション | |
| 4 | 10/21 | グループワーク　解決方法　ディスカッション | |
| 5 | 10/28 | グループワーク　解決方法　計画立案 | |
| 6 | 11/4 | グループワーク　情報収集　役割分担 | |
| 7 | 11/11 | グループワーク　情報収集　学習 | |
| 8 | 11/18 | グループワーク　情報収集　学習 | |
| 9 | 11/25 | グループワーク　情報収集　学習 | |
| １０ | 12/2 | グループワーク　情報収集　学習 | |
| １１ | 12/9 | グループワーク　テーマ（課題）の解決　ディスカッション | |
| １２ | 12/16 | グループワーク　テーマ（課題）の解決　ディスカッション | |
| １３ | 12/23 | グループワーク　学習の要約　パワーポイントによるまとめ | |
| １４ | 1/6 | グループ発表① | |
| １５ | 1/13 | グループ発表② | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する。 |
| 参考図書 | グループの学習状況や必要に応じて担当教員が紹介する。 |
| 予習・復習内容 | グループメンバー全員でグループワークの進捗状況や情報の共有を図ること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：グループワークや発表内容の学習目標の到達度：５０％<br>グループワークへの参加態度：５０％ |
| 履修上の注意 | 問題解決には発案や考察といった個人の努力と、グループで協力して取り組む姿勢の両方が大切であることを理解し，積極的に取り組んでほしい。 |
| 担当教員への連絡方法 | グループワークの初回にグループ担当教員より連絡する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 基本的には学生主体で進めて行くが、臨床経験の豊富な専任教員がファシリテーターとして関わり、学生の素朴な疑問をリサーチクエスチョンに高め、解明に導く。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 運動器系解剖学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　古川　智巳 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 解剖学の中でも医療リハビリテーションで特に必要とされる運動器系の理解を深めるために，人体を構成している骨，軟骨，関節，靭帯および骨格筋の構造・運動作用について系統的に理解する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 1. 上肢に関する人体の骨格とその連結(関節)の構造と機能を説明できる。<br>2. 上肢に関する骨格筋の一般的な作用の原理が説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/9 | 運動器系解剖学総論:骨学，関節・靭帯総論 | 古川 |
| 2 | 4/16 | 運動器系解剖学総論:位置と方向，筋学総論 | 宮脇 |
| 3 | 4/23 | 上肢の骨・連結：全身の骨 | 古川 |
| 4 | 4/30 | 上肢の骨・連結：上肢帯と上腕の骨 | 〃 |
| 5 | 5/7 | 上肢の骨・連結：前腕・手指の骨 | 〃 |
| 6 | 5/14 | 上肢の骨・連結：上肢帯の関節 | 〃 |
| 7 | 5/21 | 上肢の骨・連結：肘と手の関節 | 〃 |
| 8 | 5/28 | 上肢の骨・連結：手指の関節 | 〃 |
| 9 | 6/11 | 上肢帯の筋：肩甲骨の運動 | 宮脇 |
| １０ | 6/18 | 上肢帯の筋：肩関節の運動 | 〃 |
| １１ | 6/25 | 上腕の筋 | 〃 |
| １２ | 7/2 | 前腕屈筋群 | 〃 |
| １３ | 7/9 | 前腕伸筋群 | 〃 |
| １４ | 7/16 | 手の筋 | 〃 |
| １５ | 7/30 | まとめ | 宮脇・古川 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．野村嶬 編：標準理学療法学･作業療法学　解剖学第４版．医学書院<br>２．坂井建雄他監訳：プロメテウス解剖学 コア アトラス．医学書院<br>３．中村隆一，他：基礎運動学．医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．伊藤隆原著，高野廣子改訂：解剖学講義．南山堂<br>２．細田多穂監修：運動器系解剖学テキスト．南江堂<br>３．坂井建雄他監訳：プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論 運動器系．医学書院 |
| 予習・復習内容 | 事前に配布する課題プリントをもとに予習・復習を行うこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験７０％，課題３０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として病院等での臨床経験および大学院での解剖学に関する研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 運動器系解剖学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　古川　智巳 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 解剖学の中でも医療リハビリテーションで特に必要とされる運動器系の理解を深めるために，人体を構成している骨，軟骨，関節，靭帯および骨格筋の構造・運動作用について系統的に理解する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．下肢に関する人体の骨格とその連結(関節)の構造と機能を説明できる。<br>２．下肢に関する骨格筋の一般的な作用の原理が説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 下肢の骨・連結：下肢帯と大腿の骨 | 古川 |
| 2 | 10/5 | 下肢の骨・連結：下腿と足の骨 | 〃 |
| 3 | 10/12 | 下肢の骨・連結：下肢帯の関節 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 下肢の骨・連結：下腿と足の関節 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 下肢の骨・連結：脊柱 | 〃 |
| 6 | 11/2 | 下肢の筋：下肢帯の筋 | 宮脇 |
| 7 | 11/9 | 下肢の筋：大腿の筋 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 下肢の筋：下腿の筋 | 〃 |
| 9 | 11/30 | 下肢の筋：足部の筋 | 〃 |
| １０ | 12/7 | 頭蓋・胸郭の骨・連結 | 古川 |
| １１ | 12/14 | 頭蓋・胸郭の骨・連結 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 背部・腹部の筋 | 宮脇 |
| １３ | 1/4 | 頭頚部の筋 | 〃 |
| １４ | 1/18 | まとめ：骨・連結 | 古川 |
| １５ | 1/25 | まとめ：筋 | 宮脇 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．野村嶬 編：標準理学療法学･作業療法学　解剖学第４版．医学書院<br>２．坂井建雄他監訳：プロメテウス解剖学 コア アトラス．医学書院<br>３．中村隆一，他：基礎運動学．医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．伊藤隆原著，高野廣子改訂：解剖学講義．南山堂<br>２．細田多穂監修：運動器系解剖学テキスト．南江堂<br>３．坂井建雄他監訳：プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論 運動器系．医学書院 |
| 予習・復習内容 | 事前に配布する課題プリントをもとに予習・復習を行うこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験７０％，課題３０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として病院等での臨床経験および大学院での解剖学に関する研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 体表解剖学演習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　古川智巳 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 解剖学の知識をもとに、体表からの視覚的または徒手的に人体の構造を立体的に理解し、臨床上の評価・治療に役立てることをねらいとする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．骨，筋の各構造を体表から投影し、説明できる<br>２．触診対象の位置を正しく指し示すことができる<br>３．触診対象の性状に合わせた触れ方ができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 触診の基本的手技と体軸（頭頚部・体幹骨）の触診 | 宮脇，古川 |
| 2 | 4/14 | 肩甲帯（鎖骨・肩甲骨），肩甲帯筋・胸鎖乳突筋・肩甲挙筋・広背筋の触診 | 〃 |
| 3 | 4/21 | 肩甲帯（鎖骨・肩甲骨），肩甲帯筋・胸鎖乳突筋・肩甲挙筋・広背筋の触診 | 〃 |
| 4 | 4/28 | 上腕骨，上腕筋の触診 | 〃 |
| 5 | 5/12 | 前腕骨，前腕筋の触診 | 〃 |
| 6 | 5/19 | 前腕骨，前腕筋の触診 | 〃 |
| 7 | 5/26 | 手根骨・手指骨，手の内在筋群の触診 | 〃 |
| 8 | 6/9 | 上肢の骨・筋　まとめ | 〃 |
| 9 | 6/16 | 骨盤，骨盤（下肢帯）筋・腸腰筋の触診 | 〃 |
| １０ | 6/23 | 骨盤，骨盤（下肢帯）筋・腸腰筋の触診 | 〃 |
| １１ | 6/30 | 大腿骨，大腿筋の触診 | 〃 |
| １２ | 7/7 | 下腿骨・足根骨・趾骨，下腿筋の触診 | 〃 |
| １３ | 7/14 | 下腿骨・足根骨・趾骨，下腿筋の触診 | 〃 |
| １４ | 7/21 | 頚筋・体幹筋の触診 | 〃 |
| １５ | 7/28 | 下肢の骨・筋　まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．丸山仁司監修：改訂新版 筋骨格系の触診マニュアル 第２版．ガイアブックス<br>２．H.J.Hishop他(津山直一他訳)：新・徒手筋力検査法第９版．協同医書出版 |
| 参考図書 | １．林典雄:機能解剖学的触診技術　上肢、下肢・体幹．メジカルビュー<br>２．鈴木重行：触診術 第2版．三輪書店<br>３．坂井建雄他監訳：プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論 運動器系．医学書院 |
| 予習・復習内容 | 運動器系解剖学Ⅰ・Ⅱ，作業療法基礎運動学Ⅰ(Ⅱ)で得た知識を再度確認しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：実技試験　１００％ |
| 履修上の注意 | １．触診部位が露出または触診が可能な薄い衣服を準備・着用すること<br>２．対象者を傷つけないように配慮すること<br>３．学生同士ペアを組んで行うため，互いに協力し，積極的かつ自主的におこなうこと<br>４．欠席の連絡は事前に担当教員に連絡すること（ペア相手に迷惑をかけないため） |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として病院等での臨床経験および大学院での解剖学に関する研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（運動器） | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 基礎医学科目および臨床医学科目，そして作業療法評価学実習Ⅰを終えた時期に改めて疾患・障害と関連づけた身体運動に関わる骨，靭帯，関節，筋および神経など運動器系の解剖学知識を再認識する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．運動器系解剖学Ⅰ・Ⅱで得た知識を再確認する<br>２．運動器系に関連する作業療法評価学および治療学に活用できる<br>３．得られた知識を評価学実習，臨床実習に役立てることができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 上肢帯の骨及び筋 | 宮脇 利幸 |
| 2 | | 肩関節の骨及び筋 | 〃 |
| 3 | | 肘関節の骨及び筋 | 〃 |
| 4 | | 手関節，手部の骨及び筋 | 〃 |
| 5 | | 下肢帯の骨及び筋 | 〃 |
| 6 | | 膝関節の骨及び筋 | 〃 |
| 7 | | 足関節の骨及び筋 | 〃 |
| 8 | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．野村嶬 編：標準理学療法学･作業療法学　解剖学．医学書院<br>２．中村隆一，他：基礎運動学．医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．坂井建雄他監訳：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論，運動器系．医学書院<br>２．伊藤隆原著，高野廣子改訂：解剖学講義．南山堂<br>３．細田多穂監修：運動器系解剖学テキスト．南江堂 |
| 予習・復習内容 | 事前に配布する課題プリントをもとに予習・復習を行うこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：課題レポート　１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として病院等での臨床経験および大学院での解剖学に関する研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（神経系） | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 基礎医学科目および臨床医学科目，そして作業療法評価学実習Ｉを終えた時期に改めて疾患・障害と関連づけた中枢神経系および末梢神経系の解剖学知識を再認識する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．解剖学（総合）で得た末梢神経系・中枢神経系の知識を再確認する<br>２．末梢神経系・中枢神経系に関連する作業療法評価学および治療学に活用できる<br>３．得られた知識を評価学実習，臨床実習に役立てることができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 末梢神経系：腕神経叢，上肢筋と支配神経 | 宮脇 利幸 |
| 2 | | 末梢神経系：腰仙骨神経叢、下肢筋と支配神経 | 〃 |
| 3 | | 末梢神経系：脳神経，自律神経系 | 〃 |
| 4 | | 中枢神経系：脊髄 | 〃 |
| 5 | | 中枢神経系：脳幹，小脳 | 〃 |
| 6 | | 中枢神経系：間脳，終脳 | 〃 |
| 7 | | 中枢神経系：終脳 | 〃 |
| 8 | | 中枢神経系：神経伝導路 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 野村嶬 編：標準理学療法学･作業療法学　解剖学．医学書院 |
| 参考図書 | １．坂井建雄他監訳：プロメテウス解剖学アトラス頭頸部／神経解剖．医学書院<br>２．病気がみえる VOL.７ 脳・神経．MEDIC MEDIA<br>３．馬場元毅：絵でみる脳と神経．医学書院 |
| 予習・復習内容 | 事前に配布する課題プリントをもとに予習・復習を行うこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：課題レポート １００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として病院等での臨床経験および大学院での解剖学に関する研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法基礎運動学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | ここでは機能解剖学を中心に人体の正常な運動を理解できるようにする。地球上での運動は抗重力で行われることから力学の基礎について教授する。人体の構造および機能について、解剖学、生理学等に触れながら身体運動との関係を理解する。各筋の作用を関節との関係において理解し、身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．運動学の概略を説明できる<br>２．基礎的な生体力学について説明できる<br>３．筋収縮の様態を説明できる<br>４．各筋の関節に作用する機能を説明できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 運動学概論、生体力学の基礎（運動の面と軸、ベクトルとスカラー、運動の法則） | 松房　利憲 |
| 2 | 10/5 | 生体力学の基礎（速度、加速度、運動エネルギー） | 〃 |
| 3 | 10/12 | 生体力学の基礎（モーメント、筋収縮の様態） | 〃 |
| 4 | 10/19 | 上肢の運動（上肢帯と肩関節） | 〃 |
| 5 | 10/26 | 〃　（肩関節） | 〃 |
| 6 | 11/2 | 〃　（肘関節と前腕） | 〃 |
| 7 | 11/9 | 〃　（手関節と手） | 〃 |
| 8 | 11/16 | 〃　（手関節と手） | 〃 |
| 9 | 11/30 | 下肢の運動（下肢帯と股関節） | 〃 |
| １０ | 12/7 | 〃　（膝関節） | 〃 |
| １１ | 12/14 | 〃　（足関節と足） | 〃 |
| １２ | 12/21 | 〃　（足関節と足） | 〃 |
| １３ | 1/4 | 体幹の運動（脊柱の運動） | 〃 |
| １４ | 1/18 | 〃　（胸郭） | 〃 |
| １５ | 1/25 | 〃　（胸郭と顔面・頭部） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中村隆一，斉藤宏，長崎浩：基礎運動学，医歯薬出版 |
| 参考図書 | 松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本，医学書院 |
| 予習・復習内容 | 学習した部分を必ず復習すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験９０％，小テスト１０％ |
| 履修上の注意 | 毎回，前回部分の小テストを行う |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として身体障害領域での病院勤務の経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法基礎運動学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 基礎運動学Ⅰで取得した知識を基に、姿勢やバランス能力について理解する。また歩行について運動学的分析や運動力学的分析を通して理解を深める。さらに運動の基礎となる反射および運動学習について学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．姿勢と姿勢の安定性について説明できる<br>２．歩行について，運動学的分析および運動力学的分析から説明できる<br>３．反射と姿勢反射，随意運動について説明できる<br>４．運動発達について説明できる<br>５．運動学習について説明できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 姿勢（分類、重心、立位姿勢） | 松房　利憲 |
| 2 | 4/15 | 〃（立位姿勢の安定性、制御） | 〃 |
| 3 | 4/22 | 歩行（歩行周期） | 〃 |
| 4 | 4/29 | 〃（運動学的分析） | 〃 |
| 5 | 5/13 | 〃（運動力学的分析） | 〃 |
| 6 | 5/20 | 反射（反射とは） | 〃 |
| 7 | 5/27 | 〃（反射の神経学的機構） | 〃 |
| 8 | 6/10 | 姿勢反射（姿勢反射とは） | 〃 |
| 9 | 6/17 | 〃（姿勢反射の種類 | 〃 |
| １０ | 6/24 | 随意運動（随意運動とは） | 〃 |
| １１ | 7/1 | 〃（随意運動の神経学的機構） | 〃 |
| １２ | 7/8 | 運動発達（運動発達の意味） | 〃 |
| １３ | 7/15 | 〃（運動発達の変化） | 〃 |
| １４ | 7/22 | 運動学習 | 〃 |
| １５ | 7/29 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中村隆一，斉藤宏，長崎浩：基礎運動学，医歯薬出版 |
| 参考図書 | 松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本，医学書院 |
| 予習・復習内容 | 学習した部分を必ず復習すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験９０％，小テスト１０％ |
| 履修上の注意 | 毎回，前回部分の小テストを行う |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として身体障害領域の病院勤務の経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 運動学実習 | | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　古川　智巳 | | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 人間の運動動作について，観察・測定・分析の初歩的手段を体験し，レポートにまとめる。また運動機能障害を持つ人の問題点を運動学的に捉え，評価や治療に応用する基礎を学ぶ。<br>その目的・方法を理解するためのオリエンテーションや実習後のフィードバックを各課題ごとに行う。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | １．運動学で学んだ基礎的な知識を、身体活動と結びつけて理解する<br>２．各種機器を用いた分析の手法を学び、実践する<br>３．人間の運動動作の観察力を身につけ、分析できるようになる<br>４．観察・分析した内容をレポートにまとめることができる | | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | オリエンテーション１　授業全体の概要 | 宮脇，古川 |
| 2 | 〃 | オリエンテーション２　各演習の進め方 | 〃 |
| 3 | 10/6 | 演習１－１　筋電計の操作・見方：求心性収縮と遠心性収縮１ | 〃 |
| 4 | 〃 | 演習１－１　筋電計の操作・見方：求心性収縮と遠心性収縮２ | 〃 |
| 5 | 10/13 | 演習１－２　筋電図を用いての動作の分析１ | 〃 |
| 6 | 〃 | 演習１－２　筋電図を用いての動作の分析２ | 〃 |
| 7 | 10/20 | 演習１－３　経皮的電気刺激（TENS)を用いての筋収縮の観察１ | 〃 |
| 8 | 〃 | 演習１－３　経皮的電気刺激（TENS)を用いての筋収縮の観察２ | 〃 |
| 9 | 10/27 | 演習１　まとめ　グループディスカッション | 〃 |
| １０ | 〃 | 演習２－１　上肢・手指操作の分析 -把握形態・動作の観察１ | 〃 |
| １１ | 11/10 | 演習２－１　上肢・手指操作の分析 -把握形態・動作の観察２ | 〃 |
| １２ | 〃 | 演習２－２　日常生活活動の動作分析１ -食事動作-１ | 〃 |
| １３ | 11/17 | 演習２－２　日常生活活動の動作分析１ -食事動作-２ | 〃 |
| １４ | 〃 | 演習２－３　日常生活活動の動作分析２ -更衣動作-１ | 〃 |
| １５ | 11/24 | 演習２－３　日常生活活動の動作分析２ -更衣動作-２ | 〃 |
| １６ | 〃 | 演習２　まとめ　グループディスカッション | 〃 |
| １７ | 12/1 | 演習３－１　起居動作の分析１ -寝返り動作-１ | 〃 |
| １８ | 〃 | 演習３－１　起居動作の分析１ -寝返り動作-２ | 〃 |
| １９ | 12/8 | 演習３－２　起居動作の分析２ -起き上がり動作-１ | 〃 |
| ２０ | 〃 | 演習３－２　起居動作の分析２ -起き上がり動作-２ | 〃 |
| ２１ | 12/15 | 演習３－３　起居動作の分析３ -立ち上がり動作-１ | 〃 |
| ２２ | 〃 | 演習３－３　起居動作の分析３ -立ち上がり動作-２ | 〃 |
| ２３ | 12/22 | 演習３　まとめ　グループディスカッション | 〃 |
| ２４ | 〃 | 演習４－１　歩行の分析１ | 〃 |
| ２５ | 1/5 | 演習４－１　歩行の分析２ | 〃 |
| ２６ | 〃 | 演習４－２　車椅子駆動の動作分析１ | 〃 |
| ２７ | 1/12 | 演習４－２　車椅子駆動の動作分析２ | 〃 |
| ２８ | 〃 | 演習４－３　自動車運転動作の分析１ | 〃 |
| ２９ | 1/19 | 演習４－３　自動車運転動作の分析２ | 〃 |
| ３０ | 〃 | 演習４　まとめ　グループディスカッション | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中村隆一，斎藤宏：基礎運動学，医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．D.A.Neumann原著／P.D.Andrew他監訳：筋骨格系のキネシオロジー，医歯薬出版<br>２．畠中泰彦編：姿勢・動作・歩行分析．羊土社<br>３．石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座．メディカルビュー<br>４．鎌倉矩子：手を診る力をきたえる．三輪書店 |
| 予習・復習内容 | 解剖学・運動学で学修したことを再確認しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート　１００％ |
| 履修上の注意 | 演習は４グループに分かれて，演習１～４を同時に進めていく |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として病院等での臨床経験および大学院での解剖学に関する研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法概論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 外里　冨佐江 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 作業療法という学問について，その専門性や特性を概括的に学び，世界と日本における作業療法の歴史的経過，作業療法の適応となる医療・保健・福祉領域における位置づけ，対象となる疾患と急性期から終末期の作業療法の役割，治療・援助目的や手段などについて初歩的な内容を概観する。同時に作業療法士としてのアイデンティティの基盤を培うべく，資質としての倫理感，専門職業人としての作業療法への取り組み方，学習領域としての4年間の流れ，情動領域としての授業への取り組み方の基本も学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．生活している人の健康，病気，障害について推測し，行動，行為の変容を予測し，表現することができる．<br>２．作業療法の起源と伝承される原理について述べることができる．<br>３．作業療法の実践の仕組みについて記述することができる．<br>４．作業療法実践の事例を想像し，疑問点を調べ，思考した問題解決方法を説明することができる．<br>５．作業療法士の専門職としての資質に関して述べることができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | オリエンテーション/授業の進め方（SBO１,2） | 外里　冨佐江 |
| 2 | 4/14 | 作業療法とは何かを説明できる．課題①（SBO１,2） | 〃 |
| 3 | 4/21 | 作業療法とは何かを説明できる．課題②（SBO１,2） | 〃 |
| 4 | 4/28 | 作業療法とは何かを説明できる．課題③（SBO１,2,３） | 〃 |
| 5 | 5/12 | 作業療法とは何かを説明できる．課題④（SBO１,2,３） | 〃 |
| 6 | 5/19 | 模擬授業発表・グループ発表，課題（個人レポート） | 〃 |
| 7 | 5/26 | 作業療法紹介のDVDから作業療法士の役割を述べることができる． | 〃 |
| 8 | 6/9 | 身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題①（SBO 3,4） | 〃 |
| 9 | 6/16 | 身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題③（SBO 3,4） | 〃 |
| １０ | 6/23 | 身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題④（SBO 3,4） | 〃 |
| １１ | 6/30 | 身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題⑤（SBO 3,4） | 〃 |
| １２ | 7/7 | 専門職の備えるべき条件と役割について考える．（SBO５） | 〃 |
| １３ | 7/14 | 専門職の備えるべき条件と役割について述べることができる．（SBO５） | 〃 |
| １４ | 7/21 | グループ発表・課題（個人レポート） | 〃 |
| １５ | 7/28 | グループ発表・課題（個人レポート） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 矢谷令子　監修，二木俶子他(編)標準作業療法学　作業療法概論　医学書院 |
| 参考図書 | １．長崎重信　監修，里村恵子編：作業療法学概論．メヂカルビュー<br>２．矢谷令子・福田恵美子　編：作業療法実践の仕組み．協同医書 |
| 予習・復習内容 | 教科書をよく読み、予習すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：試験５０％，レポート５０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | メールで連絡を受ける。大学のHPに記載されている。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士の仕事を理解するうえで基礎となる授業であり、講師は作業療法士として豊富な臨床・教育・研究の実務経験を有している。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 基礎作業療法学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 春原　るみ | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 作業療法の概念，前提となる理論，目標などの知識を学び，作業療法とは何かを理解する。作業療法の中核である作業について，人間―作業―環境の関係および健康との関係に基づき，作業とは何か，作業に対する文化的影響，人びとはなぜ作業に従事するのか，作業はどのように遂行され，どのように組織されるのか，作業の時間的側面，等作業の主観的意味，作業の文脈，作業の成果などについて理解する。また，作業を分析し段階づけるために必要な知識を学び実際に分析する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 1. 作業療法の中核をなす作業について、作業の広がり、主観的意味、文脈、作業による成長と回復について説明できる.<br>2. 作業と人と健康の関係を説明できる.<br>3. 作業分析の手法、、適応や段階づけについて説明できる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 作業とは何か　作業の定義 | 春原　るみ |
| 2 | 4/14 | 作業と何か　作業の種類と階層 | 〃 |
| 3 | 4/21 | 作業の主観的意味　生産的作業 | 〃 |
| 4 | 4/28 | 作業の主観的意味　楽しい作業 | 〃 |
| 5 | 5/12 | 作業の主観的意味　休息になる作業　作業バランス | 〃 |
| 6 | 5/19 | 作業の文脈　空間的側面 | 〃 |
| 7 | 5/26 | 作業の文脈　時間的側面 | 〃 |
| 8 | 6/9 | 作業の文脈　社会的・文化的側面 | 〃 |
| 9 | 6/16 | 作業による健康と回復　作業と健康 | 〃 |
| １０ | 6/23 | 作業による成長と回復　作業の変遷 | 〃 |
| １１ | 6/30 | 作業による成長と回復　社会改革と作業 | 〃 |
| １２ | 7/7 | 作業分析とは | 〃 |
| １３ | 7/14 | 包括的作業分析の試み | 〃 |
| １４ | 7/21 | 作業療法と作業　適応と段階づけ | 〃 |
| １５ | 7/28 | 作業療法と作業　手段としての作業・目的としての作業 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．吉川ひろみ:「作業」って何だろう　作業科学入門　第2版. 医歯薬出版. 2008<br>２．吉川ひろみ:作業療法の話をしよう　医学書院．2019 |
| 参考図書 | １．日本作業療法士協会:作業療法学全書第2巻　基礎作業学<br>２．山根寛：ひとと作業・作業活動. 三輪書店 |
| 予習・復習内容 | 教科書をしっかりと読み込んでください. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験７０％、課題レポート３０％ |
| 履修上の注意 | 事前に教科書を予習して授業に臨んでください. |
| 担当教員への連絡方法 | 初回の授業の際アナウンスします. |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として作業科学セミナーに参加している．ＡＭＰＳ認定評価者である. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 基礎作業学Ⅰ（基本・技法） | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲　　松下　雅子　　栗林　美智子 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 臨床で用いる作業種目の基本的技法を身につけ，作業手順や使用器具についての基礎的知識を得る。また，各作業の素材，作業の流れ，作業の工程の複雑さ，作業とコミュニケーションとの関係などを考察し，心身に与える影響や，治療的側面について，実際の作業活動を通して学ぶ。結果として治療活動としての作業の持つ役割を理解し，作業療法場面において応用的な活用ができるようになる。<br>下記の教員が作業活動を分担して担当する。（松房利憲）木工　（栗林美智子）陶芸　（松下雅子）革細工 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各種活動の基本的な技法を理解し，活動の指導方法を考察する<br>２．作業活動ごとに，作業の意味，身体的・精神的影響因子の特徴を理解できる<br>３．作業活動が人間に与える身体的・精神的・心理的影響や効果が理解できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | ※計１５回をグループ毎に分かれて実施する<br>※詳細な日程は後日掲示する | 木工（１）木工とは・製図 | 松房　利憲 |
| 2 | | 木工（２）木取り・加工 | 〃 |
| 3 | | 木工（３）仮組 | 〃 |
| 4 | | 木工（４）本組 | 〃 |
| 5 | | 木工（５）塗装 | 〃 |
| 6 | | 革細工（１）革細工とは・裁断 | 松下　雅子 |
| 7 | | 革細工（２）スタンピング | 〃 |
| 8 | | 革細工（３）カービング | 〃 |
| 9 | | 革細工（４）彩色・磨き | 〃 |
| １０ | | 革細工（５）レーシング | 〃 |
| １１ | | 陶芸（１）陶芸とは・土練り・玉作り | 栗林　美智子 |
| １２ | | 陶芸（２）高台つけ | 〃 |
| １３ | | 陶芸（３）ひも作り | 〃 |
| １４ | | 陶芸（４）施釉 | 〃 |
| １５ | | 陶芸（５）仕上げと作品鑑賞 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 革の技法　楽しむための基本集，日本ヴォーグ社 |
| 参考図書 | １．日本作業療法士協会編：作業・その治療的応用．協同医書出版<br>２．岩瀬義昭編：基礎作業学実習ガイド，協同医書出版<br>３．長崎重信編：作業療法ゴールドマスター　作業学，メジカルビュー社 |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業終了時に内容を指示する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：作品の制作過程を含む演習６０％，演習の理解度の筆記試験４０％ |
| 履修上の注意 | テキストおよび配布資料を参考に事前学習を行うこと．また，授業時間に終わらなかった課題については各自の空き時間を利用し，次の講義に間に合わせること |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，作業を使用した臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 基礎作業学Ⅱ（作業分析） | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲　　春原　るみ　　松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | １・２年で学んだ作業療法学の知識を応用し、作業の分析能力と治療的応用能力を学ぶ。<br>作業がもつ治療的意味と個人的な意味合いを総合して、治療効果があがるように工夫して適用できるよう、各作業がもつ特性を学び、その特性が持つ治療的意味をを明らかにし、それぞれの領域で治療手段として使用できるようになる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．包括的作業分析の観点を説明できる<br>２．限定的作業分析の観点を説明できる<br>３．作業を評価的に用いる意義について説明できる<br>４．作業を治療的に用いる意義について説明できる<br>５．分析結果と治療目標のマッチングができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 作業分析とは | 松房　利憲 |
| 2 | | 作業（１）の分析と治療的応用：作業（１）に関する道具の持つ意味（GW） | 〃 |
| 3 | | 〃　　に関する動作の持つ意味（GW） | 〃 |
| 4 | | 〃　　に関する心理的意味（GW） | 〃 |
| 5 | | 発表資料作成 | 〃 |
| 6 | | 作業（２）の分析と治療的応用：作業（２）に関する道具の持つ意味（GW） | 春原　るみ |
| 7 | | 〃　　に関する動作の持つ意味（GW） | 〃 |
| 8 | | 〃　　に関する心理的意味（GW） | 〃 |
| 9 | | 発表資料作成 | 〃 |
| １０ | | 作業（３）の分析と治療的応用：作業（３）に関する道具の持つ意味（GW） | 松下　雅子 |
| １１ | | 〃　　に関する動作の持つ意味（GW） | 〃 |
| １２ | | 〃　　に関する心理的意味（GW） | 〃 |
| １３ | | 発表資料作成 | 〃 |
| １４ | | 各作業の分析と治療的応用の発表 | 松房・春原・松下 |
| １５ | | 各作業の分析と治療的応用の発表・まとめ | 松房・春原・松下 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | その都度指定する |
| 参考図書 | その都度指定する |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業終了時に内容を指示する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：演習３０％，レポート７０％ |
| 履修上の注意 | テキストおよび配布資料を参考に事前学習を行うこと．授業時間内に終わらなかった課題については各自の空き時間を利用し，次の講義に間に合わせること |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者はいずれも作業療法士としての臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法研究法Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 熊本　圭吾 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 臨床実践とともに「研究」に取り組む事は，作業療法という専門領域を確立・発展させるためにも重要である。また，Evidence Based Medicineを実施していくためには，エビデンスとなる学術論文が読めることと，実証的な取り組みができることが必要となる。<br>本講義では，医療分野における研究に関する基礎的な知識を概観するとともに，作業療法研究法演習（卒業研究）の研究計画の立案および研究を進める上で必要となる基礎的知識を準備することを目標とする。また，関連領域の研究論文を読むことを通して，研究の方法や科学的な態度に触れることも目的とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．研究や研究論文の意義が理解できる<br>２．研究論文の基本的な構成を理解し、目的とする適切な研究論文を探し、効率的に読むことができる<br>３．研究倫理，研究不正について理解し、研究を行う上で守るべきことを述べることができる<br>４．種々の研究方法を理解し、適正な研究計画立案に必要な事項を理解できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 研究の意義と必要性 | 熊本　圭吾 |
| 2 | | 研究を行う上で基本となる力 | 〃 |
| 3 | | 文献の探し方 | 〃 |
| 4 | | 文献を読む読解力 | 〃 |
| 5 | | 医学・医療系の文献の読み方 | 〃 |
| 6 | | テーマ・課題選び | 〃 |
| 7 | | 研究不正 | 〃 |
| 8 | | 医学系研究の倫理1　歴史的背景と概念 | 〃 |
| 9 | | 医学系研究の倫理2　人を対象とする医学系研究の倫理 | 〃 |
| １０ | | 研究のデザイン1　多様な研究方法 | 〃 |
| １１ | | 研究のデザイン2　実験計画法と分析疫学的研究分類 | 〃 |
| １２ | | 統計的仮説検定 | 〃 |
| １３ | | 研究計画 | 〃 |
| １４ | | プレゼンテーション | 〃 |
| １５ | | 研究計画発表 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 指定しない。講師作成資料を用いる。 |
| 参考図書 | １．山田剛史、林　創：大学生のためのリサーチリテラシー入門、ミネルヴァ書房<br>２．Stuart Porter著、武田　裕子訳　ここからはじめる研究入門　医学書院 |
| 予習・復習内容 | 卒業研究の準備として文献を探して読む課題を繰り返す。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験50%、演習課題50% |
| 履修上の注意 | 卒業研究のテーマ探しそのものは授業では取り扱えない。興味関心を広げ、課題の他に文献を多く読むことが必要となる。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:kumamoto.keigo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院勤務経験から、研究活動の有用性および臨床・実践に共通する思考法を学生に伝えることができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法研究法Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　松房　利憲　　外里　冨佐江　　清水　万紀子　　春原るみ<br>栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 作業療法研究法Ｉで学んだ内容を具体的に実践し，最終的な卒業研究の研究計画を立てる．文献の抄読では批判的な読解を心掛け，客観的な思考を展開する．研究計画の作成途上では科学的な判断ができるように，他者とのディスカッションが積極的にできることを期待する． | | | | | | | |
| 学習目標 | １．研究疑問を明確にし，研究テーマが設定できる<br>２．研究計画が立てられる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | １．研究テーマの絞り込み，先行研究の収集と抄読 | 宮脇　松房<br>外里　清水<br>春原　栗林<br>松下　古川<br>北澤 |
| 2 | | ２．研究方法の検討 | |
| 3 | | ３．予備的な実験・調査の実施 | |
| 4 | | ４．研究計画書の作成 | |
| 5 | | ５．研究計画発表会 | |
| 6 | | ６．研究計画書の修正 | |
| 7 | | 上記を担当教員の指示に従って進める | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：研究計画発表会３０％，提出物７０％ |
| 履修上の注意 | 担当教員，他学生とのディスカッションを積極的に行うこと |
| 担当教員への連絡方法 | 担当教員から提示します |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当教員は全員作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法研究法演習（卒業研究） | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　松房　利憲　　外里　冨佐江　　清水　万紀子　　春原　るみ<br>栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 通年 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 学内および臨床実習で学んだ知識からの問いや疑問から，学生自らが考えた研究テーマを基に，作業療法に関する論文の作成を行う。その過程において，文献検索の手法，参考文献の整理をおこない，具体的な実験計画を明確にする一連の流れを学ぶ。そして論文の主要な構成である緒言・研究材料・方法・結果・考察・あるいは，図・表や参考文献などの取り扱い方法について，具体的に学び，最終的には論文として完成させるまでを行う。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．研究テーマに沿った資料の収集ができる<br>２．援助を受けながら、研究の実施計画書を作成することができる<br>３．研究計画に基づき，調査・実験を具体的に進めることができる<br>４．統計的手法を用いて結果の整理を行い，考察することができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | ９月下旬：発表会 | 宮脇　松房<br>外里　清水<br>春原　栗林<br>松下　古川<br>北澤 |
| 2 | | １２月：完成論文提出 | |
| 3 | | 詳細については，各担当教員に確認して進めること | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |
| １６ | | | |
| １７ | | | |
| １８ | | | |
| １９ | | | |
| ２０ | | | |
| ２１ | | | |
| ２２ | | | |
| ２３ | | | |
| ２４ | | | |
| ２５ | | | |
| ２６ | | | |
| ２７ | | | |
| ２８ | | | |
| ２９ | | | |
| ３０ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 特に指定しない |
| 参考図書 | 特に指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示に従うこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：課題７０％，参加姿勢３０％ |
| 履修上の注意 | 自ら進んで，研究を展開していく姿勢を持って行うこと |
| 担当教員への連絡方法 | 担当教員からアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当教員は全員作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法管理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 清水　万紀子　　岩谷　力　　栗林　美智子　　松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 作業療法を実践する上での職場管理（教育），職業倫理を学び、実務遂行に欠かせない組織の管理運営の基礎知識を習得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．医療倫理、職場倫理について理解する。<br>２．作業療法部門の管理・運営の基礎的事項を説明することが出来る。<br>３．診療報酬や施設基準の概要を学ぶ。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 医療倫理について | 岩谷　力 |
| 2 | | 作業療法の倫理・管理について | 清水　万紀子 |
| 3 | | 臨床実習の変遷・現行の臨床実習の在り方 | 〃 |
| 4 | | 個人情報保護法（情報・個人データの取り扱いなど） | 〃 |
| 5 | | 作業療法の管理・運営（人事管理等など） | 〃 |
| 6 | | 作業療法の管理・運営（科内教育・卒後教育など） | 〃 |
| 7 | | 作業療法の管理・運営（関連部門との連携など） | 〃 |
| 8 | | 身体障害分野における管理・倫理・医療報酬等について | 〃 |
| 9 | | 精神障害分野における管理・倫理・医療報酬等について | 栗林　美智子 |
| １０ | | 発達障害分野における管理・倫理・医療報酬等について | 松下　雅子 |
| １１ | | 医療職としての接遇・リスク管理 | 清水　万紀子 |
| １２ | | ホスピタリティーについて | 〃 |
| １３ | | 倫理に関する事例検討 | 〃 |
| １４ | | 事例検討を元にまとめとディスカッション（グループ発表①） | 〃 |
| １５ | | 事例検討を元にまとめとディスカッション（グループ発表②） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 岩崎テル子：標準作業療法　作業療法概論. 医学書院<br>その他必要に応じて、プリントを配布。 |
| 参考図書 | 砂屋敷忠　他：倫理テキスト. 医療科学社 |
| 予習・復習内容 | 教科書に前もって目を通しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度１０％　ディスカッションの内容１０％　レポート８０％ |
| 履修上の注意 | 教科書を持参すること |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者は臨床経験を有する作業療法士・医師である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法評価学総論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 外里　冨佐江　　今西　里佳　　土屋　謙仕 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 作業療法を実施するためには，対象者の評価ができることが前提となる。評価とはなにかを中心に，身体障害、発達障害、精神障害、高齢期障害の各領域の評価に必要な知識を教授する。２年次に学ぶ評価学につなげるものである。前期の作業療法学概論で学んだ事例をもとに知識を深め、対象者の持っている機能や能力，失った機能や能力を正しく評価し，把握したうえでプログラムを立てられるよう，作業療法の評価全般にわたって目的，種類，手順，注意事項などの概略ついて学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．評価とは何か説明できる<br>２．何のために評価をするかを説明できる<br>３．各領域に共通な機能の基礎知識を説明できる<br>４．面接・観察の意味と重要性を説明できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | オリエンテーション/授業の進め方（SBO 1） | 外里　冨佐江 |
| 2 | 10/8 | 作業療法における排泄機能評価（SBO 3） | 今西　里佳 |
| 3 | 10/15 | 身体障害領域の課題①（SBO 2,3,4） | 外里　冨佐江 |
| 4 | 10/22 | 身体障害領域の課題②（SBO 2,3,4） | 〃 |
| 5 | 10/29 | 精神障害領域の課題①（SBO 2,3,4） | 〃 |
| 6 | 11/5 | 精神障害領域の課題②（SBO 2,3,4） | 〃 |
| 7 | 11/12 | まとめ | 〃 |
| 8 | 11/19 | 発達障害領域の課題①（SBO 2,3,4） | 〃 |
| 9 | 11/26 | 発達障害領域の課題②（SBO 2,3,4） | 〃 |
| １０ | 12/3 | 老年期障害領域の課題①（SBO 2,3,4） | 〃 |
| １１ | 12/10 | 老年期障害領域の課題②（SBO 2,3,4） | 〃 |
| １２ | 12/17 | 課題①　記録・報告・面接の意義・再評価と効果判定（SBO 1,2,3,4）/発表 | 〃 |
| １３ | 1/7 | 課題②　作業療法評価とはなにか/問題点，利点の抽出（SBO 1,2,3,4）/発表 | 〃 |
| １４ | 1/14 | 身体障害（呼吸器・心疾患）の評価（SBO 3） | 土屋　謙仕 |
| １５ | 1/21 | まとめ | 外里　冨佐江 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 能登真一他編集：作業療法評価学　第３版，医学書院 |
| 参考図書 | 鈴木則宏：神経診察クローズアップ（正しい病巣診断のコツ），メジカルビュー社 |
| 予習・復習内容 | 教科書の復習を十分にすること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：試験５０％，レポート２０％、小テスト３０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | メールで連絡すること（大学のHPに記載されている） |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 教員は作業療法士としての臨床経験から、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 身体系作業療法評価学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 清水　万紀子　　古川　智巳　　北沢　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 身体障害作業療法を実施する上で必要となる基本的評価の意義と目的を知り，測定技法，検査器具の使用方法，検査手順，記録方法を学ぶ。また、対象者の状況を正しく把握するため、画像評価を学び、客観的な評価が行えることを目的とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各検査の目的を理解し、検査について説明することができる<br>２．検査を健常者に対して説明しながら実施することができる<br>３．検査から得られた結果を記録し、内容を把握することができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/9 | 面接法・観察法・形態測定・意識評価の測定 | 清水　　北澤 |
| 2 | 4/16 | 関節可動域測定（1）：上肢 | 古川　　北澤 |
| 3 | 4/23 | 関節可動域測定（2）：手指 | 〃 |
| 4 | 4/30 | 関節可動域測定（3）：下肢 | 〃 |
| 5 | 5/7 | 関節可動域測定（4）：下肢・体幹 | 〃 |
| 6 | 5/14 | 徒手筋力検査法（1）：肩甲帯 | 清水　　北澤 |
| 7 | 5/21 | 徒手筋力検査法（2）：上肢・肩 | 〃 |
| 8 | 5/28 | 徒手筋力検査法（3）：上腕・前腕 | 〃 |
| 9 | 6/11 | 徒手筋力検査法（4）：手指 | 〃 |
| １０ | 6/18 | 徒手筋力検査法（5）：下肢 | 〃 |
| １１ | 6/25 | 筋緊張検査、協調性検査 | 〃 |
| １２ | 7/2 | 反射検査、姿勢反応検査 | 〃 |
| １３ | 7/9 | 脳神経検査・画像評価 | 古川　　北澤 |
| １４ | 7/16 | 知覚検査 | 〃 |
| １５ | 7/30 | 上肢機能検査 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一　他：標準作業療法　作業療法評価学. 医学書院<br>２．津山直一・中村耕三訳：新・徒手筋力検査法. 共同医書出版<br>３．鈴木則宏：神経診察クローズアップ<br>その他、資料を配布 |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 1回の授業で行う範囲が広いので、予習・復習をしっかり行って授業に参加すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験７０％　実技テスト３０％ |
| 履修上の注意 | 実技が多いので運動着を着用。髪の毛が顔にかからないようにして授業に臨むこと |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者は臨床経験を有する作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 精神系作業療法評価学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 春原　るみ　　栗林　美智子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 精神障害および心理・社会的要因により作業遂行上の問題を抱えている対象者に対して、援助のための理解に必要な評価の視点、面接・観察・検査・調査の各手法を適切かつ統合的に活用するための知識、態度、技術を学習することを目標とする。学生２人がペアになって検査者と被検査者の双方を体験する。また，自分自身についての背景情報の整理といくつかの評価結果を合わせて自己分析を行い、自己の治療的応用の視点を学ぶ。講義と合わせ、演習を通して臨床評価実習につなげる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．精神障害作業療法における評価の基本的な流れと評価の視点を理解する<br>２．各評価法を理解し、学生同士で適切に実施することができる<br>３．２について、学生パートナーの結果と自己の結果を分析し、それを系統的に記述することができる<br>４．援助者としての自己の特徴について、関心・気づきを持つことができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/6 | オリエンテーション、学内実習とレポート、個人情報の保護 | 春原　　栗林 |
| 2 | 4/13 | ＩＣＦに基づく評価、評価の概要、情報収集とインテーク面接 | 〃 |
| 3 | 4/20 | 研究発表①（カナダモデル／COPM）　演習（インテーク・COPM） | 〃 |
| 4 | 4/27 | 観察、質問紙をもちいた面接、演習（インテーク面接の準備） | 〃 |
| 5 | 5/11 | 演習（インテーク面接、ＣＯＰＭ、質問紙） | 〃 |
| 6 | 5/18 | 研究発表②（標準化とは）、③（内田クレペリン精神作業検査） | 〃 |
| 7 | 5/25 | 演習（内田クレペリン精神作業検査） | 〃 |
| 8 | 6/1 | 研究発表④（人格検査）　演習（ＴＥＧ） | 〃 |
| 9 | 6/8 | 研究発表⑤（職業適性検査）、⑥（VPI職業興味検査） | 〃 |
| １０ | 6/15 | 演習（職業適性検査、VPI職業興味検査） | 〃 |
| １１ | 6/22 | 作業面接とは・作業面接の視点（箱づくり法を利用して） | 〃 |
| １２ | 6/29 | 演習（箱づくり法） | 〃 |
| １３ | 7/6 | 演習（箱づくり法の読み方、まとめ方） | 〃 |
| １４ | 7/13 | 研究発表⑦（ケアアセスメント）、⑧（投影法／バウムテスト） | 〃 |
| １５ | 7/20 | 社会生活機能評価尺度 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一他編：標準作業療法学　作業療法評価学　第3版，医学書院<br>２．冨岡詔子：作業面接としての箱づくり法，箱づくり法研究会<br>３．吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド，医学書院<br>４．ＷＨＯ：ＩＣＦ国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－，中央法規 |
| 参考図書 | １．山根　寛：精神障害と作業療法　第3版，三輪書店<br>２．香山明美他編　作業療法の面接技術，三輪書店<br>３．岩崎テル子他編：標準作業療法学　作業療法評価学　医学書院<br>４．新版－TEG3マニュアル、内田クレペリン精神検査基礎テキスト<br>５．VPI職業検査手引書、VPI利用者のための職業ガイド<br>６．労働省一般職業適性検査手引き<br>７．Ｃ．コッホ：バウムテスト－樹木画による人格診断法―，日本文化科学社<br>８．高橋雅春他：樹木画テスト，北大路書房<br>９．K．ボーランダー：樹木画によるパーソナリティの理解，ナカニシヤ出版 |
| 予習・復習内容 | 授業の内容を予習復習し、十分な準備を行うこと。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験８０％，私についてのレポート１０％，演習・研究発表・授業への参加度１０％<br>＊各評価法のケースノートについて、不備の連続や提出遅れがあった場合減点する。<br>＊提出物や課題について不正が認められた時は、減点あるいは単位を認めないことがある。 |
| 履修上の注意 | ・学生パートナーを対象者として評価を体験するので真剣に臨むこと。対象者についての個人情報の管理は、医療従事者を志す者として個人情報保護法に則り十分に留意すること。<br>・日常生活の自己管理に配慮し、パートナー（対象者）に迷惑をかけないように努めること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 授業初回時にアナウンスします。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として臨床での精神科作業療法の実務経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 発達系作業療法評価学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | １．発達過程で疾病や障害を受けた対象児・者の状態（病態・障害）と，彼らが生活する環境 について理解を深め，作業療法士が実践する評価の目的を理解し修得する。<br>２．対象児・者の生活行動を疎外している因子を把握するために，発達障害関係の各種評価法の内容及び実施方法が理解できる。<br>３．対象児者に合わせた評価計画の立案方法を理解できる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．発達過程の障害の概略を理解し，作業療法が支援する疾患と障害の特性を説明できる.<br>２．提示された各種評価の目的を説明し，適用する理由を述べることができる.<br>３．各種評価の目的を理解し，留意点を説明することができる.<br>４．各種評価方法を安全に配慮して実施することができる.<br>５．対象児者に合わせて作業療法評価計画を立案をし，説明することができる.<br>６．評価計画立案についてクラス内で発表とディスカッションを行うことができる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/6 | 授業オリエンテーション，発達障害作業療法とは | 松下　雅子 |
| 2 | 4/13 | 発達障害児者の評価の実践課程 | 〃 |
| 3 | 4/20 | 発達全般の評価について（発達検査） | 〃 |
| 4 | 4/27 | 運動機能の評価　運動機能に対する検査・測定 | 〃 |
| 5 | 5/11 | 運動機能の評価　運動機能に対する観察評価 | 〃 |
| 6 | 5/18 | 感覚調整障害に対する評価 | 〃 |
| 7 | 5/25 | 行為機能に対する評価 | 〃 |
| 8 | 6/1 | 知能・認知機能の評価 | 〃 |
| 9 | 6/8 | 視機能・視知覚の評価 | 〃 |
| １０ | 6/15 | 行動の評価 | 〃 |
| １１ | 6/22 | 作業遂行・ADLの評価 | 〃 |
| １２ | 6/29 | 事例に合わせた評価（事例１） | 〃 |
| １３ | 7/6 | 〃　（事例２） | 〃 |
| １４ | 7/13 | 〃　（事例３） | 〃 |
| １５ | 7/20 | 発表 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一他：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学第３版，医学書院<br>２．福田恵美子：標準作業療法学　発達過程作業療法学　第３版，医学書院<br>３．岩崎清隆・鴨下賢一：発達障害の作業療法基礎編　第３版，三輪書店<br>４．岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一：発達障害の作業療法実践編　第３版，三輪書店 |
| 参考図書 | 福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社CBR |
| 予習・復習内容 | 授業該当範囲の予習と復習を行い，疑問点について質問できるようにしてください. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験：70%，課題レポート：20%，授業及びグループワークへの参加度：10% |
| 履修上の注意 | グループワークでは主体的に取り組み，ディスカッションを深めてください. |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，病院，地域の児童福祉施設で発達障害児者の支援経験を持っていることから，臨床場面に即した実践的な知識や内容を伝える. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法評価学演習（総合） | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　春原　るみ　　清水　万紀子　　栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 小グループを単位（５～６人）として，評価学で学んだ知識を具体的に応用するために演習を行う。具体的には実際に模擬患者に対し，対象者とのセラピストとしての接し方を学び，疾患特性をもとに評価計画の策定方法を学ぶ．またそれに基づいて検査・測定を実際に行い，診断的思考過程を学ぶとともにＩＣＦに基づく障害の整理を行うことで全体像を作ることができるようにする。２年後期最後の評価実習までに評価全体の流れがイメージできるようにする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．提示される疾患の特性を理解できる。<br>２．疾患特性に基づいた評価計画が作成できる。<br>３．学んだ評価を、対象者に適切に行うことができる。<br>４．行った結果をSOAPあるいは指定されて方法で記述できる。<br>５．ICFに基づき全体像を把握し、課題の焦点化ができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 詳細な日程は担当教員より指示がある。 | 時間割上のコマで、小グループに分かれ、担当教員の指導のもと演習を行う。 | 宮脇　春原<br>清水　栗林<br>松下　古川<br>北澤 |
| 2 | | 前半14回で１症例，後半14回で１症例を体験する。 | |
| 3 | | 前半と後半では担当教員を変え、領域の異なる症例を体験する。 | |
| 4 | | 29回目，30回目は、後半の症例について発表会を開催する。 | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |
| １６ | | | |
| １７ | | | |
| １８ | | | |
| １９ | | | |
| ２０ | | | |
| ２１ | | | |
| ２２ | | | |
| ２３ | | | |
| ２４ | | | |
| ２５ | | | |
| ２６ | | | |
| ２７ | | | |
| ２８ | | | |
| ２９ | | | |
| ３０ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版．中央法規<br>２．能登真一他編：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学　第3版．医学書院<br>その他必要に応じてプリントを配布 |
| 参考図書 | 必要に応じて担当教員から紹介する。 |
| 予習・復習内容 | 演習の準備，事前学習，模擬練習を十分に行ってから演習に臨むこと。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：演習及びグループワークへの参加態度：50％<br>演習・提出課題・レポートにおける学習目標の到達度：50％ |
| 履修上の注意 | 個人の努力と、グループで協力して取り組む姿勢の両方が大切であることを理解し，積極的に取り組んでほしい。 |
| 担当教員への連絡方法 | 各演習の初回に担当教員より連絡する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当する各専任教員は作業療法士としての臨床経験を有しており、臨床で遭遇する代表的な疾患を模擬的に体験させることができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 身体系作業療法学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 清水　万紀子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 各疾患の特性を知り、疾患に合致した基礎的な評価法を体得するため，学生間で実技演習をまじえて評価方法の実際を学ぶ。身体的な評価だけでなく心理・社会的・環境的背景などを考慮し，包括的な視点から評価が出来るようになることを目標とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各疾患の評価目的を理解できる<br>２．検査の意味を理解し、疾患に応じた検査を選択・実施できる<br>３．被検者に対して検査を実施することができる<br>４．検査から得られた結果を記録し、内容を把握することができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/2 | 脳血管障害の作業療法学（脳血管障害とは） | 清水・古川・北澤 |
| 2 | 10/9 | 脳血管障害の作業療法学（頭部外傷とは） | 〃 |
| 3 | 10/16 | 脳血管障害の作業療法学（脳血管障害の評価①）機能評価 | 〃 |
| 4 | 10/23 | 脳血管障害の作業療法学（脳血管障害の評価②）ADL評価 | 〃 |
| 5 | 10/30 | 脊髄損傷の作業療法学（脊髄損傷とは） | 〃 |
| 6 | 11/6 | 脊髄損傷の作業療法学（脊髄損傷の評価①）機能評価 | 〃 |
| 7 | 11/13 | 脊髄損傷の作業療法学（脊髄損傷の評価②）ADL評価 | 〃 |
| 8 | 11/20 | 上肢の末梢神経損傷の作業療法学（末梢神経障害とは） | 〃 |
| 9 | 11/27 | 上肢の末梢神経損傷の作業療法学（末梢神経障害の評価①）機能評価 | 〃 |
| １０ | 12/4 | 上肢の末梢神経損傷の作業療法学（末梢神経障害の評価②）ADL評価 | 〃 |
| １１ | 12/11 | 関節リウマチおよびその類似疾患の作業療法（関節リウマチ・類似疾患とは） | 〃 |
| １２ | 12/18 | 関節リウマチおよびその類似疾患の作業療法（関節リウマチおよびその類似疾患の評価） | 〃 |
| １３ | 1/8 | その他の神経疾患・神経筋疾患の作業療法（その他の神経疾患・神経筋疾患の作業療法とは） | 〃 |
| １４ | 1/15 | その他の神経疾患・神経筋疾患の作業療法（その他の神経疾患・神経筋疾患の評価） | 〃 |
| １５ | 1/22 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一　他：標準作業療法　作業療法評価学.医学書院<br>２．津山直一・中村耕三訳：新・徒手筋力検査法.共同医書出版<br>３．鈴木則宏：神経診察クローズアップ<br>その他：必要に応じて資料を配布 |
| 参考図書 | 田中宏太佳：脊髄損傷のリハビリテーション.医学書院 |
| 予習・復習内容 | 教科書に前もって目を通しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験９０％　授業態度１０％ |
| 履修上の注意 | 実技をする時は運動着を着用。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者は臨床経験を有する作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 身体系作業療法治療学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 清水　万紀子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | それぞれの身体障害機能的障害の原因を知り，作業療法を実施するために必要な基本的な考え方や治療法について学ぶ。講義を中心に進めるが，治療法を展開する上で役立つよう，具体的な障害像と治療イメージを繋げる。またリスク管理を行いながら個々の障害に応じた治療法が展開できることを目標とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．機能的身体障害を治療するための基本概念と基礎技術を説明することができる<br>２．初歩的手技を被験者に対して実施することができる<br>３．基礎的治療法を習得し，治療方法を選択することができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 身体機能作業療法学の基礎 | 古川　　北澤 |
| 2 | | 対象者とセラピストのためのボディメカニクス | 清水　　北澤 |
| 3 | | 関節可動域の拡大（理論） | 〃 |
| 4 | | 関節可動域の拡大（実践） | 〃 |
| 5 | | 筋力と筋持久力の維持・拡大（理論） | 古川　　北澤 |
| 6 | | 筋力と筋持久力の維持・拡大（実践） | 〃 |
| 7 | | 筋緊張異常とその治療（理論） | 〃 |
| 8 | | （実践） | 〃 |
| 9 | | 不随意運動とその治療（理論） | 清水　　北澤 |
| １０ | | 〃　　（実践） | 〃 |
| １１ | | 協調性障害とその治療（理論） | 古川　　北澤 |
| １２ | | 〃　　（実践） | 〃 |
| １３ | | 知覚再教育 | 清水　　北澤 |
| １４ | | 廃用症候群とその対応 | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 山口昇他：標準作業療法学　身体機能作業療法学　第３版，医学書院 |
| 参考図書 | １．長崎重信　監修：身体障害作業療法学. メディックメディア<br>２．梶龍兒：不随意運動の診断と治療. 診断と治療者<br>３．医療情報科学研究所編：病期がみえるｖｏｌ．7脳・神経，メディックメディア<br>その他資料配付 |
| 予習・復習内容 | 教科書に前もって目を通しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験９０％，小テスト１０％ |
| 履修上の注意 | ２回目の授業からは小テストを実施する場合があるので，前回の授業内容を復習しておくこと |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者は臨床経験を有する作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 身体系作業療法治療学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 清水　万紀子　　古川　智巳　　北澤　一樹　　高嶋　孝倫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 臨床で数多く遭遇する疾患の特性を学び、作業療法治療学Ⅰ（身体障害）で学んだ知識を各疾患に応用できるようになる。グループで治療手技の目的や理論を確認しながら理解を深める | | | | | | | |
| 学習目標 | １．身体障害の各疾患の治療特性を説明できる<br>２．各疾患に対して基本的治療の治療技術内容を説明できる<br>３．各疾患に対して基本的治療技術を被験者に対して実施できる<br>４．各疾患への治療技術に対して、適切なリスク管理ができる<br>５．校外実習として特別養護老人ホームで見学実習を行い、介護保険施設における作業療法士の役割を理解する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 特別養護福祉施設（グリーンヒル）見学実習 | 清水　　北澤 |
| 2 | | 中枢神経疾患（脳血管障害） | 〃 |
| 3 | | 中枢神経疾患（頭部外傷） | 〃 |
| 4 | | 脊髄損傷 | 〃 |
| 5 | | 上肢の末梢神経損傷 | 〃 |
| 6 | | 関節疾患（関節リウマチ・全身性エリテマトーデスなど） | 〃 |
| 7 | | 神経筋疾患（多発性硬化症・ギランバレー症候群など） | 〃 |
| 8 | | 神経変性疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症など） | 〃 |
| 9 | | 悪性腫瘍 | 〃 |
| １０ | | 切断 | 高嶋　孝倫 |
| １１ | | 骨関節疾患（骨折・加齢性関節疾患など） | 古川　　北澤 |
| １２ | | 腱損傷・腱板断裂 | 〃 |
| １３ | | 内部疾患（心疾患・呼吸器疾患・糖尿病など） | 〃 |
| １４ | | 熱傷 | 〃 |
| １５ | | まとめ | 清水　万紀子 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 山口昇　他：標準作業療法学　身体機能作業療法. 医学書院 |
| 参考図書 | １．長崎重信　監修：身体障害作業療法学. メディックメディア<br>２．医療情報科学研究所編：病期がみえる脳・神. メディックメディア<br>その他資料配付 |
| 予習・復習内容 | 教科書に前もって目を通しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験９０％　授業態度１０％ |
| 履修上の注意 | 校外実習があるため、開講日と内容は一致しないので注意すること<br>グループワークを行うため積極的に参加すること |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業日にアナウンスする |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床経験を有する作業療法士・義肢装具士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 精神系作業療法学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 春原　るみ　　栗林　美智子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 学生２人がペアになって検査者と被検査者の双方を体験し、検査者は被検査者の評価結果をまとめて発表する。コミュニケーションの基礎技法を意図的に利用し、作業療法で用いる面接・観察・検査の各基礎技法を実施する。各種評価法の実施結果から得られた情報を系統的に記述し、その要約を口頭で発表することを通し、情報収集―分析―統合に必要な思考力と問題解決能力を高めることを目標とする。また、事例を通して、評価演習・評価実習を見据えた評価計画をグループで立案し発表し討議することで、評価のプロセスと視点を具体的に学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各種評価法を理解し、演習パートナーに対し適切に実施することができる<br>２．評価の実施結果から得られた情報を系統的に記述し、その要約を口頭で責任もって発表することができる<br>３．演習を通して、援助者として必要な態度をとることができるようになる<br>４．事例に対して、各種評価法を利用した評価計画を立案できる<br>５．自分の特徴を理解し、援助者として自分自身を活かしていくための見通しを持つことができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 演習（投影法／バウムテスト） | 春原　　栗林 |
| 2 | 10/5 | 集団について | 〃 |
| 3 | 10/12 | 評価実習（集団） | 〃 |
| 4 | 10/19 | ICFの理解（わたしについて）講義 | 〃 |
| 5 | 10/26 | ICFの理解（わたしについて）演習 | 〃 |
| 6 | 11/2 | 評価プログラム立案（講義） | 〃 |
| 7 | 11/9 | 評価プログラム立案（演習1） | 〃 |
| 8 | 11/16 | 評価プログラム立案（演習2） | 〃 |
| 9 | 11/30 | 評価結果レポート発表及びグループ討議① | 〃 |
| １０ | 12/7 | 評価結果レポート発表及びグループ討議② | 〃 |
| １１ | 12/14 | 評価結果レポート発表及びグループ討議③ | 〃 |
| １２ | 12/21 | 評価結果レポート発表及びグループ討議④ | 〃 |
| １３ | 1/4 | 評価結果レポート発表及びグループ討議⑤ | 〃 |
| １４ | 1/18 | 評価結果レポート発表及びグループ討議⑥ | 〃 |
| １５ | 1/25 | 模擬症例グループ発表会 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一他編：標準作業療法学　作業療法評価学　第３版，医学書院<br>２．WHO：ICF国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－，中央法規 |
| 参考図書 | １．山根　寛：精神障害と作業療法　第３版，三輪書店<br>２．山根寛他：ひとと集団・場－集まることの利用－，第２版，三輪書店<br>３．山根　寛：ひとと作業・作業活動，三輪書店<br>４．吉田道雄：人間理解のグループダイナミクス，ナカニシヤ出版 |
| 予習・復習内容 | 教科書をよく読み、実習―分析―統合に必要な知識を得、考察すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：総合レポート（最終レポートがどれだけ改善されたかも含む）　70%<br>総合レポート発表の内容　10%、グループワークへの貢献度　10%<br>グループ発表会・討議への貢献度　10%<br>　＊総合レポートのデータ不備，提出遅れは減点する．<br>　＊レポートの作成・提出に不正があった場合は単位を認めないことがある． |
| 履修上の注意 | 発表会も含め，グループワークに各人がどれだけ真剣に参加するかで，全体の学習成果に大きな差が出ることに留意すること．<br>対象者についての個人情報の管理は，医療従事者を志す者として個人情報保護法に則り十分に留意すること．このことに関し不正があった場合は単位を認めないことがある． |
| 担当教員への連絡方法 | 授業初回時にアナウンスします． |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として臨床で精神科作業療法の臨床実践の経験を有する． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 精神系作業療法治療学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 栗林　美智子　　小林　正義　　春原　るみ | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 精神保健医療福祉の歴史と現状を学び，精神医療の目指す方向性と精神障害リハビリテーションの基本的視点を理解する。精神障害作業療法に関連する理論・モデル，及びその基本的実践論について学び，障害・健康概念の変遷と心身の健康に貢献する作業療法の基本的役割と対象者に応じて理論やモデルを応用（折衷）していくという考え方のバリエーションを身に付ける。＜オムニバス方式／全１５回＞（春原るみ／２回）作業療法理論（Fidler，Mosey），作業行動理論（Reilly），人間作業モデル（Kielhofner），カナダモデル。　（小林正義／１回）急性期・早期作業療法。（栗林美智子／１２回）上記以外その他。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．精神医療の歴史と現状についての知識を習得し，作業療法の意義について説明することができる<br>２．精神障害作業療法に関連する理論やモデルについての知識を習得し，それを説明することができる<br>３．精神障害作業療法の治療構造とその実践プロセスについて説明することができる<br>４．精神疾患の回復過程と回復過程に応じた援助について説明することができる<br>５．テーマについてグループで協力してまとめ，わかりやすくプレゼンテーションできる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 精神医療の歴史と作業療法，精神障害の特性 | 栗林 美智子 |
| 2 | | 精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割 | 〃 |
| 3 | | 作業療法の基本的な視点と方法 | 〃 |
| 4 | | 作業療法の構造と実施形態，作業面接の技術，作業療法実践のプロセス | 〃 |
| 5 | | 理論・関連モデル・技法　：精神力動論，集団力動論，治療構造論 | 〃 |
| 6 | | ①作業療法理論（Fidler），②作業療法理論（Mosey） | 春原 るみ |
| 7 | | ③作業行動理論（Reilly），④人間作業モデル，⑤カナダモデル | 〃 |
| 8 | | ⑥精神療法・集団精神療法　⑦認知行動療法 | 栗林 美智子 |
| 9 | | ⑧SST　⑨心理教育 | 〃 |
| １０ | | ⑩森田療法　⑪芸術療法　⑫BACS－J | 〃 |
| １１ | | 回復状態に応じた作業療法・生活支援，統合失調症の作業療法とリハビリテーション | 〃 |
| １２ | | 急性期・早期作業療法の実践 | 小林 正義 |
| １３ | | 退院支援，地域生活支援（再発防止プログラム・外来作業療法・精神科デイケア） | 栗林 美智子 |
| １４ | | 地域生活支援（訪問・資源利用） | 〃 |
| １５ | | 不安障害と神経症性障害の作業療法 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．冨岡詔子他編：作業治療学２　精神障害，協同医書出版社<br>２．伊藤順一郎監修：統合失調症―正しい理解と治療法，講談社<br>３．香山明美他編：生活を支援する精神障害作業療法－急性期から地域実践まで，医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．香山明美他：作業療法の面接技術，三輪書店<br>２．澤　俊二,他･編：作業療法評価のエッセンス，医歯薬出版<br>３．岩崎テル子監訳：作業療法実践のための６つの理論，協同医書出版社<br>４．広沢正孝：統合失調症を理解する，医学書院<br>その他グループ研究に必要な参考図書の探し方については必要に応じて指示する。 |
| 予習・復習内容 | ６～１０回目は、事前に配布されるプリントに目を通して予習してくること。<br>範囲が広いので、授業後にテキストの関連ページを復習し知識を定着させること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　８０％、課題レポート及び発表　１０％<br>グループワーク・授業中の討論への貢献度　１０％<br>＊レポートの不備の連続や提出遅れがあった場合は減点することがある.<br>＊レポートの作成・提出において不正があった場合は，単位を認めないことがある. |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 各教員は作業療法士として精神障害領域における臨床経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 精神系作業療法治療学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 栗林　美智子　　小林　正義　　春原　るみ | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し，障害構造論と回復段階に応じたリハビリテーションの立場から，各種精神疾患の障害特性に応じた作業療法の基本的な治療理論について学習する。また，精神障害とそれに伴う生活障害の特性と，それらに対する援助の基本，具体的な作業療法アプローチについて学習する。＜オムニバス方式／全１５回＞（春原るみ／１回）てんかん・老年期精神障害の作業療法。（小林正義／１回）精神系作業療法の実践マネジメントとトピックス。（栗林美智子／１３回）気分障害・パーソナリティ障害の作業療法摂食障害・依存性障害・大人の発達障害の作業療法，司法精神医療における作業療法，認知行動療法，認知リハ，ACT，当事者活動 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各疾患の特徴や障害の特性，作業療法実施上の留意点について説明することができる<br>２．精神障害作業療法に関連する治療モデルや技法について説明することができる<br>３．精神障害がある人たちに対する地域生活の具体的な支援について説明することができる<br>４．具体的な事例について，各疾患の特徴，障害の特性に応じて治療理論を応用し，治療プログラムを考えることができる<br>５．各疾患と治療理論・モデル・技法，実際の生活支援がどのように関連しているのかを理解し，説明することができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 摂食障害の作業療法 | 栗林　美智子 |
| 2 | | 気分障害の作業療法とリハビリテーション | 〃 |
| 3 | | パーソナリティー障害の作業療法 | 〃 |
| 4 | | アルコール・依存性障害の作業療法 | 〃 |
| 5 | | 大人の発達障害の作業療法 | 〃 |
| 6 | | てんかんの作業療法 | 春原　るみ |
| 7 | | 老年期精神障害の作業療法 | 〃 |
| 8 | | 作業療法の実践マネジメントとトピックス | 小林　正義 |
| 9 | | 事例検討 | 栗林　美智子 |
| １０ | | 事例検討 | 〃 |
| １１ | | 認知リハビリテーション | 〃 |
| １２ | | 認知行動療法と作業療法，ストレス対処とセルフトーク | 〃 |
| １３ | | 認知行動療法と作業療法，コラム法と問題解決法 | 〃 |
| １４ | | 司法精神医療における作業療法 | 〃 |
| １５ | | 当事者研究，当事者活動 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．冨岡詔子他編：作業治療学２　精神障害，協同医書出版社<br>２．香山明美他編：生活を支援する精神障害作業療法－急性期から地域実践まで，医歯薬出版<br>３．野村総一郎：新版 入門 うつ病のことがよくわかる本，講談社 |
| 参考図書 | １．香山明美他：作業療法の面接技術　ストーリーの共有を目指して，三輪書店<br>２．澤　俊二，他･編：作業療法ケースブック-作業療法評価のエッセンス，医歯薬出版<br>３．大野　隆：はじめての精神療法，講談社<br>４．中込和幸，最上多美子監訳：「精神疾患における認知機能障害の矯正法」臨床家マニュアル 第２版，星和書店<br>５．中込和幸，兼子幸一，最上多美子監訳：社会認知ならびに対人関係のトレーニング(SCIT) 治療マニュアル ，星和書店 |
| 予習・復習内容 | 範囲が広いので，指示したプリントや授業内容についての復習をしましょう。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験及び小テスト ８０％、授業への参加態度・課題への取り組み状況 ２０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 授業初回時にアナウンスします。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 各教員は作業療法士として精神障害領域における臨床経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 発達系作業療法学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | １．発達障害児者に対して，その臨床像を理解できる。<br>２．対象児・者の生活行動を疎外している因子を把握するために，発達障害関係の各種評価法の内容を理解できる。<br>３．各種評価方法を演習を通し習得する。<br>４．発達障害児者の特性に応じて必要な評価項目を選択できる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．発達障害作業療法の対象のうち，それぞれの障害を伴う疾患と臨床像について説明できる.<br>２．各種評価方法の特徴や適応範囲を説明できる.<br>３．各種評価方法を実施できる.<br>４．障害特性に応じて評価項目を選択でき，評価計画を立案できる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | 発達障害の概要（法的，臨床的） | 松下　雅子 |
| 2 | 10/7 | 発達障害児の理解　疾病の理解 | 〃 |
| 3 | 10/14 | 発達障害児の理解　ライフサイクルの理解 | 〃 |
| 4 | 10/21 | ICFの理解 | 〃 |
| 5 | 10/28 | 運動機能の障害に対する作業療法学 | 〃 |
| 6 | 11/4 | 運動機能の障害に対する作業療法学 | 〃 |
| 7 | 11/11 | 感覚統合機能の障害に対する作業療法学 | 〃 |
| 8 | 11/18 | 知能・認知機能の障害に対する作業療法学 | 〃 |
| 9 | 11/25 | 視機能・視知覚機能の障害に対する作業療法学 | 〃 |
| １０ | 12/2 | 行動の障害に対する作業療法学 | 〃 |
| １１ | 12/9 | 作業遂行・ADLの障害に対する作業療法学 | 〃 |
| １２ | 12/16 | 事例に合わせた評価（評価計画の立案）　事例１ | 〃 |
| １３ | 12/23 | 事例に合わせた評価（評価計画の立案）　事例２ | 〃 |
| １４ | 1/6 | 事例に合わせた評価（評価計画の立案）　事例３ | 〃 |
| １５ | 1/13 | 発表 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一他：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学第３版，医学書院<br>２．福田恵美子：標準作業療法学　発達過程作業療法学　第３版，医学書院<br>３．岩崎清隆・鴨下賢一：発達障害の作業療法基礎編　第３版，三輪書店<br>４．岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一：発達障害の作業療法実践編　第３版，三輪書店 |
| 参考図書 | 福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社CBR |
| 予習・復習内容 | 授業該当範囲の予習と復習を行い，疑問点について質問できるようにしてください. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　７０％，課題レポート　２０％，授業及びグループワークへの参加度　１０％ |
| 履修上の注意 | グループワークでは主体的に取り組み，ディスカッションを深めてください.<br>実技を行う際はジャージを着用してください. |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，病院，地域の児童福祉施設で発達障害児者の支援経験を持っていることから，臨床場面に即した実践的な知識や内容を伝える. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 発達系作業療法治療学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | １．発達障害作業療法で対象となる主たる疾患について，それぞれ障害像に合わせた作業療法の基本的なアプローチについて学習する。<br>２．ライフステージに応じた課題の絞り込み，目標設定，治療の方向性について学習する。<br>３．対象児者に合わせて評価～治療計画まで考えられるようになる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．　発達障害作業療法の対象となる疾病と作業療法との関係について説明することができる．<br>２．　基本的な治療理論やアプローチについて説明できる．<br>３．　ライフサイクルを考慮しながら課題を絞り込み，目標設定することができる．<br>４．　対象児者に合わせて治療計画を検討し，説明することができる． | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 発達障害作業療法の歴史的変遷と哲学 | 松下　雅子 |
| 2 | | 発達障害作業療法で用いられる基本的治療理論 | 〃 |
| 3 | | 発達障害作業療法の評価から治療の流れ，進め方 | 〃 |
| 4 | | 事例検討　　全体像の把握～課題の焦点化 | 〃 |
| 5 | | 事例検討　　目標設定 | 〃 |
| 6 | | 脳性麻痺等運動機能障害に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| 7 | | 重症心身障害に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| 8 | | 知的障害に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| 9 | | 自閉症スペクトラム障害に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| １０ | | 注意欠如・多動性障害，学習障害に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| １１ | | 神経筋疾患に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| １２ | | 骨関節疾患に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| １３ | | 治療計画の立案とそのポイント | 〃 |
| １４ | | 事例検討　　治療計画の立案 | 〃 |
| １５ | | 発表 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一他：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学第３版，医学書院<br>２．福田恵美子：標準作業療法学　発達過程作業療法学　第３版，医学書院<br>３．岩崎清隆・鴨下賢一：発達障害の作業療法基礎編　第３版，三輪書店<br>４．岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一：発達障害の作業療法実践編　第３版，三輪書店 |
| 参考図書 | 福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社CBR |
| 予習・復習内容 | 授業範囲に関して予習・復習を行い，主体的に授業にのぞんでください． |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　７０％，課題レポート　２０％，授業及びグループワークへの参加度　１０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，病院，地域の児童福祉施設で発達障害児者の支援経験を持っていることから，臨床場面に即した実践的な知識や内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 発達系作業療法治療学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | １．運動機能障害を持つ児者に対するpositioningの基本を，演習を通して学習する。<br>２．発達系作業療法治療学Ⅰで学んだことを応用し，障害特性やライフサイクルを考慮した作業療法アプローチを検討できる。<br>３．事例に合わせて作業療法アプローチを検討し，プログラムの一部を発表する。<br>４．発達障害児者の家族支援や，地域支援，多職種連携について学習する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．　基本的なpositioningの手技を身につけ，学生相手に実施できる.<br>２．　疾患特性や障害像，ライフサイクルに合わせた作業療法アプローチを検討し，説明することができる.<br>３．　事例に合わせて実現可能な作業療法プログラムを立案し，一部を発表することができる.<br>４．　グループワークを通して問題解決のためのディスカッションを行い，自分自身の意見を述べることができる.<br>５．　発達障害児者に関わる様々な職種との連携のあり方を理解し，説明することができる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | Positioningの基本と実践（講義） | 松下　雅子 |
| 2 | | Positioningの基本と実践（演習） | 〃 |
| 3 | | 感覚統合障害に対する作業療法アプローチ | 〃 |
| 4 | | その他臨床で出会う疾患について | 〃 |
| 5 | | 発達障害児者の家族支援 | 〃 |
| 6 | | 地域支援，教育機関との連携について | 〃 |
| 7 | | 発達障害作業療法の展開，最近のトピックス | 〃 |
| 8 | | 発達障害児者に対するSSTの実践 | 〃 |
| 9 | | 事例検討（事例に合わせた作業療法アプローチの検討）　事例１ | 〃 |
| １０ | | 事例検討（事例に合わせた作業療法アプローチの検討）　事例２ | 〃 |
| １１ | | 事例検討（事例に合わせた作業療法アプローチの検討）　事例３ | 〃 |
| １２ | | 事例検討（プログラム発表）　グループ１～４ | 〃 |
| １３ | | 事例検討（プログラム発表）　グループ５～８ | 〃 |
| １４ | | 事例検討（プログラム発表）　グループ９～１２ | 〃 |
| １５ | | まとめとフィードバック | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．能登真一他：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学第３版，医学書院<br>２．福田恵美子：標準作業療法学　発達過程作業療法学　第３版，医学書院<br>３．岩崎清隆・鴨下賢一：発達障害の作業療法基礎編　第３版，三輪書店<br>４．岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一：発達障害の作業療法実践編　第３版，三輪書店 |
| 参考図書 | 福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社CBR |
| 予習・復習内容 | 授業範囲に関して予習・復習を行い，主体的に授業にのぞんでください. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　５０％，実技試験　１０％，課題レポート　１０％，発表及び発表用資料　２０％，授業及びグループワークへの参加度　１０％ |
| 履修上の注意 | グループワークでは主体的に取り組み，ディスカッションを深めてください.<br>実技を実施する際は，動きやすい服装（ジャージ着用）で参加してください. |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，病院，地域の児童福祉施設で発達障害児者の支援経験を持っていることから，臨床場面に即した実践的な知識や内容を伝える. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 高次脳機能系作業療法学Ⅰ | | | | | | | | |
| 担当教員 | 外里　冨佐江 | | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | １．高次脳機能障害の基礎知識を理解できる<br>２．高次脳機能障害の主な症状と成り立ちを理解できる<br>３．高次脳機能障害の代表的な検査法を修得する | | | | | | | | |
| 学習目標 | １．高次脳機能障害を説明できる<br>２．高次脳機能障害の種類・概要を説明できる<br>３．高次脳機能障害の解釈方法を説明できる<br>４．高次脳機能障害の評価を説明できる | | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 高次脳機能障害の基礎知識（高次脳機能のとらえ方） | 外里　冨佐江 |
| 2 | | 高次脳機能障害（失語） | 〃 |
| 3 | | 高次脳機能障害（失行） | 〃 |
| 4 | | 高次脳機能障害（失認、半側無視） | 〃 |
| 5 | | 高次脳機能障害（記憶障害・注意障害） | 〃 |
| 6 | | 高次脳機能障害（遂行機能障害） | 〃 |
| 7 | | 高次脳機能障害（その他） | 〃 |
| 8 | | 小テスト | 〃 |
| 9 | | 高次脳機能障害の評価（失語・失行）グループワーク | 〃 |
| １０ | | 高次脳機能障害の評価（記憶障害・注意障害・遂行機能障害）グループワーク | 〃 |
| １１ | | 高次脳機能障害の評価（失認・半側空間無視）グループワーク | 〃 |
| １２ | | 高次脳機能障害の評価（記憶障害・注意障害・遂行機能障害）グループワーク | 〃 |
| １３ | | 高次脳機能障害の評価　発表 | 〃 |
| １４ | | 高次脳機能障害の評価　発表 | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 登真一編：高次脳機能作業療法学，医学書院，<br>講師作成の配布資料 |
| 参考図書 | １．鈴木孝治編：高次脳機能障害作業療法学改訂第2版，メジカルビュー社，2012<br>２．石合純夫：高次脳機能障害学第2版，医歯薬出版，2003 |
| 予習・復習内容 | 教科書や授業資料を復習・予習し授業に臨むこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：試験６０％，小テスト２０％，レポート２０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | メール（大学のHPに記載） |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者は臨床経験を有する作業療法士である。作業療法の臨床現場ではよく遭遇する事例であるため基礎的な知識を身に着ける授業である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 高次脳機能系作業療法学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 外里　冨佐江 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | １．高次脳機能障害の生活障害を理解できる。<br>２．高次脳機能障害の画像診断を修得する。<br>３．高次脳機能障害の代表的な治療法を修得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．高次脳機能障害とは何かを説明できる（授業目標１）<br>２．高次脳機能障害の特徴と捉え方を説明できる（授業目標１，２）<br>３．高次脳機能障害が作業行動に与える影響について説明できる（授業目標１）<br>４．作業療法プログラムの立案ができる（授業目標３） | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 評価実習のフィードバック | 外里　冨佐江 |
| 2 | | 身近な素材でActivityを考える　① | 〃 |
| 3 | | 身近な素材でActivityを考える　② | 〃 |
| 4 | | 身近な素材でActivityを考える　発表 | 〃 |
| 5 | | 集団プログラム　羅針盤　① | 〃 |
| 6 | | 集団プログラム　羅針盤　② | 〃 |
| 7 | | 認知訓練　① | 〃 |
| 8 | | 認知訓練　② | 〃 |
| 9 | | 事例検討（１）作業療法プログラム立案 | 〃 |
| １０ | | 事例検討（２）作業療法プログラム立案 | 〃 |
| １１ | | 事例検討（３）作業療法プログラム立案 | 〃 |
| １２ | | 事例検討（４）作業療法プログラム立案 | 〃 |
| １３ | | 事例検討　発表 | 〃 |
| １４ | | 事例検討　発表 | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 登真一編：高次脳機能作業療法学，医学書院，<br>講師作成の配布資料 |
| 参考図書 | 石合純夫：高次脳機能障害学第2版，医歯薬出版，2003 |
| 予習・復習内容 | 事前に教科書を読み予習すること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート３０％、発表３０％、テスト４０％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | メール（大学のHPで確認） |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者は臨床経験を有する作業療法士である。高次脳機能障害の対象者への介入の基礎的な授業を行う。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 高齢期作業療法学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 作業療法の対象となる高齢者および老年期障害の特徴を理解し，高齢期作業療法における評価から目標設定の流れに続き，具体的な介入方法，援助方法について習得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．高齢者および老年期障害を理解する<br>２．高齢者を取り巻く医療・保健・福祉領域における社会環境を理解する<br>３．高齢者および老年期障害者に対する作業療法の役割および援助法を理解する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | 高齢社会，高齢者社会制度の変遷 | 宮脇　利幸 |
| 2 | 10/6 | 高齢期の課題：加齢と老化 | 〃 |
| 3 | 10/13 | 高齢期の一般的特徴 | 〃 |
| 4 | 10/20 | 高齢期の生活障害とQOL | 〃 |
| 5 | 10/27 | 老年期作業療法の役割 | 〃 |
| 6 | 11/10 | 高齢期作業療法　評価：身体的遂行要素 | 〃 |
| 7 | 11/17 | 高齢期作業療法　評価：情緒的遂行要素 | 〃 |
| 8 | 11/24 | 高齢期作業療法　評価：認知的遂行要素 | 〃 |
| 9 | 12/1 | 高齢期作業療法　評価：ADL　他 | 〃 |
| １０ | 12/8 | 高齢期作業療法の実践：病期の違いによる援助 | 〃 |
| １１ | 12/15 | 高齢期作業療法の実践：実施場所の違いによる援助 | 〃 |
| １２ | 12/22 | 高齢期作業療法の実践：介護予防 | 〃 |
| １３ | 1/5 | 介護保険制度 | 〃 |
| １４ | 1/12 | 介護保険サービス | 〃 |
| １５ | 1/19 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．松房利憲･新井健吾編；標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学．医学書院<br>２．岩崎テル子，小川恵子他編：標準作業療法学専門分野 作業療法評価学．医学書院 |
| 参考図書 | 大塚俊男，本間昭 監修;高齢者のための知的機能検査の手引き.ワールドプランニング |
| 予習・復習内容 | 授業内容に沿って，事前に教科書を読んでおいて下さい |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験　１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，病院，高齢者福祉・保健施設での臨床経験および高齢者を対象とした研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 高齢期作業療法学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 高齢期に多い疾患の特徴とそれをふまえた援助法を講義およびグループワークを通じて高齢者に対する作業療法での援助法を習得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．高齢者および老年期障害を理解する<br>２．高齢者および老年期障害者に対する作業療法の役割および援助法を理解する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 高齢期作業療法の治療的枠組み | 宮脇　利幸 |
| 2 | | 老年症候群:転倒，骨折，寝たきり | 〃 |
| 3 | | 老年症候群:褥瘡，浮腫．　ポジショニング | 〃 |
| 4 | | 老年症候群:低栄養，嚥下障害 | 〃 |
| 5 | | 老年症候群:排尿・排便障害，睡眠障害 | 〃 |
| 6 | | 老年症候群:うつ | 〃 |
| 7 | | 廃用症候群 | 〃 |
| 8 | | 高齢者のリスク管理 | 〃 |
| 9 | | 高齢期に多い疾患と作業療法：　認知症 | 〃 |
| １０ | | 高齢期に多い疾患と作業療法：　認知症とコミュニケーション | 〃 |
| １１ | | 高齢期に多い疾患と作業療法：　パーキンソン病，パーキンソン症候群 | 〃 |
| １２ | | 高齢期に多い疾患と作業療法：　運動器疾患 | 〃 |
| １３ | | 高齢者と集団作業療法（講義） | 〃 |
| １４ | | 高齢者と集団作業療法（実技） | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 松房利憲･新井健吾編；標準作業療法専門分野 高齢期作業療法学 第3版．医学書院 |
| 参考図書 | １．大内尉義　編集；標準PT学･OT学専門基礎分野　老年学．医学書院<br>２．亀田メディカルセンター 編集；リハビリテーション リスク管理ハンドブック．メジカルビュー社 |
| 予習・復習内容 | 授業内容に沿って，事前に教科書を読んでおいて下さい |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験　１００％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，病院，高齢者福祉・保健施設での臨床経験および高齢者を対象とした研究経験を有すことから，基礎的知識および臨床に基づいた内容を伝える． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日常生活活動学Ｉ | | | | | | | |
| 担当教員 | 清水　万紀子　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 日常生活活動の意義やその評価方法について学び，評価の目的，判定，記録方法についての知識を得る。また，日常生活活動の分析を行い，心身機能・身体構造や環境との関連性について理解を深め，活動に与える影響を学ぶ。さらに，対象者の動作や活動の特性を理解するために，演習を行う。また，自助具や福祉用具の種類や適応となる疾患，導入時の注意点などについて理解を深めることを目的とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．日常生活活動の概念を理解、説明することができる<br>２．日常生活活動の基本的な評価方法を習得する<br>３．日常生活活動の基本的は動作指導・介助方法を習得する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 日常生活活動の概念と範囲 | 清水・北澤 |
| 2 | 10/5 | 日常生活活動とＩＣＦとの関連 | 〃 |
| 3 | 10/12 | ＡＤＬへの作業療法の役割 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 基本的ＡＤＬ：起居・移乗 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 基本的ＡＤＬ：食事（摂食・嚥下） | 〃 |
| 6 | 11/2 | 基本的ＡＤＬ：入浴・更衣 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 基本的ＡＤＬ：排泄動作 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 生活関連活動（Ｉ-ＡＤＬ、コミュニケーションＡＤＬ、余暇活動） | 〃 |
| 9 | 11/30 | グループワーク：食事・整容動作 | 〃 |
| １０ | 12/7 | グループワーク：ベッド動作、起居 | 〃 |
| １１ | 12/14 | グループワーク：起居・移乗援助 | 〃 |
| １２ | 12/21 | グループワーク:更衣援助 | 〃 |
| １３ | 1/4 | グループワーク：トイレ動作、入浴動作 | 〃 |
| １４ | 1/18 | ＡＤＬ評価の実際：Barthel Index | 〃 |
| １５ | 1/25 | ＡＤＬ評価の実際：ＦＩＭ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 濱口豊太編：標準作業療法学　日常生活活動・社会生活行為学.医学書院 |
| 参考図書 | 特になし。必要な資料を配布。 |
| 予習・復習内容 | 教科書に前もって目を通しておくこと。動作演習は回数を実践しないと習得できないので積極的に行うこと。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験７０％　課題レポート３０％ |
| 履修上の注意 | 演習には積極的に参加し、理解を深めること。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 担当者は臨床経験を有する作業療法士である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日常生活活動学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 清水　万紀子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 日常生活活動学で学んだ基本的理論と評価方法をもとに，様々な疾患・環境的要因を背景とする事例に対して，個別性を重んじながら，どのように日常生活活動の治療的アプローチを実践したらよいか，グループで検討しながら考察を深める。また自助具の作成，家事動作指導の実際や実技を習得することが出来る。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．家庭生活をイメージし、個々の状態（身体・精神・家庭環境）に合わせた生活行為について理解する<br>２．個別性に合わせた環境整備についての説明と支援ができる<br>３．ADL・IADLを総合的に捉え、作業療法プログラムが立てられる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 日常生活活動支援のための自助具の役割 | 清水　万紀子 |
| 2 | | 日常生活活動支援のための自助具作製計画：グループワーク | 〃 |
| 3 | | 日常生活活動支援のための自助具作製：グループワーク | 〃 |
| 4 | | 日常生活活動支援のために自助具作製続き：グループワーク | 〃 |
| 5 | | 作製自助具の発表とディスカッション | 〃 |
| 6 | | 作製自助具の発表とディスカッション続き | 〃 |
| 7 | | 家事動作指導（掃除・洗濯など） | 〃 |
| 8 | | 家事動作指導実技（片手動作による炊事など） | 〃 |
| 9 | | 日常生活支援のための住宅改修・福祉用具選定（トイレ動作支援に焦点を当ての援助を考える） | 〃 |
| １０ | | 〃　　脳血管障害（グループワーク） | 〃 |
| １１ | | 〃　　脊髄損傷（グループワーク） | 〃 |
| １２ | | 〃　　パーキンソン病（グループワーク） | 〃 |
| １３ | | 〃　　関節リウマチ（グループワーク） | 〃 |
| １４ | | 発表とディスカッション | 〃 |
| １５ | | 発表とディスカッション続き | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 濱口豊太：標準作業療法　日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院 |
| 参考図書 | 長崎重信監修：作業療法ゴールドマスターテキスト　日常生活活動・福祉用具学。メジカルビュー社<br>その他　適宜資料配布 |
| 予習・復習内容 | 各疾病特性について復習した上で、各障碍に合わせたＡＤＬ支援を考える |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験８０％　課題レポート１０％　発表内容１０％ |
| 履修上の注意 | グループでの活動が多いため、積極的に意見を出し合いながら発表レポートをまとめること |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床経験を有する作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法系義肢装具学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 高嶋　孝倫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 義肢装具の種類について用語の徹底から基本構成，さらには使用目的に適応した機能を教授する。Ⅰでは，作業療法士が関与することが多い上肢装具に重点を置き，基本的かつ使用頻度の高い装具について解説し，スプリントの製作を含める。国家試験に出題される歴史的な義肢装具についても触れる。装具は体表から力を架ける／受ける事によって成立する事から，随所に基礎力学の解説を含めて教授する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．上肢装具の種類と支給体系を説明できる。<br>２．スプリントの原理と効果を理解する。<br>３．下肢装具の基本構造と装具歩行を理解し説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 総論：義肢装具の種類と適応，処方の流れ，支給体系，用語体系 | 高嶋　孝倫 |
| 2 | | 装具総論：装具の種類と目的，装具の処方と適合判定 | 〃 |
| 3 | | 上肢装具：種類と適応 | 〃 |
| 4 | | 上肢装具の疾患別適応：リウマチ，外傷性疾患，その他骨関節疾患 | 〃 |
| 5 | | ハンドスプリント：指用スプリントの製作方法（実習） | 〃 |
| 6 | | 上肢装具の疾患別適応：末梢神経障害，その他神経疾患 | 〃 |
| 7 | | ハンドスプリント：カックアップスプリントの製作方法（実習） | 〃 |
| 8 | | ハンドスプリント：カックアップスプリントの製作方法（実習） | 〃 |
| 9 | | 屈曲ダイナミックスプリント，装具の採型と陽性モデル（実習） | 〃 |
| １０ | | 屈曲ダイナミックスプリント，装具の採型と陽性モデル（実習） | 〃 |
| １１ | | 下肢装具：種類と適応，短下肢装具；短下肢装具の剛性と矯正 | 〃 |
| １２ | | 尖足歩行と装具歩行 | 〃 |
| １３ | | 長下肢装具，骨盤帯長下肢装具，膝装具 | 〃 |
| １４ | | 二分脊椎と下肢装具 | 〃 |
| １５ | | 脳性麻痺と下肢装具 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 義肢装具と作業療法　大庭潤平，他，編著，医歯薬出版 |
| 参考図書 | 日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版 |
| 予習・復習内容 | 関連する身体部位の解剖学・運動学，および適用となる疾患について復習しておくことが望ましい. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:takashima.takamichi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 義肢装具の実務経験と教育経験を有する. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法系義肢装具学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 高嶋　孝倫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | Ⅱでは，靴型装具，体幹装具の概念と構成，疾患適用について享受する。作業療法士が関与することが多い義手では，基本的，かつ使用頻度の高い義手について解説する。国家試験に出題される歴史的な義手についても触れる。義手は欠失した上肢機能の一部を代償する事によって成立し，上肢切断者のADLで必要となる事から，操作・調整の実習を含める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．靴型装具・体幹装具の種類と基本構造を理解し説明できる。<br>２．義手の基本構造と動作原理を理解し説明できる。<br>３．義手の操作について体験的に学ぶ。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 靴型装具：足の変形と矯正，一般靴と靴型装具，靴型装具の構成要素 | 高嶋　孝倫 |
| 2 | | 靴型装具：一般靴と靴型装具，靴型装具の適用 | 〃 |
| 3 | | 足底装具：足底圧分散の概念，靴型装具と足底装具の適応 | 〃 |
| 4 | | 体幹装具：種類と適応疾患，基本構成，腰痛と体幹装具 | 〃 |
| 5 | | 体幹装具：胸椎疾患，側弯症，頚椎装具 | 〃 |
| 6 | | 義手総論：上肢切断と義手の種類，構成要素 | 〃 |
| 7 | | 前腕義手：構成要素 | 〃 |
| 8 | | 前腕義手：能動義手，義手操作体験（実習） | 〃 |
| 9 | | 上腕義手：構成要素 | 〃 |
| １０ | | 上腕義手：上腕能動義手の機能と調整方法 | 〃 |
| １１ | | 能動義手操作の基本と体験，上腕能動義手の機能と調整方法（実習） | 〃 |
| １２ | | 能動義手操作の基本と体験，上腕能動義手の機能と調整方法（実習） | 〃 |
| １３ | | 上腕義手，肩義手：ソケット，肘継手，肩継手 | 〃 |
| １４ | | 電動義手：筋電義手の原理と実際，ハイブリッド義手 | 〃 |
| １５ | | 下肢切断　と　義足 のはなし | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 義肢装具と作業療法　大庭潤平，他，編著，医歯薬出版 |
| 参考図書 | 日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版 |
| 予習・復習内容 | 関連する身体部位の解剖学・運動学，および適用となる疾患について復習しておくことが望ましい. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:takashima.takamichi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 義肢装具の実務経験と教育経験を有する. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 職業前評価・治療学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 春原　るみ | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | ひとの人生において職業に就く（働く）ことの意味を理解し，作業的公正の視点から障害を持つひとの就労支援について，作業療法士の就労支援における役割と可能性について最新のトピックスを理解しながら学ぶ。障害を持つ人に対する就業支援に必要な法律，事業所等の環境についてや，就労支援に必要なパラダイム・理論，支援に必要な面接，評価，計画などの技術を学習する。また，実際に地域の就労支援施設を訪問し，障害を持つひとが働くということや就労について理解する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．職業（働く）ことの意味を理解し、説明できる.<br>２．職業リハビリテーションに関わる知識、法律、関連施設について理解し、説明できる.<br>３．就労支援における作業療法士の役割を理解し、説明できる.<br>４．就労支援での作業療法遂行過程での評価過程・方法、留意点を理解し、説明できる.<br>５．就労支援での作業療法遂行過程での治療過程を理解し、説明できる.<br>６．地域の就労支援施設に行き実際に就労の場のについて理解し、説明できる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 職業の意味と就労支援に関する理論 | 春原　るみ |
| 2 | | 障害者と職業　障害者の就労 | 〃 |
| 3 | | 障害者と職業　就労支援技術 | 〃 |
| 4 | | 職業関連活動における作業療法　文献抄読と討論 | 〃 |
| 5 | | 職業関連活動における作業療法　作業療法士の役割 | 〃 |
| 6 | | 職業関連活動における作業療法　評価過程 | 〃 |
| 7 | | 職業関連活動における作業療法治療過程 | 〃 |
| 8 | | 障害別就労支援　統合失調症 | 〃 |
| 9 | | 障害別就労支援　うつ病 | 〃 |
| １０ | | 障害別就労支援　身体障害 | 〃 |
| １１ | | 障害別就労支援　高次脳機能障害 | 〃 |
| １２ | | 障害別就労支援　知的障害 | 〃 |
| １３ | | 職務分析とは | 〃 |
| １４ | | 地域就労施設での実習 | 〃 |
| １５ | | 地域就労施設での実習 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 平賀昭信、岩瀬義昭編集：作業療法技術学４　職業関連活動．協同医書出版 |
| 参考図書 | ジャーナルなど必要に応じて授業の中で紹介する. |
| 予習・復習内容 | 教科書・資料をよく読んでおくこと. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート３０％、期末試験７０％ |
| 履修上の注意 | 地域社会で人が働くことに関連する制度やサービス内容などの現在の状況についての情報を収集すること. |
| 担当教員への連絡方法 | 授業初回時アナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として就労支援を行った経験を有する. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法治療学演習(総合) | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲　　外里　冨佐江　　宮脇　利幸　　春原　るみ　　清水　万紀子<br>栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 臨床現場で求められる対象者への適切な関わり，検査や面接，治療介入の実施などの臨床能力を高めることと4年次臨床実習前に各学生の臨床能力の学習程度を確認することを目的として，患者を想定した状況で検査や面接技法などの実践能力と治療計画立案能力の習得状況を確認する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．職業人・作業療法学生として適切な行動がとれる。<br>２．対象者に対して適切な動作の誘導・介助，評価手技ができる<br>３．ICFに基づき全体像を把握し、作業療法の一連の実施プロセスを理解する<br>４．記録および報告を適切に実施できる<br>５．作業療法計画を立案できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 少人数グループに分かれ、身体領域，精神領域，発達領域の各領域で想定された模擬患者に対して面接，評価，作業療法立案など与えられた臨床技能の課題をおこなう. | 松房　利憲<br>外里　冨佐江<br>宮脇　利幸<br>春原　るみ<br>清水　万紀子<br>栗林　美智子<br>松下　雅子<br>古川　智巳<br>北澤　一樹 |
| 2 | | 各グループは5時限／１クールで３クールおこなう | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 指定なし |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | ３年次までに学習した内容を十分復習し，基本的な検査・測定や治療については練習をしておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：臨床技能課題の遂行度５０％，課題レポート５０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 各教員は作業療法士として，病院，施設での臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地域作業療法学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 外里　冨佐江　　清水　万紀子　　春原　るみ　　松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 地域作業療法の視点を養うために生活障害のとらえ方と作業活動の広がりを理解する．地域作業療法の実践過程における評価の視点から支援計画までの枠組みを理解する。<br>地域作業療法を実践するためのプログラム立案と実践方法を事例から理解する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．身近な地域で働いている作業療法士を知ることができる．<br>２．身体障害，発達障害，精神障害，老年期障害の各領域の作業療法を説明できる．<br>３．生活構造の視点と地域作業療法の評価の視点の共通性について説明できる．<br>４．地域作業療法における評価から援助目標が説明できる． | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 地域リハビリテーションと作業療法 | 外里　冨佐江<br>清水　万紀子<br>春原　るみ<br>松下　雅子 |
| 2 | | 身体障害領域における社会資源と作業療法士の役割 | |
| 3 | | 身体障害領域における社会資源と事例紹介 | |
| 4 | | 発達障害領域における社会資源と事例紹介 | |
| 5 | | 身体障害領域における社会資源と事例紹介 | |
| 6 | | 精神障害領域における社会資源と作業療法士の役割 | |
| 7 | | 精神障害領域における社会資源と事例紹介 | |
| 8 | | 高齢者領域における社会資源と作業療法士の役割 | |
| 9 | | 高齢者領域における社会資源と事例紹介 | |
| １０ | | 終末期医療における作業療法① | |
| １１ | | 終末期医療における作業療法② | |
| １２ | | 作業療法におけるIT活用① | |
| １３ | | 作業療法におけるIT活用② | |
| １４ | | 未来における作業療法士の役割を考える | |
| １５ | | まとめ | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 矢谷令子　監修，二木俶子他(編)標準作業療法学　作業療法概論　医学書院 |
| 参考図書 | １．長崎重信　監修，里村恵子編　作業療法学概論　メヂカルビュー<br>２．矢谷令子・福田恵美子　編集　作業療法実践の仕組み　協同医書 |
| 予習・復習内容 | グループでの議論や発表が中心になるため，積極的な授業への参加を期待する．また，　広範な知識を必要とするので，新聞，メディアの情報に敏感であること． |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験５０％，レポート５０％ |
| 履修上の注意 | なし |
| 担当教員への連絡方法 | メールで連絡をする（大学のHPに記載） |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，各々高齢期，身体，精神，発達領域において臨床実務経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地域作業療法学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 外里　冨佐江　　清水　万紀子　　春原　るみ　　松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 地域で作業療法・リハビリテーションを展開していく上での他職種との協業の必要性，地域性，ニーズ抽出，プログラム展開，援助方法について，グループワークを通して考える。具体的には介護予防の事業を基に，地域における高齢者のための作業療法的プログラムを，健康教育の方法として考える。また，精神障害や発達障害を含めてプロシードプリシードモデルなどの集団的アプローチ手法を等して具体的な健康課題を設定し，その解決方法を演習する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．地域のニーズ抽出の手法を知り、説明することができる。<br>２．目標に沿った具体的なプログラムの展開方法を立案することができる。<br>３．介護予防事例を学び、実践できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | 外里　冨佐江<br>清水　万紀子<br>春原　るみ<br>松下　雅子 |
| 2 | | 地域作業療法の実際　プログラム立案　① | |
| 3 | | 地域作業療法の実際　プログラム立案　② | |
| 4 | | 地域作業療法の実際　プログラム実施　① | |
| 5 | | 地域作業療法の実際　プログラム実施　② | |
| 6 | | フィードバック　① | |
| 7 | | 地域作業療法の実際　プログラム立案　③ | |
| 8 | | 地域作業療法の実際　プログラム立案　④ | |
| 9 | | 地域作業療法の実際　プログラム実施　③ | |
| １０ | | 地域作業療法の実際　プログラム実施　④ | |
| １１ | | 地域作業療法の実際　プログラム実施　⑤ | |
| １２ | | 地域作業療法の実際　プログラム実施　⑥ | |
| １３ | | 地域作業療法の実際　プログラム実施　⑦ | |
| １４ | | フィードバック　② | |
| １５ | | まとめ | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 使用しない．適宜資料の配布をおこなう． |
| 参考図書 | １．作業療法士協会監修：作業の捉え方と評価･支援技術，医歯薬出版<br>２．大渕修一他監修：介護予防完全マニュアル，東京都高齢者研究･福祉振興財団 |
| 予習・復習内容 | 事前学習が必須である．また、課題の進行に合わせて各自復習をすること．積極的な授業への参加を求める |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験４０％．レポート６０％ |
| 履修上の注意 | 地域でプログラムを実施するので言葉遣い、礼儀などに気をつけること |
| 担当教員への連絡方法 | メールで連絡（大学のHPに記載） |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，各々高齢期，身体，精神，発達領域において臨床実務経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 臨床見学実習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲　　外里　冨佐江　　宮脇　利幸　　春原　るみ　　清水　万紀子<br>栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 作業療法を志す学生にとって臨床見学の持つ意味は重要である。現場の作業療法士の対象者への関わり方や対象者の状態を間近に見ることによって、将来の職業についてイメージを持つことができる。また、作業療法士が組織の中で関係職種と連携をとらなければならないことも知ることができる。そして、作業療法士になるための意識を高めることにつながる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各施設における対象者の状態を知ることができる<br>２．各領域で作業療法士が対象者にどのように関わっているかを知ることができる<br>３．各領域の対象者と作業療法士の関わり方の違いを知ることができる<br>４．各施設での職員の連携のあり方を知ることができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | １～４回　６月に県内身体障害領域関連病院にて施設オリエンテーション，施設内見学，作業療法場面見学，フィードバック | 松房　利憲<br>外里　冨佐江<br>宮脇　利幸<br>春原　るみ<br>清水　万紀子<br>栗林　美智子<br>松下　雅子<br>古川　智巳<br>北澤　一樹 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | ５～８回　６月に県内発達障害領域関連施設にて施設オリエンテーション，施設内見学，作業療法場面見学，フィードバック | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | ９～１１回　７月に県内高齢者領域関連施設にて施設オリエンテーション，施設内見学，対象者面接，フィードバック | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | １２～１５回　６月に県内身体障害領域関連病院にて施設オリエンテーション，施設内見学，作業療法場面参加，フィードバック | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | オリエンテーション資料，必要に応じたプリントを配布する。教科書は使用しない。 |
| 参考図書 | 山口美和：PT・OTのための　これで安心　コミュニケーション実践ガイド　第2版，医学書院 |
| 予習・復習内容 | 実習にふさわしい身だしなみの準備と事前学習を行う。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：見学態度５０％，レポート５０％ |
| 履修上の注意 | 事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、引率者・説明者の言うことをよく聞き、自ら積極的に行動すること |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーション時にアナウンスする。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 各教員は作業療法士として臨床経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法臨床評価実習Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 松房　利憲　　外里　冨佐江　　宮脇　利幸　　春原　るみ　　清水　万紀子<br>栗林　美智子　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 臨床現場である実習施設の機能，各医療従事者と対象者の関わりや作業療法士の業務と範囲さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な問題点を学ぶ。学内教育で学んだ知識・技術をもとに，対象者に応じて適切な情報を集め基本的検査・測定などの評価を実施し，対象者の全体像を把握する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．作業療法士の具体的な業務と範囲を学び説明することができる。<br>２．指導を受けながら、対象者の状況に応じて適切な検査測定が実施できる。<br>３．学内で学んだ知識を、臨床場面の体験を等して学び、理解することができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 令和３年２月２２日から３月５日の２週間 | 松房　外里<br>宮脇　春原<br>清水　栗林<br>松下　古川<br>北澤 |
| 2 | | 事前にオリエンテーションを実施する。 | |
| 3 | | 臨床実習の手引きを熟読し、確認すること。 | |
| 4 | | 実習終了後、反省会・発表会を実施する。 | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 事前のオリエンテーション資料を配付する。<br>指定される教科書はない。 |
| 参考図書 | 必要に応じて、各領域の専門科目で使用した教科書や資料を参考にすること。 |
| 予習・復習内容 | 実習配置された施設の機能や役割について、対象領域の主な疾患や評価法について十分に事前学習して臨むこと。<br>実習中は、指導者と相談しながら臨床で得た疑問について主体的に自己学習すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：臨床評価実習の遂行状況　６０％　学内での発表　４０％ |
| 履修上の注意 | 事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ら積極的に行動すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーションでアナウンスする。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 各教員は作業療法士として臨床経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法臨床評価実習Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 栗林　美智子　　宮脇　利幸　　松房　利憲　　外里　冨佐江　　清水　万紀子<br>春原　るみ　　松下　雅子　　古川　智巳　　北澤　一樹 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ３単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 臨床現場である実習施設の機能，各医療従事者と対象者の関わりや作業療法士の業務と範囲さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な問題点を学ぶ。臨床評価実習Ｉをもとに，治療プログラムを作成し，一部の治療技術を実践して，その過程・方法を具体的に学び，応用能力を養う。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．学内で学んだ知識をもとに、対象者に応じた検査測定などの評価が実施できる。<br>２．結果を解釈･分析･統合して対象者の全体像を把握することができる。<br>３．治療プログラムの作成を試み、治療手技を具体的に学び、応用する。<br>４．作業療法士部門の管理運営を学び、医療･社会における作業療法士の役割を理解する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 令和３年８月下旬から９月上旬までの３週間 | 栗林　宮脇<br>松房　外里<br>清水　春原<br>松下　古川<br>北澤 |
| 2 | | 事前にオリエンテーションを実施する. | |
| 3 | | 実習終了後、反省会を実施する. | |
| 4 | | 担当した事例の事例報告会を実施する. | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | 評価実習にあたり，事前にオリエンテーション資料を配布する. |
| 予習・復習内容 | これまで学んだ講義内容を復習し，担当事例の評価が実施できるように事前学習を行っておくこと.<br>臨床評価実習期間中は，実習指導者の指示を仰いで学習を進め，疑問点に関しては自己学習を行うこと.<br>実習終了後は，実習で得られた知識・技術・体験を振り返り，自己学習につとめること. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：臨床評価実習の遂行状況　６０％，学内での発表等　４０％ |
| 履修上の注意 | 事前のオリエンテーション内容を十分把握し，自ら積極的に行動すること. |
| 担当教員への連絡方法 | 実習オリエンテーション時にアナウンスします. |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 実習指導担当者は十分な臨床経験がある作業療法士である. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地域作業療法実習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　北澤　一樹　　古川　智巳　　松下　雅子　　栗林　美智子<br>春原　るみ　　清水　万紀子　　外里　冨佐江　　松房　利憲 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 地域作業療法は，家庭生活，地域生活，職業生活などの作業行動に不自由があり，そのために生活課題に支障をきたすおそれがある人を対象にして，人としての生活での再建・再構築を支援することである．この授業では，地域包括ケアを担う作業療法士にとって必要な心構え，実践能力などを実習経験を通して修得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．国際生活機能分類（ICF）によって，生活障害を説明できる<br>２．評価で得られた情報をもとに統合と解釈，対応すべき生活課題を焦点化できる<br>３．施設利用者や在宅生活者のリスク管理を記述できる<br>４．地域作業療法の目標と課題，関連職種，他機関との連携について説明できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | ４月～６月上旬の内1週間を予定。<br>事前にオリエンテーションを実施する。<br>臨地実習指導者のもと，通所または訪問リハビリテーションでの作業療法場面，他職種との連携を見学、体験する。 | 宮脇　北澤<br>古川　松下<br>栗林　春原<br>清水　外里<br>松房 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | 実習のオリエンテーション時に資料を配付する |
| 予習・復習内容 | 臨地実習先の指導者の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：実習の遂行状況６０％，課題レポート４０％ |
| 履修上の注意 | 臨地実習先の指導者の指示に従う |
| 担当教員への連絡方法 | 実習オリエンテーション時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 実習担当者は臨床経験５年以上の作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法臨床実習Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　北澤　一樹　　古川　智巳　　松下　雅子　　栗林　美智子<br>春原　るみ　　清水　万紀子　　外里　冨佐江　　松房　利憲 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ９単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 臨床実習を通して、学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合する過程とする。対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。<br>１期目では、関係者と良好な関係を築き、安定して維持できること。２年次３年次の評価実習体験とこれまでの学内学習をふまえ、対象者の全体像を的確に把握したうえで、指導を受けながら治療を行い、その効果判定ができる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合することができる<br>２．作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ，実践できる<br>３．医療・保健・福祉に関わる専門職としての認識を高める | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 臨床実習期間は，６月から８月にかけての８週間 | 宮脇　北澤<br>古川　松下<br>栗林　春原<br>清水　外里<br>松房 |
| 2 | | 事前にオリエンテーションを実施する | |
| 3 | | 臨床指導者会議において，指導者との面談の機会を設ける | |
| 4 | | 臨床実習終了後，反省会を実施する | |
| 5 | | 担当した事例の事例報告会を実施する | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | 事前のオリエンテーション資料を配付する |
| 予習・復習内容 | 臨地実習先の指導者の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：臨床実習の遂行状況６０％，学内での発表等４０％ |
| 履修上の注意 | 事前のオリエンテーションの内よを十分理解し，自ら積極的に行動すること |
| 担当教員への連絡方法 | 実習オリエンテーション時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 実習担当者は臨床経験５年以上の作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 作業療法臨床実習Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 宮脇　利幸　　北澤　一樹　　古川　智巳　　松下　雅子　　栗林　美智子<br>春原　るみ　　清水　万紀子　　外里　冨佐江　　松房　利憲 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ９単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 臨床実習を通して、学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合する過程とする。対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。２期目では、具体的な治療計画を自分で立てながら指導のもとに治療を行い、再評価、治療計画立て直しの一連のPDCAサイクルに基づく臨床実践ができるようになることを目標とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．学内教育で学習した知識と技術・技能を臨床における作業療法体験により統合することができる。<br>２．作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、実践できる。<br>３．保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 臨床実習期間は，９月末から１１月にかけての８週間 | 宮脇　北澤<br>古川　松下<br>栗林　春原<br>清水　外里<br>松房 |
| 2 | | 事前にオリエンテーションを実施する | |
| 3 | | 臨床指導者会議において，指導者との面談の機会を設ける | |
| 4 | | 臨床実習終了後，反省会を実施する | |
| 5 | | 担当した事例の事例報告会を実施する | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | 事前のオリエンテーション資料を配付する |
| 予習・復習内容 | 臨地実習先の指導者の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：臨床実習の遂行状況６０％，学内での発表等４０％ |
| 履修上の注意 | 事前のオリエンテーションの内容を十分理解し，自ら積極的に行動すること |
| 担当教員への連絡方法 | 実習オリエンテーション時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 実習担当者は臨床経験５年以上の作業療法士である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 大学基礎セミナー | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 建学の精神を学び，この大学で学修する決意を確認する。また，大学生として主体的に学ぶことの意味を理解する。この講座は大学教育へのスムーズな導入を目的とし，大学生としてのマナーや社会規範，コミュニケーションスキル，大学生活のリスク，研究の基礎能力などを学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．主体的に学び、課題解決能力を身につけ実践できる。<br>２．大学生としての基本的な学習技能を身につけ、日々の学習に活かすことができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 共に学ぶ仲間を知る、学生自己紹介 | 山本　良彦 |
| 2 | 4/15 | 建学の精神、大学で学ぶ心構え、Active Academyについて | 〃 |
| 3 | 4/22 | 大学生活の過ごし方（マナーとルール、学習態度） | 〃 |
| 4 | 4/29 | 学ぶ技術（聞く力、効果的な学習法） | 〃 |
| 5 | 5/13 | 学習に必要な情報収集のしかた、図書館の利用方法 | 〃 |
| 6 | 5/20 | 大学生活のおけるリスク管理①（ドラッグ、アルコール、性感染症など） | 〃 |
| 7 | 5/27 | 大学生活のおけるリスク管理②（悪徳商法、詐欺、SNS、アルバイト、ハラスメントなど） | 〃 |
| 8 | 6/10 | 自己理解と心の健康 | 〃 |
| 9 | 6/17 | 卒業後の進路（キャリアデザイン） | 〃 |
| １０ | 6/24 | 課題発見力 | 〃 |
| １１ | 7/1 | 研究のための基礎的能力①（情報収集力、情報整理力） | 〃 |
| １２ | 7/8 | 研究のための基礎的能力②（読解力、データ分析力） | 〃 |
| １３ | 7/15 | レポート、論文の基礎 | 〃 |
| １４ | 7/22 | 研究倫理、研究モラル | 〃 |
| １５ | 7/29 | プレゼンテーション（報告・発表）のしかた | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する |
| 参考図書 | １．山田剛史、林創：大学生のためのリサーチリテラシー、ミネルヴァ書房<br>２．藤本忠明、東正訓：ワークショップ大学生の心理学、ナカニシヤ出版<br>３．松本茂、河野哲也：大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法、玉川大学出版部<br>４．小笠原喜康：新版大学生のためのレポート・論文術、講談社現代新書 |
| 予習・復習内容 | 講義内容を自分に必要なスキルとして、振り返って欲しい |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：リフレクションペーパー５０％、レポート５０％ |
| 履修上の注意 | 学生便覧を持参すること |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | なし |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法基礎セミナー | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦　　金井　敏男　　川井　伸夫　　福谷　保<br>大町　かおり　　赤羽　勝司　　下坂　充　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 医療やリハビリテーションの分野において興味のある事柄についてグループで探求する。テーマは日々の素朴な疑問や講義で知り得た知識の確認がふさわしい。活動に対する結果を出すことも重要であるが，グループメンバー間で協力しながら情報収集，問題解決，発表準備などを進めていく過程を学んでほしい。また議論には積極的に参加し，能動的に関わるように努力してほしい。各グループには担当教員がファシリテーターとして配置されるので，必要に応じてアドバイスを受けること。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．課題を自ら発見し、ディスカッションできる。<br>２．グループ活動時には主体的に行動できる。<br>３．活動内容を総括し、プレゼンテーションできる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | | 担当教員 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | オリエンテーション、グループ分け | | 山本　良彦 |
| 2 | 10/7 | ワークショップ① | ※①～⑫のワークショップを通して基礎学習、調査、実験、討論、検討などを行い、問題解決の方法を学ぶ。 | 山本　良彦<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>福谷　保<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>下田　浩一 |
| 3 | 10/14 | ワークショップ② | | |
| 4 | 10/21 | ワークショップ③ | | |
| 5 | 10/28 | ワークショップ④ | | |
| 6 | 11/4 | ワークショップ⑤ | | |
| 7 | 11/11 | ワークショップ⑥ | | |
| 8 | 11/18 | ワークショップ⑦ | | |
| 9 | 11/25 | ワークショップ⑧ | | |
| １０ | 12/2 | ワークショップ⑨ | | |
| １１ | 12/9 | ワークショップ⑩ | | |
| １２ | 12/16 | ワークショップ⑪ | | |
| １３ | 12/23 | ワークショップ⑫ | | |
| １４ | 1/6 | 発表会① | ※グループ毎にプレゼンテーションの準備を行い、発表会において互いに質疑応答する。 | |
| １５ | 1/13 | 発表会② | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する |
| 参考図書 | 特になし |
| 予習・復習内容 | 活動後にグループ内で情報を共有する時間を設けること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：リフレクションペーパー３０％<br>発表会３０％<br>レポート４０％ |
| 履修上の注意 | テーマ決定、活動計画立案では積極的にアイデアを出すことが重要である |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 基本的には学生主体で進めて行くが、臨床経験の豊富な専任教員がファシリテーターとして関わり、学生の素朴な疑問をリサーチクエスチョンに高め、解明に導く。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 解剖学演習Ⅰ（骨格系） | | | | | | | |
| 担当教員 | 下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 骨，軟骨，関節，靭帯で構成される骨格系について，骨学，関節靭帯学の順に学習を進めていく。人体の構造を立体的に捉えて整理し，骨とその各部位の名称，関節とその運動の仕組み，関節における主要な靭帯とその機能について説明できることがねらいである。<br>授業は講義と実習を並行して行うが，標本模型等を利用した観察，スケッチによる実習が主体となるため，自学自習の精神を身に付けること，また，医療に携わる心構えを自覚することも期待される。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．骨の特徴を理解し，各部位の名称を説明できる<br>２．関節の構造と運動の仕組みを理解し説明できる<br>３．関節における主要な靭帯とその機能について理解し説明できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 骨学総論 | 下田　浩一 |
| 2 | 〃 | 骨学実習　上肢の骨 | 〃 |
| 3 | 4/14 | 骨学実習　上肢の骨 | 〃 |
| 4 | 〃 | 骨学実習　上肢の骨 | 〃 |
| 5 | 4/21 | 骨学実習　上肢の骨 | 〃 |
| 6 | 〃 | 骨学実習　下肢の骨 | 〃 |
| 7 | 4/28 | 骨学実習　下肢の骨 | 〃 |
| 8 | 〃 | 骨学実習　下肢の骨 | 〃 |
| 9 | 5/12 | 骨学実習　下肢の骨 | 〃 |
| １０ | 〃 | 骨学実習　脊柱の骨 | 〃 |
| １１ | 5/19 | 骨学実習　脊柱の骨 | 〃 |
| １２ | 〃 | 骨学実習　脊柱の骨 | 〃 |
| １３ | 5/26 | 骨学実習　脊柱の骨 | 〃 |
| １４ | 〃 | 骨学実習　胸郭・頭蓋の骨 | 〃 |
| １５ | 6/9 | 骨学実習　胸郭・頭蓋の骨 | 〃 |
| １６ | 〃 | 骨学実習　胸郭・頭蓋の骨 | 〃 |
| １７ | 6/16 | 骨学実習　胸郭・頭蓋の骨 | 〃 |
| １８ | 〃 | 関節靭帯学総論 | 〃 |
| １９ | 6/23 | 関節学実習　上肢の連結 | 〃 |
| ２０ | 〃 | 関節学実習　上肢の連結 | 〃 |
| ２１ | 6/30 | 関節学実習　上肢の連結 | 〃 |
| ２２ | 〃 | 関節学実習　上肢の連結 | 〃 |
| ２３ | 7/7 | 関節学実習　下肢の連結 | 〃 |
| ２４ | 〃 | 関節学実習　下肢の連結 | 〃 |
| ２５ | 7/14 | 関節学実習　下肢の連結 | 〃 |
| ２６ | 〃 | 関節学実習　下肢の連結 | 〃 |
| ２７ | 7/21 | 関節学実習　脊柱・脊柱と頭蓋および胸郭の連結 | 〃 |
| ２８ | 〃 | 関節学実習　脊柱・脊柱と頭蓋および胸郭の連結 | 〃 |
| ２９ | 7/28 | 関節学実習　頭蓋の連結 | 〃 |
| ３０ | 〃 | 関節学実習　頭蓋の連結 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．野村　嶬：標準理学療法・作業療法　解剖学，医学書院<br>２．坂井建雄監訳：プロメテウス解剖学コアアトラス，医学書院 |
| 参考図書 | 寺田春水・他：骨学実習の手引き，南山堂 |
| 予習・復習内容 | 予習よりも復習に力を入れましょう。知識の定着を確認するため小テストを行います。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験８０%，口頭試問（骨学１０%，関節靭帯学１０%） |
| 履修上の注意 | スケッチ用具として，スケッチブック，鉛筆，消しゴム，定規（１５㎝程度）を持参してください |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士として臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 解剖学演習Ⅱ（筋・神経系） | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 解剖学の中でも療法士に特に必要とされる筋肉，神経の理解を深めるために，解剖学用語，体部位の名称，骨格筋の構造・作用，骨格筋の神経支配等の知識習得を図る。上肢，下肢，頭頸部，胸腹部，背部と部位別に学ぶ。<br>また，標本模型や実際の人の体表からの観察と触察，スケッチを通して立体的な構造を学習する。机上の学習においての知識を深めるとともに，人体の構造を立体的に捉えて整理することが授業のねらいである。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．身体各部位の名称を適切な解剖学用語で説明できる。<br>２．骨格筋の構造が説明できる。<br>３．骨格筋の一般的な作用の原理が説明できる。<br>４．身体各部位の骨格筋の名称、起始、停止、作用、支配神経と髄節レベルが説明できる。<br>５．身体各部位の骨格筋の位置を交連骨格を用いて指し示すことができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 解剖学用語、体部位の名称 | 福谷　保 |
| 2 | 10/5 | 骨格筋の構造・作用、骨格筋の神経支配、骨格筋の呼称 | 〃 |
| 3 | 10/12 | 肩甲帯筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 浅胸部および浅背部の筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 上腕部筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| 6 | 11/2 | 前腕部筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 手部筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 内寛骨部，大腿部伸側筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| 9 | 11/30 | 外寛骨部筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| １０ | 12/7 | 大腿部内側及び屈側筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| １１ | 12/14 | 下腿伸側筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 下腿屈側筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| １３ | 1/4 | 足部筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| １４ | 1/18 | 頭頸部，胸腹部筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |
| １５ | 1/25 | 背部深側筋の名称，起始停止，作用，支配神経 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．野村　嶬：解剖学，医学書院<br>２．石井　直方監修：筋肉のしくみ・はたらき事典，西東社<br>３．坂井 建雄監訳：プロメテウス解剖学コアアトラス，医学書院 |
| 参考図書 | 相磯貞和　訳：「ネッター解剖学アトラス」　南江堂<br>適宜，プリントを配布する |
| 予習・復習内容 | 授業計画に記載された部位について教科書1～3の該当箇所を読んで授業に臨むこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験５０％、口頭試問５０％ |
| 履修上の注意 | 講義予定に合わせて、予習・復習を怠らないこと |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士として臨床経験を有する．理学療法士には必須の知識であり，臨床との関連を織り交ぜて授業を行う． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法基礎運動学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 下坂　充 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 力学，解剖学，生理学等の基礎理論と身体運動との関係を理解し，人間の身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。生体力学の一環として，剛体力学と骨・筋・腱・靭帯等の生体組織特性を説明した変形体の力学の両者を用いて身体運動を解釈し，理解を深める。<br>さらに，脊柱・体幹，顔面・頭部，四肢等全身の関節運動について，機能解剖学的観点から運動を成立させている基本的機構を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．身体運動の機序を力学的概念を用いて説明できる。<br>２．身体運動を成立させている要素を解剖学および生理学的概念を用いて説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | 生体力学の基礎（運動学的分析，運動力学的分析） | 下坂　充 |
| 2 | 10/6 | 〃　（モーメント，重心） | 〃 |
| 3 | 10/13 | 〃　（運動力学，生体組織の力学的特性） | 〃 |
| 4 | 10/20 | 生体の構造と機能　（骨・関節・腱・靭帯の構造と機能，骨格筋の構造と機能） | 〃 |
| 5 | 10/27 | 下肢帯と下肢の運動（下肢帯と股関節） | 〃 |
| 6 | 11/10 | 〃　（膝関節） | 〃 |
| 7 | 11/17 | 〃　（足関節） | 〃 |
| 8 | 11/24 | 上肢の運動　（上肢帯と肩関節） | 〃 |
| 9 | 12/1 | 〃　（肘関節と前腕） | 〃 |
| １０ | 12/8 | 〃　（手関節と手） | 〃 |
| １１ | 12/15 | 〃　（手指と手） | 〃 |
| １２ | 12/22 | 顔面および頭部の運動 | 〃 |
| １３ | 1/5 | 体幹の運動　（脊柱，頸椎） | 〃 |
| １４ | 1/12 | 〃　（胸椎と胸郭） | 〃 |
| １５ | 1/19 | 〃　（腰椎） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １.中村隆一，齋藤　宏　「基礎運動学」　医歯薬出版<br>２.嶋田智明・他監訳　「筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版 |
| 参考図書 | 市橋則明 編「身体運動学　関節の制御機能と筋機能」メジカルビュー |
| 予習・復習内容 | ・事前に配布した講義資料の予習は必須。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　７０％、小テスト結果と講義中の提出課題　３０％ |
| 履修上の注意 | ・毎回，小テストと提出課題を実施する。<br>・講義中にグループディスカッションと質疑応答を行う。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail：shimosaka.mitsuru@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法基礎運動学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 赤羽　勝司 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 人間の姿勢やバランス能力および歩行について，正常な反応，作用について理解を深め，今後，運動学的・運動力学的に分析して行くための基礎となる知識を習得する。また，運動処方や運動制御および運動学習についての基礎を学び，運動療法を実施していくための基礎知識を習得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 人間が姿勢を保持することや動作（歩行や立ち上がりなど）を分析するための基礎的な運動学を理解し、習得することを目的とする。人間がどのように動作を獲得しているのか、運動学的に理解することを目的とする。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | 運動と動作の分析（運動学的分析） | 赤羽　勝司 |
| 2 | 4/14 | 運動と動作の分析（運動分析の用語） | 〃 |
| 3 | 4/21 | 体力と運動処方（体力） | 〃 |
| 4 | 4/28 | 体力と運動処方（運動処方） | 〃 |
| 5 | 5/12 | 姿勢とバランス（重心・立位姿勢） | 〃 |
| 6 | 5/19 | 姿勢とバランス（姿勢戦略） | 〃 |
| 7 | 5/26 | 姿勢とバランス（階層性理論） | 〃 |
| 8 | 6/9 | 正常歩行（歩行周期） | 〃 |
| 9 | 6/16 | 正常歩行（運動学的分析） | 〃 |
| １０ | 6/23 | 正常歩行（運動力学的分析） | 〃 |
| １１ | 6/30 | 異常歩行（観察） | 〃 |
| １２ | 7/7 | 異常歩行（分析） | 〃 |
| １３ | 7/14 | 運動学習（学習と記憶） | 〃 |
| １４ | 7/21 | 運動学習（学習の諸理論） | 〃 |
| １５ | 7/28 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．中村隆一，齋藤　宏：基礎運動学　第６版補訂，医歯薬出版<br>２．Paul D.Andrew・他監訳：筋骨格系のｷﾈｼｵﾛｼﾞｰ 第3版，医歯薬出版 |
| 参考図書 | 塩田悦仁 訳：カパンディ関節の生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，医歯薬出版 |
| 予習・復習内容 | 必ず復習し整理しておくこと。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度１０％，期末試験９０％ |
| 履修上の注意 | 理学療法の重要な基礎的知識となります、必ず復習し整理しておくこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | akahane.katsushi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法を実施する上で不可欠な科目であることを伝え、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 運動学実習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 大町　かおり　　福谷　保　　赤羽　勝司　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 人間の運動動作について，観察・測定・分析の初歩的手段を体験し，レポートにまとめる。また運動機能障害を持つ人の問題点を運動学的に捉え，評価や治療に応用する基礎を学ぶ．実習項目には以下の課題があり，その目的・方法を理解するためのオリエンテーションや実習後のフィードバックを各課題ごとに行う。<br>動画による歩行分析，有酸素運動の呼吸ガス分析，トルクマシンを用いた関節モーメント測定，重心動揺計を用いた身体重心位置の測定，筋電図を用いた立ち上がり動作の分析，筋電図を用いた上肢運動の計測，坐位・立位保持の重心動揺計測，観察による各種の手の運動分析，基本動作の観察による動作分析。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．測定機器の測定原理が理解できる<br>２．測定機器の操作が正しくできる<br>３．測定データを目的に合わせて適切に処理できる<br>４．測定結果の改積を論理的に行える | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | オリエンテーション１　授業全体の概要 | 大町かおり |
| 2 | 〃 | オリエンテーション２　テーマ各論１：動画による歩行分析 | 赤羽勝司 |
| 3 | 10/6 | オリエンテーション３　テーマ各論２：有酸素運動の呼吸ガス分析 | 山本良彦 |
| 4 | 〃 | オリエンテーション４　テーマ各論３：トルクマシンを用いた関節モーメント測定 | 大町かおり |
| 5 | 10/13 | オリエンテーション５　テーマ各論４：重心動揺計を用いた身体重心位置の測定 | 下田浩一 |
| 6 | 〃 | オリエンテーション６　テーマ各論５：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析 | 福谷 保 |
| 7 | 10/20 | 実習１：動画による歩行分析 | 大町　福谷<br>赤羽　山本<br>下田 |
| 8 | 〃 | 実習１：動画による歩行分析 | |
| 9 | 10/27 | まとめ１：動画による歩行分析 | |
| １０ | 〃 | まとめ１：動画による歩行分析 | |
| １１ | 11/10 | 実習２：有酸素運動の呼吸ガス分析 | |
| １２ | 〃 | 実習２：有酸素運動の呼吸ガス分析 | |
| １３ | 11/17 | まとめ２：有酸素運動の呼吸ガス分析 | |
| １４ | 〃 | まとめ２：有酸素運動の呼吸ガス分析 | |
| １５ | 11/24 | 実習３：トルクマシンを用いた関節モーメント測定 | |
| １６ | 〃 | 実習３：トルクマシンを用いた関節モーメント測定 | |
| １７ | 12/1 | まとめ３：トルクマシンを用いた関節モーメント測定 | |
| １８ | 〃 | まとめ３：トルクマシンを用いた関節モーメント測定 | |
| １９ | 12/8 | 実習４：重心動揺計を用いた身体重心位置の測定 | |
| ２０ | 〃 | 実習４：重心動揺計を用いた身体重心位置の測定 | |
| ２１ | 12/15 | まとめ４：重心動揺計を用いた身体重心位置の測定 | |
| ２２ | 〃 | まとめ４：重心動揺計を用いた身体重心位置の測定 | |
| ２３ | 12/22 | 実習５：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析 | |
| ２４ | 〃 | 実習５：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析 | |
| ２５ | 1/5 | まとめ５：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析 | |
| ２６ | 〃 | まとめ５：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析 | |
| ２７ | 1/12 | 総合まとめ１：動画による歩行分析・有酸素運動の呼吸ガス分析 | 赤羽・山本 |
| ２８ | 〃 | 総合まとめ２：トルクマシンを用いた関節モーメント測定 | 大町 |
| ２９ | 1/19 | 総合まとめ３：重心動揺計を用いた身体重心位置の測定 | 下田 |
| ３０ | 〃 | 総合まとめ４：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析・全体まとめ | 福谷・大町 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 中村隆一，他：基礎運動学　医歯薬出版 |
| 参考図書 | 内山　靖　他：計測法入門，協同医書出版 |
| 予習・復習内容 | テーマごとのレポートを指定の期日に提出する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート　８０％、筆記試験　２０％ |
| 履修上の注意 | 第７講～第２６講は５グループに分かれて、テーマごとにローテーションにて実習およびまとめをする。<br>各課題で服装などの準備物が異なる。事前に担当教員に確認しておくこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | ohmachi.kaori@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 解剖学および生理学と運動学の講義で学んだ知識をもとに、<br>自身が被験者になって測定し、結果からその理由を考察することでさらに理解を深め、<br>運動療法等につながる理論を実際的に学ぶ。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法概論Ⅰ（導入論） | | | | | | | |
| 担当教員 | 金井　敏男　　中澤　住夫 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法を学ぶにあたって，理学療法・理学療法士とは何か，その概略および歴史・現状と取り巻く社会環境、課題を理解し，将来像を展望する。また，理学療法士を目指す学生としての自己認識を深め，今後の学習の内容とその必要性・学び方を理解し，研鑽に向けての動機づけを促す。<br>具体的には，理学療法の概念・定義・歴史，リハビリテーションと理学療法の位置づけ，理学療法の法律，診療過程，対象，方法，理学療法士の活動分野，資質と適性について学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．理学療法の概要が理解できる。<br>２．理学療法士の資質適性が理解できる。<br>３．理学療法の対象・手段・方法と診療過程が理解できる。<br>４．理学療法の領域とチーム医療の重要性が理解できる。<br>５．理学療法学の内容と必要性・学び方を理解し、関連学問への関心を高める。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/10 | 自己の存在と社会への責任・専門職とは何か | 金井　中澤 |
| 2 | 4/17 | 理学療法（士）とは何か | 〃 |
| 3 | 4/24 | 理学療法とリハビリテーション | 〃 |
| 4 | 5/1 | 理学療法（士）の業務と対象範囲 | 〃 |
| 5 | 5/8 | 理学療法の対象疾患・理学療法の歴史 | 〃 |
| 6 | 5/15 | リハビリテーションの基本的な流れ・理学療法士の適性（総論） | 〃 |
| 7 | 5/22 | 理学療法士の適性（各論）・医療と医療技術者に求められるもの | 〃 |
| 8 | 5/29 | 理学療法士の法律・制度 | 〃 |
| 9 | 6/12 | 理学療法評価の概要と情報収集・理学療法の対象と手段 | 〃 |
| １０ | 6/19 | 理学療法士の主な領域と活動分野・理学療法の診療記録 | 〃 |
| １１ | 6/26 | 理学療法とチーム医療 | 〃 |
| １２ | 7/3 | 地域リハビリテーション | 〃 |
| １３ | 7/10 | 地域リハビリテーションの内容 | 〃 |
| １４ | 7/17 | 理学療法士の倫理 | 〃 |
| １５ | 7/31 | 理学療法概論のまとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 奈良 勲:理学療法概論 医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．千住秀明監修:理学療法概論 第４版 九州神陵文庫<br>２．中島喜代彦編:シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 南江堂<br>３．丸山仁司編:理学療法概論 第６版 iPEC<br>４．網本 和編:基礎理学療法概論 PTスタートガイド メジカルビュー<br>５．石川 朗編:１５レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法概論 中山書店 |
| 予習・復習内容 | 教員の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 本科目は理学療法士を目指す者の導入編として学問体系と治療体系を理解し、理学療法を学ぶ決意を明確にするものである。さらに医療専門職としての自覚を創造する。<br>事前学習は、テキスト、参考書の予習はもとより、病院・施設見学やボランティア活動・先輩や教員とのディスカッションなどに積極的に取り組み、日頃から理学療法の認識に努める。事後学習は講義ノートを作成し、病院・施設見学やボランティア活動・先輩や教員とのディスカッションをさらに継続しつつ、理学療法体系と診療過程の理解を深め将来理学療法士として活動できるように決意と自覚を創造してほしい。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床現場における治療経験、及び職場管理経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法概論Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 大町　かおり | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法の学問体系と研究，理学療法教育，他職種とチームアプローチ，医療保険・介護保険・障害者総合支援法などの関連制度，組織，倫理，理学療法部門の管理運営などについて具体的に学ぶ。<br>また，理学療法領域の最新の展開状況を種々のトピックスを取り上げて紹介する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 就職を控え，今後の自分のキャリアを具体的にデザインできる。<br>上記に関し，必要な情報を自ら収集できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | 大町　かおり |
| 2 | | 理学療法士とキャリアデザイン１-自己分析と適正 | 〃 |
| 3 | | 理学療法士とキャリアデザイン２-先輩に聞く | 〃 |
| 4 | | 理学療法士とキャリアデザイン３-自分のキャリアをデザインする | 〃 |
| 5 | | 理学療法士とリーダーシップ論-１-組織で働く・多職種との協働 | 〃 |
| 6 | | 理学療法士とリーダーシップ論-２-組織をまとめる | 〃 |
| 7 | | 理学療法士とリーダーシップ論-３-後輩の育成（実習生への対応） | 〃 |
| 8 | | 理学療法士と起業-１-起業に必要な知識 | 〃 |
| 9 | | 理学療法士と起業-２-具体的な起業方法 | 〃 |
| １０ | | 理学療法士と起業-３-グループワーク | 〃 |
| １１ | | 理学療法士とセルフメンテナンス-１-ストレスの対処法 | 〃 |
| １２ | | 理学療法士とセルフメンテナンス-２-体調管理 | 〃 |
| １３ | | 最新の情報-１-関与する医療制度の最新情報 | 〃 |
| １４ | | 最新の情報-２-介護・福祉制度の最新情報 | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 大町かおり・高木綾一　著：リハビリテーション職種のキャリア・デザイン,シービーアール |
| 参考図書 | 必要に応じ講義中に提示する |
| 予習・復習内容 | 第１回の講義時に配布するプリントの課題を所定の日時に提出する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業参加状況２０％，レポート６０％，発表２０％ |
| 履修上の注意 | 理学療法臨床実習Ⅰの前（火曜日３、４限）に集中して実施（集中講義）。<br>具体的に自分の将来を考えながら参加してください。<br>事前事後学修は，レポート課題を作成・提出することで行えるように構成している。 |
| 担当教員への連絡方法 | ohmachi.kaori@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 教科書の著者であり、関係する内容の講演を行っている。<br>３年生までの授業を修了し長期の実習を前にしたこの時期に、自分の将来像を描く一助となる授業である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 病態運動学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 大町　かおり | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 運動学や運動学実習で学んだ正常な身体運動の基礎知識と分析技術をもとに，主に支持基底面と重心，各関節の動き，各関節に作用する外力と内力による関節モーメント，筋による制御などの観点から正常動作の機序を再学習する。そのうえで，主な関節の関節可動域制限や筋力低下による動作障害の基本的な機序を学び，症例の基本動作を運動学的に分析し，問題点の抽出と治療計画に応用可能となることを目標とする。対象とする動作として，平地歩行，椅子からの立ち上がり動作，端座位・立位姿勢について分析方法を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | ヒトの日常的な運動および動作を運動学的・運動力学的に理解し，具体的に表現できる方法を知り，他者に伝えることができる。（表現方法は，口頭，同じ運動・動作の模倣，図示での表現，および文章での表現の4種）特に，病態運動学Ⅰでは「姿勢観察」「姿勢分析」の基礎を学び実践できるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/30 | 動作分析学・総論-１：運動と動作，体位と構え | 大町　かおり |
| 2 | 10/7 | 動作分析学・総論-２：支持基底面と重心，基本的な動作分析の表現方法 | 〃 |
| 3 | 10/14 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢観察-１　臥位 | 〃 |
| 4 | 10/21 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢観察-２　　〃 | 〃 |
| 5 | 10/28 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢観察-３　座位 | 〃 |
| 6 | 11/4 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢観察-４　　〃 | 〃 |
| 7 | 11/11 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢観察-５　立位 | 〃 |
| 8 | 11/18 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢観察-６　　〃 | 〃 |
| 9 | 11/25 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢クイズ-１　問題作成 | 〃 |
| １０ | 12/2 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢クイズ-２　解答確認 | 〃 |
| １１ | 12/9 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢分析-１　座位保持 | 〃 |
| １２ | 12/16 | 姿勢観察と姿勢分析　　姿勢分析-２　　〃 | 〃 |
| １３ | 12/23 | 動作観察と動作分析　　動作観察-１　寝返り | 〃 |
| １４ | 1/6 | 動作観察と動作分析　　動作観察-２　　〃 | 〃 |
| １５ | 1/13 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．石井慎一郎：動作分析臨床活用講座，メジカルビュー社，<br>２．月城慶一，他：観察による歩行分析，医学書院，　および随時プリントを配布する． |
| 参考図書 | １．中村隆一，他：基礎運動学，医歯薬出版，　中村隆一，他：臨床運動学，医歯薬出版<br>２．山岸茂則，編：臨床実践動きのとらえかた，文光堂 |
| 予習・復習内容 | 随時配布するプリントを記入し指定の日時に提出する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート（３０％）、試験（７０％） |
| 履修上の注意 | 講義→実習→演習という授業形態で毎回レポート提出がある。<br>また，授業には動きやすい服装（Tシャツ・ジャージ等）で参加すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | ohmachi.kaori@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 「運動学」を専門としており、学部・大学院での教育・研究の指導を行っている。<br>病態運動学の中で特に「姿勢」について学ぶ科目である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 病態運動学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 大町　かおり | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 正常な身体運動の基礎知識と分析技術をもとに，症例の基本動作を運動学的に分析し，問題点の抽出と治療計画に応用可能となることを目標とする。病態運動学Ⅰで取り上げた動作の他に，さらに多様な動作として階段昇降，床からの立ち上がり動作，寝返り・起き上がり動作について分析方法を学ぶ。また，具体的な障害の事例として変形性膝関節症等の典型的加齢変性に伴う筋骨格系疾患を取り上げて，その分析方法を実践的に学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 病態運動学Ⅱに引き続き，ヒトの日常的な運動および動作を運動学的・運動力学的に理解し，具体的に表現できる方法を知り，他者に伝えることができる（「動作観察」「動作分析」の基礎を学び実践できるようになる）。<br>また，さまざまな疾患や外傷により生じる身体機能障害と異常運動との関連性を理解し，運動制御理論についての知識を深め，中枢神経障害や骨関節障害をもつ症例の基本動作を運動学的に分析し，問題点の抽出と治療計画に役立てられるようになる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 動作分析学・総論：病態運動学Ⅰの復習と実際に臨床実習で学んだ動作分析 | 大町　かおり |
| 2 | | 動作観察と動作分析　　動作分析-１　椅子からの立ち上がり | 〃 |
| 3 | | 動作観察と動作分析　　動作分析-２　　〃 | 〃 |
| 4 | | 動作観察と動作分析　　動作分析-３　　〃 | 〃 |
| 5 | | 動作観察と動作分析　　動作分析-４　さまざまな歩行 | 〃 |
| 6 | | 動作観察と動作分析　　動作分析-５　　〃 | 〃 |
| 7 | | 動作観察と動作分析　　動作分析-６　　〃 | 〃 |
| 8 | | 症例から考える動作分析　ペーパペーシェント-１　整形疾患 | 〃 |
| 9 | | 症例から考える動作分析　ペーパペーシェント-２　　〃 | 〃 |
| １０ | | 症例から考える動作分析　ペーパペーシェント-３　中枢疾患 | 〃 |
| １１ | | 症例から考える動作分析　ペーパペーシェント-４　　〃 | 〃 |
| １２ | | 疾患と動作分析　さまざまな疾患と動作の特徴 | 〃 |
| １３ | | 〃 | 〃 |
| １４ | | 〃 | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．石井慎一郎：動作分析臨床活用講座，メジカルビュー社，<br>２．月城慶一，他：観察による歩行分析，医学書院，　および随時プリントを配布する． |
| 参考図書 | １．中村隆一，他：基礎運動学，医歯薬出版，中村隆一，他：臨床運動学，医歯薬出版<br>２．山岸茂則，編：臨床実践動きのとらえかた，文光堂 |
| 予習・復習内容 | 随時配布するプリントを記入し指定の日時に提出する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート３０％、試験７０％ |
| 履修上の注意 | 病態運動学Ⅰの単位を修得していること。<br>講義→実習→演習という授業形態で毎回レポート提出がある。<br>予習復習を自主的に行いましょう。また，授業には動きやすい服装（Tシャツ・ジャージ等）で参加すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | ohmachi.kaori@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 「運動学」を専門としており、学部・大学院での教育・研究の指導を行っている。<br>病態運動学の中で特に「動作」について学ぶ科目である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法総合演習Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | ２年前期までに学んだ基礎科目の内容を復習する．特に，解剖学（骨・関節系，筋系，神経系）の知識と理学療法評価学（関節可動域測定，徒手筋力検査法）の技術を結び付けることを目標とする。<br>臨床評価実習Ⅰに向けた準備とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各関節構造の特徴と運動が説明できる．<br>２．各骨格筋の作用と神経支配が説明できる．<br>３．関節可動域測定，徒手筋力検査が解剖学的知識を基に正しく実施できる． | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | 肩甲帯，上肢の関節構造と運動に関わる筋 | 福谷　保 |
| 2 | 10/8 | 骨盤帯，下肢の関節構造と運動に関わる筋 | 〃 |
| 3 | 10/15 | 脊柱の関節構造と運動に関わる筋 | 〃 |
| 4 | 10/22 | 関節可動域測定 | 〃 |
| 5 | 11/5 | 〃 | 〃 |
| 6 | 11/12 | 徒手筋力検査 | 〃 |
| 7 | 11/26 | 〃 | 〃 |
| 8 | 12/17 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない |
| 参考図書 | 参考書は随時紹介する |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業前に関連知識を復習しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：小テスト　１０％，実技試験　５０％，筆記試験　４０％ |
| 履修上の注意 | 選択科目だが，知識に不安のある学生は履修することを勧める |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する．<br>臨床技術は基礎知識を踏まえて実施することが重要であることを認識させる． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法総合演習Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | ２年までに学んだ基礎科目の内容を復習する．特に，解剖学・生理学（神経系）の知識と理学療法評価学（反射・協調性・平衡機能，片麻痺運動機能検査）の技術を結び付けることを目標とする。<br>臨床評価実習Ⅱに向けた準備とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．神経系の障害に関する検査法の理論的背景が説明できる<br>２．神経系の障害に対する検査法が基礎知識を基に正しく実施できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 中枢神経系の構造と機能 | 福谷　保 |
| 2 | | 末梢神経系の構造と機能 | 〃 |
| 3 | | 運動の調節と神経系 | 〃 |
| 4 | | 各種反射検査 | 〃 |
| 5 | | 協調性検査 | 〃 |
| 6 | | 平衡機能検査 | 〃 |
| 7 | | 片麻痺運動機能検査 | 〃 |
| 8 | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない |
| 参考図書 | 参考書は随時紹介する |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業前に関連知識を復習しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：小テスト　１０％，実技試験　５０％，筆記試験　４０％ |
| 履修上の注意 | 選択科目だが，知識に不安のある学生は履修することを勧める |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する.<br>臨床技術は基礎知識を踏まえて実施することが重要であることを認識させる. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法総合演習Ⅲ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 国家試験に出題される内容の中から多くの学生が苦手意識を持つ医用画像，心電図，発達障害などを中心に知識の確認をする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．医用画像の特徴を指摘し，正しく判定できる．<br>２．正常心電図と病的心電図の違いを指摘し，正しく判定できる．<br>３．発達障害の特徴と対処法が説明できる． | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 各種医用画像のみかた | 福谷　保 |
| 2 | | 〃 | 〃 |
| 3 | | 〃 | 〃 |
| 4 | | 心電図のみかた | 〃 |
| 5 | | 〃 | 〃 |
| 6 | | 〃 | 〃 |
| 7 | | 発達障害 | 〃 |
| 8 | | 〃 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない |
| 参考図書 | 参考書は随時紹介する |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業前に関連知識を復習しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：確認テスト　１００％により総合的に判定する |
| 履修上の注意 | 選択科目だが，知識に不安のある学生は履修することを勧める |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法研究法Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 熊本　圭吾 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 臨床実践とともに「研究」に取り組む事は，理学療法という専門領域を確立・発展させるためにも重要である。また，Evidence Based Medicineを実施していくためには，エビデンスとなる学術論文が読めることと，実証的な取り組みができることが必要となる。<br>本講義では，医療分野における研究に関する基礎的な知識を概観するとともに，研究倫理や研究における不適切な行為について学び，理学療法研究法演習（卒業研究）および今後の研究活動を進める上で必要となる基礎的知識を身に着けることを目標とする。また，関連領域の研究論文を読むことを通して，研究の方法や科学的な態度に触れることも目的とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １.研究や研究論文の意義が理解できる<br>２.研究論文の基本的な構成を理解し、目的とする適切な研究論文を探し、効率的に読むことができる<br>３.研究倫理，研究不正について理解し、研究を行う上で守るべきことを述べることができる<br>４.種々の研究方法を理解し、適正な研究計画立案に必要な事項を理解できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 研究の意義と必要性 | 熊本　圭吾 |
| 2 | | 研究を行う上で基本となる力 | 〃 |
| 3 | | 文献の探し方 | 〃 |
| 4 | | 文献を読む読解力 | 〃 |
| 5 | | 医学・医療系の文献の読み方 | 〃 |
| 6 | | テーマ・課題選び | 〃 |
| 7 | | 研究不正 | 〃 |
| 8 | | 医学系研究の倫理１　歴史的背景と概念 | 〃 |
| 9 | | 医学系研究の倫理２　人を対象とする医学系研究の倫理 | 〃 |
| １０ | | 研究のデザイン１　多様な研究方法 | 〃 |
| １１ | | 研究のデザイン２　実験計画法と分析疫学的研究分類 | 〃 |
| １２ | | 統計的仮説検定 | 〃 |
| １３ | | 研究計画 | 〃 |
| １４ | | プレゼンテーション | 〃 |
| １５ | | 研究計画発表 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 指定しない。講師作成資料を用いる。 |
| 参考図書 | １.山田剛史、林　創：大学生のためのリサーチリテラシー入門、ミネルヴァ書房<br>２.Stuart Porter著、武田　裕子訳　ここからはじめる研究入門　医学書院 |
| 予習・復習内容 | 卒業研究の準備として文献を探して読む課題を繰り返す。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験５０％、演習課題５０％ |
| 履修上の注意 | 卒業研究のテーマ探しそのものは授業では取り扱えない。興味関心を広げ、課題の他に文献を多く読むことが必要となる。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:kumamoto.keigo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院勤務経験から、研究活動の有用性および臨床・実践に共通する思考法を学生に伝えることができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法研究法Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法研究法Ⅰで学んだ内容を具体的に実践し，最終的な卒業研究の研究計画を立てる。文献の抄読では批判的な読解を心掛け，客観的な思考を展開する。研究計画の作成途上では科学的な判断ができるように，他者とのディスカッションが積極的にできることを期待する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．研究疑問を明確にし，研究テーマが設定できる<br>２．研究計画が立てられる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 指導教員の指導の下に，以下のことを行う． | 福谷　金井<br>川井　大町<br>赤羽　下坂<br>山本　下田 |
| 2 | | １．研究テーマの絞り込み　先行研究の収集と抄読 | |
| 3 | | ２．研究方法の検討 | |
| 4 | | ３．予備的な実験・調査の実施 | |
| 5 | | ４．研究計画書の作成 | |
| 6 | | ５．研究計画発表会 | |
| 7 | | ６．研究計画書の修正 | |
| 8 | | ７．研究計画書の完成 | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は指定しない |
| 参考図書 | 参考図書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 指導教員から適宜，指示する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：提出物２５％，参加状況２５％，参加態度２５％，研究計画発表会２５％ |
| 履修上の注意 | 担当教員，他学生とのディスカッションを積極的に行うこと |
| 担当教員への連絡方法 | 初回講義時にお知らせします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する．臨床業務では研究活動と同様な仮説検証過程が必要である．手順を追って，根拠のある行動を身に着けることが可能である． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法研究法演習（卒業研究） | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 通年 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 本演習では理学療法研究法Ⅰ，Ⅱで学んだことをベースに，具体的なテーマを持って研究を実施する。研究目的とその対象に応じて仮説を立て，種々の調査や実験を行い，その結果を整理して得た検証の成果を考察する。これを通して，医療従事者としての広い視野を養い，様々な疑問や問題に対する問題解決能力を身につける。また，研究成果を口頭で発表し，論文にまとめる。以上を通じて，発表技術と科学的論文の作成方法を体得させる。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．研究疑問を明確にし研究テーマを設定できる<br>２．研究テーマに沿って先行研究を集めることができる<br>３．研究計画を立て、計画に沿って研究を進めることができる<br>４．結果を解析し論理的に考察ができる<br>５．研究をまとめ、発表し、卒業論文にまとめることができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 理学療法研究法Ⅱで作成した「研究計画書」に沿って研究を行う. | 福谷　保<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>山本　良彦<br>下田　浩一 |
| 2 | | 研究テーマの明確化 | |
| 3 | | 〃 | |
| 4 | | 〃 | |
| 5 | | パイロットスタディの実施、検討 | |
| 6 | | 〃 | |
| 7 | | 〃 | |
| 8 | | 研究方法の決定 | |
| 9 | | 〃 | |
| １０ | | 〃 | |
| １１ | | 〃 | |
| １２ | | 実験・調査の実施 | |
| １３ | | 〃 | |
| １４ | | 〃 | |
| １５ | | 〃 | |
| １６ | | 〃 | |
| １７ | | 〃 | |
| １８ | | 〃 | |
| １９ | | 〃 | |
| ２０ | | データの集約と解析 | |
| ２１ | | 〃 | |
| ２２ | | 〃 | |
| ２３ | | 〃 | |
| ２４ | | 研究発表資料の作成 | |
| ２５ | | 〃 | |
| ２６ | | 〃 | |
| ２７ | | 〃 | |
| ２８ | | 研究論文の作成 | |
| ２９ | | | |
| ３０ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は使用しない |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示に従って行うこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：課題（口頭発表・論文）８０％、参加態度２０％ |
| 履修上の注意 | 各担当教員の指導を十分に受けた上で、探究心を持ち、実証的に取り組むこと |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業で連絡する |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験がある．臨床業務では研究活動と同様な仮説検証過程が必要である．手順を追って，根拠のある行動を身に着けることが可能である． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法倫理・管理学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 金井　敏男 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法部門の管理運営，及び理学療法士としての職業倫理と人材像を理解することを目的とする。医療従事者として働く病院・施設等における組織と管理システムの特徴とその実際を理解する。また，臨床・教育・研究において理学療法部門を適正で効率的に運営するための課題と方法を理解する。その上で一般的な理学療法部門管理として，経営・人事・予算・物品・部門開設・チームワーク・危機管理などに関わる概念・倫理・制度・方法などを理解する。チームの一員としての自己の特性と課題を確認し，生涯学習の必要性を認識する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．　一般的な管理とそのシステムについて理解できる。<br>２．病院・施設の組織と管理システム、および理学療法の業務とその流れが理解できる<br>３．診療報酬と施設基準の概略が理解できる。<br>４．職業倫理と労務管理について理解できる。<br>５．スタッフ・リーダー・指導者としての在り方を理解し、臨床実習や卒後の臨床で行動化できるようにする。<br>６．教育・研究に対する動機づけとその実践に寄与できるように自己啓発できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 理学療法教育管理学総論(管理の定義、基本的考え方、ホスピタリティ) | 金井　敏男 |
| 2 | | 管理の沿革、管理計画、組織の構造と種類 | 〃 |
| 3 | | 病院組織と理学療法部門の組織 | 〃 |
| 4 | | 理学療法部門の職業倫理と労務管理 | 〃 |
| 5 | | 理学療法部門の人事管理(スタッフとして必要なこと) | 〃 |
| 6 | | 理学療法部門の人事管理(リーダーまたは指導者として必要なこと) | 〃 |
| 7 | | 理学療法診療業務管理(施設基準と診療報酬の一般的事項) | 〃 |
| 8 | | 基本診療料の特殊診療料にかかわるリハビリテーションの施設基準 | 〃 |
| 9 | | 特掲診療料にかかわる施設基準(疾患別リハビリテーション)・その他の診療料 | 〃 |
| １０ | | 理学療法直接診療に関する業務管理(治療・診療記録・実績の集積・関連部門との連携) | 〃 |
| １１ | | 施設・備品の管理 | 〃 |
| １２ | | 教育業務管理(部門内教育・対外的教育活動) | 〃 |
| １３ | | 研究業務管理(過程・体制・評価)・自己管理 | 〃 |
| １４ | | 経営管理(事業計画・収支計画) | 〃 |
| １５ | | その他の管理(病院機能評価・医療監査・業務実績) | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 奈良　勲：理学療法管理学　　医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．金谷さとみ、高橋仁美：リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック　メディカルビュー<br>２．植松光俊：理学療法管理学　南江堂<br>３．診療点数早見表(最新版)　医学通信社<br>４．奈良 勲:理学療法概論 第6版 医歯薬出版 |
| 予習・復習内容 | 事前学習として、日頃よりテキストや種々の自己啓発本を参考に医療技術者としての人間性を身につける努力をすること。また、臨床評価実習での経験を元に理学療法士としての資質の向上に努める。事後学習では、講義ノートを作成し内容を整理、理解し、自己分析と臨床現場における行動表現をするための指標としてほしい。また、患者指導やチーム医療に必要となるチーム観・リーダーシップ・フォロアーシップのあり方を考えてほしい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：テーマ型のレポートによる評価１００％ |
| 履修上の注意 | 本科目は、一般的な教育管理と職業倫理、さらに病院・施設における診療・教育・研究・人事管理・経営管理について学び、理学療法士としてどうあるべきかを考え実践につなげるものである。実習等で経験した職場組織や、今後働く職場をイメージしながら参加してほしい。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床現場における職場管理及び教育、研究の経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法評価学総論 | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法の実施過程における評価の意義，目的を確認する．理学療法士が入手すべき各種の検査結果（医用画像，血液生化学検査，生理検査など）や医師，看護師，作業療法士，言語聴覚士などから得られる情報の意義と利用方法を学ぶ。さらに，各論で学ぶことになる障害を把握するための評価方法をICFの分類をもとに概観する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．理学療法評価の意義と目的が説明できる．<br>２．理学療法の実施過程と評価項目の関係が説明できる．<br>３．各論で扱う検査方法に関連する基礎知識が説明できる． | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | 理学療法の実施過程における評価の意義と目的，記録の重要性 | 福谷　保 |
| 2 | 10/8 | 理学療法評価における情報収集（各種検査結果や情報の意義と利用方法） | 〃 |
| 3 | 10/15 | 国際生活機能分類（ICF）と理学療法評価 | 〃 |
| 4 | 10/22 | 理学療法評価と基礎知識の関連 | 〃 |
| 5 | 10/29 | 医療面接１ | 〃 |
| 6 | 11/5 | 医療面接２ | 〃 |
| 7 | 11/12 | 触診の基礎（脈，骨指標，筋・腱） | 〃 |
| 8 | 11/19 | 姿勢の観察 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 松澤正：理学療法評価学　金原出版 |
| 参考図書 | 随時紹介する |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業で指示する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 授業中に意見を求めることがあります．自分の考えを積極的に発言することを望みます． |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する．臨床で実施される各種検査測定の概略を解説する． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅰ（関節機能系検査） | | | | | | | |
| 担当教員 | 赤羽　勝司 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法評価の一連の過程の中で、各種検査・測定が実施されるが、その1項目の関節機能系検査である関節可動域の評価について理解し，測定方法の実際を習得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 関節可動域評価の目的を理解し、実際の測定技術を習得する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 関節可動域評価総論 | 赤羽　勝司 |
| 2 | 10/5 | 関節可動域評価各論　肩関節（１） | 〃 |
| 3 | 10/12 | 関節可動域評価各論　肩関節（２） | 〃 |
| 4 | 10/19 | 関節可動域評価各論　肘関節 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 関節可動域評価各論　前腕・手関節 | 〃 |
| 6 | 11/2 | 関節可動域評価各論　肩甲帯 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 関節可動域評価各論　頸部 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 関節可動域評価各論　体幹 | 〃 |
| 9 | 11/30 | 関節可動域評価各論　股関節（１） | 〃 |
| １０ | 12/7 | 関節可動域評価各論　股関節（２） | 〃 |
| １１ | 12/14 | 関節可動域評価各論　膝関節 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 関節可動域評価各論　足関節・足部（１） | 〃 |
| １３ | 1/4 | 関節可動域評価各論　足関節・足部（２） | 〃 |
| １４ | 1/18 | 関節可動域評価各論　手指・足趾 | 〃 |
| １５ | 1/25 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 松澤　正：理学療法評価学改訂第６版，金原出版 |
| 参考図書 | １．奈良勲編集：系統別・治療手技の展開，共同医書出版社<br>２．嶋田智明，金子　翼：関節可動障害，メディカルプレス<br>３．Cynthia　C.Norkin,D.Joyce　White：関節可動域測定法，協同医書 |
| 予習・復習内容 | 実技中心で展開するため、測定技術を習得するよう復習して下さい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度１０％，実技試験４５％，期末試験４５％ |
| 履修上の注意 | 実技を中心に授業を展開していきます、運動ができる服装で受講して下さい。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:akahane.katsushi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法評価の基本となる評価法の1つであるため、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅱ（筋機能系検査） | | | | | | | |
| 担当教員 | 下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 理学療法評価のなかでも基本的項目である筋力評価について学ぶ。筋力発揮のメカニズムや筋力低下の原因を理解した上で，徒手筋力検査法の方法論と技術を習得することが主な目的となる。具体的には，検査の目的・特徴・信頼性の理解，各関節運動の主動作筋と共同筋の理解と代償運動の見極め，適切な検査手技の実施，判定基準と段階付けの理解ができることが目標となる。<br>学習に当たっては，筋の起始・停止，支配神経，作用について把握できていることが必要である。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．筋力評価の方法と原理を説明できる<br>２．筋力評価を適切な技術と態度で実施できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/7 | オリエンテーション | 下田　浩一 |
| 2 | 4/14 | 筋のつくりと収縮過程 | 〃 |
| 3 | 4/21 | 運動単位と筋力 | 〃 |
| 4 | 4/28 | 筋力評価の手順　MMTの歴史と原理 | 〃 |
| 5 | 5/12 | MMTの実際（下肢－股関節） | 〃 |
| 6 | 5/19 | MMTの実際（下肢－股関節,膝関節） | 〃 |
| 7 | 5/26 | MMTの実際（下肢－足関節,足指） | 〃 |
| 8 | 6/9 | MMTの実際（体幹,頭頸部） | 〃 |
| 9 | 6/16 | MMTの実際（上肢－肩甲骨） | 〃 |
| １０ | 6/23 | MMTの実際（上肢－肩関節） | 〃 |
| １１ | 6/30 | MMTの実際（上肢－肘関節,前腕） | 〃 |
| １２ | 7/7 | MMTの実際（上肢－手関節,手指） | 〃 |
| １３ | 7/14 | MMTの実際（顔面,咀嚼筋） | 〃 |
| １４ | 7/21 | MMTの実際（まとめ） | 〃 |
| １５ | 7/28 | 実技総合演習（MMTの知識・技術の統合と実際） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．津山　直一　訳：新・徒手筋力検査法，協同医書出版社<br>２．松澤　正：理学療法評価学，金原出版 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 復習は実技練習を多く行いましょう |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：小テスト２０％，総合演習の遂行状況２０％，筆記試験６０％ |
| 履修上の注意 | 実技を伴う授業であるため動きやすい服装で参加してください |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士として臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅲ（各種検査と測定） | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | バイタルサインの計測，身体計測，知覚検査，疼痛の評価，反射検査，筋緊張検査，運動協調性検査，中枢性麻痺の検査，整形外科的検査，バランス検査，発達検査など（関節可動域測定，筋力検査，高次脳機能検査，ＡＤＬ評価以外）の検査・測定の目的と方法を学ぶ。また，OSCEを通して臨床的評価能力の修得状況を確認する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各種検査・測定目的を理解する。<br>２．各種検査・測定の方法を理解し、実践できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/6 | オリエンテーション、バイタルサイン計測 | 山本　良彦 |
| 2 | 〃 | オリエンテーション、バイタルサイン計測 | 〃 |
| 3 | 4/13 | 四肢長・四肢周径の測定 | 〃 |
| 4 | 〃 | 四肢長・四肢周径の測定 | 〃 |
| 5 | 4/20 | 知覚検査、疼痛の評価 | 〃 |
| 6 | 〃 | 知覚検査、疼痛の評価 | 〃 |
| 7 | 4/27 | 深部反射・病的反射検査 | 〃 |
| 8 | 〃 | 深部反射・病的反射検査 | 〃 |
| 9 | 5/11 | 筋緊張検査 | 〃 |
| １０ | 〃 | 筋緊張検査 | 〃 |
| １１ | 5/18 | 運動協調性検査 | 〃 |
| １２ | 〃 | 運動協調性検査 | 〃 |
| １３ | 5/25 | 片麻痺運動機能検査（ブルンストロームの回復段階・12段階検査）① | 〃 |
| １４ | 〃 | 片麻痺運動機能検査（ブルンストロームの回復段階・12段階検査）① | 〃 |
| １５ | 6/1 | 片麻痺運動機能検査（ブルンストロームの回復段階・12段階検査）② | 〃 |
| １６ | 〃 | 片麻痺運動機能検査（ブルンストロームの回復段階・12段階検査）② | 〃 |
| １７ | 6/8 | 片麻痺運動機能検査（ブルンストロームの回復段階・12段階検査）③ | 〃 |
| １８ | 〃 | 片麻痺運動機能検査（ブルンストロームの回復段階・12段階検査）③ | 〃 |
| １９ | 6/15 | 脳卒中機能障害評価法（SIAS）と機能的バランス指標（FBS） | 〃 |
| ２０ | 〃 | 脳卒中機能障害評価法（SIAS）と機能的バランス指標（FBS） | 〃 |
| ２１ | 6/22 | 整形外科的検査① | 〃 |
| ２２ | 〃 | 整形外科的検査① | 〃 |
| ２３ | 6/29 | 整形外科的検査② | 〃 |
| ２４ | 〃 | 整形外科的検査② | 〃 |
| ２５ | 7/6 | バランス機能検査、Time up and go test（TUG） | 〃 |
| ２６ | 〃 | バランス機能検査、Time up and go test（TUG） | 〃 |
| ２７ | 7/13 | 小児発達検査 | 〃 |
| ２８ | 〃 | 小児発達検査 | 〃 |
| ２９ | 7/20 | OSCE | 〃 |
| ３０ | 〃 | OSCE | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 松澤　正：理学療法評価学、第6版、金原出版 |
| 参考図書 | 田崎義昭他：ベッドサイドの神経の診かた、第17版、南山堂 |
| 予習・復習内容 | 予習は必要ないが、復習は必ず行い、身に付くまで練習すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験５０％、OSCE　５０％ |
| 履修上の注意 | 各自の打腱器、メジャーを購入する予定 |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床経験から、テキストに記載されているスタンダードな検査・測定方法と、臨床で行っている一般的な方法を紹介できる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅳ（模擬症例） | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 理学療法は評価に始まり評価に終わるといわれる。理学療法の実施過程において，評価は治療目標の設定，治療方針，治療方法の選択に直結する重要な事項である。本講義では，理学療法評価の過程を模擬症例を通して実践的に理解することを目的とする。具体的には主に整形外科疾患の模擬症例を通して，疾患の症状や経過を理解した上で，評価計画の立案，評価の実施，評価結果の統合と解釈を行う。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．模擬症例の疾患特性を踏まえて、理学療法評価を計画できる<br>２．理学療法評価の結果を論理的に解釈できる<br>３．評価結果をレポートにまとめられる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/1 | オリエンテーション，理学療法評価の目的、意義、流れについて再確認 | 福谷　保 |
| 2 | 10/8 | 今までに学習した評価項目の確認と分類 | 〃 |
| 3 | 10/15 | 理学療法評価の計画はどう立てるか？ | 〃 |
| 4 | 10/22 | 理学療法評価の結果をどうまとめるか？ | 〃 |
| 5 | 10/29 | 症例報告の書き方 | 〃 |
| 6 | 11/5 | 模擬症例１　模擬症例の提示と評価計画の立案 | 〃 |
| 7 | 11/12 | 評価の実施 | 〃 |
| 8 | 11/19 | 評価結果のまとめ | 〃 |
| 9 | 11/26 | 評価レポート作成 | 〃 |
| １０ | 12/3 | まとめ | 〃 |
| １１ | 12/10 | 模擬症例２　模擬症例の提示と評価計画の立案 | 〃 |
| １２ | 12/17 | 評価の実施 | 〃 |
| １３ | 1/7 | 評価結果のまとめ | 〃 |
| １４ | 1/14 | 評価レポート作成 | 〃 |
| １５ | 1/21 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 有馬慶美　基本編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考　文光堂 |
| 参考図書 | １．奈良勲　臨床実習とケーススタディ　医学書院<br>２．有馬慶美　実践編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考　文光堂 |
| 予習・復習内容 | 毎回の授業で指示する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 模擬症例を検討するときはグループワークを行う．他者の意見に耳を傾ける，要点を整理して自分の意見を伝えることも課題として取り組んでください． |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する．臨床で遭遇する代表的な疾患を模擬的に体験する． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ｖ（実症例） | | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦 | | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | この講座においては，学生が相互に模擬症例となり評価のシミュレーションを行い，ICIDHおよびICFの考え方に基づき理学療法評価全体の流れを学んでいく。その中で運動機能評価を中心に，得られた情報を統合・解釈し，問題点を抽出し，目標を設定し，理学療法プログラムを立案し，考察するという具体的な理学療法評価の組み立てを理解する。また，複数の実症例をグループで評価する過程で，これまでに培った知識・技術を実践する。臨床実習に必要な知識・技術・態度や学修した専門的な知識を発展，統合させて多角的に理解できる準備をする。また，OSCEを通して臨床的評価能力の修得状況を確認する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | １．情報収集、統合と解釈、障害の構造分析、目標設定、プログラム立案、考察という一連の理学療法評価を説明できる。<br>２．これまでに学んだ評価技術を駆使し、実際の症例に対してグループに分かれ評価を行い、アセスメントすることができる。 | | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 評価演習オリエンテーション | 山本　良彦 |
| 2 | | 評価演習オリエンテーション | 〃 |
| 3 | | 理学療法評価評価演習（模擬症例１） | 〃 |
| 4 | | 理学療法評価評価演習（模擬症例１） | 〃 |
| 5 | | 理学療法評価評価演習（模擬症例２） | 〃 |
| 6 | | 理学療法評価評価演習（模擬症例２） | 〃 |
| 7 | | 理学療法評価評価演習（模擬症例３） | 〃 |
| 8 | | 理学療法評価評価演習（模擬症例３） | 〃 |
| 9 | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| １０ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| １１ | | 実症例評価演習（症例１：発達障害） | 〃 |
| １２ | | 実症例評価演習（症例１：発達障害） | 〃 |
| １３ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| １４ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| １５ | | 実症例評価演習（症例２：脳血管障害） | 〃 |
| １６ | | 実症例評価演習（症例２：脳血管障害） | 〃 |
| １７ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| １８ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| １９ | | 実症例評価演習（症例３：脊髄神経疾患） | 〃 |
| ２０ | | 実症例評価演習（症例３：脊髄神経疾患） | 〃 |
| ２１ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| ２２ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| ２３ | | 実症例評価演習（症例４：脳血管障害） | 〃 |
| ２４ | | 実症例評価演習（症例４：脳血管障害） | 〃 |
| ２５ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| ２６ | | 実症例評価演習準備 | 〃 |
| ２７ | | 実症例評価演習（症例５：脳血管障害） | 〃 |
| ２８ | | 実症例評価演習（症例５：脳血管障害） | 〃 |
| ２９ | | OSCE | 〃 |
| ３０ | | OSCE | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 松澤　正：理学療法評価学、第4版、金原出版<br>随時資料を配布する |
| 参考図書 | なし |
| 予習・復習内容 | 今までに学んだ基本的な検査・測定方法は確認しておくことが望ましい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：OSCE（Objective Structured Clinical Examination）５０％<br>レポートなどの提出物５０％ |
| 履修上の注意 | 実症例演習の講義はユニフォームを着用すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 回復期病院、小児施設での経験を踏まえて実症例へのオリエンテーション、インテーク、評価の方法を示すことができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法評価学Ⅵ（高次脳機能検査） | | | | | | | |
| 担当教員 | 中島　八十一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 講義と実習を通じて，理学療法における高次脳機能障害の評価と神経学的検査方法の意義と実際について学習する。神経学的検査法では，脳神経の診かた，意識障害，記憶障害，注意障害，認知機能を扱う。高次脳機能障害として失認，失行，失語，遂行機能障害を扱う。脳神経検査ではⅠ～ⅩⅡそれぞれの神経の解剖学的基本事項の確認，検査の目的と意義，検査方法を理解し，実際にその検査を実施できるようにする。また，検査結果の判定，解釈について理解する。高次脳機能障害の評価については，病巣との関連から特徴的な症状や病態を理解し，日常の場面で起こりうる問題となる行動について捉える。代表的な評価法を紹介し，手順や結果の判定について学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．神経学的検査法の基礎を説明でき，病歴が取れる。<br>２．意識レベルを診ることができる。<br>３．脳神経検査を行える。<br>４．記憶障害，注意障害，認知機能を説明でき，評価が行える。<br>５．失認，失行，失語，遂行機能を説明でき，評価が行える。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 神経学的検査法の基礎・病歴の取り方 | 中島　八十一 |
| 2 | | 意識レベルの診かた | 〃 |
| 3 | | 脳神経の診かた | 〃 |
| 4 | | 〃 | 〃 |
| 5 | | 〃 | 〃 |
| 6 | | 高次脳機能障害とは | 〃 |
| 7 | | 記憶障害の診かた | 〃 |
| 8 | | 注意障害の診かた | 〃 |
| 9 | | 遂行機能障害の診かた | 〃 |
| １０ | | 失行の診かた | 〃 |
| １１ | | 失語の診かた | 〃 |
| １２ | | 失認の診かた | 〃 |
| １３ | | 半側空間無視の診かた | 〃 |
| １４ | | 認知症の診かた | 〃 |
| １５ | | 高次脳機能障害の検査法 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 稲川利光監修：高次脳機能障害－ひと目でわかる基礎知識と患者対応－，総合医学社 |
| 参考図書 | １．石合純夫：高次脳機能障害学，医歯薬出版<br>２．松澤　正：理学療法評価学，金原出版<br>３．岡庭　豊：病気が見える　vol.７　脳・神経，メディックメディア |
| 予習・復習内容 | 生理学，解剖学の脳神経を復習しておくこと。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 高次脳機能障害が運動機能や行動にどのように反映されるか考えながら聴講すること |
| 担当教員への連絡方法 | 本館事務室に伝言してください |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 講師は厚生労働省の高次脳機能障害診断基準策定者である |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 運動療法学Ⅰ（関節機能系） | | | | | | | |
| 担当教員 | 下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 運動療法は，理学療法の中において大きな柱として位置づけられており，解剖学，運動学，生理学などの専門基礎知識を背景に，理学療法士が得意とする分野である。この授業においては，基本的な運動療法を適切に行うための知識と技術を習得することを目的とする。総論として，運動療法の定義，歴史，対象，理論，種類，機器について学び，各論として，関節可動域運動，ストレッチングなどの理論と技術を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 理学療法を実践するために必要な基礎的知識・技術を修得するために<br>１.運動療法の基本的概念を理解し説明できる。<br>２.運動療法の基本的技術を理解し説明できる。<br>３.各種運動療法の禁忌について説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | オリエンテーション，運動療法概論 | 下田　浩一 |
| 2 | 4/15 | 組織の病態生理と修復 | 〃 |
| 3 | 4/22 | 組織の病態生理と修復 | 〃 |
| 4 | 4/29 | 関節の構造と機能，関節可動域制限の病態 | 〃 |
| 5 | 5/13 | 運動の種類，筋の収縮様式 | 〃 |
| 6 | 5/20 | 関節可動域運動 | 〃 |
| 7 | 5/27 | 関節可動域運動 | 〃 |
| 8 | 6/10 | ストレッチング | 〃 |
| 9 | 6/17 | ストレッチング | 〃 |
| １０ | 6/24 | ストレッチング | 〃 |
| １１ | 7/1 | 関節モビライゼーション | 〃 |
| １２ | 7/8 | 関節モビライゼーション | 〃 |
| １３ | 7/15 | 関節モビライゼーション | 〃 |
| １４ | 7/22 | 器具による関節可動域運動 | 〃 |
| １５ | 7/29 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 市橋則明：運動療法学　第2版，文光堂<br>プリントを配布 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 予習よりも復習に力を入れて学修しましょう |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験６０％，レポート１５％，小テスト１５％，ポートフォリオ１０％ |
| 履修上の注意 | 実技を伴う授業であるため動きやすい服装で参加してください |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士として臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 運動療法学Ⅱ（筋・神経機能系） | | | | | | | |
| 担当教員 | 下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 運動療法は，理学療法の中において大きな柱として位置づけられており，解剖学，運動学，生理学などの専門基礎知識を背景に，理学療法士が得意とする分野である。この授業においては，基本的な運動療法を適切に行うための知識と技術を習得することを目的とし，基本的な各種運動療法（筋力増強運動，持久力増強運動，協調性運動，その他の領域の運動療法）の理論と技術を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 理学療法を実践するために必要な基礎的知識・技術を修得するために<br>１.運動療法の基本的概念を理解し説明できる。<br>２.運動療法の基本的技術を理解し説明できる。<br>３.各種運動療法の禁忌について説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 筋力増強の基礎理論 | 下田　浩一 |
| 2 | 10/5 | 筋力増強の基礎理論 | 〃 |
| 3 | 10/12 | 筋力増強運動 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 筋力増強運動 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 徒手による筋力増強運動 | 〃 |
| 6 | 11/2 | 徒手による筋力増強運動 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 徒手による筋力増強運動 | 〃 |
| 8 | 11/16 | Closed kinetic chainにおける筋力増強運動 | 〃 |
| 9 | 11/30 | 腰部安定化機構における筋力増強運動 | 〃 |
| １０ | 12/7 | 肩関節安定化機構における筋力増強運動 | 〃 |
| １１ | 12/14 | 持久力増強運動 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 持久力増強運動 | 〃 |
| １３ | 1/4 | 協調性運動障害の運動療法 | 〃 |
| １４ | 1/18 | 神経生理学的アプローチ | 〃 |
| １５ | 1/25 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 市橋則明：運動療法学　第2版，文光堂<br>プリントを配布 |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 予習よりも復習に力を入れて学修しましょう |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験６０％，レポート１５％，小テスト１５％，ポートフォリオ１０％ |
| 履修上の注意 | 実技を伴う授業であるため動きやすい服装で参加してください |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士として臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 運動療法学演習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 運動療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ理論と方法について学生をモデルにして実際に適応する。その過程では治療前の評価とその結果に基づく目標設定，具体的な治療計画を立てて経過を追い，効果判定を行う。<br>この演習を通じて理学療法の実施過程を模擬的に体験する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．運動療法に関する基礎的な理論を踏まえて実践することができる.<br>２．運動療法の効果を客観的に判定できる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 筋力増強を目的とした運動療法 | 福谷　保 |
| 2 | | 〃 | 〃 |
| 3 | | 〃 | 〃 |
| 4 | | 筋持久力の改善を目的とした運動療法 | 〃 |
| 5 | | 〃 | 〃 |
| 6 | | 〃 | 〃 |
| 7 | | 関節可動域の拡大を目的とした運動療法 | 〃 |
| 8 | | 〃 | 〃 |
| 9 | | 〃 | 〃 |
| １０ | | 臨床評価実習Ⅱで経験した症例に対する運動療法の立案と実施 | 〃 |
| １１ | | 〃 | 〃 |
| １２ | | 〃 | 〃 |
| １３ | | 〃 | 〃 |
| １４ | | 〃 | 〃 |
| １５ | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は指定しない |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | １，２年次に学んだ内容を復習して授業に臨むこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート５０％，参加態度５０％ |
| 履修上の注意 | 臨床場面を模擬的に想定して行なう．治療技術の適用にあたって，リスク管理を徹底してください.<br>グループに分かれて実施します．協力し合って行ってください. |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する．臨床で遭遇する主な病態を踏まえて指導する. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 物理療法学Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 下坂　充 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 物理療法学の概論として，各治療手段の物理学的特性を学ぶ。さらに，物理療法の対象となる疾患・障害の概要と物理療法が生体に与える生理学的影響の概要を学ぶ。その上で，物理療法の適応・禁忌および注意事項の基礎を確認する。<br>各論として，表在温熱・寒冷療法，牽引・圧迫療法，水治療法，超音波療法，超音波画像診断，光線療法，電気診断，筋電図バイオフィードバック，電気療法，ジアテルミーの理論と実際について学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 物理療法の特徴を踏まえ，適応・禁忌を考慮した上で，目的に応じた治療に関する説明を行える。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/8 | 物理療法概論，　物理療法の対象となる病態 | 下坂　充 |
| 2 | 4/15 | 熱エネルギー，　温熱・寒冷の生理学 | 〃 |
| 3 | 4/22 | 表在性温熱・寒冷療法総論 | 〃 |
| 4 | 4/29 | ホットパック・パラフィン，寒冷療法各論 | 〃 |
| 5 | 5/13 | 牽引療法，圧迫療法，　１～５回分の講義内容のまとめ | 〃 |
| 6 | 5/20 | 水治療法 | 〃 |
| 7 | 5/27 | 超音波療法 | 〃 |
| 8 | 6/10 | 超音波画像診断装置 | 〃 |
| 9 | 6/17 | 光線療法，　６～９回分の講義内容のまとめ | 〃 |
| １０ | 6/24 | 電磁的エネルギー，電気療法総論 | 〃 |
| １１ | 7/1 | 電気診断，筋電図バイオフィードバック | 〃 |
| １２ | 7/8 | 電気療法各論　（TES，FES） | 〃 |
| １３ | 7/15 | 電気療法各論　（TENS，その他） | 〃 |
| １４ | 7/22 | 電気療法各論　（干渉波，その他） | 〃 |
| １５ | 7/29 | ジアテルミー，１０～１５回分の講義内容のまとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 講義資料を配付。教科書はなし。 |
| 参考図書 | １．渡部一郎訳：EBM 物理療法.医歯薬出版<br>２．濱出茂治・他編：テキスト物理療法学　基礎と臨床，医歯薬出版，２０１６<br>３．上杉雅之監修：イラストでわかる物理療法，医歯薬出版，２０１９ |
| 予習・復習内容 | 事前配布の講義資料の予習は必須となる。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　７０％、小テスト結果と講義中の提出課題　３０％ |
| 履修上の注意 | ・講義資料の予習に基づいたグループディスカッションを実施する。<br>・講義中に提出課題作成を求める。<br>・適宜，小テストを実施する。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail：shimosaka.mitsuru@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 物理療法学演習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 下坂　充 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 各治療機器を用いた実験実習において，治療時の生体反応を簡便な計測機器を用いて確認を行った後，得られたデータに基づき，その意義づけの検討を口頭発表と討論を通して行い，臨床に応用可能な判断能力を身につける。また，物理療法における臨床判断分析の基礎および根拠に基づいた理学療法実践の基礎的概念を学び，模擬症例検討を通して臨床判断の実践を模擬的に経験する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．各種物理療法の特徴を踏まえ，適応・禁忌を考慮した上で，治療目的に応じて基本的な治療手技を行える。<br>２．物理療法における臨床判断および根拠に基づいた理学療法実践の基礎について説明できる。<br>３．症例に関する臨床判断を模擬的に経験し、物理療法の臨床的適用の工夫や他の治療法との併用を含む効果的な治療方針の統合が行える。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 10/2 | 実演と説明・実験実習：表在温熱・寒冷，牽引，圧迫、光線療法（２コマ続き） | 下坂　充 |
| 2 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 3 | 10/9 | 実験実習：表在温熱・寒冷，牽引，圧迫、光線療法（２コマ続き） | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 5 | 10/16 | 実験実習：表在温熱・寒冷，牽引，圧迫、光線療法（２コマ続き） | 〃 |
| 6 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 7 | 10/23 | 実験実習：表在温熱・寒冷，牽引，圧迫、光線療法　発表会（２コマ続き） | 〃 |
| 8 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 9 | 10/30 | 実演と説明・実験実習：水治療法（２コマ続き） | 〃 |
| １０ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １１ | 11/6 | 実験実習：水治療法（２コマ続き） | 〃 |
| １２ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １３ | 11/13 | 実験実習：水治療法（２コマ続き） | 〃 |
| １４ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １５ | 11/20 | 実験実習：水治療法　発表会（２コマ続き） | 〃 |
| １６ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １７ | 11/27 | 実演と説明・実験実習：超音波、超音波画像、電気療法，ジアテルミー（２コマ続き） | 〃 |
| １８ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １９ | 12/4 | 実験実習：超音波、超音波画像、電気療法，ジアテルミー（２コマ続き） | 〃 |
| ２０ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２１ | 12/11 | 実験実習：超音波、超音波画像、電気療法，ジアテルミー（２コマ続き） | 〃 |
| ２２ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２３ | 12/18 | 実験実習：超音波、超音波画像、電気療法，ジアテルミー　発表会（２コマ続き） | 〃 |
| ２４ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２５ | 1/8 | 物理療法の選択と根拠，模擬症例検討会説明と症例紹介（２コマ続き） | 〃 |
| ２６ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２７ | 1/15 | 模擬症例検討会（２コマ続き） | 〃 |
| ２８ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２９ | 1/22 | 模擬症例検討会（２コマ続き） | 〃 |
| ３０ | 〃 | 〃 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 講義資料を配付。教科書はなし。 |
| 参考図書 | １．渡部一郎訳：WBM 物理療法.医歯薬出版<br>２．濱出茂治・他編：テキスト物理療法学　基礎と臨床，医歯薬出版，２０１６<br>３．上杉雅之監修：イラストでわかる物理療法，医歯薬出版，２０１９ |
| 予習・復習内容 | 実験実習の前段階として、各課題の内容を前期「物理療法学Ｉ」の復習により確認すること。 |
| 成績評価方法・基準 | ・講義中の提出課題：１００％<br>・期末の筆記試験は実施しない。 |
| 履修上の注意 | ・適宜，提出課題の作成を行う。<br>・グループ活動として実験実習と結果発表を行う。<br>・模擬症例検討会はグループワークと全体での発表を組み合わせて行う。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail：shimosaka.mitsuru@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 物理療法学Ⅱ（マッサージ） | | | | | | | |
| 担当教員 | 赤羽　勝司 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | マッサージに関する基礎的な技術と実践的な知識を習得し，施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。具体的には，マッサージの意義・生体作用，マッサージの基本手技，身体各部のマッサージ施術法，運動器疾患に対するマッサージ施術法について，実習を通してそれぞれの技術を習得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 人体の筋組織を触診し、筋や筋間を触知できる技術を習得する。さらに触診術を高めた上で、マッサージの基本手技を習得する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | マッサージの意義，生体作用・マッサージの基本手技 | 赤羽　勝司 |
| 2 | | マッサージの基本手技 | 〃 |
| 3 | | 身体各部の触診・マッサージ：上部頸部 | 〃 |
| 4 | | 身体各部の触診・マッサージ：下部頸部 | 〃 |
| 5 | | 身体各部の触診・マッサージ：肩甲帯 | 〃 |
| 6 | | 身体各部の触診・マッサージ：上腕・前腕 | 〃 |
| 7 | | 身体各部の触診・マッサージ：背部上部 | 〃 |
| 8 | | 身体各部の触診・マッサージ：背部下部 | 〃 |
| 9 | | 身体各部の触診・マッサージ：脊柱群 | 〃 |
| １０ | | 身体各部の触診・マッサージ：臀部内側 | 〃 |
| １１ | | 身体各部の触診・マッサージ：臀部外側 | 〃 |
| １２ | | 身体各部の触診・マッサージ：大腿前側 | 〃 |
| １３ | | 身体各部の触診・マッサージ：大腿後側 | 〃 |
| １４ | | 身体各部の触診・マッサージ：下腿 | 〃 |
| １５ | | 身体各部の触診・マッサージ：足部 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | １．大谷素明：クリニカルマッサージ―ひと目でわかる筋解剖学と触診・治療の基本テクニック<br>２．荒川規矩男／川合忠一編集：運動療法の実際，南江堂<br>３．市川宣恭編集：スポーツ傷害のためのスポーツ外傷・障害，南江堂<br>４．黒田善雄編集：実践スポーツクリニックスポーツのためのセルフケア，文光堂 |
| 予習・復習内容 | 触診術が重要です。筋系の触診ができるよう復習すること。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度２０％，実技試験４０％，期末試験４０％ |
| 履修上の注意 | 必ず解剖学（筋系）の復習をしておくこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:akahane.katsushi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病態把握に触診術が必要であり治療場面でマッサージは行われる。ともに理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法系義肢装具学Ｉ | | | | | | | |
| 担当教員 | 高嶋　孝倫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 義肢装具の種類について用語の徹底から基本構成，さらには使用目的に適応した機能を教授する。Ｉでは，理学療法士が関与することが多い下肢装具に重点を置き，基本的，かつ使用頻度の高い装具について解説する。国家試験に出題される歴史的な義肢装具についても触れる。装具は体表から力を架ける/受ける事によって成立する事，材料の知識は理学療法士にとっても必要な事から，随所に基礎力学，材料学の解説を含めて教授する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．義肢装具の種類と支給体系を説明できる。<br>２．下肢装具の基本構造と装具歩行を理解し説明できる。<br>３．上肢装具の種類と適用を理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 総論：義肢装具の種類と適応，処方の流れ，支給体系，用語体系 | 高嶋　孝倫 |
| 2 | | 装具総論：装具の種類と目的，装具の処方と適合判定 | 〃 |
| 3 | | 下肢装具：下肢装具の種類と構成 | 〃 |
| 4 | | 短下肢装具：装具の剛性と関節自由度の拘束力 | 〃 |
| 5 | | 短下肢装具：尖足歩行と短下肢装具歩行 | 〃 |
| 6 | | 短下肢装具：短下肢装具の製作方法（実習） | 〃 |
| 7 | | 下肢装具：長下肢装具，骨盤帯長下肢装具 | 〃 |
| 8 | | 対麻痺用装具：脊髄損傷と下肢装具 | 〃 |
| 9 | | 下肢装具：二分脊椎と下肢装具 | 〃 |
| １０ | | 下肢装具：脳性麻痺と下肢装具 | 〃 |
| １１ | | ペルテス病装具，先天股脱装具 | 〃 |
| １２ | | 膝装具：膝装具の種類と構成，膝継手の変遷 | 〃 |
| １３ | | 上肢装具：上肢装具の種類と適応 | 〃 |
| １４ | | 上肢装具：神経疾患に対する上肢装具 | 〃 |
| １５ | | 上肢装具：骨関節疾患に対する上肢装具 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版 |
| 参考図書 | 日本整形外科学会，日本リハビリテーション医学会監修「義肢装具のチェックポイント　第8版」　医学書院 |
| 予習・復習内容 | 関連する身体部位の解剖学・運動学，および適用となる疾患について復習しておくことが望ましい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:takashima.takamichi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 義肢装具の実務経験と教育経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法系義肢装具学Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 高嶋　孝倫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | Ⅱでは，靴型装具，体幹装具の概念と構成，疾患適用について享受する．理学療法士が関与することが多い義足では，基本的，かつ使用頻度の高い義足について解説する。国家試験に出題される歴史的な義足についても触れる。義足は欠失した下肢の部分的な機能を代償する事で義足歩行が成立する事から，正常歩行の状態と退避させての理解となる．さらに，材料，機構の知識も必要な事から，随所に材料学，機構学の解説を含める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．靴型装具・体幹装具の基本構造と適用を理解する。<br>２．義肢の種類と支給体系を理解し説明できる。<br>３．義足の構造，機能，および義足歩行について理解し説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 靴型装具：足の変形と矯正，一般靴と靴型装具 | 高嶋　孝倫 |
| 2 | | 靴型装具：靴型装具の構成要素 | 〃 |
| 3 | | 足底装具：足底圧分散の概念，靴型装具と足底装具の適応 | 〃 |
| 4 | | 体幹装具：種類と適応疾患，基本構成，腰痛と体幹装具 | 〃 |
| 5 | | 体幹装具：胸椎疾患，側弯症，頚椎装具 | 〃 |
| 6 | | 義足総論：下肢切断と義足，義足ソケットの機能，義足の構成要素 | 〃 |
| 7 | | 下腿義足：アライメント概念，下腿義足歩行 | 〃 |
| 8 | | 下腿義足：ソケットの種類と変遷，義足足部の機能 | 〃 |
| 9 | | 下腿義足：下腿義足歩行と異常歩行 | 〃 |
| １０ | | 大腿義足：大腿義足歩行と膝のコントロール | 〃 |
| １１ | | 大腿義足：義足膝継手の機能 | 〃 |
| １２ | | 大腿義足：ソケットの種類と変遷 | 〃 |
| １３ | | 大腿義足：アライメントと調整 | 〃 |
| １４ | | 大腿義足：ダイナミックアライメント調整と異常歩行 | 〃 |
| １５ | | 股義足，膝義足，足部義足 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版 |
| 参考図書 | 日本整形外科学会，日本リハビリテーション医学会監修「義肢装具のチェックポイント　第8版」医学書院 |
| 予習・復習内容 | 関連する身体部位の解剖学・運動学，および適用となる疾患について復習しておくことが望ましい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　１００％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:takashima.takamichi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 義肢装具の実務経験と教育経験を有する。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日常生活活動学Ⅰ（概論） | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | ADLの概念について学び，理学療法士の視点からADLを評価する意義を理解する。BIやFIMなどの代表的なADL評価表の具体的手法を学び，評価表の持つ機能について考える。基本動作における正常について各動作の構成している運動を分析し，動作の特徴について理解を深める。基本動作を介助する方法を学び，実習を通じて習得する。また，ADLを支援するための様々な器具の構造や基本的な使用法を学び，指導が実践できるようになることを目的とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．ADLの概念を説明できる<br>２．ADL評価表の目的と意義が説明できる<br>３．基本動作を運動学的に分析できる<br>４．基本的な動作指導・介助ができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/29 | ADLの概念と範囲 | 福谷　保 |
| 2 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 3 | 10/6 | ADLとICF | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 5 | 10/13 | ADLとQOL | 〃 |
| 6 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 7 | 10/20 | ADLと理学療法の関係 | 〃 |
| 8 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 9 | 10/27 | ADL評価（総論） | 〃 |
| １０ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １１ | 11/10 | ADL評価（バーサルインデックス） | 〃 |
| １２ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １３ | 11/17 | ADL評価（FIM） | 〃 |
| １４ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １５ | 11/24 | ADL評価としての動作分析 | 〃 |
| １６ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １７ | 12/1 | 〃 | 〃 |
| １８ | 〃 | 〃 | 〃 |
| １９ | 12/8 | 移動補助具（杖，歩行器） | 〃 |
| ２０ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２１ | 12/15 | 移動補助具（車いす） | 〃 |
| ２２ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２３ | 12/22 | 移動補助具の動作指導 | 〃 |
| ２４ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２５ | 1/5 | 起居移動動作の介助方法（基本動作の特徴） | 〃 |
| ２６ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２７ | 1/12 | 起居移動動作の介助方法（実技） | 〃 |
| ２８ | 〃 | 〃 | 〃 |
| ２９ | 1/19 | 〃 | 〃 |
| ３０ | 〃 | 〃 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 細田多穂　日常生活活動学テキスト　南江堂 |
| 参考図書 | 適宜紹介する |
| 予習・復習内容 | 教科書の該当ページを読み，配布資料に書き込みをしておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：筆記試験：１００％ |
| 履修上の注意 | 実技練習は積極的に参加すること |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する．患者の日常生活の状況を把握する方法と援助方法を身に着けることを目標とする。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日常生活活動学Ⅱ（各論） | | | | | | | |
| 担当教員 | 川井　伸夫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 日常生活活動学Ｉでの学習をもとに，理学療法の対象となる主な疾患ごとに機能障害とADLの関連を整理し，ADL訓練や指導の実際について学習する。<br>グループで一つの疾患を担当し，文献などを調べ，レジメにまとめて発表する。<br>疾患の病理，病態，特徴から医学的治療を概説し，症状から障害構造を大まかに整理し，ADL動作の指導方法をについてまとめる。<br>効果的なADL動作の獲得を促すための運動学習の理論についても学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 疾患別の障害像と日常生活活動の特徴を理解し，動作練習法および誘導法を習得する. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 授業オリエンテーションとグループワーク　疾患に関する情報収集 | 川井　伸夫 |
| 2 | | グループワーク　疾患に関する情報収集 | 〃 |
| 3 | | 〃 | 〃 |
| 4 | | 〃 | 〃 |
| 5 | | グループワーク　障害像の構成 | 〃 |
| 6 | | 〃 | 〃 |
| 7 | | グループワーク　日常生活動作の方法の整理 | 〃 |
| 8 | | 〃 | 〃 |
| 9 | | 〃 | 〃 |
| １０ | | 〃 | 〃 |
| １１ | | 〃 | 〃 |
| １２ | | 〃 | 〃 |
| １３ | | グループワーク　発表資料の作成 | 〃 |
| １４ | | 〃 | 〃 |
| １５ | | 〃 | 〃 |
| １６ | | 〃 | 〃 |
| １７ | | グループ発表　グループの発表と質疑 | 〃 |
| １８ | | 〃 | 〃 |
| １９ | | 〃 | 〃 |
| ２０ | | 〃 | 〃 |
| ２１ | | 〃 | 〃 |
| ２２ | | 〃 | 〃 |
| ２３ | | 〃 | 〃 |
| ２４ | | 〃 | 〃 |
| ２５ | | 〃 | 〃 |
| ２６ | | 〃 | 〃 |
| ２７ | | ＡＤＬの知識の整理　国家試験問題を題材としたADLの検討 | 〃 |
| ２８ | | 〃 | 〃 |
| ２９ | | ＡＤＬの指導のポイント　運動学習と行動分析からとらえた動作指導のポイント | 〃 |
| ３０ | | 〃 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 必要に応じて資料配布する |
| 参考図書 | １．柴喜嵩 他編；PT･OTビジュアルテキスト ADL 羊土社<br>２．鶴見隆正 他編；日常生活活動学・生活環境学 医学書院<br>３．細田多穂 監；日常生活活動学テキスト 南江堂<br>４．伊藤利之 他編；新版日常生活活動学(ADL) 医歯薬出版<br>５．千住秀明 監；日常生活活動学(ADL) 神陵文庫<br>６．伊藤利之 他監；ADLとその周辺 医学書院 |
| 予習・復習内容 | 担当した疾患および障害に関する資料を図書館等で収集しておくこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験８０％　発表２０％ |
| 履修上の注意 | グループワークがかなり多いので発表資料作成などでのグループ内協業に努めること |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:kawai.nobuo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法治療学Ⅰ（脳血管障害） | | | | | | | |
| 担当教員 | 金井　敏男 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 講義では，脳血管障害についてその概要，画像，臨床症状，評価法等の知識を再確認する。実技演習では基本動作に関わる評価と治療についてデモンストレーションし，それを踏まえて学生がペアとなって動作の誘導方法を学ぶ。また，脳血管障害の病期，経過と状況の変化に応じ，基本的理学療法治療とその応用性についても実技を通して理解する。患者の障害像を大まかに分類し，それぞれのケースでの操作，誘導する時のポイントを学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．脳血管障害の概要が理解できる。<br>２．脳血管障害の病態生理と機能・活動が理解できる。<br>３．脳血管障害の運動療法の考え方が理解できる。<br>４．脳血管障害の具体的運動療法を健常者で経験する。<br>５．健常者同士で行った運動療法の原理と感触を理解し患者との相違が想像できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 脳血管障害の概要（定義・原因・分類） | 金井　敏男 |
| 2 | | 脳血管障害の画像診断の紹介 | 〃 |
| 3 | | 脳血管障害の臨床症状の特徴 | 〃 |
| 4 | | 脳血管障害の評価概要 | 〃 |
| 5 | | 脳血管障害の理学療法治療の考え方と治療原理 | 〃 |
| 6 | | 脳血管障害の治療体系の概要 | 〃 |
| 7 | | 脳血管障害患者の運動療法の概要 | 〃 |
| 8 | | 背臥位での頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作 | 〃 |
| 9 | | 背臥位からの寝返り・起き上がりと座位保持治療操作 | 〃 |
| １０ | | 側臥位と腹臥位での頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作 | 〃 |
| １１ | | 長座位・横座位・四つ這いでの頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作および姿勢動作変換 | 〃 |
| １２ | | 膝立ち位・片膝立ち位での姿勢動作変換 | 〃 |
| １３ | | 床面・端座位からの立ち上がりおよび立位にいたる姿勢動作変換とステップを用いた歩行前治療 | 〃 |
| １４ | | 歩行治療とその操作法 | 〃 |
| １５ | | 片麻痺患者の運動療法として単独操作から姿勢動作変換と歩行治療にいたる流れと総括 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 藤田　勉他監修：脳卒中最前線：医歯薬出版 |
| 参考図書 | １．細田多穂　監修：神経筋障害理学療法学テキスト：南江堂<br>２．荒木信夫　他編：脳卒中ビジュアルテキスト：医学書院<br>３．市川博雄　著：症状・経過観察に役立つ脳卒中の画像のみかた：医学書院<br>４．潮見泰蔵　編：ビジュアル実践リハ　脳神経系リハビリテーション：羊土社<br>５．阿部浩明　他編：脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション：メディカルビュー |
| 予習・復習内容 | 本科目は中枢神経障害に対する運動療法の基本形ともいえるものである。<br>したがって事前学習では神経生理学や運動生理学・運動力学とともに種々の中枢疾患の特徴や病態生理を整理し、その機能や活動を再確認しておくこと。<br>　事後学習は、講義ノートを作成して内容を整理し、中枢障害に対する運動療法の考え方と治療原理を確認する。また臨床実習や卒後の臨床にあたり、自身の考えと根拠を反映した技術が駆使できるように備える。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％、 |
| 履修上の注意 | 理学療法基礎運動学（Ⅰ・Ⅱ）、神経内科学、脳神経外科学、病態運動学（Ⅰ）、運動療法学（Ⅰ・Ⅱ）の復習も併せて行うこと。<br>第8回より実習のため、実習着等動きやすい服装で参加すること |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床現場における治療経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法治療学Ⅱ（運動器障害） | | | | | | | | |
| 担当教員 | 赤羽　勝司　　川井　伸夫 | | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ２単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 運動器疾患（整形外科系）の機能障害（切断・脊髄損傷・関節リウマチ含む）に関する理学療法評価と治療技術の基本を理解する。その中で，各疾患を想定した理学療法評価のポイントを整理し，さらに超音波画像を用いて病態把握の理解を高め，標準的な治療の概念について理解を深める。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 運動器疾患及び脊髄損傷や関節リウマチおよび切断損傷に関するの機能障害を整理し、理学療法を実施する上での評価内容と方法を習得する。機能解剖と評価内容から機能障害を臨床推論し、治療技術の基本を理解する。 | | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 運動器疾患の理学療法概論（１） | 赤羽　勝司 |
| 2 | | 〃 | 〃 |
| 3 | | 肩関節周囲の機能解剖 | 〃 |
| 4 | | 肩関節周囲疾患に対する理学療法 | 〃 |
| 5 | | 〃 | 〃 |
| 6 | | 肘関節・手関節の機能解剖 | 〃 |
| 7 | | 上肢疾患に対する理学療法 | 〃 |
| 8 | | 股関節の機能解剖 | 〃 |
| 9 | | 股関節疾患に対する理学療法 | 〃 |
| １０ | | 〃 | 〃 |
| １１ | | 膝関節の機能解剖 | 〃 |
| １２ | | 膝関節疾患に対する理学療法 | 〃 |
| １３ | | 〃 | 〃 |
| １４ | | 足関節・足部の機能解剖 | 〃 |
| １５ | | 足関節・足部疾患に対する理学療法 | 〃 |
| １６ | | 〃 | 〃 |
| １７ | | 脊柱（胸・腰椎）疾患に対するの理学療法 | 〃 |
| １８ | | 〃 | 〃 |
| １９ | | 脊柱（頸椎）疾患に対するの理学療法 | 〃 |
| ２０ | | 〃 | 〃 |
| ２１ | | 切断の理学療法；切断の疫学と下肢切断の手術前および義肢装着前評価 | 川井　伸夫 |
| ２２ | | 切断の理学療法；下肢切断の義足装着(後)評価 | 〃 |
| ２３ | | 切断の理学療法；下肢切断端の管理と義足装着前理学療法 | 〃 |
| ２４ | | 切断の理学療法；義足装着後理学療法 | 〃 |
| ２５ | | 脊髄損傷に対するの理学療法 | 赤羽　勝司 |
| ２６ | | 〃 | 〃 |
| ２７ | | 〃 | 〃 |
| ２８ | | 関節リウマチに対するの理学療法 | 〃 |
| ２９ | | 〃 | 〃 |
| ３０ | | 〃 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 奈良勲監修：運動器疾患の病態と理学療法，医歯薬出版株式会社 |
| 参考図書 | １．澤村誠志 著：切断と義肢 医歯薬出版<br>２．高田治実 他編：義肢・装具学 羊土社<br>３．冨士武史監修：整形外科疾患の理学療法，金原出版株式会社<br>４．林典雄ほか：整形外科運動療法ナビゲーション　上肢，下肢・体幹，メディカルビュー社<br>５．柳澤健ほか：PT臨床実習ルートマップ，メディカルビュー社<br>６．石川朗ほか：臨床実習フィールドガイド，南江堂 |
| 予習・復習内容 | 各病態把握の整理。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度１０％，期末試験９０％ |
| 履修上の注意 | 臨床推論には、「運動学」・「解剖学」の基礎的知識が必要です。必ず復習し整理しておくこと。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:akahane.katsushi@shitoku.ac.jp　　E-mail：kawai.nobuo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法治療で基本となる運動器の理学療法あるため、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法治療学Ⅲ（神経系障害） | | | | | | | |
| 担当教員 | 下坂　充 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | パーキンソン病，脊髄小脳変性症，筋萎縮性側索硬化症等の代表的な神経・筋難病について，その臨床症状，病態，医学的ケア，理学療法評価，治療方針，理学療法の実践および社会的支援体制等の知識を座学により学ぶ。多様な神経症状や身体障害と精神・心理面の障害を配慮した上で，日常生活自立度の維持を図る方策を具体的に学ぶ。さらに，神経疾患に対する基本的理学療法手段に関して，治療実技を模擬的に経験し，その成果を実技デモンストレーションと口頭説明を用いて発表し合うことにより実践的問題解決能力を高める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １.代表的な神経・筋疾患の臨床症状，病態，医学的ケア，評価，理学療法の基本事項について説明できる。<br>２.被験者に対する実技デモンストレーションと口頭説明を実践的観点に基づき行うことができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 神経難病の概要（定義、分類、症状、治療法、理学療法士の役割） | 下坂　充 |
| 2 | | 〃 | 〃 |
| 3 | | 神経難病の概要、各論の学習方法説明 | 〃 |
| 4 | | パーキンソン病1（症状、病態、評価、治療方針、理学療法） | 〃 |
| 5 | | 〃 | 〃 |
| 6 | | 各論担当学生のテーマ別共同学習会 | 〃 |
| 7 | | 脊髄小脳変性症と類似疾患（症状、病態、評価、理学療法） | 〃 |
| 8 | | 多発性硬化症、多発性神経炎（症状、病態、評価、理学療法） | 〃 |
| 9 | | 筋萎縮性側索硬化症（症状、病態、評価、理学療法） | 〃 |
| １０ | | 重症筋無力症、筋強直性ジストロフィー（症状、病態、評価、理学療法） | 〃 |
| １１ | | 実習オリエンテーション、実習計画立案 | 〃 |
| １２ | | 評価・治療実習（評価・治療） | 〃 |
| １３ | | 〃 | 〃 |
| １４ | | 〃 | 〃 |
| １５ | | 評価・治療実習の成果発表会 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 講義資料を配付。教科書はなし。 |
| 参考図書 | １.医療情報科学研究所編：病気が見えるvol.７脳・神経.メディックメディア.<br>２.嶋田智明、他編：神経難病.文光堂.<br>３.小森哲夫監修：神経難病のリハビリテーション実践アプローチ.メジカビュー.<br>４.河原仁志、他編：快を支える難病ケアスターティングガイド.医学書院.<br>５.吉尾雅春、他編：運動療法学各論.医学書院.<br>６.植松光俊・他編：神経筋障害理学療法学テキスト.南江堂. |
| 予習・復習内容 | 配付資料に基づいた講義前後の自己学習が必要である。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験　７０％、講義中の提出課題　３０％ |
| 履修上の注意 | ・講義ごとに配付資料あり。配付資料を学習に活用する。<br>・適宜，小レポート作成を課す。<br>・グループ学習により相互の基礎知識の確認を行う。<br>・実習時は指定された服装等を準備して参加する。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail：shimosaka.mitsuru@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法治療学Ⅳ（内部障害） | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 内部障害は生体機能における呼吸，循環，消化，排泄，代謝などに関わる機能の障害である。これらは人の体の内部で起こっている現象であるため，運動障害のように外部から見ただけでは理解しにくい。その障害を適切に評価し，理学療法アプローチを立案していく方法を学ぶ。特に呼吸障害に対しては徒手呼吸療法および痰吸引手技に関して実技を中心に解説する。また，がんに対するリハビリテーションについては維持的リハ，緩和的リハについて学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．呼吸不全の病態から呼吸理学療法の役割を理解する。<br>２．循環器疾患に対する理学療法の進め方を理解する。<br>３．代謝障害および、その他の内部障害に対するリハビリテーションの概要を理解する。<br>４．呼吸介助手技実施の一連の方法について理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 内部障害概説 | 山本　良彦 |
| 2 | | 呼吸理学療法１（呼吸器リハビリテーション） | 〃 |
| 3 | | 呼吸理学療法２（評価、聴診） | 〃 |
| 4 | | 呼吸理学療法３（呼吸介助手技、体位排痰法） | 〃 |
| 5 | | 呼吸理学療法４（慢性閉塞性肺疾患、術後呼吸理学療法、小児呼吸理学療法） | 〃 |
| 6 | | 呼吸理学療法５（喀痰等の吸引法） | 〃 |
| 7 | | 循環器障害に対する理学療法１（虚血性心疾患） | 〃 |
| 8 | | 循環器障害に対する理学療法２（心電図のみかた） | 〃 |
| 9 | | 循環器障害に対する理学療法３（高血圧症） | 〃 |
| １０ | | 代謝障害に対する理学療法１（糖尿病） | 〃 |
| １１ | | 代謝障害に対する理学療法２（肥満症） | 〃 |
| １２ | | 腎機能障害に対する理学療法 | 〃 |
| １３ | | フレイル、サルコペニアに対する理学療法 | 〃 |
| １４ | | 小腸・直腸・膀胱機能障害に対する理学療法 | 〃 |
| １５ | | がんに対する理学療法 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト、南江堂<br>２．石川　朗編集：内部障害理学療法学　呼吸、中山書店 |
| 参考図書 | １．石川　朗編集：内部障害理学療法学　循環・代謝、中山書店<br>２．髙橋哲也編：内部障害理学療法学、医歯薬出版<br>３．松尾善美編：内部障害理学療法学、羊土社 |
| 予習・復習内容 | 予習は必要ないが、実技が多いので必ず復習してほしい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末筆記試験５０％、呼吸介助手技実技試験５０％ |
| 履修上の注意 | 必要な時期に聴診器を購入する。運動しやすい服装を準備すること。 |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 回復期リハ病院、小児施設において呼吸・循環器リハに携わってきたので、内部障害理学療法の基本を踏まえて臨床における実践的な内容を紹介できる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法治療学Ｖ（発達障害） | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦　　半田　貴子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 肢体不自由児の理学療法治療を中心に，具体的な事例を挙げながら支援の方法を説明していく。整形外科疾患，中枢神経疾患，染色体異常，筋疾患，知的障害，ハイリスク児，装具療法など，小児発達に関わる多くの分野を関連させて理解する。また，地域における発達障害児に対する療育と理学療法士の関わりを紹介する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．小児疾患における理学療法士の役割を理解し、説明できる。<br>２．各種小児疾患に対する理学療法治療を理解し、説明できる。<br>３．障害児に対する支援の方法を理解し、説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 発達障害概論 | 山本　良彦 |
| 2 | | 発達の診断、評価 | 〃 |
| 3 | | 発達検査法 | 〃 |
| 4 | | ペルテス病に対する理学療法治療 | 〃 |
| 5 | | 二分脊椎症に対する理学療法治療 | 〃 |
| 6 | | 先天性股関節脱臼に対する理学療法治療 | 〃 |
| 7 | | 脳波異常（WEST症候群など）に対する理学療法治療 | 〃 |
| 8 | | 脊髄小脳変性症に対する理学療法治療 | 〃 |
| 9 | | 進行性筋ジストロフィー症に対する理学療法治療 | 〃 |
| １０ | | ダウン症候群に対する理学療法治療 | 〃 |
| １１ | | 脳性麻痺児に対する理学療法治療 | 〃 |
| １２ | | 重症心身障害児に対する理学療法治療 | 〃 |
| １３ | | 低出生体重児、ハイリスク児に対する理学療法治療 | 〃 |
| １４ | | 地域における障害児のサポート活動 | 半田　貴子 |
| １５ | | 障害児スポーツに対するサポート活動 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．細田多穂監修：小児理学療法学テキスト、南江堂<br>２．前川喜平：乳幼児健診における境界児、診断と治療社<br>３．山本良彦：ダウン症リハビリテーションガイド、診断と治療社 |
| 参考図書 | 陣内一保：子どものリハビリテーション医学、医学書院 |
| 予習・復習内容 | 講義前に疾患像などを確認しておくことは必要だが、毎回の講義をしっかり復習することに重点を置いてほしい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 小児施設において肢体不自由児、発達障害児の療育に携わってきた。臨床場面に即した実践的な理学療法治療を紹介できる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法治療学Ⅵ（スポーツ障害） | | | | | | | |
| 担当教員 | 赤羽　勝司 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 競技スポーツから健康維持を含めた生涯スポーツ場面で生じやすい傷害に対して理学療法士として適切に既応するための知識・技術について学習する。スポーツ障害の病態と発生機序を理解し，スポーツ選手の体調を管理し，外傷・障害を予防するための理学療法について理解する。競技復帰する過程のアスレチックリハビリテーションを実践するために必要な知識と技術を習得する。また，障害者スポーツについても理解していく。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 理学療法治療学Ⅱ（運動器障害）で習得した評価内容から、理学療法治療の基本を理解し、治療技術を習得する。各疾患に対する治療法から、スポーツ選手が競技復帰するまでのコンディショニングに至るまでの治療要因を理解する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | スポーツ理学療法概論 | 赤羽　勝司 |
| 2 | | アスレティックリハビリテーション概論 | 〃 |
| 3 | | 肩関節スポーツ障害（投球障害の理論） | 〃 |
| 4 | | 肩関節スポーツ障害（投球障害の実際） | 〃 |
| 5 | | 膝関節スポーツ障害（ACL損傷の理論） | 〃 |
| 6 | | 膝関節スポーツ障害（ACL損傷の実際） | 〃 |
| 7 | | 患部外トレーニング（コアトレーニングの理論） | 〃 |
| 8 | | 患部外トレーニング（コアトレーニングの実際） | 〃 |
| 9 | | ストレッチングの理論 | 〃 |
| １０ | | ストレッチングの実際 | 〃 |
| １１ | | テーピングの理論 | 〃 |
| １２ | | テーピングの実際 | 〃 |
| １３ | | アスレティックリハビリテーションの理論 | 〃 |
| １４ | | アスレティックリハビリテーションの実際 | 〃 |
| １５ | | 事例検討 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 陶山哲夫　監修：スポーツ理学療法学，メジカルビュー社 |
| 参考図書 | １．黒川幸雄　ほか：スポーツ傷害の理学療法，三輪書店<br>２．山口光國　ほか：結果の出せる整形外科理学療法，メジカルビュー社<br>３．齋藤昭彦　訳：脊柱の分節的安定性のための運動療法，エンタプライス |
| 予習・復習内容 | 外傷・障害の予防の概念をまとめて下さい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度１０％，期末試験９０％ |
| 履修上の注意 | 実技を中心に授業を展開していきます。運動ができる服装で受講して下さい。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:akahane.katsushi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | スポーツ現場で理学療法サポートの実施。このことから外傷・障害の予防について理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 関節モビライゼーション | | | | | | | |
| 担当教員 | 赤羽　勝司 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 各種治療手技の内，徒手療法として関節モビライゼーションの基本概念と基礎技術を習得する。骨運動学と関節運動学の知識を深め，関節モビライゼーションの原理を理解する。また，運動療法を実施していくための関節モビライゼーションの基本的な手技を習得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 徒手療法の基本的な手技を理解することができ、基本的な手技を実践することができるよう手技を習得する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 関節モビライゼーション総論 | 赤羽　勝司 |
| 2 | | 関節モビライゼーションの実際：肩甲帯 | 〃 |
| 3 | | 関節モビライゼーションの実際：肘関節 | 〃 |
| 4 | | 関節モビライゼーションの実際：手関節・手指 | 〃 |
| 5 | | 関節モビライゼーションの実際：脊柱 | 〃 |
| 6 | | 関節モビライゼーションの実際：股関節 | 〃 |
| 7 | | 関節モビライゼーションの実際：膝関節 | 〃 |
| 8 | | 関節モビライゼーションの実際：足関節・足根部 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | １．奈良勲ほか：系統別・治療手技の展開改訂第2版，協同医書出版社<br>２．柳澤健編集：運動療法学改訂第2版，金原出版株式会社 |
| 予習・復習内容 | 実技習得のための復習。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度３０％，期末試験７０％ |
| 履修上の注意 | 実技を中心に授業を展開していきます。運動ができる服装で受講して下さい。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:akahane.katsushi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 治療手技の特殊テクニックの1つであることから、理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 認知理論に基づく運動療法 | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 運動は身体が外部環境と相互作用を行うための手段とみなされ，それを実現しているのは脳における運動の認知過程であると考えられている。その認知過程を理解し，運動療法に応用する方法を様々な文献および先行研究から示していく。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．運動を制御している脳のしくみを説明できる。<br>２．認知理論に基づいたリハビリテーションについて説明できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 発達科学としての身体認知 | 山本　良彦 |
| 2 | | 空間知覚とボディーイメージ | 〃 |
| 3 | | 感覚入力と運動出力 | 〃 |
| 4 | | アフォーダンスと運動制御 | 〃 |
| 5 | | 知覚の回復 | 〃 |
| 6 | | 運動の回復 | 〃 |
| 7 | | イメージトレーニングとメンタルプラクティス | 〃 |
| 8 | | 認知神経リハビリテーション（認知運動療法） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する |
| 参考図書 | １．Carlo Perfetti、宮本省三、沖田一彦：認知運動療法、協同医書出版<br>２．Franca Pante：認知運動療法講義、協同医書出版<br>３．Paola Puccini、Carlo Perfetti：子どもの発達と認知運動療法 |
| 予習・復習内容 | 予習は必要ないが、復習をして考え方を身に付けてほしい。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート１００％ |
| 履修上の注意 | 特になし |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 認知運動療法マスターコースで研修した内容を講義に反映させることができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 固有受容性神経筋促通手技 | | | | | | | |
| 担当教員 | 中澤　住夫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | PNFの基本概念と基礎技術を理解し，機能評価に役立て，さらに治療プログラムの立案に応用できることを目標とする。実技演習を通して，症例への応用が適切に実施できるようになることを身につける。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．PNFの概念・定義を説明できる。<br>２．PNF促通要素の根拠を説明できる。<br>３．PNFで用いられる基本手技を健常者に対して実施できる。<br>４．PNFで用いられる特殊テクニックを健常者に対して実施できる。<br>５．評価と治療プログラムを立案できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | PNFの概念・定義、理学療法における位置付 | 中澤　住夫 |
| 2 | | PNFの促通要素 | 〃 |
| 3 | | PNFの特殊テクニック | 〃 |
| 4 | | 上肢PNFパターンでの実技 | 〃 |
| 5 | | 下肢PNFパターンでの実技 | 〃 |
| 6 | | 肩甲骨・骨盤パターンでの実技 | 〃 |
| 7 | | 上部・下部体幹パターンでの実技 | 〃 |
| 8 | | PNFの臨床応用、まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | PNFマニュアル　南江堂 |
| 参考図書 | １．理学療法ハンドブック　第２巻治療アプローチ<br>２．第３８章PNFアプローチ 協同医書出版<br>３．PNFハンドブック　丸善出版 |
| 予習・復習内容 | 随時伝えます |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 毎回、実習を行うので運動しやすい服装。ｽﾆｰｶｰ。 |
| 担当教員への連絡方法 | 理学療法学研究室に伝言してください |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士として４１年間の臨床経験の中で、PNFを活用してきた経験を活かし、PNFの基本概念と基本技術を指導する科目である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | スポーツマッサージ | | | | | | | |
| 担当教員 | 赤羽　勝司 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 物理療法学Ⅱで習得した基本的マッサージの基礎をもとに、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。スポーツマッサージの基礎と応用について、各競技特性を理解した上で、コンディショニングや治療のためのマッサージを取得する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 人体組織を触診し、筋腹や筋間、軟部組織等を触知できる技術を習得する。さらに触診術を高めた上で、スポーツマッサージの手技を習得する。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | スポーツマッサージの実践：頭部 | 赤羽　勝司 |
| 2 | | スポーツマッサージの実践：頸部 | 〃 |
| 3 | | スポーツマッサージの実践：肩甲帯 | 〃 |
| 4 | | スポーツマッサージの実践：上腕・前腕 | 〃 |
| 5 | | スポーツマッサージの実践：背部上部 | 〃 |
| 6 | | スポーツマッサージの実践：背部下部 | 〃 |
| 7 | | スポーツマッサージの実践：大腿 | 〃 |
| 8 | | スポーツマッサージの実践：下腿 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | なし |
| 参考図書 | １．大谷素明：クリニカルマッサージ―ひと目でわかる筋解剖学と触診・治療の基本テクニック<br>２．荒川規矩男／川合忠一編集：運動療法の実際，南江堂<br>３．市川宣恭編集：スポーツ傷害のためのスポーツ外傷・障害，南江堂<br>４．黒田善雄編集：実践スポーツクリニックスポーツのためのセルフケア，文光堂 |
| 予習・復習内容 | 触診の復習 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：授業態度５０％、期末試験５０％ |
| 履修上の注意 | 直接体表を触診するため、薄着での講義になります。理解して受講してください。 |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:akahane.katsushi@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病態把握に触診術が必要であり治療場面でマッサージは行われる。ともに理論と実践を伝えることで、学生はより深い理解が可能となる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 呼吸理学療法 | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本　良彦 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 何らかの要因により呼吸が障害を受けると，その影響は全身に及び，QOLの低下をきたし，さらには生命の維持をも困難としてしまう。この講座では臨床的な呼吸理学療法におけるフィジカルアセスメント，コンディショニングについて学び，徒手呼吸介助，排痰手技，痰吸引手技を身につけることを目標とする。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．聴診器を用いて，肺音の聴診が実施できる。<br>２．徒手的な排痰法を適切に実施できる。<br>３．痰吸引の手順を理解し，適切に実施できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 呼吸理学療法におけるフィジカルアセスメント | 山本　良彦 |
| 2 | | 肺音聴診 | 〃 |
| 3 | | 徒手的な排痰手技（呼吸介助手技） | 〃 |
| 4 | | 徒手的な排痰手技（呼気時の揉捏法） | 〃 |
| 5 | | 徒手的な排痰手技（呼気時の振動法） | 〃 |
| 6 | | 徒手的な排痰手技（スプリングアクション） | 〃 |
| 7 | | 体位排痰手技 | 〃 |
| 8 | | 痰吸引手技 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する |
| 参考図書 | 石川朗編：理学療法テキスト内部障害理学療法学 呼吸、中山書店 |
| 予習・復習内容 | 予習は必要ないが、復習をして呼吸介助手技を身に付けてほしい。 |
| 成績評価方法・基準 | 実技試験１００％<br>実技試験内容：肺音聴診，徒手的排痰手技，痰吸引手技 |
| 履修上の注意 | ジャージやユニフォームなどの運動しやすい服装で参加すること。<br>聴診器，吸引シミュレーターを使用する。 |
| 担当教員への連絡方法 | オフィスアワーを利用してほしい |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 回復期リハ病院、小児施設において呼吸器リハに携わってきたので、呼吸理学療法の基本を踏まえて臨床における実践的な内容を紹介できる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 発達学的視点に基づく運動療法 | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 人は生後約1年をかけて，直立・二足歩行を獲得する．そして，幼児期には基本的な身辺自立を果たしていく。この過程は筋骨格系および神経系の成熟によって達成される。<br>理学療法の対象者は姿勢・動作の障害を伴い，日常生活活動に制限をきたす場合が多い。乳幼児の発達過程の分析に基づいた運動療法について演習する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．乳児の運動発達過程を神経・筋系の観点から説明できる．<br>２．患者の姿勢動作を誘導する際の留意点が説明できる． | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 正常運動発達の概要（マイルストーンの理解） | 福谷　保 |
| 2 | | 運動発達と重力の関係（安定性と運動性） | 〃 |
| 3 | | 正常発達と神経系の機能 | 〃 |
| 4 | | 正常発達と筋系の機能 | 〃 |
| 5 | | 治療介入における感覚入力の考え方 | 〃 |
| 6 | | 動作の誘導（床上動作） | 〃 |
| 7 | | 動作の誘導（移動動作） | 〃 |
| 8 | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は指定しない |
| 参考図書 | 参考図書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 資料を配布する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート　１００％ |
| 履修上の注意 | 運動ができる服装で参加すること |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:fukutani.tamotsu@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する．動作障害を改善するための考え方を学ぶことができる． |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 感覚統合療法 | | | | | | | |
| 担当教員 | 松下　雅子 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 人のあらゆる行動には，感覚―脳―運動が関わっている。環境の中で身体を効率よく使用することを可能にする神経プロセスを感覚統合という。感覚刺激の受け取り方に偏りがあり，生活の中で上手くいかなさを抱えることや，行為機能での困難さ（運動の苦手さ，不器用さなど）につながっている場合がある。感覚統合障害の中の感覚調整障害と行為機能障害について理解し，アセスメントの種類や方法，演習を通して治療手技について学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．感覚刺激が日常生活や行動に与える影響について理解し説明できる.<br>２．感覚刺激を治療的に活用する方法について理解し説明できる. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 感覚統合理論について | 松下　雅子 |
| 2 | | 感覚調整障害（感覚過敏・回避，感覚低登録，感覚探求の生活への影響）とは | 〃 |
| 3 | | 感覚統合に関する評価の体験 | 〃 |
| 4 | | 治療としての感覚統合 | 〃 |
| 5 | | 演習　感覚統合療法の体験　姿勢反射の統合を促通する治療 | 〃 |
| 6 | | 演習　感覚統合療法の体験　両側統合を促通する治療 | 〃 |
| 7 | | 演習　感覚統合療法の体験　行為機能障害に対する治療 | 〃 |
| 8 | | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | プリント配布 |
| 参考図書 | １．土田玲子：子どもの理解と援助のために　感覚統合Q&A　改定第２版，協同医書出版<br>２．辻井正次：日本版青年・成人感覚プロファイル，日本文化科学社 |
| 予習・復習内容 | 授業範囲に関して予習・復習を行い，主体的に授業に臨んでください. |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：課題レポート：５０％，授業への参加度：５０％ |
| 履修上の注意 | 演習を実施するため，ジャージ等の動きやすい服装で参加してください. |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 作業療法士として，病院，地域の児童福祉施設で発達障害児者の支援経験を持っていることから，臨床場面に即した実践的な知識や内容を伝える. |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 予防理学療法 | | | | | | | |
| 担当教員 | 大町　かおり | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 選択 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | さまざまな角度から予測される障害を予防するための理学療法について、そのかかわる領域・制度の理解と、理学療法士の役割を学ぶ。対象者や地域、企業や自治体からの要望などに応じる、あるいは、新たな問題の解決のために理学療法士として行うべきことや、必要な考え方を学び、自ら考えプランを立てられるようになるための授業である。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 予防的に行う理学療法とは何か、また社会的に理学療法士が求められることと行えることを学び、説明することができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | 大町　かおり |
| 2 | | 予防理学療法の領域 | 〃 |
| 3 | | 予防理学療法と関係する制度 | 〃 |
| 4 | | 予防理学療法と社会のニーズ | 〃 |
| 5 | | 行政と協働で行う予防理学療法 | 〃 |
| 6 | | 予防理学療法の構成の仕方 | 〃 |
| 7 | | 自ら考える予防理学療法１（発表） | 〃 |
| 8 | | 自ら考える予防理学療法２（発表） | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 大渕修一　他　編集：予防理学療法学要論、医歯薬出版、２０１７ |
| 参考図書 | 指定しない |
| 予習・復習内容 | 必要に応じて授業内で提示する。 |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：レポート７０％、発表３０％ |
| 履修上の注意 | 病後や術後に行う理学療法ではない、予測されるさまざまな障害の予防を目的とする理学療法は、健康長寿の延伸と高まる社会的ニーズを見据えた、新しい分野の理学療法である。<br>予防理学療法にかかわる領域・制度の理解、理学療法士の役割を学ぶとともに、必要に応じて仕事を作り出すことができるよう、講義と演習を交えながらの授業となる。 |
| 担当教員への連絡方法 | ohmachi.kaori@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 自治体とともに地域在住高齢者のロコモ―ティブシンドローム予防の事業に関わり効果を上げている。<br>地域理学療法学で学んだ地域包括支援とさまざまな予防事業について、研究・教育を通して地域に暮らす住民の健康を守る役割として理学療法士が主体的にかかわることができることを実感できる授業である。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地域理学療法学Ⅰ（概論） | | | | | | | |
| 担当教員 | 金井　敏男 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 地域リハビリテーションとは，生活拠点に立脚し，保健・医療・福祉・生活・介護に関わる理念と技術が統合されたものである。ここでは，理学療法を中心としつつも，幅広く地域リハビリテーションに関わる理念，医療モデル・生活モデルの流れと関連性，生活評価，各種サービス供給能力とその連携などに関する理解を深め，地域活動における理学療法士の在り方を提言する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．障害者や高齢者と社会とのかかわりが理解できる。<br>２．地域リハビリテーションに関わる法・制度の概略が理解できる。<br>３．理学療法士としての関わり方が考察できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | 9/28 | 心身障害者と社会的変遷・リハビリテーションの考え方 | 金井　敏男 |
| 2 | 10/5 | 人間と社会の関わり・社会的リハビリテーション | 〃 |
| 3 | 10/12 | 社会生活力プログラム・障害のとらえ方 | 〃 |
| 4 | 10/19 | 生活障害・老化と加齢 | 〃 |
| 5 | 10/26 | 運動療法の基本的な流れ・維持期リハビリテーション | 〃 |
| 6 | 11/2 | 地域リハビリテーションの概要 | 〃 |
| 7 | 11/9 | 地域リハビリテーションの広がりと社会的背景 | 〃 |
| 8 | 11/16 | 障害者施策１ | 〃 |
| 9 | 11/30 | 障害者施策２ | 〃 |
| １０ | 12/7 | 高齢者福祉と地域包括ケアシステム | 〃 |
| １１ | 12/14 | 地域包括ケアシステムにおける理学療法アプローチ・介護保険制度 | 〃 |
| １２ | 12/21 | 介護保険サービスの概要 | 〃 |
| １３ | 1/4 | 介護保険サービスにおける理学療法 | 〃 |
| １４ | 1/18 | 地域における理学療法士の役割 | 〃 |
| １５ | 1/25 | ビデオ供覧：発症から地域リハビリテーションまで | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 牧田光代　他編：標準理学療法学　地域理学療法学：医学書院 |
| 参考図書 | １．細田多穂　監修：地域理学療法学テキスト：南江堂<br>２．田中康之　他編：地域包括ケアにおけるPT・OTの役割：文光堂<br>３．浅川育世　他編：ビジュアルレクチャー地域理学療法学：医歯薬出版<br>４．重盛健太　編：PT・OTビジュアルテキスト地域理学療法学：羊土社<br>５．太田仁史　他編：地域リハビリテーション論：三輪書店<br>６．澤村誠志　監修：社会リハビリテーション論：三輪書店 |
| 予習・復習内容 | 教員の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験１００％ |
| 履修上の注意 | 本教科は障害者や高齢者が主体的に生活するための社会的考え方や支援について学ぶものである。<br>したがって事前学習では、教科書や参考図書、関係文献に目を通しておくことはもちろん、普段から障害者や高齢者を取り巻く社会情勢や問題についてマスコミ情報に目を向け考察する習慣をつけること。<br>事後学習は、講義ノートを作成し内容を整理し、理学療法士としての考え方や役割を考察することに心がける。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床現場における訪問リハ治療経験、及び施設における指導経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地域理学療法学Ⅱ（各論） | | | | | | | |
| 担当教員 | 金井　敏男　　下田　浩一　　大町　かおり | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | リハビリテーション医療も施設・病院から在宅へと，地域を基盤として展開が図られ，維持期リハビリテーションと統合し，疾患・障害から，生活を基盤とした新たなリハビリテーションの展開が強く求められている。この授業では，保健・医療・福祉の動向を踏まえて，地域包括ケアシステムの概要と理学療法の関わり（通所，入所，訪問，介護予防・健康増進など）を学び，地域リハビリテーションの考え方，システム，チームアプローチの重要性，理学療法士の役割について理解を深める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．維持期とはどんなものかが理解できる。<br>２．地域包括ケアの考え方が理解できる。<br>３．生活機能を維持するために必要な考え方が理解できる。<br>４．健康維持と介護予防の考え方が理解できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 維持期リハビリテーションの概念・目的・具体的展開 | 金井　敏男 |
| 2 | | 地域包括ケアシステムの概念・必要性 | 〃 |
| 3 | | 地域包括支援事業の推進に係る機関と会議（地域包括支援センターと地域ケア会議） | 〃 |
| 4 | | 地域包括支援における介護予防 | 〃 |
| 5 | | ヘルスプロモーション | 〃 |
| 6 | | 介護予防と予防的リハビリテーション①<br>（サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドローム） | 〃 |
| 7 | | 介護予防と予防的リハビリテーション②（転倒・認知症） | 〃 |
| 8 | | 介護保険サービスの詳細 | 下田　浩一 |
| 9 | | 理学療法の展開①（介護保険老人施設） | 〃 |
| １０ | | 理学療法の展開②（介護老人福祉施設） | 〃 |
| １１ | | 理学療法の展開③（通所リハビリテーション） | 〃 |
| １２ | | 理学療法の展開④（訪問リハビリテーション） | 〃 |
| １３ | | 理学療法の展開⑤（障碍者施設・行政における理学療法士の役割） | 〃 |
| １４ | | 福祉用具供給システム | 〃 |
| １５ | | 地方自治体と協働で行うロコモ予防事業の実例紹介 | 大町かおり |

| | |
|---|---|
| 教科書 | １．牧田光代　他編：標準理学療法学　地域理学療法学：医学書院<br>２．細田多穂：地域リハビリテーション学テキスト：南江堂 |
| 参考図書 | １．村田　伸　他著：地域理学療法学テキスト：学術研究出版<br>２．田中康之　他編：地域包括ケアにおけるPT・OTの役割：文光堂<br>３．重盛健太　他編：PT・OTビジュアルテキスト　地域理学療法学：羊土社<br>４．浅川育世　他編：ビジュアルレクチャー　地域理学療法学：医歯薬出版株式会社<br>５．太田仁史　他編：地域リハビリテーション論：三輪書店 |
| 予習・復習内容 | 教員の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験５０％、課題レポート５０％ |
| 履修上の注意 | 本科目は、障害者や高齢者が主体的に生活するために必要な生活機能の維持向上を図るために理学療法士としての具体的係わりを考えるものである。<br>事前学習では、これまでに学んできた知識や演習、臨床実習での経験を応用することはもちろん、参考書、文献、教員等とのディスカッション、自主的な施設見学、報道、社会生活等を通して、障害者・高齢者問題についての認識を深め自分なりの係わり方を考えることができるようにすること。<br>事後学習では、講義内容を参考に高齢者・障害者問題に対する批判的吟味の上で、自分の成すべき方向を模索したり学生同士や多職種との討論などができ、それらを臨床実習や卒後に生かせるようにする。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 臨床現場における訪問リハ治療経験、及び施設における指導経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地域理学療法学Ⅲ（演習） | | | | | | | |
| 担当教員 | 下田　浩一　　金井　敏男　　大町　かおり | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 演習 |
| 授業目標 | 前半は，地域リハビリテーションを展開する上で重要な知識となる健康状態やリスクの把握・対応方法について，チームアプローチと理学療法の観点から学ぶ（嚥下障害，虚弱，褥瘡，転倒，低栄養，排尿障害，認知機能低下，口腔機能低下，足部のトラブルなど）。<br>後半は，通所，入所，介護予防，健康増進等の事業における意義，目的，期待できる効果などについて学ぶ。また，グループワークを通じて方法論を学び，具体的なプログラムを立案する力を身につける。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．生活に影響に及ぼす二次的続発症や併存症状について、グループワーク等を通じ理解を深める。<br>２．通所、入所、介護予防、健康増進などさまざまな集団活動における意義、目的、方法についてグループワーク等を通じ理解を深める。<br>３．それぞれの目的に応じた集団活動の具体的なプログラムを提示できる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 施設入所および通所リハビリテーション | 金井　敏男 |
| 2 | | 居宅支援と訪問リハビリテーション | 〃 |
| 3 | | 理学療法士の資格と知識を活かしたさまざまな分野での働き方 | 大町かおり |
| 4 | | 健康状態とリスクの把握・対処法について　グループワーク | 下田，金井 |
| 5 | | グループワーク | 〃 |
| 6 | | グループワーク | 〃 |
| 7 | | 発表・まとめ | 〃 |
| 8 | | 発表・まとめ | 〃 |
| 9 | | 発表・まとめ | 〃 |
| １０ | | 生活支援・介護予防・健康増進等における事例研究　グループワーク | 〃 |
| １１ | | グループワーク | 〃 |
| １２ | | グループワーク | 〃 |
| １３ | | 発表・まとめ | 〃 |
| １４ | | 発表・まとめ | 〃 |
| １５ | | 発表・まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 細田多穂：地域リハビリテーション学テキスト：南江堂 |
| 参考図書 | １．牧田光代　他編：標準理学療法学　地域理学療法学：医学書院<br>２．村田　伸　他著：地域理学療法学テキスト：学術研究出版<br>３．田中康之　他編：地域包括ケアにおけるPT・OTの役割：文光堂<br>４．重盛健太　他編：PT・OTビジュアルテキスト　地域理学療法学：羊土社<br>５．浅川育世　他編：ビジュアルレクチャー　地域理学療法学：医歯薬出版株式会社<br>６．寺山久美子：レクリエーション：三輪書店<br>７．太田仁史　他編：地域リハビリテーション論：三輪書店 |
| 予習・復習内容 | 教員の指示に従う |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：期末試験５０％、課題レポート５０％ |
| 履修上の注意 | 本科目は、生活を基盤とした施設・在宅でのリハビリテーションの在り方や介護予防・健康増進等の社会活動における理学療法士の具体的関わりを考えるものである。<br>事前学習では、地域理学療法学Ⅰ・Ⅱで学んだことを応用し、参考書や文献を参考に臨床実習・施設見学・ボランティア活動等の経験を生かし、地域での関わり方を考え、それを討論に反映できるようにすること。<br>事後学習では、講義および討論の内容・結果などをまとめ、それらを臨床実習や卒後に生かせるようにする。 |
| 担当教員への連絡方法 | 初回授業時にアナウンスします |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士として臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生活環境学 | | | | | | | |
| 担当教員 | 川井　伸夫 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 |
| 授業目標 | 身体障害を有しても快適な生活を営むことができる生活環境の構築を目的として，生活者である人間に影響を及ぼす外界の諸条件を学ぶ。<br>具体的な支援方法として，福祉機器や住宅改修の基礎について学ぶ。<br>事例紹介を通して具体的な解決方法の実践的な要点を学ぶ。<br>福祉機器の体験実習，家屋環境の計測実習，および模擬症例の生活像に応じた生活環境整備計画立案をグループワークにより経験し，種々の要因を考慮した上での総合的環境整備の実践的なアプローチ方法を演習する。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 1.各障害特性に応じた生活のありかたに配慮した生活環境整備の原則を理解する.<br>2.生活環境整備に必要な社会資源や法制度を理解する. | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション，生活環境総論 | 川井　伸夫 |
| 2 | | 福祉用具の種類と機能 | 〃 |
| 3 | | 〃 | 〃 |
| 4 | | 福祉用具(機器)体験実習 | 〃 |
| 5 | | 〃 | 〃 |
| 6 | | 住環境整備 | 〃 |
| 7 | | 〃 | 〃 |
| 8 | | 住環境の寸法計測実習 | 〃 |
| 9 | | 〃 | 〃 |
| １０ | | 障害別住宅改修 | 〃 |
| １１ | | 障害別住宅改修案作成演習 | 〃 |
| １２ | | 〃 | 〃 |
| １３ | | 〃 | 〃 |
| １４ | | 障害別住宅改修案報告会 | 〃 |
| １５ | | 〃 | 〃 |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 橋元隆 編；生活環境論 神陵文庫 |
| 参考図書 | １．木村哲彦 編；生活環境論 医歯薬出版<br>２．鶴見隆正 編；日常生活活動学・生活環境学 医学書院<br>３．徳田良英 監；生活環境論入門 DTP出版<br>４．細田多穂 監；生活環境学テキスト 南江堂<br>５．野村歡 他編；OT･PTのための住環境整備論 三輪書店<br>６．市川洌 編；福祉用具アセスメント･マニュアル 中央法規 |
| 予習・復習内容 | 各障害と生活環境との関連についての想定をすること |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：定期試験８０％　発表２０％ |
| 履修上の注意 | グループ演習が中心になります.<br>実習室使用および他科目実施の都合により授業曜日および授業時限の変更が生じる可能性があるので注意すること. |
| 担当教員への連絡方法 | E-mail:kawai.nobuo@shitoku.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 理学療法士としての臨床経験を有する |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 臨床見学実習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | １年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 基本的なマナーに加え、接遇などを学修し、将来理学療法士として働くための役割や心構えを学修する。医療施設見学を行い、医療現場の中での理学療法の機能や役割を理解し、理学療法士としての基本姿勢を考える。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．医療関係施設の中で理学療法士の働く場面を必要な役割や心構えを理解することができる。<br>２．施設見学の中で学んだことをグループの中で伝えることができる。<br>３．見学した内容をグループで協力しまとめて発表することができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | １．オリエンテーション | 福谷　保<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>山本　良彦<br>下田　浩一 |
| 2 | | ２．接遇研修 | |
| 3 | | ３．施設見学：総合病院、回復期病院、小児施設の中から２施設を訪問する。<br>〈６/２（火）～６/５（金）〉 | |
| 4 | | ４．グループワーク：見学内容の振り返りを行う | |
| 5 | | ５．発表：グループ発表を実施する | |
| 6 | | | |
| 7 | | 以上を５～７月に分散して行う | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | 教科書は指定しない |
| 参考図書 | 参考書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示に従って行うこと |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：オリエンテーション１０％、接遇研修への取り組み状況２０％、<br>施設見学状況３０％、発表４０％ |
| 履修上の注意 | 見学先の施設の方々に対し、失礼のないように心掛けてください。 |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーションで指示する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院での臨床経験を持つ。その経験を元に、医療人としての基本的接遇やマナーを伝え、学生は将来医療人として働く心構えを持つことができるようになる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法臨床評価実習Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ２年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ３単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 初めて経験する臨床現場である実習施設の機能，各医療従事者と対象者の関わりや理学療法士の業務と範囲，さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な種々の問題点について具体的に学ぶ。また，学内で学んだ知識・技術を基に，対象者に応じて適切な情報を集め，基本的検査および測定などの評価を実施し，対象者の状態を把握する。第３学年への準備，臨床評価実習Ⅱ，臨床実習の前段階として，学内で学んだことを臨床で体験的に学修し，理解を深める。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．学内で学んだ知識や技術をもとに、必要な情報を集めることができる。<br>２．基本的な検査および測定などの評価を実施することができる。<br>３．各医療従事者と適切に関わることができる。<br>４．理学療法士の業務と範囲について学ぶことができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 実習前に学内実習を行う | 福谷　保<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>山本　良彦<br>下田　浩一 |
| 2 | | 実習施設での実習期間：令和３年２月２２日～３月５日 | |
| 3 | | ①情報収集 | |
| 4 | | 学内で学んだ知識や技術を元に、必要な情報収集を行う。 | |
| 5 | | ②評価を実施 | |
| 6 | | 基本的な検査および測定などの評価を実施する。 | |
| 7 | | ③各医療従事者との関わり | |
| 8 | | 各医療従事者と適切に関わる。 | |
| 9 | | ④理学療法士の業務と範囲について | |
| １０ | | 理学療法士の業務と範囲について学ぶ。 | |
| １１ | | 実習後に反省会，発表会を行う | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | テキスト：臨床実習の手引き |
| 参考図書 | 参考図書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示により実施する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：学内実習１０％、実習遂行状況（評価表、実習記録等）５０％、<br>実習後反省会２０％、症例発表会２０％ |
| 履修上の注意 | 実習開始前に実習の手引きを配布し、オリエンテーションをおこなう。実習生の心得等を熟読し、実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学修する。また、体験患者の情報をもとに学んだ知識や技術を事後学修として取り組む。 |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーションで指示する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院での臨床経験を持つ。このことから、実習に必要な準備および実習終了後の事後学習など、実習前後の学修を含めた一連の流れに沿った指導により学生はより深い実習を行うことができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法臨床評価実習Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ３年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ４単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 学内教育で学んだ知識・技術を基に，対象者に応じて適切な情報を集め，検査および測定などの評価を実施し，解釈・分析・統合して対象者の全体像を把握し，治療プログラムを作成し，一部の治療技術を実践して，その過程・方法を具体的に学び，その中で応用能力を養う。また，臨床実習の前段階として学内教育で学んだことを臨床で体験的に学習し，理解を深める。さらに，実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理・運営を学び，医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士として取るべき行動，態度を養う。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．学内で学んだ知識や技術をもとに、必要な情報を集めることができる。<br>２．基本的な検査および測定などの評価を実施することができる。<br>３．収集した情報から治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践することができる。<br>４．各医療従事者と適切に関わることができる。<br>５．理学療法士の業務と範囲について学ぶことができる。 | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | 実習前に学内実習を行う | 福谷　保<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>山本　良彦<br>下田　浩一 |
| 2 | | 実習施設での実習期間：８月下旬から９月上旬の３週間 | |
| 3 | | ①情報収集 | |
| 4 | | 学内で学んだ知識や技術を元に、必要な情報収集を行う。 | |
| 5 | | ②評価を実施 | |
| 6 | | 基本的な検査および測定などの評価を実施する。 | |
| 7 | | ③治療プログラムを作成し一部の治療技術を実践 | |
| 8 | | 収集した情報を解析・分析・統合して、対象者の全体像を把握し、 | |
| 9 | | 治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践する。 | |
| １０ | | ④各医療従事者との関わり | |
| １１ | | 各医療従事者と適切に関わる。 | |
| １２ | | ⑤理学療法士の業務と範囲について | |
| １３ | | 理学療法士の業務と範囲について学ぶ。 | |
| １４ | | 実習後に反省会，発表会を行う | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | テキスト：臨床実習の手引き |
| 参考図書 | 参考図書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示により実施する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：学内実習１０％、実習遂行状況（評価表、実習記録等）５０％、<br>実習後反省会２０％、症例発表会２０％ |
| 履修上の注意 | 実習開始前に実習の手引きを配布し、オリエンテーションをおこなう。実習生の心得等を熟読し、実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学修する。また、体験患者の情報をもとに学んだ知識や技術を事後学修として取り組む。 |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーションで指示する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院での臨床経験を持つ。このことから、実習に必要な準備および実習終了後の事後学習など、実習前後の学修を含めた一連の流れに沿った指導により学生はより深い実習を行うことができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地域理学療法実習 | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | １単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 高齢化に伴い、地域における理学療法士の役割は拡大してきている。この科目では、通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの現場において他職種との連携や、地域の理学療法士の役割を理解し、そこで必要な技術や知識・評価・実施方法を学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | １．地域の理学療法士の役割を理解することができる<br>２．地域の理学療法士が必要な知識や技術を理解することができる | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | ①事前のオリエンテーションを実施する（事前学習） | 福谷　保<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>山本　良彦<br>下田　浩一 |
| 2 | | ②通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設での実習（５日間） | |
| 3 | | ③グループワークによるディスカッションを行う（事後学修） | |
| 4 | | ④症例報告会を実施する | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| １０ | | | |
| １１ | | | |
| １２ | | | |
| １３ | | | |
| １４ | | | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | テキスト：臨床実習の手引き |
| 参考図書 | 参考図書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示により実施する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：実習遂行状況（評価表、実習記録等）５０％<br>実習後反省会２０％、症例発表会３０％ |
| 履修上の注意 | 臨床実習の手引きにある実習の目的、実習生の心得等を熟読し<br>実習を受けていただく施設の情報をもとに必要な基礎知識を事前学習してください。また、実習後は学んだことを踏まえて事後学修をしてください。 |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーションで指示する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院での臨床経験を持つ。このことから、実習に必要な準備および実習終了後の事後学習など、実習前後の学修を含めた一連の流れに沿った指導により学生はより深い実習を行うことができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法臨床実習Ⅰ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | ８単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 実習指導者による指導，助言の下に，評価・治療計画・治療という一貫した治療行為，そのために必要な記録・報告を経験する。また，実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理運営を学び，医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士としての行動，態度を実践的に学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 高い倫理観のもと，専門的な知識を基盤とする，根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。<br>具体的には，以下の4点を実践する。<br>①理学療法評価（初期および最終）を実施する<br>②担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う<br>③適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する<br>④理学療法実施中におけるプログラムを適切に変更する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | ①理学療法評価の実施 | 福谷　保<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>山本　良彦<br>下田　浩一 |
| 2 | | 理学療法評価（初期および最終）を実施する。 | |
| 3 | | ②リスク管理 | |
| 4 | | 担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う。 | |
| 5 | | さらに，実習指導者の助言を仰ぎながら治療・指導実習中のリスク管理を行う。 | |
| 6 | | ③理学療法プログラムの立案と実施 | |
| 7 | | 適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する。 | |
| 8 | | ④理学療法実施後の評価・報告 | |
| 9 | | 評価や理学療法の結果について必要事項を記載し，また報告する。 | |
| １０ | | ⑤理学療法実施中におけるプログラムの変更等 | |
| １１ | | 患者（利用者）の状態を適宜評価し，実習指導者の助言を仰ぎながら， | |
| １２ | | 必要に応じてより適切なプログラムへの変更を行う。 | |
| １３ | | ⑥チーム体制の経験・情報交換等 | |
| １４ | | チームアプローチの必要性を理解し，他部門との情報交換を行う。 | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | テキスト：臨床実習の手引き |
| 参考図書 | 参考図書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示により実施する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：実習遂行状況（評価表、実習記録等）５０％<br>実習後反省会２０％、症例発表会３０％ |
| 履修上の注意 | 臨床実習の手引きにある実習の目的，実習生の心得等を熟読し<br>・実習を受けていただく施設の情報をもとに患者評価に必要な基礎知識について事前学修してください。<br>・体験患者の情報をもとに，根拠に基づいた統合と解釈ができるよう　事後学修してください。 |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーションで指示する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院での臨床経験を持つ。このことから、実習に必要な準備および実習終了後の事後学習など、実習前後の学修を含めた一連の流れに沿った指導により学生はより深い実習を行うことができる。 |

# 保健科学部リハビリテーション学科　シラバス

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 理学療法臨床実習Ⅱ | | | | | | | |
| 担当教員 | 福谷　保　　金井　敏男　　川井　伸夫　　大町　かおり<br>赤羽　勝司　　下坂　充　　山本　良彦　　下田　浩一 | | | | | | | |
| 配当年次 | ４年次 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | ８単位 | 必修・選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 |
| 授業目標 | 実習指導者による指導，助言の下に，評価・治療計画・治療という一貫した治療行為，そのために必要な記録・報告を経験する。また，実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理運営を学び，医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士としての行動，態度を実践的に学ぶ。 | | | | | | | |
| 学習目標 | 高い倫理観のもと，専門的な知識を基盤とする，根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。<br>具体的には，以下の4点を実践する。<br>①理学療法評価（初期および最終）を実施する<br>②担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う<br>③適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する<br>④理学療法実施中におけるプログラムを適切に変更する | | | | | | | |

授業計画

| 回 | 開講日 | 授業内容 | 担当教員 |
|---|---|---|---|
| 1 | | ①理学療法評価の実施 | 福谷　保<br>金井　敏男<br>川井　伸夫<br>大町　かおり<br>赤羽　勝司<br>下坂　充<br>山本　良彦<br>下田　浩一 |
| 2 | | 理学療法評価（初期および最終）を実施する。 | |
| 3 | | ②リスク管理 | |
| 4 | | 担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う。 | |
| 5 | | さらに，実習指導者の助言を仰ぎながら治療・指導実習中のリスク管理を行う。 | |
| 6 | | ③理学療法プログラムの立案と実施 | |
| 7 | | 適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する。 | |
| 8 | | ④理学療法実施後の評価・報告 | |
| 9 | | 評価や理学療法の結果について必要事項を記載し，また報告する。 | |
| １０ | | ⑤理学療法実施中におけるプログラムの変更等 | |
| １１ | | 患者（利用者）の状態を適宜評価し，実習指導者の助言を仰ぎながら， | |
| １２ | | 必要に応じてより適切なプログラムへの変更を行う。 | |
| １３ | | ⑥チーム体制の経験・情報交換等 | |
| １４ | | チームアプローチの必要性を理解し，他部門との情報交換を行う。 | |
| １５ | | | |

| | |
|---|---|
| 教科書 | テキスト：臨床実習の手引き |
| 参考図書 | 参考図書は指定しない |
| 予習・復習内容 | 担当教員の指示により実施する |
| 成績評価方法・基準 | 評価配分：実習遂行状況（評価表、実習記録等）５０％<br>実習後反省会２０％、症例発表会３０％ |
| 履修上の注意 | 臨床実習の手引きにある実習の目的，実習生の心得等を熟読し<br>・実習を受けていただく施設の情報をもとに患者評価に必要な基礎知識について事前学修してください。<br>・体験患者の情報をもとに，根拠に基づいた統合と解釈ができるよう　事後学修してください。 |
| 担当教員への連絡方法 | オリエンテーションで指示する。 |

| | |
|---|---|
| 実務経験と授業科目との関連性 | 病院での臨床経験を持つ。このことから、実習に必要な準備および実習終了後の事後学習など、実習前後の学修を含めた一連の流れに沿った指導により学生はより深い実習を行うことができる。 |